人間関係とコミュニケーション/Human Relations and Communication　2023年度入学

CF101

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
2単位　前期
講義・演習

荒井 春生、井手段 幸樹

〔授業の概要〕

ケアを受ける人にとっては、ケアを提供する人に「安心・安全・信頼」などを求めることは当然のことで、だからこそ、ヒューマンケアを目指す人にはケアを受ける人との良好な人間関係の構築が必要となる。そのためには適確で穏やかなコミュニケーションの実践が重要なキーワードになるが、本講座では、ヒューマンケアを目指す人に必要なコミュニケーションの様々な形、ケアの対象に応じた多様なコミュニケーション（言語・非言語的）のあり方と活用方法について学ぶ。このような学習を通して、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。

〔到達目標〕

1. 人間関係におけるコミュニケーションの意味と構成要素が理解できる。
2. 医療・福祉の専門職として対人コミュニケーションに取り組めることを目標にする。
3. 多様なコミュニケーションの活用方法を理解して他者との関係性を発展できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP２、DP７

〔授業計画〕

第 1 回　講義
1. ガイダンス：授業概要・到達目標・授業方法・評価
2. 人間関係におけるコミュニケーションの意味
3. コミュニケーションスキル演習：「自己紹介」

第 2 回　講義・演習
1. コミュニケーションの基本要素と構造を学ぶ
2. コミュニケーションスキル演習：「今の私の気持ち」

第 3 回　講義・演習
1. 効果的なコミュニケーションの活用を学ぶ①
2. 段階的なコミュニケーション能力
1)信頼の段階：ミラーリング
2)傾聴の段階：基本姿勢
3)コミュニケーションスキル演習：「どんなものが見えますか？」

第 4 回　講義・演習
1. 効果的なコミュニケーションの活用を学ぶ②
2. 段階的なコミュニケーション能力
1)伝える段階：バックトラッキング
2)相互理解の段階：相手にわかりやすく伝える
3)コミュニケーションスキル演習：「私の過去・現在・未来」

第 5 回　講義・演習
1. 効果的なコミュニケーションの活用を学ぶ③
2. 段階的なコミュニケーション能力
1)メタファーの活用
2)コミュニケーションスキル演習：「どんなもの・状況が見えますか？」

第 6 回　講義・演習
1. 関係性を築くコミュニケーションの活用を学ぶ④
2. 段階的なコミュニケーション能力
コミュニケーションスキル演習：Open＆Closed Questions

第 7 回　講義・演習
1. Learning Through Discussionを学ぶ①：言葉の理解
2. コミュニケーションスキル演習：課題文を要約

第 8 回　講義・演習
1. Learning Through Discussionを学ぶ②：主張の理解
2. コミュニケーションスキル演習：主張を要約

第 9 回　講義・演習
1. Learning Through Discussionを学ぶ ③：アサーティブ・コミュニケーション
2. 効果的及び段階的なコミュニケーション活用能力のまとめ
3. 小テスト

第 10 回　講義・演習
1. Learning Through Discussion を学ぶ④：イメージの理解
2. マインドマップの基本アイディアとルール
3. コミュニケーションスキル演習：「私の幸せ」

第 11 回　講義・演習
1. Learning Through Discussion を学ぶ⑤：知的思考の理解
2. コミュニケーションスキル演習：「4年間でなりたい私」

第 12 回　講義・演習
1. Learning Through Discussion を学ぶ⑥：未来思考の理解
2. コミュニケーションスキル演習：「4年間の目標」

第 13 回　講義・演習
1. Learning Through Discussion を学ぶ⑦：統合思考の理解
2. コミュニケーションスキル演習：「理想の仕事」

第 14 回　講義・演習
1. Learning Through Discussion を学ぶ⑧：自己と他者の理解
2. コミュニケーションスキル演習：「私の性格・長所・課題」

第 15 回　講義・演習
1. 専門職として必要なコミュニケーションスキルの理解
2. コミュニケーションスキル演習：5W1Hを使った状況理解・説明・報告

3. まとめ
※レポート作成：テーマは時期を見てお伝えします。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：適宜資料を配布します。
参考書
1. 山田雅子著：書いて・きいて・深める: 信頼関係を築くコミュニケーショントレーニング101,ポラーノ出版,2021.
2. 吉井奈々著：相手も自分も大切にするコミュニケーション+社会学,晃洋書房,2018.

〔成績評価の方法・基準〕
小テスト（30％） レポート（40％） 授業・演習参加状況（30％）

〔授業時間外学修〕
授業後に復習をしてください。第9回の講義で小テストを行う予定です。コミュニケーションスキル演習で話し合った内容が重要になりますので、皆さんの積極的な参加を求めます。図書館等を利用して幅補広い知識を得てください。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に質問や意見を受けつけます。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

信仰と文化/Faith and Culture　2023年度入学

CF102

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
2単位　後期
講義

宮入 宗乗、風早 康惠

〔授業の概要〕
人間社会がつくり出した文化を、その価値を共有するためには、何よりも一人ひとりの精神的価値（宗教、理念など）を束ねることが重要な課題であった。この現象は、古代から現代まで、中東からアジアの国に至るまで時代と国境を越えた人間歴史が共通する痕跡で、人間社会の本質を知る上で必須不可欠な学びである。特に信仰には、文化圏で育まれた世界観や倫理感を反映した枠組みを必ず持つが、本講座では、信仰対象の多様性と文化の成り立ちから日本の伝統精神を理解し、日本人らしさとは何かを学ぶ。さらに、日本人の生活様式、価値観、倫理観、死生観等の形成に大きく影響してきた神道、仏教の考えについて理解する。「人の生命の現場」に向きあいながら、人生の中で「ケア」の道を目指す学生と「生命観・死生観」に視点を置きながら学びを深める。

〔到達目標〕
1. 自然・風土・生活のうちに醸成される「信仰」の根幹にあるものは、「命をはぐくみ、守り、再生させる」希求であり、他者とともに共同体・組織を支えようとするエネルギーといえる。共同体に根づく「信仰」は、「共存」「共生」の祈りが形を得たものであることを実感するとともに、「人間」を理解するために有用かつ重要なアプローチのひとつが「信仰」であることを理解する。
2. 日本社会の形成と日本人の個々の精神生活・精神文化に深く影響を与えてきた仏教について改めて参究し、その視座を通して「すべての生命の尊厳」「自己存在の意味」「他者とのよりよき関係性」の在り方を学ぶ。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　学習テーマについてのオリエンテイション：(授業の方向付けと、この講座で学ぶことを示す)
・仏教についての基本的な知識とその成り立ち(概論)
①『釈尊』の生涯　②仏教の伝播とその形態
③日本人の宗教観における仏教の果たした功罪(「先祖崇拝」との関連を含めて)

第 2 回　『諸行無常』と云うこと（仏教の世界観・死生観の根底にあるもの）
・もうひとつの「諸行無常」

第 3 回　「四苦」と云うこと･･･この世に生まれた限りは背負うもの
・「苦」が「くるしみ」を超えて「人生課題」となるとき

第 4 回　【１】『道元』に見る「いのちの視点」
①道元禅師の生涯と足跡
②「典座教訓」「赴粥飯法」のこころ

第 5 回　【２】『道元』に見る「いのちの視点」
⑴「いのち」を行ずる「四摂法」について
①四摂法」とは　②布施　③愛語

第 6 回　【３】『道元』に見る「いのちの視点」
⑵「いのち」を行ずる「四摂法」について
①利行　②同事　③まとめ

第 7 回　まとめ（質問と解答）
・看護を目指す上で、あらためて『何故生命は大切か？』を考察する。
・すべての「生命」への気づきについて
・「贈る言葉」...心を押す「ことば」たち

第 8 回　オリエンテーション
「信仰」「神道」「宗教」等のキー・ワードに対する印象を聞き取る。
世界宗教・民俗宗教に関しても、以後の授業で折々に簡単な解説を行う。
「人の生命、生活と向き合う」専門職を目指すにあたって、なぜ「信仰」「文化」の知識が必要なのか、という点についても、適宜、機会をもうけて説明する。

第 9 回　日本における、共同体の信仰の源流を学ぶ（世界の宗教とともに）
・「信仰」と「宗教」と
・自然・風土・生活のうちの、共同体の信仰
・遺跡にみる原始信仰
・日本の風土において、「神」「神道」はどのように理解できるか

第 10 回　風土の諸相と、生み出される信仰・祭祀とを学ぶ
・山宮－里宮－田宮の構造
・「町」「国」「日本一国」の祭祀の構造
・「子守り・命を守る」祭祀

第 11 回　神社－「社」の源流を学ぶ
・神社の起源
・「モリ」と「森」と「社（モリ)」
・様々な祈り、様々な神社と生命観

第 12 回　四季の神事・祭礼を学ぶ（１）
・祭りの春夏秋冬
・共同体の春夏秋冬
・人生の春夏秋冬
・命を守り・はぐくみ・再生させる祭り

第 13 回　四季の神事・祭礼を学ぶ（２）
・神事・祭礼を支える集落の心

第 14 回　来訪神－災禍と予祝と。古典に学ぶ
・『常陸国風土記』の富士と筑波
・大和の三輪山と二神山

第 15 回　授業のまとめ・映像に学ぶ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
宮入：指定しない。講師作成の教材・資料集を配布する。
風早：授業ごとに、講師作成の資料を配布する。有用と考

える書籍等は、授業のさいに紹介してゆく（購入を義務づけない）。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（40％）授業参加状況（60％）

課題に対するフィードバックの方法については授業時に説明する。

〔授業時間外学修〕

宮入：毎回授業時に授業内容に応じた重点項目・箇所などを提示し、添付の補促資料の読み直しなどによる理解の向上について指示する。1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。

風早：学びのポイントについては授業時に説明し、資料紹介を行う。

1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。

〔オフィスアワー〕

宮入：毎回リアクションカードによって感想・質問等を提出，原則次の回に授業内において回答しコミュニケーションを図る。その後Q＆A集を作り学びと問題を共有する。

風早：毎回、授業終了後に教室にて質問を受ける。さらに質問に応える必要があれば学生と相談のうえ指示を行う。適宜、授業の最後に感想カードを提出して貰い、学びに活用する。（学籍番号・氏名明記）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

曹洞宗の僧侶として約６０年の間、檀信徒とともに「地域に開かれた寺」「寺檀を超えた地域貢献」を目指して活動をして来ました。またこの間、布教師として特に「人権擁護」「環境問題への取り組み」「平和を希求する諸活動」に『臨床的仏教の実践』を行動目標として取り組んできました。仏教の見方・考え方・実践が現代社会の様々な分野に文化として根付いてる状況を重視し、現代社会の様々な課題にどう機能するかを、若い世代に伝え自らも学ぶ姿勢で臨んでおります。（宮入）

神職資格を有し、神社での実務を経験している。（風早）

〔その他履修上の留意事項等〕

宮入：いのちの不思議に目覚め、人として生きる意味を確かめ、他のために役立つ、誰かに必要とされる「自分」と出会おう！

風早：皆さんと一緒に、わが国の共同体の信仰と死生観、神観念などを具体的に検証し、それらを「ともに生きる」実感に繋げてゆきたいと思います。国際化がすすむ現代ですから、世界三大宗教（イスラームなど）、三大民族宗教（ヒンドゥー教など）の概念についても、簡潔にふれます。全国の神社、個性的な神事、ユニークな祭祀についても、映像を活用しつつ紹介します。

ケアと人権/Care and Human Rights　2023年度入学

CF103

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義

上西 一貴

〔授業の概要〕
ソーシャルケアの対象となる人々は、その生成過程での社会的孤立や排除、無権利や無救済などに加え、生活、社会的地位と権利などの面でいわゆる「弱者」の位置に置かれることが多い。従って、制度、サービスの運用面で最大の「配慮」を必要とするだけでなく、ケアの実践の場面においても人間の尊厳を踏まえた倫理的・道義的配慮と、人権の尊重が求められる。ハンセン病、被爆者、子どものいじめ・虐待、精神疾患者・認知症者等の身体拘束と隔離などの、歴史的、現代的課題を学ぶことで、ケアの基本目標のひとつである基本的人権の確保と尊重についての理解を深める。
〔到達目標〕
①差別されたり社会的に排除されたケアの対象者に共感できる。
②ケアと人権の結びつきを自分の言葉で表現できる。
③自分の身近なところにある差別や社会的排除の事例の構造を説明できる。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP７
〔授業計画〕
第 1 回　ケアと人権の当事者
【KW：ケア】ケアにおける人権侵害のさまざまな主体について理解する。
第 2 回　人権と尊厳
【KW：人権】人権や尊厳について一般的な考え方を理解する。
第 3 回　人権問題（1）
【KW：生活保護】生活保護バッシングなどを例に、人権侵害に関する抑圧構造を理解する。
第 4 回　人権侵害（2）
【KW：身体拘束】身体拘束などを例に、人権侵害に対するケアの当事者の葛藤を理解する。
第 5 回　人権侵害（3）
【KW：ハンセン病】ハンセン病などを例に、誰もが人権侵害の当事者であることを理解する。
第 6 回　人権侵害の根幹（1）
【KW：自立】自立に着目して、ケアとの関連の歴史、現在直面している課題を理解する。
第 7 回　人権問題の根幹（2）
【KW：優生思想】優生思想に着目して、ケアとの関連の歴史、現在直面している課題を理解する。
第 8 回　人権侵害に対抗するケア
【KW：承認】人権侵害に対抗するケアの意義について理解する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
◆テキスト
使用しません。
◆参考書
授業内で提示します。
〔成績評価の方法・基準〕
各回の振り返りシート [50%]、レポート課題 [50%]
提出された課題については各回の「対話の時間」等でコメントします。
※各評価の詳細な基準については講義内で提示します。
〔授業時間外学修〕
◆予習（8時間）
各回の最後に提示される次回のキーワードについて講義前までに調べておく。授業終了時に提示するお題について次回講義までに自分なりの考えを整理してくる。
◆復習（8時間）
振り返り票を記入する。講義資料を必ず読み返す。必要に応じて参考文献を読む。
〔オフィスアワー〕
個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。k-jonishi(at)saku.ac.jp
※メールアドレスの (at) は @ に置き換えて下さい。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

足と健康（基本）/Foot and Health (Basic)　2023年度入学

CB105

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 専門基礎科目/専門科目
1 年
1単位　前期
講義
選択

宮原 香里、坂江 千寿子

〔授業の概要〕
「歩く」という行為は人間の基本動作であり、足部のクッション機能とポンプ機能は心身の健康に大きく影響している。日本における足と靴の健康に関する取り組みの現状および本学での足育の取り組みを知り、足の健康の重要性を認識する。健康寿命を目指す佐久市に設置されている本学の役割の一つとして自身及び周囲の人々に必要とされる足の健康を守るための基本的な能力を身につける。「歩く」を支える「足」の機能、足のトラブルと「靴」との関係、姿勢や歩行分析の基礎知識と技術を活用して、あらゆる年代の人が健やかに歩くことを支えるためのケア習慣を目指す。

〔到達目標〕
1. 足の健康と心身との関係が説明できる。
2. 歩行を支える足部解剖学（構造と機能）が理解できる。
3. 足部観察のポイントが理解できる。
4. 歩行のメカニズムの理解ができる。
5. フットプリント採寸の目的を理解して、正しい採寸ができる。
6. フットプリントをもとに足部トラブル（骨の変形、皮膚）について基本的な分析ができる。
7. 靴選びの条件と正しい靴の履き方が習得できる。
8. 足部の観察方法、特に角質ケア、足爪ケアの基礎を理解し、セルフケアによって自身および周囲の人々の足部と爪のトラブルを予防できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP３、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　【講義】足育の定義と必要性、本学における足育活動の紹介、靴の選び方・履き方（担当：宮原香里）
1.　足育の定義と必要性
2.　本学における足育活動の紹介
1)佐久市足育推進協議会足育サポートセンター
2）文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究プロジェクト
3）足裏測定装置の開発
4）足の保健室
3.　靴選びの条件と正しい靴の履き方

第 2 回　【講義】ドイツと日本の足と靴事情、足と靴に関する基礎知識（担当：ベーレルッツ、ベーレ操）
1.　ドイツと日本の足と靴事情
専門職業的発展の歴史－ドイツ整形外科靴マイスター教育制度－
2.　足と靴に関する基礎知識
1）足部解剖学（構造と機能）：骨格と関節、筋肉と腱、筋肉と靭帯
2）足のアーチ構造
3）歩行のメカニズム

第 3 回　【講義】立位（脚軸）の観察および足部観察のポイント、フットプリント採寸の目的と方法、フットプリント分析（基本編）（担当：ベーレルッツ、ベーレ操）
1.　立位（脚軸）の観察および足部観察のポイント
2.　フットプリント採寸の目的と方法
3.　フットプリント分析（基本編）

第 4 回　【講義／演習】立位（脚軸）の観察および足部観察（担当：ベーレルッツ、ベーレ操、宮原香里、坂江千寿子）
立位（脚軸）観察および足部観察の講義・演習を行う。

第 5 回　【講義／演習】フットプリント採寸（担当：ベーレルッツ、ベーレ操、宮原香里、坂江千寿子）
フットプリント採寸の講義・演習を行う。

第 6 回　【講義／演習】フットプリント分析（基本編）（担当：ベーレルッツ、ベーレ操、宮原香里、坂江千寿子）
フットプリント分析（基本編）の講義・演習を行う。

第 7 回　【講義】足趾と爪を守るためケア（担当：坂江千寿子）
1.　基本的な爪の切り方
2.　基本的な角質ケア
3.　爪のトラブル予防と対策

第 8 回　【講義／演習／実技試験】基本的な角質ケア・爪ケア（担当：坂江千寿子、宮原香里）
足趾の爪の切り方の講義・演習および実技試験を行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
指定しません。講義中に紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
1.　筆記試験（30％）授業内で10分程度の小テストを3回行います。
2.　実技試験（30％）自分の手と足の爪切り場面を用いて行います。
3.　課題提出（20％）演習後のふりかえりとして、manabaを使用し提出状況を評価します。
4.　授業参加状況（20％）授業の取り組みや質問・意見交換の機会を設け評価します。期限外提出は減点となります。

〔授業時間外学修〕
1.　配付資料をもとに学びを整理し復習しておきましょう。
2.　授業1回について1時間程度の復習を要します。
3.　靴の選び方・履き方は日常生活においても習慣化できるようにしましょう。
4.　爪と足のケアは、自分の足の観察と爪切り、フットケアの動画視聴を事前課題とします。

〔オフィスアワー〕
質問は授業終了後に教室で受け付けます。授業日以外の質問はメールで受け付けます。宮原香里：k-miyahara●saku.ac.jp
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
実務経験のある教員等が複数で授業を担当します。（看護師：宮原香里、坂江千寿子、ドイツ整形外科靴マイスター：ベーレルッツ、日独通訳者・ドイツWMS子供靴規格協会認定アドバイザー：ベーレ操）
〔その他履修上の留意事項等〕
授業時の持参品や服装に関しては、初回授業で説明します。フットプリントに基づいた足部分析法を学び、足を守る靴に関する基礎知識を学ぶことは、在学中に限らず、卒業後も必ず役立つことでしょう。

課題に対するフィードバックは、授業内で行います。

人間存在と世界観/Human Existence and Worldview　2023年度入学

CF104

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
2単位　前期
講義

江口 建

〔授業の概要〕
人間は、長い進化の歴史の中で常に存在の意味や価値を問いかけ、その答えを宗教や理念、文化などのあらゆる面から見つけ出そうとしてきた。その中で個人と世界との関連性に意味を与え、客観的かつ社会的存在としての意識も高まっているが、本講座では、その社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考えることにより、社会的行為の意味を理解する。また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、個々を尊重し合う社会環境の創成と自らの関わり方について視野の拡大を考える。

〔到達目標〕
1. **多様な視点**を獲得することによって、自分の中にある判断基準を相対化し、**偏見に囚われない物の見方**を醸成することができる。
2. 表面的な価値観を透かして、物事の根底にある**「本質」を洞察する力**を身につけることができる。
3. 雑多な情報が氾濫し、善悪の基準が多様化している現代において、**倫理観と責任感の意味**を理解し、自分のふるまいを批判的に吟味しながら、**善悪とは何かを見極める判断力**を培うことができる。
4. 仮想空間やデジタルツールが浸透している現代社会において、自己と世界との関係、社会的存在の意義、生命の価値について改めて考え、**自由、権利、義務、共存**といった概念について理解を深めることができる。
5. 自分とは異なる意見についての理解を深め、自己と他者との差異を認めながら、他者に対して**寛容の精神**をもって応答する資質を養うことができる。
6. みずからの動機に基づいて「問い」、ねばり強く「考え」、それを自分の言葉で他者に「伝え」、さらに他者の考えに真摯に「耳を傾ける」という**対話的姿勢**を涵養することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の目的と心得：　哲学的・倫理学的に思考するとは？
第 2 回　思考実験①
　　自分の生存のためなら他人を犠牲にすることも許されるか
　　――「カルネアデスの舟板」
第 3 回　思考実験①　続き
　　論点整理、問いの掘り下げ
第 4 回　思考実験②
　　犠牲になる命を選べるか
　　――「密室の爆弾」とトリアージ
第 5 回　思考実験②　続き
　　ディスカッション
第 6 回　思考実験②　続き
　　論点整理、問いの掘り下げ
第 7 回　思考実験③
　　少数の命 vs. 多数の命
　　――「トロッコ問題」
第 8 回　思考実験③　続き
　　ディスカッション
第 9 回　思考実験③　続き
　　論点整理、問いの掘り下げ
第 10 回　思考実験③　続き
　　再考：　変形バージョン
第 11 回　思考実験④
　　社会的に公平な殺人は存在しうるか
　　――「臓器くじ」
第 12 回　思考実験④　続き
　　ディスカッション
第 13 回　思考実験④　続き
　　論点整理、問いの掘り下げ
第 14 回　思考実験④　続き（再考）
　　社会的正義のための殺人？
　　――『イキガミ』、『ギフト±』
　　崇高な目的のためなら道徳を踏み越えてもよいか
　　――『罪と罰』、『デスノート』
第 15 回　まとめ
　　講義全体を通したテーマのまとめと振り返り、哲学レポートの書き方

〔テキスト・参考書・参考文献〕
使用しない。必要に応じてプリント等の資料を配布する。参考文献は、議論の展開に応じて、そのつど授業中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
・レポート：70％
・毎回のリフレクションシート：15％
・授業中の課題および授業参加状況：15％
（積極的な発言、意欲的に取り組む姿勢、授業への貢献度など）

フィードバックとして、毎回または定期的にリフレクションシートを返却し、考えや意見を全員で共有します。レポートについては、後日、全体講評を配布（または掲載）します。質問へのフィードバックは、随時、授業中に行います。

〔授業時間外学修〕
１．事前に配布（掲載）するプリントに十分に目を通して、テーマや問題について正確に理解したうえで、分からない概念や用語があれば、下調べをして授業に臨んでください（1回の授業につき、1.5時間程度の予習が必要）。
２．毎回の授業後に、所定の期日までにリフレクション・シートを書いて提出してもらいます。また、その日の授業

内容のまとめをWebに掲載しますので、次週の議論にスムーズに参加できるように頭の中を整理し、自分の考えを深めておいてください（1回の授業につき、1.5時間程度の復習が必要）。

※自分なりに問題意識を所有して授業に臨んでください。時間のあるときに（自宅で、あるいは登下校の途中などに）絶えず考える習慣を身につけることをお勧めします。普段からアンテナを張り巡らせて、時事的・社会的な問題に敏感になっておくと、レポートを執筆するときに必ず役に立ちます。

〔オフィスアワー〕

随時、メールで質問・相談を受け付ける。

Mail: philosopooh●gmail.com（送信するときは、●の部分を@に変えてください）。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

【教員よりメッセージ】

現代は、価値観が多様化し、容易に「正解」が導き出せない時代です。命の価値も無条件に信じられなくなっているように感じます。そういう時代において、他者の命をいかに扱うべきか、また、いかなる条件のもとで倫理が成立するのかを徹底的に見極めることは大事です。授業では、**「道徳的ジレンマ」**と呼ばれる幾つかの究極的な思考実験を通じて、「命」について自問し、自己と社会との関係を見つめながら、倫理的な行動の可能性を探ります。

例えば、「一人の大切な命」と「見知らぬ千人の命」、どちらが大事でしょうか？　私たちが何らかの行動を起こすとき、大別して二つの考え方があります。一つは、「他人のために自分が損をするのは馬鹿らしい」と考える立場です。もう一つは、「たとえ自分が犠牲になっても、全体の幸福を考えるべきだ」とする立場です。これを、社会心理学や数理経済学では、**個人的合理性**と**集団的合理性**という立場で表現します。例えば、満員のエレベーターの中で、「他の人が降りてくれないかな・・・」と無意識のうちに願ったことはないでしょうか。あるいは、友達と旅行の計画を立て、行き先や日程の希望が分かれたとき、自分の都合を優先したいと思うのは自然な欲求です。

　でも、これが「命」に関わる出来事である場合、その行動次第で、あなたの倫理性が問われます。震災に巻き込まれたとき、自分が真っ先に逃げるのか、それとも瓦礫の下に埋まっている人々を助けたいと思うか。船が沈没したときに、自分が真っ先にボートに乗るのか、それとも子どもやお年寄りなど、体力のない人を先にボートに乗せるのか。自分の命を捨ててまで他人を救うのは不合理だと考えるか、それとも、たとえ自分の命を犠牲にしてでも、被害は「最小限」にとどめるべきだと考えるか。あなたが総理大臣だったら、「自分の家族」の命と「国民全員」の命、どちらを優先するのか。

　命と向き合う仕事に就く前に、一度は本気で考えておきませんか？

【履修上の留意点】

※受講人数にかかわらず、教員と学生が対話しながら授業を進めます。積極的な発言を高く評価します。

※授業中は、必要に応じて歴史上の優れた哲学者や倫理学者の考え方を紹介しますが、知識の伝授を目的とはしません。したがって、「暗記」を重視しません。それよりも、各自がみずからの動機に応じて自分なりの「問題意識」を持って、それについてねばり強く「考える」ことを第一目的としますので、そのつもりで参加してくださると嬉しいです。簡単に「答えが出る」問題よりも、「答えが出ない」問題を一緒に考えてみましょう。

宇宙と生命の起源/The Universe and the Origin of Life　2023年度入学

CF105

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義

坪根 徹

〔授業の概要〕
生命はどのように誕生し、地球環境にどのような形で応答しながら進化してきたのか？本講座では、地球46億年の歴史と生命の発生と進化の連続性について、分子生物学的な視点から生命現象を理解する。また、近年の天文観測では、生命の起源となる地球の生命の構成要素がすべて宇宙に存在することが確認されている。宇宙における生命の起源、進化、伝播、および未来を探求するアストロバイオロジー（宇宙生物学）という新たな知見からも学びを深める。

〔到達目標〕
宇宙史、地球史の概要をつかみ、その中での現代科学における生物、生命の位置づけを理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回 「宇宙のすがた」
天体観測施設「うすだスタードーム」の紹介と、そこで撮影・作成した豊富な天体写真、資料を使いながら、天文の楽しさと天文学が描き出す宇宙の姿と歴史について概観する。

第 2 回 「天文と地球環境」
天文観測は地球の大気環境等に大きな影響を受けるため、宇宙の観測と同時に地球環境の観測をしているという側面がある。また天文学の知見は、地球環境を「外から」見るという視点を与えてくれる。天文学と環境学との意外な関わりを紹介する。

第 3 回 「地球史・生命史と宇宙（1)」
現代までに明らかとなった地球史を概観し、その中で起こった生命の大量絶滅などのイベントが、実は宇宙と深い関わりがあったことを概説する。

第 4 回 「地球史・生命史と宇宙（2)」
白亜紀末の大量絶滅など、宇宙起源と考えられているいくつかの地球史イベントと、それによってもたらされた生命史への大きな影響を概説する。

第 5 回 「分子生物学と宇宙」
分子生物学の歴史と内容を概観し、生命の構成要素となる化合物や元素について概説する。また、そうした物質が宇宙で生まれ、宇宙の進化とともに作られてきたものであることを概説する。

第 6 回 「宇宙と生命起源物質」
地球生命の構成要素となる物質が、地球外でも多く発見されている。現代天文学の観測研究によって明らかになってきている、宇宙空間に存在する生命起源物質とその生成過程について概説する。

第 7 回 「アストロバイオロジーとは」
近年、学際的な研究分野として注目を集めているアストロバイオロジー（宇宙生命学）について、その歴史と概要、展望について紹介する。

第 8 回 「生命・人間と宇宙」
これまでの内容を振り返り、生命と地球宇宙が宇宙との関わりの中で生まれ、進化してきたことを総括する。また、地球外生命発見の可能性も含め、人間の生命への理解について、天文学も大きな役割を担っていることを概説する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
特になし。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート　80％、授業参加状況　20％
レポートは採点を付して返却する。

〔授業時間外学修〕
予習については講義のたびにその内容を指示する。
1回の授業につき2時間程度の復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
公開天文台の職員として24年勤務。実務経験をもとに天文学とその周辺の学術的、教養的事項について講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕
授業への積極的参加を望みます。疑問点、知りたい点等あれば、どんどん質問・発言してください。

国際事情と社会貢献/International Affairs and Social Contribution　2023年度入学

CF106

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
講義

駒村 哲、束田 吉子

〔授業の概要〕
現代の国際事情や国際社会に生じている諸問題について、発展途上国に限らず、発達した国々が持つ諸問題についても理解を深める。国の状況に応じた多様な考え方や価値観、慣習があること等を理解して、国際社会における我が国の果たす役割と貢献のあり方について考え、国際的視野を養う。

〔到達目標〕
（駒村）１．戦争と平和について基本的な事実を再確認し、論証することができる。
２．現代国際社会の諸問題を多角的・総合的に捉える視野をもつことができる。

（束田）１．日本と世界とのつながりを日々の暮らしを通して具体的に理解できる。
２．多様な文化について理解を深める。
３．日本の保健・福祉の国際協力について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　国際関係論とは何か
駒村　哲
第 2 回　国民国家とは何か
駒村　哲
第 3 回　国際社会とは何か
駒村　哲
第 4 回　第1次世界大戦と第2次世界大戦について学ぶ
駒村　哲
第 5 回　冷戦とは何か
駒村　哲
第 6 回　持続可能な開発目標（SDGs）を基本に海外とのつがなりを考える
束田吉子
第 7 回　国内外における宗教と文化についてジェンダーや社会へ与える課題を考える
束田吉子
第 8 回　日本の看護、および地域保健における国際協力と国際貢献について知る（サウジアラビア、ナイジェリア、タイ等）
束田吉子

〔テキスト・参考書・参考文献〕
駒村
テキスト：国際紛争－理論と歴史　原書第10版、有斐閣
ナイ，ジュニア，ジョセフ・Ｓ.〈Ｎｙｅ，Ｊｒ.，Ｊｏｓｅｐｈ　Ｓ.〉/ウェルチ，デイヴィッド・Ａ.【著】〈Ｗｅｌｃｈ，Ｄａｖｉｄ　Ａ.〉/田中 明彦/村田 晃嗣【訳】

束田
講師が必要に応じて配布
参考文献：国際看護学（看護の実践と統合3）田村 やよひ(編集)　メヂカルフレンド社
国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして 大橋 一友 メディカ出版．他

〔成績評価の方法・基準〕
教員2名による総合評価とする。
駒村：筆記試験（80％）、授業参加状況（20％）
束田：筆記試験（80%）、 授業参加状況（20%）

〔授業時間外学修〕
指定したテキストを事前に読んでおくこと。教員が提示する課題について調べておくこと。
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。
1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了時に質問に対応。下記のメールでも対応可能
E-mail: y-tsukada●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
主体的かつ積極的に取り組むこと。他国の事情を知ることは、同時に自国についても学習することであり、視野を広げることができます。

多文化理解/Multicultural Understanding　2023年度入学

CF108

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義

稲葉 景

〔授業の概要〕
国家とは異なる文脈で世界の歴史を形づくってきた民族と文化の意味を学ぶ。また、国際的な異文化の理解にとどまらず、あらゆる文化背景を持った人を尊重し、共存していくためにどうしたらよいかを考える。本講義を通して、多文化共生社会の中で異なる文化背景を持った人との円滑なコミュニケーションの方法を実施し、互いを理解・尊重し、共存する体験の機会となることを期待する。

〔到達目標〕
ホモ・クーランスたる人間の多様な文化を理解するため、文化学の基本的な学知を習得するとともに、現代社会における文化間の諸問題に関する論理的思考と課題発見力を養成し、他者尊重の態度を身につけることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに：「タ（他・多）」「文化」を「理解する」とは
「タ」（他・多）文化を理解するとはどのようなことなのかについて、自分の文化／他者の文化の「違い」を意識し、この科目での到達目標の意味を理解する。

第 2 回　わたしたちにある「壁」：実験「青い目茶色い目」
実験「青い目茶色い目」を通して、他者を理解するために、自己意識にある「壁」を認識し、「自分」と「他者」の壁について考える。

第 3 回　グループワーク「ひょうたん島問題」（理論編）：「異文化との出会い」
「ひょうたん島問題」のワークショップを通じて、文化が異なる者同士での理解の難しさを理解し、多文化理解の課題と解決策を考える。

第 4 回　グループワーク「ひょうたん島」（実践編）：「異文化コミュニケーション」
「ひょうたん島問題」のワークショップを通じて、文化が異なる者同士での理解の難しさを理解し、多文化理解の課題と解決策を考える。

第 5 回　生活のなかにある「多文化」①：様ざまな宗教から食卓を考える
日本ではあまり意識することが少ない宗教文化について理解する。特に、宗教における暦や食文化などから、具体的な生活における宗教への理解を学ぶ。

第 6 回　生活のなかにある「多文化」②：日本語である「ハーフ」
日本に特徴的な「ハーフ」について考える。多文化になりつつある日本社会での多様な人種への理解を考える。

第 7 回　生活のなかにある「多文化」③：日本に住む外国人労働者
少子高齢化した日本社会において外国人労働者は日本になくてはならない存在となっている。日本における外国人労働者の環境について現状を学び、課題と解決策を考える。

第 8 回　まとめ：真の共生社会実現のために私たちが「ワレワレゴト」としてできること
多文化社会となりつつある日本において、真の共生社会となるためには何が必要とされているのか、7回の授業での学びを元にわたしたちに求められている力を考える。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは特に設定しない。参考書としては、松尾慎『多文化共生』、藤原孝章『ひょうたん島問題』、指宿昭一『使い捨て外国人』等、その他、適宜資料等を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
各回のリアクション記録30％　プレゼンテーション20％
期末最終課題50％

〔授業時間外学修〕
予習として、事前課題を行なう。指示された資料等を読み、疑問や意見をまとめ発表を準備する。（2時間）
復習として、補足資料や講義で言及された書籍や映像作品等にあたり、考察を深める。（2時間）。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室（遠隔上）で質問を受け付ける。（リアクションペーパー上の質問には翌週の講義で回答する）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
リアクションペーパーに対しては毎回確認し、フィードバックする。また質問には次回授業で回答する。期末レポートに関しては、全体の総括をする。また、希望者には添削する。講義の中で適宜グループワークやプレゼンテーションを求めます。

ジェンダー論/Gender Studies　2023年度入学

CF109

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
講義

阿部 友香

〔授業の概要〕
「ジェンダー」は、現在、社会学のみならず多くの学術分野で重要な概念として使用されている。また、「性／性別」に関わるさまざまな社会現象・社会問題について言及する際にも用いられ、マスメディアでも目にする機会が増えてきている。日本は公的・社会的な役割分業、家族などの私人間関係における性別役割分業のジェンダー視点での見直し、再構築が、先進国の中で最も遅れている。本講義では日本の現実に触れながら、社会的・文化的・歴史的にみるジェンダーの構築と構造について、基本的概念を日常的な問いから理解する。また、社会および個人の多様な価値観・文化の違いを理解し、ジェンダーをめぐる諸課題を自分自身の生活と関連付けて考え、表現する力を養う。
〔到達目標〕
・生物学的性差とジェンダーについての基礎的知識と考え方を習得し、説明できる。
・自分の身の回りの物事・現象とジェンダーの知識を結び付けて考えることができる。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７
〔授業計画〕
第 1 回　ジェンダーとは
第 2 回　自然科学とジェンダー
第 3 回　スポーツとジェンダー
第 4 回　教育とジェンダー
第 5 回　労働とジェンダー（1）
第 6 回　労働とジェンダー（2）
第 7 回　SRHRとバックラッシュ
第 8 回　暴力とジェンダー
〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：特になし。
参考書については授業中に指示する。
〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーやワークシートの提出　50％、小テスト　10％、最終レポート　40％
※レポートは中間提出を求め、コメントをふまえた修正版を最終レポートとして提出してもらう。
※リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
〔授業時間外学修〕
新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。（事前学習。目安として1時間）
授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。（事後学習。目安として1時間）
〔オフィスアワー〕
授業に関する質問・相談は、manaba「ジェンダー論」ページ内の「個別指導コレクション」で随時受け付けます。回答は基本的に平日に行い、1～2日中には返信できるようにします。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
第2回以降は補講日にも授業が実施されます。また、5月中旬以降はオンライン講義に変更します。授業内での指示およびmanabaコースニュースをよく確認してください。

文学/Literature　2023年度入学

CF111

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
講義

松岡 幸司

〔授業の概要〕
東洋と西洋の文学における世界観から，モノ・コトの見方を広げる．特に文学の原点である古典文学は，現代においても高い評価を受けるものである．具体的な作品の分析，また，つくられた時代や文化的背景を理解することで，作品の奥深さを考え知ることができる．なお，主題となる文学(作品)の種類は開講年次によって変わる．この科目を通じて，文学の面白さを実感し，文学とは何かを理解することが期待される．

〔到達目標〕
・「作品との対話」と考えれば，読書という行為は一種のコミュニケーション行為でもある．しかもそれは，作品を通しての「自己理解」にも連動している．このことを理解することが第一の目標である．
・さらに，「自己理解」を通して，作品という「他者の理解」に取り組む．自己理解の後の他者理解は，コミュニケーションにおける独りよがりな理解を避ける上でも重要な過程である．このことを理解することが第二の目標である．
・そして，作品（＝他者）を根気よく理解する読書というコミュニケーションの形式を知ることで，自己理解と保健・医療・福祉の場における他者理解に役立てる方法を習得するのが本講義の最終的な到達目標である．

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 1

〔授業計画〕
第 1 回　「文学」というあいまいな言葉
- 「文学」というあいまいな概念についての理解を深める．

第 2 回　「読書」という行為
- 読書における自己理解と他者理解について考える．
- 自分にとっての名作に関する自己理解と他者理解について考え，レポートに備える．
- 小レポート出題

第 3 回　日本の文学について，宮沢賢治の世界
- 日本の文学の特徴について概説し，日本人としての感覚の自己理解を進める．
- 宮沢賢治について，その背景を知り，作品を読む際の理解を深める．

第 4 回　「やまなし」を読む
- 宮沢賢治の童話作品を読む．自分の読み方を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える．

第 5 回　「雪渡り」を読む
- 宮沢賢治の童話作品を読む．自分の読み方を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える．
- 小レポート出題

第 6 回　「オツベルと象」を読む
- 宮沢賢治の童話作品を読む．自分の読み方を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える．

第 7 回　「グスコーブドリの伝記」を読む
- 宮沢賢治の童話作品を読む．自分の読み方を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える．

第 8 回　「セロ弾きのゴーシュ」を読む
- 宮沢賢治の童話作品を読む．自分の読み方を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える．
- 講義全体の内容についてのまとめを行い，各自の理解度をチェックする．
- 最終レポート出題

〔テキスト・参考書・参考文献〕
・宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』角川文庫（ISBN：9784041040027）

毎回の授業はプリント（配布資料）を用いて進む．プリントは事前（遅くとも授業前日まで）にmanabaにアップされるので，授業前にも内容を確認することができる．

〔成績評価の方法・基準〕
① 毎回の確認課題［30%］
毎回の授業で自分が学んだことを「ふりかえる」ために200～300字程度の文章を書く．
② 学期中に2回課される小レポート［合わせて40%］
それまでの授業内容を踏まえ，自分の理解度を確認し，それを適切な文章で伝える．
③ 最終レポート［30%］
学期全体の授業内容を踏まえ，自分の理解度を確認し，それを適切な文章で伝える．
これらを総合して評価する．

・毎回の確認課題：提出された課題については，採点し，毎回コメントをつけてmanaba上で返却する．受講生は，そのコメントを必ず確認して，次の確認課題に取り組む際に参考にするように．
・小レポート：提出されたレポートについても，採点し，コメントをつけてmanaba上で返却する．受講生は，そのコメントを必ず確認して，次の小レポートや最終レポートに取り組む際に参考にするように．
・最終レポート：manaba上で提出されたものは，チェックしてコメントをつけた後に，やはりmanaba上で返却する．

〔授業時間外学修〕
授業後の取り組み
・毎回の授業をふりかえり，自分が学んだことや指定されたテーマについて200～300字程度の文章を書く確認課題にmanaba上で取り組む．その際に，しっかりとメモをとって文章を書き，ちゃんと推敲して提出する．

授業に向けた取り組み
・指定された事柄について，自分なりの考えをまとめておく．
・指定された作品をよく読み，与えられたテーマに関して自分の考えをまとめておく．

上記の内容についてしっかりと取り組んでもらいたい．少なくとも毎週60～90分程度は必要と思われる．
〔オフィスアワー〕
授業終了後の時間．それ以外は，随時メールにて．
メールを送る場合は，必ず件名を書き，本文には佐久大学の学生であることと，氏名を必ず記入すること．
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
「読書」という行為に決まり（規則）はありません．この授業で伝えたいのは，高校までの国語の授業とは違った読み方です．みんなと同じように読んだり感じたりする必要はなく，自分のために読み，考える，ということをしてみましょう．そして，読書を通して，自分を見つめ直し，人と接する場面で活かしましょう．
文系・理系ということは関係ありません．とにかく読んで，自由に感じることがスタートです．

芸術学/Study of Art　2023年度入学

CF112

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
講義

並木 功

〔授業の概要〕
時代を表する芸術が示す多様な思想、価値観、表現力から豊かな感性を育む。絵画や彫刻といった視覚芸術から、音楽、演劇、映画、舞台芸術などの多様な表現法に触れることにより、多様な文化を深く理解する。なお、主題となる芸術の種類は開講年次によって変わる。本講義を通して、芸術に自らの心が動かされる機会、芸術を通して他者や文化を理解する機会となることが期待される。

〔到達目標〕
美術の社会に対するその役割と重要性を多くの資料を基に学ぶことで、有効かつ発展性を持った利用法を構築できることを到達目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　色彩の基礎知識と表現 「美的形式①」＜実習＞
色彩の基礎知識と特長を実例から学ぶイメージ表現を実践学習。
第 2 回　色彩の基礎知識と表現「美的形式②」＜実習＞
色彩の特長を実例から学び感情表現の実習学習。
第 3 回 「形と色の心理」　Ⅰ ＜実習＞
形と色との関係を学びそれらの特長を活用した表現方法を学習。
第 4 回 「形と色の原理」　Ⅱ　＜実習＞
形と色のイメージ表現の発展表現の実習。
第 5 回　絵画療法の知識と実践例の学習　①　＜書画カメラ使用＞　１～４０例
絵画から読み解ける潜在意識の学習と実習。
第 6 回　絵画療法の知識と実践例の学習　②　＜書画カメラ使用＞　４１～８０例
絵画療法の社会的役割と分析および実践学習。
第 7 回　絵画療法の知識と実践例の学習　③　＜実習・家族画編＞（学生プレゼン）
家族画制作とプレゼン実施。
第 8 回　絵画療法の知識と実践例の学習　④　＜実習・家族画編＞(学生プレゼン）
家族画制作とプレゼン実施。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
著名者：グレッグ・M・ファース
書名：絵が語る秘密
出版社：日本評論社

〔成績評価の方法・基準〕
・レポート――４０％
・プレゼン――３０％
・授業参加状況――３０％
レポート・プレゼンは成績評価後、講義の中で授業資料として扱うことで学生に対し、より講義内容の密度や理解度を深める効果を期待する。

〔授業時間外学修〕
授業内容を毎回復習しておく（30分）。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
提出物及びレポートは重要な評価対象となります。

アジア事情/Asian Affairs　2023年度入学

CF110

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
講義

廣橋 雅子、李 省翰

〔授業の概要〕
アジアにおいて経済発展を成し遂げている中国・台湾・韓国に着目し、それぞれの社会・文化・生活について基本的知識を学ぶ授業である。各国の成り立ちや、近代社会の発展過程、そして持続可能なアジア社会を維持するために各国の国民が目指す目標や考え方を学ぶ。異なる国の背景を理解することで、学生の自国との比較が期待され、国際的思考や視野を広げることを目的にする授業である。

〔到達目標〕
①グローバルな視点からアジアを理解することができる。
②中国・韓国・台湾それぞれの国の文化・経済・生活に対する具体的な事情を把握することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　授業説明・中国の現代事情（地域と文化）
　　廣橋雅子
第 2 回　中国の現代事情（社会と福祉）
　　廣橋雅子
第 3 回　韓国の現代事情（社会と経済）
　　李　省翰
第 4 回　韓国の現代事情（文化と福祉）
　　李　省翰
第 5 回　韓国と日本における新たな社会問題、そして課題
　　李　省翰
第 6 回　歴史から学ぶ台湾の社会構造
　　廣橋雅子
第 7 回　他民族多文化共生の台湾が目指すもの
　　廣橋雅子
第 8 回　【演習】異文化の紹介（グループ発表）
　　廣橋雅子

〔テキスト・参考書・参考文献〕
教員自作資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕
授業参加への積極性　20％
個人課題提出　　30％
(次の授業で返却します）
グループワーク発表　50％

〔授業時間外学修〕
配布する資料や自ら新聞記事、雑誌、書籍から課題資料に関連する情報を収集し、授業時にディスカッションができる準備をしておくこと。

〔オフィスアワー〕
講義内で周知する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
日中、日韓バイリンガル及び海外生活経験、職務経験など国際的に活動している教員を配置した授業になる。書籍からの情報だけではなく、国際的視野を養うことを目的とし、自文化及び多文化に対する興味を持てるよう最新の情報を収集できるよう指導する。

〔その他履修上の留意事項等〕
8回の授業しかないため、授業で学ぶ内容は基本的な情報に限られていることを理解し、授業時間外の自学を心掛けることを期待する。

信州・佐久学/Shinshu and Saku Studies　2023年度入学

CF114

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義

市川 正夫、桜井 達雄

〔授業の概要〕
長野県における佐久地方とは何かを地域特性や歴史、地理、産業等を通して学ぶ。

〔到達目標〕
私たちが生活している地域が、どのように形成されてきたか、その歴史や文化を習得するだけでなく、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をよりよくつくり上げていく気持ちを醸成させる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP７
〔授業計画〕
第 1 回　「県歌　信濃の国」から見た長野県と佐久地方
市川正夫
第 2 回　長野県と東信、佐久地方の地形
市川正夫
第 3 回　長野県と東信、佐久地方の気候
市川正夫
第 4 回　島崎藤村の『千曲川のスケッチ』からみた佐久地方
市川正夫
第 5 回　佐久地方南部の佐久市臼田・川上村・南牧村の地誌
市川正夫
第 6 回　佐久地方北部の御牧・浅間山・八ヶ岳・小諸の地誌
市川正夫
第 7 回　長野県の代表的観光リゾート軽井沢と上高地
市川正夫
第 8 回　地域を学ぶ意義
桜井達雄
第 9 回　佐久地方の自然・文化の魅力１回目
桜井達雄
第 10 回　佐久地方の自然・文化の魅力２回目
桜井達雄
〔テキスト・参考書・参考文献〕
市川:『令和版　やさしい長野県の教科書地理』しなのき書房
『千曲川のスケッチ』島崎藤村　新潮文庫
（参考:『ふしぎ発見　長野県の地理』しなのき書房）
桜井：特になし
〔成績評価の方法・基準〕
教員2名による総合評価とする
市川：試験により成績をつける
桜井：各回に配布するプリントに必要事項を記入して講義終了時に提出するレポートの評価（60％）と授業参画に対する姿勢の評価（40％）
〔授業時間外学修〕
授業内で指示する
〔オフィスアワー〕
市川：授業に用紙を配布して終了時に回収。次の時間に全体に共有する
桜井：授業終了時に提出するレポートに質問等の記入欄を設ける。次の時間に全体に共有する
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
市川：
１．社会的事象は情報を有機的に関連させて考えることによって理解が深まる。
２．より確かな資料によって考えること、出典のはっきりしない不確かなものは疑ってかかることが大切です。
３．授業中に話を聞いたり、資料を見た時に疑問を持つこと。それを聞いたり、確かめようとする気持ちを持つこと。
桜井：
１．講義で触れる身近な自然題材を直接訪れ、肌で触れる体験を通して興味関心を深めてほしい。
２．1回の講義ごとにその中で最も興味を抱いた題材、詳しい専門書籍やネット検索などで理解をより深めてほしい。（ネット検索には不確かな情報も含まれていることにも留意）

消費と経済活動/Consumption and Economic Activity　2023年度入学

CF115/CF3002

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義

平尾 勇

〔授業の概要〕
人のライフスタイルの変化やグローバル化など社会経済情勢の変化に伴い、経済社会における消費活動の在り方も変わってきている。特に、消費者問題が多様化・複雑化し、新たな形態の消費者問題が発生している中で、現代社会において自立した消費者として必要な基礎的知識や生活するための知識は重要な学習テーマである。
本講義では、経済活動の全体像を学ぶとともに、消費活動の内容、家計消費の内容、消費者問題や消費者教育、消費生活情報などを学習し、人間生活の基礎である生産と消費の現代的な仕組みと課題について学ぶ。

〔到達目標〕
・経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。
・国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。
・経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。
・「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。
・消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。
・現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。
・消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。
・人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。
講義：お金の流れを中心にそれぞれの主体の役割を明確にし、図表などで解説する。
第 2 回　国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。
講義：国全体の消費の内容を明確にする。
第 3 回　経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどの ように決まるかを理解する。
講義、まとめと演習：価格の決め方が一般的にどのような仕組みになっているかについて説明する。
第 4 回　「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。
講義：価格が下がるのがデフレ、上がるのがインフレだが、その仕組みについて説明する。
第 5 回　消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。
講義：「家計調査」などを用いて、支出の実態を明らかにする。
第 6 回　現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面している かを理解する。
講義：消費者問題の現状を国民生活センターの資料などから説明する。
第 7 回　消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。
講義：第6回の消費者問題について事前にどのような教育が必要かを国民生活センターの資料を用いて説明する。
第 8 回　人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。
全体のまとめと演習：生活にはお金がかかる。お金を豊かな生活を支えるためいかに使うか、将来の消費のためにどのように分配して豊かな将来を確保するについて検討する。
※最終回は今までの講義内容を前提として参加者全員でディスカッションを行い、できるだけ実践活動に結び付けたい。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：池上彰著「しくみがわかる　やさしい経済学１」、「ニュースがわかる　やさしい経済学２」（日経ビジネス人文庫）
参考URL　：「マンガでわかる経済入門」 https://manabow.com/hayawakari/
参考URL　：独立行政法人　国民生活センター　http://www.kokusen.go.jp/index.html

〔成績評価の方法・基準〕
レポート　70％、授業参加状況　30％
レポートは今回の講義の中で、今回の講座で学んだことの要約、役立ったこと、疑問に思ったこと、自分の生活で実践していきたいことなどを、文献や資料のコピーではなく、自分の言葉で書くこと。
おおよその文字数は3,000字以上4,000字未満、フォントはＭＳ明朝、サイズは10.5で入力して下さい。
レポートの内容について、優秀レポートを紹介するとともに、ユニークなレポートも授業で紹介する。

〔授業時間外学修〕
テキスト「池上彰のやさしい経済学」、参考URL「マンガでわかる経済入門のサイト」及び「国民生活センターのサイ

ト」の該当箇所の予習が必要です。
事前学習では該当部分を通読し、理解ができないところをチェックします。この時点ですべてを理解する必要はありません。わからないところを明確にしておくだけで講義での理解が深まります。
おおよそ、30分程度の事前学習を目途にして下さい。
〔オフィスアワー〕
授業終了後に、教室で質問を受け付ける。 又は下記メールアドレスに随時受け付ける。
isamu.hirao@ace.ocn.ne.jp
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
個人の消費行動は国全体の経済活動に繋がっています。自分の消費行動を振り返ることで身近なところから経済を考え、豊かな消費生活の実践につなげてもらえばありがたいと思います。

契約と社会のルール/Contracts and Social Rules
2023年度入学

CF116

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義

関 良徳

〔授業の概要〕
この授業では、①私たちの日常世界に存在する契約その他の社会的なルールについて、法律学の観点から概説する。②契約などに関わる法的・社会的ルールの諸問題について解説し、いかなる取り組みがなされているかを説明する。③身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、他の受講生との討論を通じてより公正な判断を導き出すための問題解決型学習を行う。

〔到達目標〕
私たちの身のまわりの契約や法律的な問題について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP l

〔授業計画〕
第 1 回　契約（1）
売買契約について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。
第 2 回　契約（2）
賃貸借契約について概説し、事例問題の検討を行う。
第 3 回　家族（1）
家族制度について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。
第 4 回　家族（2）
育児と介護に関する制度について概説し、事例問題の検討を行う。
第 5 回　知的財産
知的財産制度について概説し、事例問題について演習を行う。
第 6 回　医療訴訟
医療訴訟の制度と課題について概説し、事例問題の検討を行う。
第 7 回　労働（1）
採用・退職の制度について概説し、事例問題の検討を行う。
第 8 回　労働（2）
労働に関する諸問題について概説し、事例の検討を行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。
参考文献：適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
最終レポート（50%）
授業内レポート（30%）
授業への取組み状況（20%）
授業内レポート等のフィードバックは授業内で説明する。

〔授業時間外学修〕
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。
事例検討の授業では、予習レポートが課される。
1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
随時、メールで質問を受け付ける。
yosseki●shinshu-u.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。

ボランティア・住民活動論/Introduction to Volunteering and Civic Activities　2023年度入学

CF113

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
2単位　後期
講義・演習

中嶋 智子、田中 夏子

〔授業の概要〕
ボランティア活動や地域支援活動の原理・原則、社会的意義などの基本と実際を学ぶ。
社会福祉分野（障がい者・子ども・高齢者など）に限らず、教育・環境・文化・スポーツ・災害など、身近な地域でおこなわれているボランティアや住民主体の活動に焦点をあてて学修する。

〔到達目標〕
（１）ボランティア活動の意義と理念がわかる。
（２）NPOとは何かがわかる。またその運営方法や行政との協働のあり方について考えられる。
（３）市民活動の事業化と実践例について理解できる。
（４）企業のCSRの考え方と展開例について理解できる。
（５）実際のボランティア活動に関わり、協働の必要性がわかる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　コースガイダンス
※出席必須：授業のすすめかた、本科目のDPとの関連について
担当教員：中嶋・田中
第 2 回　ボランティア活動の理解
授業資料をダウンロードのうえ、テキスト第１章を読んで受講してください。
担当教員：中嶋
第 3 回　ボランティアの歴史と法的制度
授業資料はダウンロードしてください。
担当教員：田中
第 4 回　NPOとその運営
授業資料をダウンロードのうえ、テキスト第２・３章を読んで受講してください。
担当教員：田中
第 5 回　企業のCSRの考え方と展開
授業資料はダウンロードしてください。（当日配布の場合もあり）
担当教員：ゲスト講師／中嶋
第 6 回　市民活動の事業化と行政との連携
授業資料をダウンロードのうえ、テキスト第５章を読んで受講してください。担当教員：田中
第 7 回　災害とボランティア
授業資料はダウンロードしてください。
担当教員：中嶋
第 8 回　環境問題と市民活動
授業資料はダウンロードしてください。
担当教員：田中
第 9 回　社会福祉と市民活動（こども・障がい者・高齢者）
授業資料をダウンロードのうえ、テキスト第７・８章を読んでから受講してください。担当教員：田中
第 10 回　国際協力や国際ボランティア
担当教員：ゲスト講師／中嶋
第 11 回　ボランティア活動の創発；グループワーク
担当教員：中嶋
第 12 回　ボランティアの実践；個人活動
担当教員：中嶋
第 13 回　ボランティアの実践；個人活動
担当教員：中嶋
第 14 回　ボランティアの実践；個人活動
担当教員：中嶋
第 15 回　まとめ
担当教員：中嶋・田中

〔テキスト・参考書・参考文献〕
早瀬昇,水谷綾,永井美佳ほか.市民活動論［第２版］，大阪ボランティア協会(2017)

〔成績評価の方法・基準〕
課題レポート50％（個人）
ボランティア活動の企画書25％（グループ）
授業資料の閲覧、LMSへのアクセスログ 15％
ボランティア届出・報告10％

筆記試験：なし
＊提出後、基本レポートは返却しませんが、ご希望があれば個別にコメントを返します。

〔授業時間外学修〕
・授業テーマに該当するテキストの章を事前に熟読し、自分の考えを準備して受講して下さい。
・毎授業につき、１時間程度の予習復習を要します。

〔オフィスアワー〕
授業後または、下記のメールにて個別に日程調整します。
中嶋智子　t-nakajima●saku.ac.jp　（●を＠に変えてください）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
大学生のうちに、ぜひボランティアを体験しましょう！
すでに経験のある方は、新たな活動をはじめてみませんか。
ボランティア活動で自己成長できることをぜひ実感してください。

個と集団/Social Action Theory　2023年度入学

CF117

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
講義

阿部 友香

〔授業の概要〕
社会学の研究対象の範囲は非常に広く、日常生活のなかの人と人との出会いの分析から、世界規模の社会的プロセスの研究にまでおよぶ。本講義はその入門編として、あらゆる社会現象の背後への理解や社会の成り立ち、また、社会の安定性や変化、解体・崩壊などについて学習し、私たちの日常生活の土台となっている社会構造の理解と社会の成り立ちの基礎である個と集団の基本的な視点を学ぶ。

〔到達目標〕
・個と集団をめぐる社会学の基本的な視点や概念を理解する。
・自分の身の回りの物事・現象と社会学の知識を結び付けて考えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　相互行為・自己（1）
第 2 回　相互行為・自己（2）
第 3 回　コミュニケーションと権力（1）
第 4 回　コミュニケーションと権力（2）
第 5 回　個人との関係から集団を考える
第 6 回　集団のメカニズム
第 7 回　集団としての国家
第 8 回　社会運動

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは基本的に用いない。
参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーやワークシートの提出60％、最終レポート40％
※レポートは中間提出を求め、コメントをふまえた修正版を最終レポートとして提出してもらう。
※リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。

〔授業時間外学修〕
授業内で指示する参考資料などを読んでくる。（事前学習。目安として1時間）
授業内で配布した資料をよく復習しておく。（事後学習。目安として1時間）

〔オフィスアワー〕
授業に関する質問・相談は、manaba「個と集団」ページ内の「個別指導コレクション」で随時受け付けます。回答は基本的に平日に行い、1～2日中には返信できるようにします。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
第2回以降は補講日にも授業が実施されます。また、5月中旬以降はオンライン講義に変更します。授業内での指示およびmanabaコースニュースをよく確認してください。

表現技法Ⅰ/Presentation Ⅰ　2023年度入学

CF121

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
演習

風早 康惠

〔授業の概要〕
大学で主体的に学ぶ方法の基礎として、聴く、話す、読む、書く、調べるという基本的な能力を身につける。入門演習では、主体的に学ぶ姿勢、情報の検索、情報の読解や要約、問題の明確化、明瞭かつ論理的に表現することについて学ぶ。この学びを通して、日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら考え、適切に自分の考えを表現することができること、また、日常生活や大学での他の授業、実習、ケアの場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようにすることが期待できる。

〔到達目標〕
１．表現の歴史・方法、基本的なテクニックを把握する。
２．基本的な各種の文章・レポート・論文の書き方の概要を理解し、適切な表現を用いて書くことができる。
３．レポート・論文を纏めるにあたり、情報探索を適切に行うことができる。
４．レポート・論文を書くために必要な他者の手になる論文や文献等を要約し、ルールに則り活用することができる。
５．自分の感情・知識・思考を、文章で表現し、的確に他者に伝えることができる。
６．TPOに応じて、手紙・書類等をしたためることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
今後の授業の進め方について、あらましを説明し、授業に期待する点を聞き取る。

第 2 回　表現の歴史・さまざまな技法に関して学ぶ。
①手紙等の短文　②レポート　③論文をそれぞれ作成する際に、どのような表現技法が用いられ、どのように活用されるかを検討する。

第 3 回　表現の技術を高め、洗練させるための一般教養（節季・年間行事・古典・ことわざ等）を学ぶ。

第 4 回　敬語表現（尊敬語・謙譲語・丁寧語）を学ぶ。
実際に短文の中で敬語表現を用いてみる。

第 5 回　授業２，３，４での学習をもとに、（場面・状況設定を指定して）各自、手紙を書いてみる。
グループ・ディスカッションによる検討

第 6 回　レポート・論文を書くために①
他者による文章の骨子を、正確に読み取る方法について学ぶ。
主題、構成、論の展開等を把握しつつ要旨を簡略に纏め、筆者の主張を理解する。

第 7 回　レポート・論文を書くために②
文章の流れを把握し、論の構築を理解するために、「順接」「逆接」「指示代名詞」等について学ぶ。

第 8 回　レポート・論文を書くために③
「キー・ワード」を選び出し、関連する文献を検索する方法について学ぶ。

第 9 回　レポート・論文を書くために④
引用の種類と書き方、資料(グラフや図)の引用方法、図表番号の入れ方を学ぶ。
さまざまな参考文献リストのスタイルを知り、APAスタイルの書き方を学ぶ。

第 10 回　授業９の復習。
加えて、授業６の復習を兼ねて、さまざまな要約文の書き方を学ぶ。

第 11 回　レポート・論文を書いてみよう①
テーマの設定、執筆にあたって留意する点を学ぶ。
情報検索の基本的な方法を知り、大学図書館の活用法を学ぶ。

第 12 回　レポート・論文を書いてみよう②
文献の取捨選択のポイントを押さえる。
書籍に関しては「目次」「はじめに」「おわりに」「奥付」等の読み方、「索引」「謝辞」について確認する。

第 13 回　レポート・論文を書いてみよう③
入手した文献のリストとメモや現物の整理、論文の骨子、仮タイトルを考える。

第 14 回　レポート・論文を書いてみよう④
自宅学習で準備してきたアウトラインをもとに、各自、実際にレポートを書いてみる。
平仮名と漢字の表記とその割合、あいまい文、口語的な表現などに留意しつつ推敲を行い、提出前に再確認する作業を学ぶ。

第 15 回　授業の纏めと再確認を行い、質問に答える。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
授業時に講師が作成した資料、コピー等を配付する。
参考となる書籍等は、同じく授業時に推薦する。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験（50％）、授業参加状況（ワーク）・提出物（50％）
試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニング問題の内容や話し合いで得られた解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。
授業の際の提出物は返却しないが、試験前に内容のあらましを提示し、質問等に応じる。

〔授業時間外学修〕
多彩な表現方法を身につけるとともに、大学での他の授業のレポート・課題・提出物の学習に、表現技法で学んだことを積極的に活かして欲しいと思います。「読む・書く・話す」とともに「考える」スキルを常に磨いてください。
なお、第３回授業からは毎回、それまでの講義内容から出題の小テストを実施します。
1回の授業について1時間程度復習を行っておいてください。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
大学の授業での課題レポートで、困ったりあれこれ悩んだりすることが最初はあるかもしれません。「文章の書き方」の基礎知識を学ぶことによって、課題に積極的に取り組み、考える姿勢を身につけてほしいと思います。さまざまな情報を正しく活用しつつ、自分の感情・知識・思考を伝え、将来に活かしてゆく試みを、大学の学びの中でさらに幅広く、深いものとしていってください。
自分の中にある「表現したい」ものを文字に置き換えることは、それらを客観的に整理し、検討するよすがとなります。加えて、表現というフィルターを通して自らをさまざまな視点から再認識することにより、万一、ネガティブな要素があったとしても、それをかけがえのない成長の活力へと変えてゆけると考えます。
メールでのやり取りが主流となりつつある現在であるからこそ、手紙・書類のしたため方を学んでおくことは、就職・仕事などの多くの局面で、皆さんの力になるでしょう。

野外活動論/Outdoor Activity Theory　2023年度入学

CF118/CF4002

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義・演習

伊藤 光太郎

〔授業の概要〕
野外活動論では、自然環境と人との共生関係を知り、ヒューマンケアを学ぶ人材として環境共生社会構築に貢献できる意識を醸成する。そのために、野外活動（キャンプ、登山、スキー・スノーボード等）に必要な基本的知識（関連用語、社会的意義・必要性、用具の使用方
法、効果的な指導方法等）や、活動に伴う危険及びそれに対する適切な対処方法について学習する。本講座により、野外活動に関わる基本的知識の習得や野外活動指導者に求められる資質や役割への理解、野外活動に伴うリスクマネジメントのスキルの習得が期待できる。
〔到達目標〕
① 野外活動の楽しさを体感する。
② ①を通して、指導者・支援者として野外活動またキャンプにたずさわる場合（引率や同行などをする場合）の要点を学ぶ。
③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した野外活動の技術を得る
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 7
〔授業計画〕
第 1 回　野外ゲーム＆キャンプひろばづくり＆薪割り
授業説明、はじめましてレクリエーション、かまどづくり、斧で薪割り、火おこしのデモ・体験などを実施。グラウンド脇に野外活動フィールドを作る。
第 2 回　野外ゲーム＆キャンプひろばづくり＆薪割り
授業説明、はじめましてレクリエーション、かまどづくり、斧で薪割り、火おこしのデモ・体験などを実施。グラウンド脇に野外活動フィールドを作る。
第 3 回　火おこし＆かんたん野外料理
火おこしと火の安全、火を使って災害時に役立つ調理方法で実際に野外料理に挑戦する。居心地の良いフィールドづくりも同時に行う。
第 4 回　火おこし＆かんたん野外料理
火おこしと火の安全、火を使って災害時に役立つ調理方法で実際に野外料理に挑戦する。居心地の良いフィールドづくりも同時に行う。
第 5 回　刃物・道具を学ぶ＆クラフト＆焚火スイーツ
ナイフ他道具を使って工作をしながら、小さめの焚火で「焚火スイーツ」を作る。各自のペースで取り組む。のんびり熱中するのも野外活動である。
第 6 回　刃物・道具を学ぶ＆クラフト＆焚火スイーツ
ナイフ他道具を使って工作をしながら、小さめの焚火で「焚火スイーツ」を作る。各自のペースで取り組む。のんびり熱中するのも野外活動である。
第 7 回　キャンプファイアー＆キャンプ広場片付け
フィールドの片づけをし、学生主導のキャンプファイアーでしめくくる。
第 8 回　キャンプファイアー＆キャンプ広場片付け
フィールドの片づけをし、学生主導のキャンプファイアーでしめくくる。
〔テキスト・参考書・参考文献〕
特になし。授業内容の補足で講師が作成した動画視聴があり得る。
https://www.youtube.com/channel/UClT3Xg52uz0ltwJeX90iJFA
〔成績評価の方法・基準〕
授業参加状況（リアクションフォームへの評価含む）　50％
レポート試験　50％　（終講試験はレポート試験を予定）

リアクションフォームへは、必要に応じて返信または授業内でコメントほかで応える。
レポート試験は返却しないが、レポートに対する評価・講評をリスト化して配布することもある。
動画によるフィードバックが有効と判断したものは動画配信もあり得る。

〔授業時間外学修〕
① 使用用具や授業環境を整える授業準備から撤収にできる限り参加する。（30～45分）
② 屋外での授業に安全に参加できるよう、装備や服装をしっかり想定し準備する。（10～20分）
③ 授業で配布した資料を再読し、授業での実技を振り返り自身の行動また技術を自己評価する（30～60分）
〔オフィスアワー〕
・授業終了後に授業会場で質問を受け付ける。
・随時、メール（info●dol-camp.org）で質問を受け付ける。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
☆自己負担金1人3～5千円程度が必要です。
資材・食材・機材レンタル・消耗品などの費用負担が必要になります。費用の確定は受講人数にもよるので、開講と同時にお伝えします。
★内容の変更
授業の進度、天候、資材の調達状況、感染拡大の状況などによって、シラバスの内容からの変更があり得ます。
より効果的に楽しく学ぶための変更になりますのでご了承ください。

◎愉快に
野外活動は愉快でありたいです。チャレンジに満ちた体験型で、災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含んだアウトドア実技・演習中心に授業を進めます。野外活動の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全（野外にお

けるリスクマネジメント)・支援者の役割を学んでください。
◎確実に
キャンパス内にカマドを作り、薪をつくり、野外料理をするなど、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に体得しましょう。野外活動での安全管理・安全技術は身近な機会から将来の仕事などでも大いに役立ちます。
◎野外での授業により
晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施　または　予備日を使うため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得ます。キャンパス内の資源（剪定木や再利用資源）や周辺で得られる素材も活用し、天候含む自然環境に対応します。授業自体がとても充実した野外活動です。
◎野外での指導・支援の機会は必ずある
どの学生にもいつかきっとアウトドアでの支援活動の機会が待っているはずです。この授業で基本的な技術を身に着け、安全安心の情報を得ることが今後必ず役に立ちます。

その他
・服装は動きやすい服・軍手・帽子・飲み物・虫や紫外線対策などを各自用意してください。
　安全のため、活動に適していない服装や持ち物が不十分な場合は授業に参加できないこともあります。
・授業前後に時間のある学生は学びを深めるために、授業前の準備・授業後の撤収（予習復習にもなる）にもぜひ参加してください。
・感染拡大予防のため、飲食を伴う内容から他の内容に変更する可能性があります。

予備：雨天時は基本的に屋内で理論部分を学ぶが、雨天が重なった場合のために予備日程を用意している。当日の天候で判断する。

災害ボランティア/Disaster Volunteer　2022年度入学

CF119

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
２年
1単位　前期
講義・演習

山本 克彦、山﨑 水紀夫、篠原 辰二

〔授業の概要〕
国内外を問わず、災害が発生すると多くのボランティア（NPO・NGO含む）による様々な被災者・被災地を対象とした活動が行われている。そして、その活動は、災害の経験値を生かす形で、災害後だけではなく「災害サイクルモデル」に基づき事前予防としての防災・減災までその射程を拡げている。本講義では、災害ボランティアの概念、発展史、原理・原則、対象者などについて具体的な事例をもとに学ぶ。

〔到達目標〕
日本における災害ボランティアの発展史を学び、どのような活動が展開されてきたのかについてその概要を理解することができる。また、災害ボランティアの概念と具体的な事例を検討することで災害ボランティアのあり方について自身で考えることができる。さらに、講義での学びを基に演習を行うことでより具体的に災害ボランティアの実践について学ぶことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション　災害ボランティア理解の導入：長谷川
第 2 回　災害ボランティアの概説：山本
第 3 回　災害ボランティアの事例に学ぶ：山本
第 4 回　災害とフェーズ（時系列ワーク）①：篠原・山本
第 5 回　災害とフェーズ（時系列ワーク）②：篠原・山本
第 6 回　多様な災害ボランティア：篠原・山本
第 7 回　多様な避難のあり方：山﨑
第 8 回　車中泊避難所の設置・運営：山﨑

〔テキスト・参考書・参考文献〕
指定テキストはありません。各講義の際に講義資料の提示を行います。

参考文献
・山本克彦「災害ボランティア入門:実践から学ぶ災害ソーシャルワーク」ミネルヴァ書房 2018年4月

〔成績評価の方法・基準〕
毎回のリアクションペーパー...３０％
レポート試験...７０％
それぞれの評価やコメントについてはmanabaにて個別に周知する。

〔授業時間外学修〕
毎回の授業内容の復習（90分）のほか、災害時におけるボランティア活動に関する事例を調べ（90分）、災害時支援におけるボランティア活動の実情に触れてください。

〔オフィスアワー〕
授業時に説明します。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
初回講義については平日の空き時間にて実施、2回目～8回目は土曜日補講日の開講予定です。これまでの大規模災害における災害ボランティア活動の経験をお持ちの方をゲストスピーカーに呼び、実際の活動状況について聴くことができる貴重な時間となると思います。
これからの保健・医療・福祉職を目指すものとして、是非災害時の各専門性を考える場として活用してください。日程及び詳細については別途連絡します。

入門演習/Introductory Seminar　2023年度入学

HF4004

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 基盤教育科目
1年
2単位　前期
演習
必修

野口 定久、下村 幸仁、関谷 龍子、島田 千穂、林 宏二、上西 一貴

〔授業の概要〕
大学で主体的に学ぶ姿勢、および学修の基本技術(聴く、話す、読む、書く、調べる)を身につける。入門演習では、高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的に、小グループで保健・医療・福祉に関する疑問を立て、グループ内でのプレゼンテーションやディスカッションを通じて意見をまとめ、全体でプレゼンテーションを行う。このような学習を通して、学習活動に必要となる基本的な学習技術の習得や専門教育における学習目標を設定するための動機づけにつながることが期待できる。各グループに分かれて進める。

〔到達目標〕
①大学で学ぶための基本的な学習技術の重要性と必要性に気付く。
②ディベートができ、他人と生産的な熟議ができる。
③自分なりの研究テーマを立ててプレゼンテーションができる。
④文献等を批判的に読解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 7

〔授業計画〕
第 1 回　全体オリエンテーション
演習
4グループ全体のオリエンテーション。大学で学ぶとは : 学ぶことの意味とアクティブラーニング

第 2 回　グループメンバーをよく知る
演習
自己紹介など

第 3 回　図書館ガイダンスまたは文献検索
演習
図書館ガイダンスまたは文献検索の必要性、意味について考える

第 4 回　図書館ガイダンスまたは文献検索
演習
図書館ガイダンスまたは文献検索の必要性、意味について考える

第 5 回　文献の抄読と課題整理・内容の共有
演習
文献（多様な視点から読み解ける内容の具体的出来事に関する記述）の抄読と感想、次回までの文献検索課題について整理、検索してきた文献の内容の共有、課題の整理、次回までの文献検索課題を決める。

第 6 回　グループ討議のテーマの絞り込み
演習
検索してきた文献の内容の共有、課題の整理、グループ発表に向けてテーマを絞り込む。

第 7 回　研究課題の設定
演習
グループで絞りこんだテーマに関する研究疑問を学生ごとに決め、分担して文献収集する。

第 8 回　テーマのまとめ方の学習
演習
収集した文献の内容を共有し、テーマ全体をどのようにまとめていくかを整理する。不足することについて、文献を収集する。

第 9 回　課題（研究テーマ）の設定
演習
収集した文献の内容を共有し、テーマ全体をどのようにまとめていくかを整理する。不足することについて、文献を収集する。

第 10 回　役割分担にもとづく作業と討議 1
演習
収集した文献の内容を共有し、テーマ全体をどのようにまとめていくかを整理する。不足することについて、文献を収集する。

第 11 回　プレゼンテーションのストーリー性の学習
演習
プレゼンテーションの準備をする。プレゼンテーションのストーリー（起承転結）を決める。ストーリーに欠ける部分があれば、追加で文献を収集する。

第 12 回　役割分担にもとづく作業と討議 3
演習
プレゼンテーションの準備をする。文献収集と並行して行う。

第 13 回　役割分担にもとづく作業と討議 4
演習
プレゼンテーションの準備をする。文献収集と並行して行う。

第 14 回　プレゼンテーションの準備
演習
プレゼンテーションの準備をする。文献収集と並行して行う。

第 15 回　学年全体でのプレゼンテーション（全教員によるグループ評価）
演習
各グループでプレゼンテーションを行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
授業で使用する文献（新聞記事も含む）を事前配布または周知

〔成績評価の方法・基準〕
意見発表20%、 授業内提出物20%、 プレゼンテーション20%、 最終レポート40%
出されたレポートにはコメントを入れて個別返却します。

〔授業時間外学修〕
①基本文献の事前学習（要点のまとめ、論点整理、感想）
②意見交換のための各自の論点整理とディベート後の振り返り・まとめ
〔オフィスアワー〕
授業内で指示する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
各グループで課題を設定し、その課題について小グループで各課題について調べる。調べた情報をほかの人に伝え、グループ課題に関する意見をまとめる。プレゼンテーション資料を作成し、第三者に伝える。

CBL実習Ⅰ/CBL Field Eexercise Ⅰ　2023年度入学

HF4005

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 基盤教育科目
1年
2単位　前期
実習
必修

関谷 龍子、野口 定久、李 省翰、上西 一貴

〔授業の概要〕
本実習の目的は、地域の生活文化に関心を寄せながら、地域のくらしに触れ、住民と継続的な交流をすることで多様な価値観を理解することである。また、学修者自らも、地域の生活者であることを自覚し、地域が抱える社会問題や個人の生活経験への関心や意識を高める。長野県にある公民館の数は、日本一多くその歴史も古い。地域に根付いたコミュニティ拠点からみえる「地域が抱える社会的課題」についてグループでまとめ、全体で発表することにより学びを共有する。

＊CBL(Community-Based Learning)とは、学修者が地域の社会活動に入り込み、住民と相互的な関係性を構築しながら、自らの実体験を省察する学習活動のこと

〔到達目標〕
(1) 地域（地区）の特性、概要がわかる。
(2) 住民との関わりを通じて、地域の生活文化に関心が持てる。
(3) 地域（地区）の風土、特有の価値観が理解できる。
(4) わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について理解できる。
(5) 地域が抱える社会課題について考えられる。
(6) 自分自身が地域の生活者であることを自覚できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP３、DP５、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　全体
コースガイダンス

第 2 回　全体、グループ
以下の事前課題を、第2～4回で実施する。
① 担当地域（地区）について、地域の特性、概要を調べる。
② わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について事前学習する。
③ 担当地域（地区）の特性に応じた実習方法についてグループで検討する。
④ 参画する公民館活動を決めて、実習計画を立てる。
⑤ 自己の実習目標を明確にする。

第 3 回　全体、グループ
以下の事前課題を、第2～4回で実施する。
① 担当地域（地区）について、地域の特性、概要を調べる。
② わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について事前学習する。
③ 担当地域（地区）の特性に応じた実習方法についてグループで検討する。
④ 参画する公民館活動を決めて、実習計画を立てる。
⑤ 自己の実習目標を明確にする。

第 4 回　全体、グループ
以下の事前課題を、第2～4回で実施する。
① 担当地域（地区）について、地域の特性、概要を調べる。
② わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について事前学習する。
③ 担当地域（地区）の特性に応じた実習方法についてグループで検討する。
④ 参画する公民館活動を決めて、実習計画を立てる。
⑤ 自己の実習目標を明確にする。

第 5 回　全体
実習期間中の礼儀、マナー、文化的尊重等についての心構え

第 6 回　グループ別活動
実習する地域（地区）の見学
・地域（地区）オリエンテーション
・地域の現状について行政の担当職員よりオリエンテーションを受ける。
・実習する地域の周辺を歩いて見聞する。
・地域特有の自然環境・社会文化・歴史の把握を行う。
【主な実習場所】佐久市内の公民館（中央公民館、野沢公民館、中込公民館など）

第 7 回　グループ別活動
実習する地域（地区）の見学
・地域（地区）オリエンテーション
・地域の現状について行政の担当職員よりオリエンテーションを受ける。
・実習する地域の周辺を歩いて見聞する。
・地域特有の自然環境・社会文化・歴史の把握を行う。
【主な実習場所】佐久市内の公民館（中央公民館、野沢公民館、中込公民館など）

第 8 回　グループ別実習
まちなか実習（延べ８日間以上）
・定期的に公民館活動に参画し、住民と積極的に交流する。
・個人の生活文化様式や価値観を理解する。
・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。
・事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。

第 9 回　グループ別実習
まちなか実習（延べ８日間以上）
・定期的に公民館活動に参画し、住民と積極的に交流する。
・個人の生活文化様式や価値観を理解する。

・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。
・事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。

第 10 回　グループ別実習
まちなか実習（延べ８日間以上）
・定期的に公民館活動に参画し、住民と積極的に交流する。
・個人の生活文化様式や価値観を理解する。
・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。
・事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。

第 11 回　グループ別実習
まちなか実習（延べ８日間以上）
・定期的に公民館活動に参画し、住民と積極的に交流する。
・個人の生活文化様式や価値観を理解する。
・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。
・事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。

第 12 回　グループ別実習
まちなか実習（延べ８日間以上）
・定期的に公民館活動に参画し、住民と積極的に交流する。
・個人の生活文化様式や価値観を理解する。
・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。
・事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。

第 13 回　グループ別実習
まちなか実習（延べ８日間以上）
・定期的に公民館活動に参画し、住民と積極的に交流する。
・個人の生活文化様式や価値観を理解する。
・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。
・事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。

第 14 回　グループ別活動
まちなか実習のまとめ
・実習全体を通して得られたことを整理し、学びをまとめる。
・プレゼンテーションの準備。

第 15 回　全体
全グループのプレゼンテーション（活動発表）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト　使用しない。
参考文献　授業中、その都度指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

実習への積極的な参加（事前学習を含む）	50％
課題	30％
プレゼンテーション	20％

課題・提出物については、その都度コメントして返却します。

〔授業時間外学修〕
公民館活動へ参加したのち、フィールドレポートとして振り返り（省察）を行うこと。
計3～4回、manabaで提出してもらう予定。

〔オフィスアワー〕
授業中に各担当者から指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
上記の授業計画は、あくまで標準的な内容を示したものです。実習受け入れ先の都合などにより、変更することがあります。その都度、担当者から指示します。

CBL実習Ⅱ/CBL Field Eexercise Ⅱ　2023年度入学

HF4006

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 基盤教育科目
1年
1単位　通年
実習
選択

上西 一貴、関谷 龍子、李 省翰、野口 定久、中嶋 智子、
根本 貴子、桜井 達雄

〔授業の概要〕
本実習の目的は、地域の生活文化に関心を寄せながら、地域のひとと触れあい、社会的土壌をつくる多様な価値観を理解することである。互酬性（互恵性）の規範、社会的つながりは、地域固有なものといえる。フィールドワークや農村民泊等での生活体験を通じて、個人の生活体験や価値観を直接見聞きしながら、地域が抱える複雑な社会的課題を再発見する。さらには、実習経験をもとに、よりよい地域社会のありかたについて問い続ける姿勢と、実践力を養う実習である。

＊CBL(Community-Based Learning)とは、学修者が地域の社会活動に入り込み、住民と相互的な関係性を構築しながら、自らの実体験を省察する学習活動のこと

〔到達目標〕
(1) 対象地域について、地域（地区）の特性、概要がわかる。
(2) 地域でのくらし方や多様な生活文化を理解し、尊重することができる。
(3) 地域の社会的つながりや社会課題について、自らの関心を深めることができる。
(4) 実習を通して自己課題を設定し、それに対する自己省察・自己評価ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP３、DP５、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　全体
コースガイダンス
・実習方法の説明
・実習期間中の礼儀、マナー、文化的尊重等についての心構え

第 2 回　グループ別活動
実習予定の地域（長野県小諸市、小海町、川上村、青木村など）にグループ別に分かれ、以下の「事前課題」に取り組む。

①対象地域について、地域の特性、概要を調べる。
②対象地域の主たる産業や市民活動について調べる。
③自己の実習課題を明確にする。

第 3 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 4 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 5 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 6 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 7 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 8 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 9 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 10 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 11 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 12 回　実習
小諸市、小海町、川上村、青木村など、地域ごとのフィールドスタディと宿泊

第 13 回　実習
現地プレゼンテーション（活動成果のまとめと報告）

第 14 回　全体
プレゼンテーション（活動発表）

第 15 回　全体
看護学部との合同発表会

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト　使用しない。1回目のコースガイダンス時に、詳細な冊子を配布する。
参考文献　佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社（2006年）ほか、その都度提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
事前学習・実習での学びと振り返り（提出物含む）50％
フィールドノート　20％
プレゼンテーション・報告会（提出物含む）　30％
課題・提出物については、その都度コメントして返却します。

〔授業時間外学修〕
実習先の地域について、事前課題をグループで分担して調べる。
実習中のフィールドノートをもとに、実習で体験したことを丁寧に振り返る（省察する）。
実習中を含め5～6回、manabaなどで提出してもらう。

〔オフィスアワー〕
各地区担当者から指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
上記の授業計画は、実習全体を標準的に示したものです。
実際の進め方は、第1回のコースガイダンスで説明します。

コンピュータの基礎演習/Computer Literacy　2023年度入学

CF120W

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目
1 年
1単位　前期
講義

三池 克明

〔授業の概要〕
大学生や社会人として必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。

〔到達目標〕
パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、大学生や社会人として必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　**学内ネットワークの使用方法と大学メールの使い方**
PC室の利用方法、LMS(manaba・respon)の使用方法、メール(Microsoft 365)の使用方法

第 2 回　**情報のデジタル化とインターネット**
デジタルとは、インターネットとは、検索エンジンの使用方法

第 3 回　**情報セキュリティと情報倫理**
情報セキュリティとは、情報倫理とは、著作権の利用について、止揚(aufheben)の考え方に基づく安全性の見極め方

第 4 回　**ワープロソフトを使った文書作成1：文章の入力**
日本語入力について、ファイルとフォルダ、Wordで文章入力

第 5 回　**ワープロソフトを使った文書作成2：編集と加工**
文書の加工、印刷・PDF変換などの出力について

第 6 回　**ワープロソフトを使った文書作成3：ビジネス文書の作成**
ビジネス文書の構造、ビジネス文書の作成

第 7 回　**ワープロソフトを使った文書作成4：表のデザイン**
複雑な表の作成、見やすい表のデザイン

第 8 回　**表計算ソフトを使った統計処理1：データ入力**
表計算ソフトとは、Excelでの表デザイン、表計算の基礎

第 9 回　**表計算ソフトを使った統計処理2：表計算**
表計算、相対参照と絶対参照、データの並べ替え

第 10 回　**表計算ソフトを使った統計処理3：グラフ描画**
グラフとは、グラフ作成、他のソフトへの貼り付け

第 11 回　**表計算ソフトを使った統計処理4：オープンデータの活用**
オープンデータとは、e-Statの活用、Excelとの連携

第 12 回　**パソコンを使ったプレゼン1：編集とデザイン**
プレゼンテーションとは、スライド型プレゼンテーションの制作

第 13 回　**パソコンを使ったプレゼン2：アニメーション**
なぜアニメーションをさせるのか、アニメーションの設定、よいプレゼンテーションとは

第 14 回　**パソコンを使ったプレゼン3：オープンキャンパス用プレゼンの制作**
最終課題「オープンキャンパス用プレゼンの制作」について、評価基準について

第 15 回　**パソコンを使ったプレゼン4：オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出**
最終課題の制作と提出

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：奥村晴彦, 森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

〔成績評価の方法・基準〕
授業終了時に提出するコメントシート（30％）
提出した課題（70％）

〔授業時間外学修〕
予習：次回の講義資料を確認し、何が分らないか明らかにしておくこと。
復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。
なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、情報機器を十分に活用し短時間で仕上げる方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕
とにかく質問する受講生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。

情報管理法/Data Management Method　2022年度入学

CF201

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
2 年
1単位　前期
演習

朴 相俊

〔授業の概要〕
情報の収集、加工、蓄積、利用、廃棄などの情報管理の手法について学修する。特に収集した情報を整理、加工する二次情報の作成とデータベース検索による情報検索の手法についての基礎的な知識を習得する。また、データソフトSPSSの使い方を習得する。

〔到達目標〕
1. 情報やデータに関する知識を学び、適切な管理方法を習得する。
2. 統計について学び、適切なデータのまとめ方ができるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 7

〔授業計画〕
第 1 回　情報管理法/Information Management
オリエンテーション、データの管理について
第 2 回　情報管理法/Information Management
SPSS（統計ソフト）の使い方、代表値（平均・分散・中央値・パーセントタイル）
第 3 回　情報管理法/Information Management
検定の意味、代表値の推定（信頼区間）
第 4 回　情報管理法/Information Management
2群間の比較（対応のないt検定）
第 5 回　情報管理法/Information Management
2群間の比較（対応のあるt検定）
第 6 回　情報管理法/Information Management
2群間の比較（順位和検定）
第 7 回　情報管理法/Information Management
2群の関連分析（カイ2乗検定）
第 8 回　情報管理法/Information Management
2群の関連分析（リスク比・オッズ比）
第 9 回　情報管理法/Information Management
2群間の関連分析（散布図・相関分析）
第 10 回　情報管理法/Information Management
3群以上の関連分析（偏相関分析）
第 11 回　情報管理法/Information Management
2群の関連の推定（回帰分析）
第 12 回　情報管理法/Information Management
3群間以上の比較（分散分析）
第 13 回　情報管理法/Information Management
課題分析①
第 14 回　情報管理法/Information Management
課題分析②
第 15 回　情報管理法/Information Management
まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
○テキスト：指定しない。
○参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
○授業参加状況（30％）
○課題　（70％）

〔授業時間外学修〕
授業した内容については、よく復習をしておくこと。
なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

英語Ⅰ /English Ⅰ　2023年度入学

CF122T

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目

１年

1単位　前期

演習

Mark Cox

〔授業の概要〕

In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary, and learning communication skills and valuable information for nursing and welfare.

〔到達目標〕

１．患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。

２．英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP２

〔授業計画〕

第 1 回　Unit 1: Infection
- discussion questions
- read case study

第 2 回　Unit 1: Infection
- patient discussion
- read about and study the disease state

第 3 回　Unit 1: Infection
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 4 回　Unit 2: Fractures
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 5 回　Unit 2: Fractures
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 6 回　Unit 3: Dementia
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 7 回　Unit 3: Dementia
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 8 回　Review and Mid-Term
- review Units 1-3
- mid-term examination

第 9 回　Unit 4: Allergies
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 10 回　Unit 4: Allergies
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 11 回　Unit 5: Food Poisoning
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 12 回　Unit 5: Food Poisoning
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 13 回　Unit 6: Burns
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 14 回　Unit 6: Burns
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 15 回　Review
- units 4-6 review and practice

〔テキスト・参考書・参考文献〕

Hospital English: Nursing and Welfare

印刷で授業に配ります。

〔成績評価の方法・基準〕

中間テスト　(25%)と期末テスト（25%）

課題（20%）

授業参加（30%）

〔授業時間外学修〕

Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Review the previous lesson for at least 1 hour once for each session.

〔オフィスアワー〕

火曜日　9:00-10:30

木曜日　12:30-2:30

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

英語Ⅱ/English Ⅱ　2023年度入学

CF123T

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目
1年
1単位　後期
演習

Mark Cox

〔授業の概要〕
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary, and learning communication skills and valuable information for nursing and welfare.

〔到達目標〕
１．患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。
２．英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２

〔授業計画〕
第 1 回　Unit 7: Hypertension
- discussion questions
- read case study

第 2 回　Unit 7: Hypertension
- patient discussion
- read about and study the disease state

第 3 回　Unit 7: Hypertension
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 4 回　Unit 8: Arthritis
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 5 回　Unit 8: Arthritis
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 6 回　Unit 9: Depression
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 7 回　Unit 9: Depression
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 8 回　Review and Mid-Term
- review units 7-9
- mid-term examination

第 9 回　Unit 10: Obesity
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 10 回　Unit 10: Obesity
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 11 回　Unit 11: Anorexia
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 12 回　Unit 11: Anorexia
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 13 回　Unit 12: Diabetes
- discussion questions
- read case study
- patient discussion

第 14 回　Unit 12: Diabetes
- read about and study the disease state
- discuss the disease as if talking with a patient or client
- vocabulary exercises and vocabulary in use

第 15 回　Review
- units 10-12 review

〔テキスト・参考書・参考文献〕
Hospital English: Nursing and Welfare
印刷で授業に配ります。

〔成績評価の方法・基準〕
中間テスト　(25%)と期末テスト（25%）
課題（20%）
授業参加（30%）

〔授業時間外学修〕
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Review the previous lesson for at least 1 hour once for each session.

〔オフィスアワー〕
火曜日　9:00-10:30
木曜日　12:30-2:30

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

中国語Ⅰ/Chinese Ⅰ　2023年度入学

CF124

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
演習

朱 芸虹

〔授業の概要〕
初心者のための中国語授業である。中国語には４つの音の変化があり、地域で使用されている方言もあることなど、言語的基礎知識も学べる。前半では中国語の発音で重要なローマ字表記によるピンインを習得したうえで、数字や自己紹介などの表現方法を身に着ける。15回の授業のなかで簡単な挨拶会話ができることを目標とする。

〔到達目標〕
中国語の発音の基礎知識がわかる。基本的な読み方（中国語発音ローマ字、声調、発音規則）がわかり、読める。基礎的な会話ができ、次のステップへの土台を築くことを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス：①計画説明；②中国、中国語について簡単に紹介
講義・演習
第 2 回　単母音、声調（四声）
講義・演習
第 3 回　子音①（唇音、舌尖音）
講義・演習
第 4 回　子音②（舌根音、舌面音）
講義・演習
第 5 回　子音③（舌歯音、そり舌音）
講義・演習
第 6 回　複合母音・前鼻母音
講義・演習
第 7 回　後鼻母音・時間外自習指導：ピンイン規則をまとめてみよう
講義・演習
第 8 回　ピンイン規則のまとめ・覚えておきたい表現
講義・演習
第 9 回　名前の読み・自己紹介
講義・演習
第 10 回　自己紹介①の発表
講義・演習
第 11 回　第1課（挨拶する）(テキスト12ページ～)
講義・演習
第 12 回　第2課（名前を尋ねる）(テキストP.16～19)
講義・演習
第 13 回　会話演習・時間外自習指導：友人を紹介してみよう
講義・演習
第 14 回　自己紹介②・友人紹介の発表
講義・演習
第 15 回　総合復習
講義・演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕
「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」岩井 伸子 (著) 胡 興智 (著)　白水社

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験「40％」小テスト「10％」課題提出「30％」 授業態度「20％」
不定期的な小テストがあり、また「テキスト」練習B・本文の暗記を「小テスト」として見なす。
課題には、訂正文・コメントをつけたして返却する。

〔授業時間外学修〕
・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること
（又CDやダウンロードした音声について読んだり、聞き取り、書き取りをしたりしてみよう）
・必要な時間：個人差により、毎日5～20分位

〔オフィスアワー〕
講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
※授業内容は必要に応じて変更することがあります
・予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。
・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

中国語Ⅱ/Chinese Ⅱ　2023年度入学

CF125

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　後期
演習

朱 芸虹

〔授業の概要〕
中国・台湾からの留学生・研修生との交流で使用できる易しい会話を中心に授業を展開する。生活に密着した中国語会話や中国文化と日本文化の比較を取り入れることで学習意欲を持ち続けられる。実践的かつインタラクティブな会話能力や書く能力を更に身に着けることができる。

〔到達目標〕
発音を重視しながら、基礎的な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、基礎的な対話能力や書く能力を身に着けることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　第3課（食べたいものを尋ねる）
講義・演習
第 2 回　テキストに基づき実用な会話演習（下記「会話演習」と略す）
講義・演習
第 3 回　第4課（近況を尋ねる）
講義・演習
第 4 回　会話演習・「時間外自習指導：復習１」
講義・演習
第 5 回　復習１・作文
講義・演習
第 6 回　第5課（予定を尋ねる-1）
講義・演習
第 7 回　第5課（予定を尋ねる-2）
講義・演習
第 8 回　会話演習
講義・演習
第 9 回　第6課（場所を尋ねる）
講義・演習
第 10 回　会話演習
講義・演習
第 11 回　映画鑑賞（リラックスで中国文化を味わう）
講義・演習
第 12 回　第7課（注文する）
講義・演習
第 13 回　会話演習
講義・演習
第 14 回　第8課（値段の交渉をする）(テキストP.42～45)
講義・演習
第 15 回　「時間外自習指導：復習2(テキストP. 46～47)」・総合復習
講義・演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」岩井 伸子 (著) 胡 興智 (著)　白水社

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験「40％」小テスト「10％」課題提出「30％」 授業態度「20％」
不定期的な小テストがあり、また「テキスト」練習B・本文の暗記・作文を「小テスト」として見なす。
課題には、訂正文・コメントをつけたして返却する。

〔授業時間外学修〕
・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）
・必要な時間：個人差により、毎日10～30分位

〔オフィスアワー〕
講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。
・予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。
・授業中は積極的に参加、発言をしてください。

韓国語Ⅰ/Korean Ⅰ　2023年度入学

CF126

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　前期
演習

金 潤姫

〔授業の概要〕
初心者のための韓国語講義である。体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅰでは、基本的な韓国語の発音と語彙、類型を中心に学習する。15回の授業のなかで簡単な挨拶・会話ができることを目標に取り組む。

〔到達目標〕
履修生は、ハングルの文字の発音の基礎について学び、読み書きができるようになることを目的とします。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を話せるようになることを目的とします。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、ハングル・韓国語について
授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。
ハングルの成り立ちについて説明します。
第 2 回　単母音、ヤ行
単母音、ヤ行について学びます。
第 3 回　ワ行
ワ行について学びます。
第 4 回　平音
平音について学びます。
第 5 回　激音
激音について学びます。
第 6 回　濃音・有声音化
濃音と有声音化について学びます。
第 7 回　これまでのまとめ
テキスト第1課と第2課をまとめます。
第 8 回　パッチム（１）
鼻音と流音について学びます。
第 9 回　パッチム（２）
口音と日本語のハングル表記について学びます。
第 10 回　発音の規則（１）
連音化、hの弱音化・無音化について学びます。
第 11 回　発音規則（２）
濃音化について学びます。
第 12 回　発音規則（３）
激音化について学びます。
第 13 回　発音規則（４）
口蓋音化に流音化について学びます。
第 14 回　韓国の文化体験
文化体験を通して韓国語とそれにまつわる文化的理解を深めます。
第 15 回　講義全体まとめ
前期で学んだ事項を復習します。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト「おはよう韓国語１」著者「崔柄珠」出版社「朝日出版社」
参考文献　適宜お知らせします。

〔成績評価の方法・基準〕
小テスト：20％　レポート：10％　定期試験：40％　授業参加状況：30％
S:授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100％である。
A：授業の内容を理解しており、成績評価の基準が80％～99％である。
B：授業の内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70％～79％である。
C：授業の内容の60％程度を理解しており、成績評価の合計が60％～69％である。
※レポートや課題には、採点とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕
事前事後に進度に沿って予習と復習をする。毎回30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受けつける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
常日頃から韓国のドラマ・映画・ニュースに興味を持ち、ハングルに親しみましょう。

韓国語Ⅱ/Korean Ⅱ　2023年度入学

CF127

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
1単位　後期
演習

金 潤姫

〔授業の概要〕
韓国語講義では、体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰの学習内容よりからさらに多様な語彙、類型を中心に学習する。言葉と関連して、韓国の文化などについても紹介しながら授業を進めていく。

〔到達目標〕
ハングルの基本的な読み書きを習得しているので、語彙、文法、発音に関する知識を深め、日常会話に役立つ表現を学ぶことを目的とします。ハングル能力検定5級及び韓国能力試験1級受験相応の知識習得を目的とします。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、文字と発音
文字と発音について学びます。
第 2 回　第5課自己紹介（１）
第5課の発音と語彙、文法と表現について学びます。
第 3 回　第5課自己紹介（２）
第5課のまとめ学習をします。
第 4 回　第6課～ではありません（１）
第6課の発音と語彙、文法と表現について学びます。
第 5 回　第6課～ではありません（２）
第6課まとめを学習します。
第 6 回　第5～6課のリスニングと会話
第5～6課のリスニングと会話学習をします。第4課発音規則「4」を学習します。
第 7 回　第7課～が好きです。（１）
第7課の発音と語彙、文法について学びます。第4課発音規則「5」について学びます。
第 8 回　第7課～が好きです。（２）
第7課の重要表現について学びます。第4課発音規則「６」について学びます。
第 9 回　第7課～が好きです。（３）
第7課のまとめ学習をします。第4課発音規則「7」について学びます。
第 10 回　第8課お誕生日（１）
第8課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。第4課「8」について学びます。
第 11 回　第8課お誕生日（２）
月と曜日、時を表す語を学ぶ。第4課「9」について学びます。
第 12 回　第8課お誕生日（３）
ヘヨ体を学び、第8課のまとめ学習をします。
第 13 回　第9課予定と時間
固有数詞と時刻について学びます。
第 14 回　韓国の文化体験
文化体験を通して韓国語とそれにまつわる文化的理解を深めます。
第 15 回　全体のまとめ
第5課から第9課を復習します。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト「おはよう韓国語１」著者「崔柄珠」出版社「朝日出版社」
韓国語1で使用したテキストを、継続して使います。「韓国語能力試験TOPIK Ⅰ初級完全対策」韓国語評価研究所（著）著（HANA(インプレス)）ISBN978-4-8443-7664-4C0087
参考文献　適宜お知らせします

〔成績評価の方法・基準〕
小テスト：20％　定期試験：40％　レポート：10％　授業参加状況：30％
S:授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100％である。
A：授業の内容を理解しており、成績評価の基準が80％～99％である。
B：授業の内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70％～79％である。
C：授業の内容の60％程度を理解しており、成績評価の合計が60％～69％である。
※レポートや課題には、採点とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕
事前事後に進度に沿って予習と復習をしておくこと。毎回30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受けつける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
常日頃から韓国のドラマ・映画・ニュースに興味を持ち、ハングルに親しみましょう。

医療・ケア英会話　2021年度入学

CF6007

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
3 年
1単位　前期

Mark Cox

〔授業の概要〕

This class will cover English conversation with a patient in the hospital setting. We will study English phrases needed for greeting a new patient, explaining about the hospital, explaining about their hospitalization, and completing a health check in English. We will also study conversation strategies to have smoother and more natural English conversations.

〔到達目標〕

The goal of the course is to be able to communicate better with foreign patients in English. Students will be able to complete a health care check in English and also have casual conversation with hospitalized patients.

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　Unit 1: Greeting a patient
- greeting a new patient
- conversation skills: pronunciation practice

第 2 回　Unit 1: Greeting a patient
- greeting a new patient
- conversation skills: pronunciation practice

第 3 回　Unit 2: In the patient's room
- explaining a patient's room and hospital protocol
- conversation skills: responding

第 4 回　Unit 2: In the patient's room
- explaining a patient's room and hospital protocol
- conversation skills: responding

第 5 回　Unit 3: About the hospital
- explaining about the hospital
- discussing health problems and conditions
- conversation skills: follow-up questions

第 6 回　Unit 3: About the hospital
- explaining about the hospital
- discussing health problems and conditions
- conversation skills: follow-up questions

第 7 回　Unit 4: Getting a patient's information
- asking questions to get essential information
- conversation skills: keeping a conversation

第 8 回　Unit 4: Getting a patient's information
- asking questions to get essential information
- conversation skills: keeping a conversation

第 9 回　Unit 5: Taking a patient's blood pressure
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure
- conversation skills: describing an item

第 10 回　Unit 5: Taking a patient's blood pressure
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure
- conversation skills: describing an item

第 11 回　Unit 6: Taking a patient's blood sample
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure
- conversation skills: getting a response

第 12 回　Unit 6: Taking a patient's blood sample
- language needed when taking a patient's pulse, temperature, and blood pressure
- conversation skills: getting a response

第 13 回　Unit 7: Giving a patient their medication
- explaining how to take medication
- explaining what the medication is and what it's for

第 14 回　Unit 7: Giving a patient their medication
- explaining how to take medication
- explaining what the medication is and what it's for

第 15 回　Review
review and speaking challenge assessment

〔テキスト・参考書・参考文献〕

print outs will be provided

〔成績評価の方法・基準〕

class participation: 30%
speaking challenge: 30%
final exam: 40%

〔授業時間外学修〕

Outside of class, students can practice the conversations and strategies from the lesson. 1 hour a week of practice is recommended but not a requirement.

〔オフィスアワー〕

Office hours will be announced in the first lesson

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

医療・ケア中国語　2021年度入学

CF6008

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
3年
1単位　前期

廣橋 雅子

〔授業の概要〕
高齢化社会における中国語圏国家では、使用言語の相違だけでなく、生活文化や福祉政策が異なるため、言語背景に依存する文化探究をする科目である。中国語Ⅰ、Ⅱを終えた学習者を対象に、通訳技法（スラッシュリーディング・シャドーイング）などを利用してケアや生活会話などを学ぶ。また中国・台湾の医療福祉関連資料を読む能力も習得する

〔到達目標〕
この授業で学んだ医療的・ケア場面の単語や基礎文法を活用して、困っている中国語話者の問題を解決できるまでの会話を習得することが目標である。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　医療・ケア中国語とは
　　第一回は授業の進め方を説明する。また、シャドーイング技法を使って、効率よく中国語の音に慣れることを体験する。
第 2 回　中国語の発音と基本挨拶
第 3 回　大丈夫ですか？（您怎么了？）
第 4 回　お名前を教えてください。（请告诉我您的名字）
第 5 回　具合はいかがですか（今天哪里不舒服？）
第 6 回　ケアでよく使う医療単語
第 7 回　確認小テスト（シャドーイングチェック）
第 8 回　自分で会話文を作ってみよう
第 9 回　病院でよく見かける中国語は
第 10 回　気持ち悪くて吐いてしまいました（觉得恶心，我吐出来了）
第 11 回　確認小テスト（シャドーイングチェック）
第 12 回　中国語で演技をしてみる
　　※履修人数により、内容を変更する場合あり
第 13 回　中国語にはオノマトペはない⁉
第 14 回　自作スクリプトの練習
第 15 回　中国語で発表しよう！

〔テキスト・参考書・参考文献〕
教員自作教材を利用する

〔成績評価の方法・基準〕
確認小テスト　30％
平常点　20％（宿題などの確認及び提出）
期末発表　50％

〔授業時間外学修〕
１．1日10分のシャドーイング時間を確保すること
２．復習時間を毎日30分を確保すること

〔オフィスアワー〕
・1号館2階、1212研究室
・授業や会議の無い時間帯をオフィスアワーとする
・相談や質問がある時は事前に約束をすることが望ましい
（m-hirohashi★saku.ac.jp）
　⇒★を＠に変えてください

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
台湾在住20年以上、企業通訳・医療通訳を20年以上経験している。更には台湾の華語文教師（中国語教師）の資格を有する。

〔その他履修上の留意事項等〕
過去に中国語初級を学んだことがある人が望ましい。
これまで中国語を学んだことのない学生も履修することは可能だが、基礎がない分自身で学習時間を確保することを期待する。

ヒューマンケア概論/ヒューマンケア概論Ⅰ/Introduction to Human Care　2023年度入学

CF131/CS1101

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
2単位　後期
講義

青木 紀

〔授業の概要〕

ライフサイクルの「依存とケア」の視点から、動物社会との対比を踏まえつつ、人間社会のケアの特徴をまず理解する。ついでケア行為をめぐる受け手と与え手の関係性の構造を諸側面（二者関係、関係性の転換志向、専門職間関係など）から検討する。最後に関連する制度及び政策をケアレジーム論とともに概観する。ただし、この部分の詳細はヒューマンケア概論Ⅱで展開される。初年次学生が現代社会におけるケア関連専門職の位置づけと役割を考えていく契機となる講義である。

〔到達目標〕

当該科目は、初年次学生を対象にした看護学部及び人間福祉学部の理念や目的の根幹にかかわる講義である。したがって、上記のような幅広い講義内容から、学生一人ひとりがヒューマンケアの学びの「おもしろさ」を感じ、関連する基礎的な諸概念を理解し、主体的な学びの動機を強化することをめざす。同時に卒業後、それぞれが就くであろうケア関連専門職の社会的役割—そこではケア専門職間等の連携の重要性も意識しながら—を考える機会の出発点とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP l

〔授業計画〕

第 1 回　本講義の方法と内容
第 2 回　ケアの前提（1）—ヒトのライフサイクルの特徴—
第 3 回　ケアの前提（2）—ヒトの共感の役割と関係的存在—
第 4 回　ケアの基本視角—人びとのライフサイクル上の葛藤と調整—
第 5 回　フレームワーク（1）—個人主義の浸透と自立（＝依存の否定）—
第 6 回　フレームワーク（2）—自立志向と「依存の解釈」—
第 7 回　フレームワーク（3）—自立と依存のパラドックス—
第 8 回　ジェネレイショナル・ケアの内部依存—ライフサイクルの不安定の中で—
第 9 回　ジェネレイショナル・ケアの外部依存—ライフサイクルの「安定」の中で—
第 10 回　多様なケア論とその生成基盤
第 11 回　ケアの二者関係の分析（1）—関係構造の純化と分節化—
第 12 回　ケアの二者関係の分析（2－1）—関係の変化志向—
第 13 回　ケアの二者関係の分析（2－2）—インフォームド・コンセント—
第 14 回　ケアの二者関係の分析（3）—「生活世界」への依拠—
第 15 回　多様な二者関係の重なりとしてのケア—連携の必然性と課題—

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献：青木紀『ケア専門職養成教育の研究』明石書店2017年。その他のものについては、必要に応じて授業内で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

毎回の簡単なリアクションペーパーの提出を前提に、中間課題レポートと学期末課題レポートを提出し、評価する。レポートの評価基準は、与えられた課題の理解と論理的記述性及び内容の独創性などを中心に判定する。比率は授業参加状況（リアクションペーパの提出）20%、中間課題レポート30%、学期末課題レポート50%とする。

〔授業時間外学修〕

各回の授業に関連して、参考となる学術文献だけでなく、広く雑誌,新聞記事、小説、TVドキュメンタリー、映画等も紹介することから、授業時間外学習としてそれらの「学び」を楽しむことを期待する。そのうえで、各自の学びを参考に、学習レポートの提出（期間内2回）を求める。

〔オフィスアワー〕

毎回のリアクションペーパーについては、質問等も受け付けながら、適宜授業時間内にフィードバックする。レポートについては、採点とコメントを付し、フィードバックする。なお、さらに必要があれば、学内メールでも対応する。o-aoki●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

本科目は授業を基本的にオンラインで行うが、毎回配布資料があるので、所定の教室から受講すること。基本的なことをしっかり学び、通説を知ることも大事だが、視点を少しずらす、あるいは反転させるだけで別世界が見えてくることもある。そんな学び方を感じ取り、自らの学びの姿勢とすることを期待する。

生命倫理/Bioethics　2023年度入学

CF129

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1年
2単位　後期
講義
必修

盛岡 正博、廣瀬 健

〔授業の概要〕
生命の尊厳と人間尊重の精神を共に理解する。生命の倫理原則を具体的な例を検討しながら学ぶ。文化背景や社会環境の違いによる多様な価値観についても理解することを学ぶ。医療に携わる専門職としての自らの行動規範と患者や家族に対する基本的な倫理観を築く機会とする。

〔到達目標〕
1.直面した個々の事例に誠実に対応することの大切さを知る。
2.病気や障害により医療や福祉の支援を必要とする者に具体的な対応を考える。
3.専門職として学ぶ自覚と他者との関係性構築の大切さを理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP 1

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに～生命倫理学の歴史的背景
第 2 回　生命誕生と医学の介入①　～人工授精、体外受精など
第 3 回　生命誕生と医学の介入②　～再生医療、iPS細胞の可能性と課題
第 4 回　生を絶つことへの医学の介入①　～人工妊娠中絶、女性の自己決定権
第 5 回　生を絶つことへの医学の介入②　～選別出産、減数手術など
第 6 回　死への医学の介入①　～死とは、脳死と臓器移植問題
第 7 回　生と死のケア①　～訪問看護、在宅診療の現場から
第 8 回　死への医学の介入②　～自死、殺人、安楽死について
第 9 回　死への医学の介入③　～安楽死、尊厳死、医療と宗教
第 10 回　生と死のケア②　～ターミナル・ケアについて
第 11 回　生と死のケア③　～死の受容について
第 12 回　インフォームド・コンセント～医師の裁量権とパターナリズム
第 13 回　がんを生きるということ
第 14 回　認知症における生命倫理の視点
第 15 回　まとめ　～生命が平等足りうる社会か

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：塩野寛・清水惠子『生命倫理への招待』南山堂
参考書や参考論文は、講義の中で各講師が紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
1.授業参加状況　60％
講義終了後にリアクション･ペーパーの記述内容を評価する。
2.レポート課題　40％
三人の講師から一題ずつ課題（テーマ）を出します。
提出されたレポートやリアクション・ペーパーは、講義終了後に本人に返却する。

〔授業時間外学修〕
テーマに従って、講義資料を用意するので、事前にテキストを読むか、受講後に復習すること。講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるので、社会的話題にも関心をもつこと。

〔オフィスアワー〕
講義終了後に随時、教室で質問等を受ける。（廣瀬・盛岡）
執務室（5号館1階理事長室）の扉が開いている時、随時相談を受けます。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

佐久の医療とケアの歴史/The History of Saku Community Health Care System　2023年度入学

CF128

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 基盤科目/基盤教育科目
1 年
1単位　前期
講義
必修

柿澤 美奈子

〔授業の概要〕
人々の行動や健康は、周囲の社会環境の影響を受けていることが研究で明らかにされている。佐久地域では、医療機関と住民が協働し、地域医療に取り組んできた。それは人々の健康を疾病や治療という視点を越えて、生活のレベルで捉え、健康増進・リハビリテーションなどを含むトータルな保健システムによる取り組みである。健康をめぐっての個人・社会・文化の関わりについて、わが国における事例から説明していく。テーマに沿ってゲストスピーカーを招聘し、講義を行う。

〔到達目標〕
1. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支える医療とケアの歴史について説明できる
2. 佐久地域のおける人々の健康と暮らしを支えるケアの現状について説明できる
3. 人々の健康と暮らしを支える医療福祉職を目指す学生としての学修課題に気づくことができる
4. 人々の健康と暮らしを支えるケアに関する今後の学修課題に気づくことができる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　コース オリエンテーション(本科目の進め方　):
柿澤
第 2 回　佐久地域の医療と保健予防活動の歴史①：盛岡
若月俊一を知る（講義）
第 3 回　佐久地域の保健予防活動の歴史と現状：坂戸
地域保健予防活動について学ぶ（講義）
第 4 回　佐久地域の医療と保健予防活動の歴史②：井手段
地域での暮らしを支える訪問診療・訪問看護について学ぶ（DVD視聴）
第 5 回　佐久地域の医療と保健予防活動の歴史②：井手段
地域での暮らしを支える訪問診療・訪問看護について学ぶ（DVD視聴）
第 6 回　佐久地域の福祉活動の歴史と現状：特別講師　征矢野
高齢者支援について学ぶ（講義）
第 7 回　佐久地域の障がい者支援の歴史と現状：特別講師　三井
精神障がい者支援について学ぶ（講義）
第 8 回　人々の健康と暮らしを支えるケアについて語る：柿澤
人々の健康と暮らしを支えるケアに関する課題について、他の学生とのディスカッションを通して考えると同時に、保健医療福祉職を目指す学生としての学修課題に気づく。（演習）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
松島松翠編（2014）. 現代に生きる若月俊一のことば. 家の光協会.
南木佳士　（1994）. 信州に上医あり －若月俊一と佐久病院－ . 岩波新書.
若月俊一　（1971）. 村で病気とたたかう. 岩波新書.
若月俊一　（2007）. 若月俊一の遺言. 家の光協会.
若月俊一　（2010）. 信州の風の色　地域とともに50年. 旬報社.
他、授業内で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
1.　提出課題（90％）
1）課題レポート（40％）;
　授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す
　目的：佐久の医療とケアの歴史を踏まえ、人々の健康と暮らしを支えるケアについて深め、今後の学修課題を明らかにする
　方法：授業（映画の視聴、ディスカッション含む）から、人々の健康と暮らしを支えるケアについて、考えたことや今後の学修課題を記述する
2）Assignment（50％）;
　2，3，4・5，6，7回のAssignmentを提出する。授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す
2.　演習におけるチームに対する貢献度 (10%)
　演習への参加度を自己評価する
＊なお、課題に関しては、採点結果をフィードバックする

〔授業時間外学修〕
本授業は1単位15時間の科目であり、30時間の自己学修が求められている
【予習】
本授業の理解を深めるため、配付資料を計画的に読み進める
【復習】
毎回の授業後に学びを整理し、Assignmentを提出する
＊詳細は、初回授業で説明する

〔オフィスアワー〕
オフィスアワー
・原則、授業日の授業終了から放課後
・質問は、メールでもよい（常時）
・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である

連絡先
柿澤美奈子（KAKIZAWA,Minako）m-kakizawa●saku.ac.jp　5号館2階524
井手段幸樹（ITEDAN,Kouki） k-itedan●saku.ac.jp　1号館3階1334
（●を@に置き換えてください。）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
DVD視聴（4・5回）は、2コマ続きで行う。日程については、初回授業で説明する。
本科目は、8回の授業科目である。欠席が3回以上あった場合、単位の修得ができない。

生活習慣と健康/Lifestyle and Health Management　2023年度入学

CB101

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 専門基礎科目/専門科目
1 年
2単位　前期
講義

朴 相俊

〔授業の概要〕
人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮らしを取り巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ねは重要な影響因子となる。自己のふり返りを基に、健康の回復・維持・増進のための基礎的な知識を深め、心身の健康維持に必要とされる食事や運動、思考、生活習慣などについて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変容につながる介入のあり方を理解する。

〔到達目標〕
1. 学生が自己の生活習慣を見つめ、健康とのつながりを理解する。
2. 心身の健康管理のあり方を考え、また、支援者としての役割を自覚する。
3. 人の多様性を理解し、上手な対人関係のための知識を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP l

〔授業計画〕
第 1 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
オリエンテーション（講師紹介、講義の進め方、成績評価方法）健康とは　ＷＨＯの健康の定義・公衆衛生と予防の概念・健康づくりと影響因子
第 2 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
命の大切さについて　自殺問題・心の健康問題
第 3 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
ゲートキーパーについて①　自殺問題とゲートキーパーの役割
第 4 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
ゲートキーパーについて②　自殺する人の心理とゲートキーパーとしての心得
第 5 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
ゲートキーパーについて③　自殺する人の心理とゲートキーパーとしての心得
第 6 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
自殺に関する偏見について　自殺は合理的な選択なのか
第 7 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
心身のセルフケア①　認知行動療法を知る
第 8 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
心身のセルフケア②　認知行動療法の実践
第 9 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
心身のセルフケア③　精神分析の概要
第 10 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
心身のセルフケア④　ストレス科学分野の研究
第 11 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
心身のセルフケア⑤　支援者として自己管理
第 12 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
人の多様性の理解①　男女の違い
第 13 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
人の多様性の理解②　人の5つの言語の違い
第 14 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
コミュニケーションスキル　こころに届く言葉の伝え方
第 15 回　生活習慣と健康／Lifestyle and Health management
まとめ　授業のポイントの振りかえり

〔テキスト・参考書・参考文献〕
〇テキスト：指定しない。
〇参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
〇授業参加状況（30%）
〇授業終了時のミニレポート　（20%）
ミニレポートについては、大学メールによりフィードバックする
〇課題レポート　（50%）
課題レポートについては、大学フィードバックする

〔授業時間外学修〕
特に指定しない。

〔オフィスアワー〕
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
認定行動療法士の視点と自殺対策を行ってきた研究者の視点から講義を進めます。

〔その他履修上の留意事項等〕

食と健康/Food and Health　2023年度入学

CB102P

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
選択

宮本 由香

〔授業の概要〕
人間の生命維持に必要な栄養素とその代謝経路について理解し、疾病の予防、健康保持増進、疾病の治癒、回復に寄与する栄養の働きを学ぶ。特に、医療、福祉の現場で必要な食事療法とその原理を理解し、栄養素の給源である食べ物や食事としての実践方法を学ぶ。また、ライフステージごとの栄養的特徴や問題から、現代における、「人」「地域」「社会」の食生活の課題を明らかにし、その解決に向け連携できる職種や活用できる地域の資源を見つけられるよう、演習を取りいれた学びとする。「食と健康」を学ぶ中で、自分自身の食生活を振り返り、健康な食習慣に向け学んだ知識を実践することで心身の健康や自分らしく生きる力が身につき、命の大切さを深く理解し、擁護する能力の養成につなげていきたい。

〔到達目標〕
１．人体に必要な栄養素とその体内での代謝経路について説明できる。
２．健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養素の作用機序について理解し、その給源の食物が分かる。
３．近年の栄養にまつわる問題を理解し、その解決方法について説明でき、健康な食習慣の形成について説明できる。自らの健康的な食生活が実践できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１

〔授業計画〕
第 1 回　栄養とは（人間栄養学と看護）
第1章、第10章。保健、医療、福祉における栄養ケアの必要性と現状の栄養施策について学ぶ。
第 2 回　栄養ケア・マネジメント
第6章、第7章。栄養ケア・マネジメントの意義及び構造、アセスメント方法での評価項目、判定基準を学ぶ。
第 3 回　栄養素の種類とはたらき①：糖質、脂質
第2章。種類と働き、互換性、給源となる主な食品について学ぶ。
第 4 回　栄養素の種類とはたらき②：タンパク質
第2章。種類と働き、給源となる主な食品について学ぶ。
第 5 回　栄養素の種類とはたらき③：ビタミン
第2章。分類と種類、働き、給源となる主な食品、過不足による疾患について学ぶ。
第 6 回　栄養素の種類とはたらき④：ミネラル、その他
第2章。種類とはたらき、給源となる主な食品、過不足による疾患について学ぶ。その他、食物繊維、水の体内での作用について学ぶ。
第 7 回　食事と食品
第4章、第5章、第10章。栄養素の特徴からの食品の分類法、機能性を持った食品、表示、エネルギー、調理による変化について学ぶ。
第 8 回　食物の消化、栄養素の吸収・代謝①
第3章。消化器官のしくみと働き、吸収経路と併せて、消化器疾患の食事療法のポイントを理解する。
第 9 回　食物の消化、栄養素の吸収・代謝②
三大栄養素のエネルギー代謝と各栄養素や成分の代謝から、関連する疾患の食事療法のポイントを理解する。
第 10 回　エネルギー代謝
第4章、第7章。基礎代謝量、活動時のエネルギー消費量算出と、食事摂取量と併せ食事のバランスを診断する。
第 11 回　ライフステージと栄養①乳幼児期、学童期、思春期、妊娠授乳期
第8章。各期の特徴と栄養摂取の要点、課題、予防法を学ぶ。
第 12 回　ライフステージと栄養②成人期、更年期、高齢期
第8章。各期の特徴と栄養摂取の要点、課題、予防法について学ぶ。
第 13 回　臨床栄養①
第9章。病院食の実際、食事の分類、栄養補給法について学ぶ。
第 14 回　臨床栄養②
第9章。罹患率の高い糖尿病について、背景、治療法、食事療法について献立立案演習で理解する。
第 15 回　健康的な食生活の実践にむけて
第9章、第10章。食のQOLの向上にむけて、サービスや支援方法を検討する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：『系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能③』小野章史他共著　　医学書院
参考文献：授業内にて適宜紹介する

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験（70％）
リアクションシート（10％）
小テスト（10％）
レポート課題（10％）
課題等については個々に評価し返却する。また、必要な内容は授業時に扱い共有する。

〔授業時間外学修〕
テキスト該当箇所を必ず読んでおくこと。
おおよそ単元ごとに授業内容について小テストを実施するので、よく復習しておくこと。
1回の授業について、予習30分、復習30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
また、受講票を持って質問を受け付け、これに返答する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
病院、診療所での管理栄養士勤務（栄養管理、栄養指導、給食管理）ならびに行政管理栄養士として乳児から高齢者までの健診業務、特定保健指導、介護予防の栄養相談に携わった経験を活かして講義、演習を担当する。
〔その他履修上の留意事項等〕
授業で習得した知識に基づき、医療、福祉に従事するケアを与えるものとしての自覚を持ち、健全な食生活や健康管理を実践してください。

運動と健康Ⅰ/Exercise and HealthⅠ　2023年度入学

CB103T/CS1106

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目
1 年
2単位　前期
講義・演習
選択

朴 相俊

〔授業の概要〕
ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。さらに、年代、体力、障がい等の条件に応じて人々が安全に楽しく運動を実践するために、アセスメント方法、環境づくり、安全管理の基礎的な知識を学ぶ。

〔到達目標〕
1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる
2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる
3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる
4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP l

〔授業計画〕
第 1 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
オリエンテーション・競技スポーツ体験（バドミントン）
第 2 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バレーボール）
第 3 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バスケットボール）
第 4 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（卓球）
第 5 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
第 6 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
ニュースポーツ体験（ドッチボール）
第 7 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
ニュースポーツ体験（マレットゴルフ・ソフトボール）
第 8 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バドミントン）
第 9 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バレーボール）
第 10 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バスケットボール）
第 11 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（卓球）
第 12 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
第 13 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バドミントン・バスケットボール）
第 14 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
競技スポーツ体験（バレーボール・スポンジテニス）
第 15 回　運動と健康Ⅰ／Exercise and HealthⅠ
自由種目・まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
○テキスト：指定しない。
○参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
○授業参加状況（70％）
○課題レポート（30％）

〔授業時間外学修〕
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。

〔オフィスアワー〕
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

運動と健康Ⅱ/Exercise and HealthⅡ　2023年度入学

CB104T/CS1007

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目
1年
2単位　後期
講義・演習
選択

朴 相俊

〔授業の概要〕
子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、心と身体の健康と運動の関係や運動の基本的な知識や理論を理解する。また、自らの健康づくり及び楽しく安全な運動習慣を身につけるために、メッツとエクササイズの概念を理解した上で、日常生活の中で楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。

〔到達目標〕
1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる
2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる
3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる
4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP l

〔授業計画〕
第 1 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
オリエンテーション・競技スポーツ体験（バドミントン）
第 2 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バレーボール）
第 3 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バスケットボール）
第 4 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（卓球）
第 5 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
第 6 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
ニュースポーツ体験（ドッチボール）
第 7 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
ニュースポーツ体験（マレットゴルフ・ソフトボール）
第 8 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バドミントン）
第 9 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バレーボール）
第 10 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バスケットボール）
第 11 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（卓球）
第 12 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
ニュースポーツ体験（スポンジテニス）
第 13 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バドミントン・バスケットボール）
第 14 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
競技スポーツ体験（バレーボール・スポンジテニス）
第 15 回　運動と健康Ⅱ／Exercise and HealthⅡ
自由種目・まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
○テキスト：指定しない。
○参考文献：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
○授業参加状況（70％）
○課題レポート（30％）

〔授業時間外学修〕
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。

〔オフィスアワー〕
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ヒューマンケア概論Ⅱ/Introduction to Human Care Ⅱ　2022年度入学

HS1201

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　前期
講義
必修

青木 紀

〔授業の概要〕

人間のライフサイクルをつなぎ、現代社会の持続性に不可欠な役割を果たしているケアに関する制度・政策・思想など中心に学ぶ。ケアシステムにかかわる現実的な課題とともに、今後のありようについての考察を行う。具体的には、ケアの制度化・産業化の進展、市場化優先
のケアの社会化と持続可能性、ケアシステムを支える思想の追求、という順序で展開される。ヒューマンケア概論Ⅰに続くものであり、年次進行に伴うヒューマンケア関連専門科目の基礎となる位置づけの講義である。

〔到達目標〕

上記のように、ヒューマンケアに関連する制度・政策・思想の骨格を理解し、学年進行に伴う関連科目の位置づけを把握しておくことが目指される。「ケアと現代社会」に関連する、ケアのシステムあるいはケアレジーム（体制）は、その歴史性や文化や権利意識の差異もあって、国によって異なり、ある程度は類型化される。そのことから、今後の日本のケアのあり方に関して、自ら問題意識をもって、何かしらの発言ができるような基礎的力量の蓄積を目指す。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP１、DP３

〔授業計画〕

第 1 回　第Ⅰ部の振り返りと第Ⅱ部の内容
第 2 回　ケアの社会化の方法（１）—国家（制度）化—
第 3 回　ケアの社会化の方法（２）—国家（セクター）化—
第 4 回　ケアの社会化の方法（３）—市場（セクター）化—
第 5 回　ケアの社会化の方法（４）—家族（セクター）化—
第 6 回　ケアの社会化の諸相（1）—育児・子育て領域—
第 7 回　ケアの社会化の諸相（2）—高齢者福祉・介護領域—
第 8 回　ケアの社会化の諸相（3）—障害児者介護領域—
第 9 回　ケアの社会化の諸相（4）—医療・看護領域—
第 10 回　ケアの社会化の諸相（5）—地域包括ケアシステム—
第 11 回　ケアの社会化再編の課題（1）—家族セクターの安定—
第 12 回　ケアの社会化再編の課題（2）—「世代間対立」の歪みの構造—
第 13 回　ケアの社会化再編の課題（3）—「全世代型社会保障」を超えて—
第 14 回　ケアの社会化再編の課題（4）—国家（税）への信頼の構築—
第 15 回　ライフサイクル上の依存の安心とケアをめぐるわれわれの責任 —人口減少社会における—

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献：青木紀『ケア専門職養成教育の研究』明石書店 2017年。その他のものについては、必要に応じて授業内で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

毎回のリアクションペーパー提出を前提に、中間課題レポート及び学期末の課題レポートを期限内に提出し、評価する。レポートの評価基準は、与えられた課題の理解と論理的記述性および独創性などを中心に判定する。比率は、授業参加状況（リアクションペーパーの提出）20％、中間課題レポート30％、学期末課題レポート50％とする。

〔授業時間外学修〕

各回の授業に関連して、参考となる学術文献だけでなく、広く雑誌・新聞記事、TVドキュメンタリー等も紹介することから、授業時間外学習としてそれらの「学び」を楽しむことを期待する。そのうえで、各自の学びを基礎とした学習レポートの提出（期間内2回）を求める。

〔オフィスアワー〕

講義内容に難する質問等がある場合、毎回のリアクションペーパーに記述すれば、次の授業時間内にフィードバックする。そのほかの場合、とくに必要があれば、学内メールで受け付ける。o-aoki●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

本科目は毎回の授業を基本的にオンラインで行う。ただし、毎回配布資料があるので、所定の教室から受講すること。基本的なことをしっかりと学び、通説を知ることも大事だが、視点を少しずらす、あるいは反転させるだけで別世界が見えてくることもある。そんな学び方を感じ取り、自らの学びの姿勢とすることを期待する。さらに、世界の中の日本をつねに意識することの重要性やおもしろさも学んでほしい。

社会福祉の歴史/Social Welfare History　2022年度入学

HS1202

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　前期
講義
必修

野口 友紀子

〔授業の概要〕
日本の社会福祉の歩みを、社会や生活の変化と関連させて学び、慈善・救済から今日の社会福祉に至る歩みを通して社会福祉の本質を理解する。近現代日本の社会福祉の展開過程を、制度・政策、施設や地域での実践、社会福祉の実践に関わった人々の事例によって具体的に理解するとともに、人々のニーズとそれに対する援助の変化を捉え、政策・実践・技術・思想の総合的な理解を行なう。また、今日の社会福祉を巡る問題や課題を捉え、社会福祉を前進させる力と援助実践の歴史的な意味や価値を深め、今後の展望を考える。

〔到達目標〕
今日までの社会福祉の変遷をその時代ごとの社会経済的背景を踏まえて、実践者による先駆的な取り組み、思想的背景、行政組織、対象者などの視点から理解することを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３

〔授業計画〕
第 1 回　1イントロダクション／第二次世界大戦前の社会福祉
授業概要、授業計画、授業評価の説明。
第二次世界大戦前の慈善・社会事業（１）自助へのまなざし・下層社会へのまなざし（テキストpp.203-223）

第 2 回　2第二次世界大戦前の社会福祉
第二次世界大戦前の慈善・社会事業（２)普通の貧困者の発見・工場で働く人びとへのまなざし・感化の再編（テキストpp.203-223）

第 3 回　3第二次世界大戦前の社会福祉
第二次世界大戦前の慈善・社会事業（３）貧困調査というまなざし・防貧対策の実施（テキストpp.203-223）

第 4 回　4第二次世界大戦前の社会福祉
第二次世界大戦前の慈善・社会事業（４）非常事態下での社会事業（テキストpp.203-223）

第 5 回　5受講生による発表会1-1
受講生による発表①：慈善事業に取り組んだ人びとについて調べて発表する

第 6 回　6受講生による発表会1-2
受講生による発表②：慈善事業に取り組んだ人びとについて調べて発表する

第 7 回　7第二次世界大戦後の社会福祉
第二次世界大戦後の社会福祉（１）占領期の社会福祉（テキストpp.224-239）

第 8 回　8第二次世界大戦後の社会福祉
第二次世界大戦後の社会福祉（２）高度経済成長期の社会福祉（テキストpp.224-239）

第 9 回　9第二次世界大戦後の社会福祉
新しい社会福祉の動き（１）1970年代以降の社会福祉（テキストpp.240-252）

第 10 回　10第二次世界大戦後の社会福祉
新しい社会福祉の動き（２）現代の社会福祉（テキストpp.240-252）

第 11 回　11受講生による発表会2-1
受講生による発表③：キーワードを調べて発表する

第 12 回　12受講生による発表会2-2
受講生による発表④：キーワードを調べて発表する

第 13 回　13社会福祉思想1
社会福祉思想の軌跡（１）人権思想　(テキストpp.253-263）

第 14 回　14社会福祉思想2
社会福祉思想の軌跡（２）福祉国家と脱国家化(テキストpp.253-263）

第 15 回　15総括
「まとめレポート」の解説

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：金子光一(2005)『社会福祉のあゆみ』有斐閣

〔成績評価の方法・基準〕
授業内の発表１　　25％
授業内の発表２　　25％
「まとめレポート」　50％
まとめレポートについては、授業内で解説を行う。

〔授業時間外学修〕
テキストの指定のページを事前に読んでから授業に参加すること。予習時間30分
配布プリントを見直すこと。復習時間30分
２回の発表会の準備（A４で１枚＜2回＞）をすること。
14回目の授業までに提出する「まとめレポート」を作成すること。

〔オフィスアワー〕
教員への連絡は授業終了直後に受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
配慮が必要な場合は初回授業時に申し出てください。

社会保障論Ⅰ/Social Security Ⅰ　2023年度入学

HS1203Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
必修

唐鎌 直義

〔授業の概要〕
イギリスでは資本主義が他国に先駆けて成立したために、社会保障制度も早期に成立し、長い年月をかけて順次発展してきた。その経緯をたどると、なぜ貧困救済が必要になったのか、なぜ公的年金や失業保険が創設されたのか、その理由と背景を理解できるようになる。イギリス社会保障の発展過程をたどることにより、私達にとっての社会保障の意義を明確にする。

〔到達目標〕
①イギリスでは公的扶助受給者に対するバッシングは殆どない。なぜ日本ではバッシングが繰り返されるのか。その理由を理解できるようになる。
②イギリスでは原則無料の医療が実施されているので、貧困者でも経済的理由で受診を諦める必要はない。日本では保険料を払えなくなると、資格証明書で全額自己負担で受診しなければならない。その理由を理解できるようになる。
③イギリスでは公的年金の受給額に大きな差がない。なぜ日本では月額3～4万円の貧困高齢者が多数存在する一方で、老後の贅沢まで保障された高額年金の受給者が存在するのか。その理由を理解できるようになる。
④なぜイギリスでEU離脱が起きたのか。世界史の今を理解できるようになる。
⑤社会保障に関する基本的概念、専門用語を正しく使えるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３

〔授業計画〕
第 1 回　絶対主義（初期資本主義）とエリザベス救貧法（1601年）の成立
絶対主義、権力の均衡、農地の囲い込み運動、働ける貧困者、ワークハウス、労働力の陶冶

第 2 回　18世紀個人主義的自由主義の強まりと救貧法の変遷
資本主義とプロテスタンティズム、清教徒、「勤勉・節約・蓄財」の奨励、フランス革命とスピーナムランド制、ギルバート法

第 3 回　19世紀産業革命と「新救貧法」（1834年）の登場
産業革命と人口増、働けない貧困者、T・R・マルサスの絶対的過剰人口論、J・ベンサムの最大多数の最大幸福、J・S・ミルの賃金基金説

第 4 回　「新救貧法」の4原則と市民への影響
働ける貧困者の排除、劣等処遇原則、ワークハウス・テスト、救貧院の惨状、C・ディケンズの告発

第 5 回　19世紀末大不況期の「貧困の発見」ーC・ブースのロンドン調査（1887年）
社会調査、社会階層、不安定就業者、デカジュアリゼーション（常用雇用化）、貧困の社会的原因

第 6 回　19世紀末大不況期の「貧困の発見」ーB・S・ラウントリーのヨーク調査（1901年）
最低生活費、肉体的能率、マーケット・バスケット方式、貧困循環

第 7 回　20世紀初頭の自由党政権の誕生と「社会保険の時代」の到来
無拠出老齢年金、中等教育の無償化、無料の学校給食、健康保険、失業保険、職業紹介所

第 8 回　「国民保険法」（1911年）の成立とその限界の露呈
健康保険、認可組合、著しい給付格差、失業保険と財政破綻、無契約給付の導入、失業者に対するソーシャル・ワークの開始、失業とファシズム

第 9 回　第2次世界大戦下における『ベヴァリッジ・レポート』（1942年）の公刊
社会保険と関連サービス委員会、空爆下の立案、福祉国家の青写真、戦争と社会保障

第 10 回　『ベヴァリッジ・レポート』の内容と評価
社会保険の6原則、均一拠出・均一給付、社会保険主義、保険料と国庫負担

第 11 回　戦後福祉国家の誕生（1948年）とベヴァリッジ体制
最低生活保障の失敗、貧困解消神話、B・S・ラウントリーの第3回ヨーク調査

第 12 回　1960年代の「貧困の再発見」（P・タウンゼント＆B・エーベルスミス）
P・タウンゼント『高齢者の家族生活』（1957年）、タウンゼント＆エーベルスミス『貧困者と極貧者』（1965年）、相対的剥奪、相対的貧困論

第 13 回　社会保障の発展（選別主義から普遍主義へ、移民のシティズンシップ）
公的扶助のスティグマ、国民扶助制度から補足給付制度へ、ユニバーサリズム、二流市民、シティズンシップ

第 14 回　M・サッチャーによる福祉の見直しと労働党の「第三の道」（アクティベーション）
新自由主義、ミルトン・フリードマン、生活の自己責任、労働党の変質、トニー・ブレア、アンソニー・ギデンズ『第三の道』、アクティベーション（活性化）

第 15 回　自立支援・就労支援の見直しと反グローバリゼーションの波（EU離脱）
就労支援の現実、ケン・ローチ監督『私はダニエル・ブレイク』（2016年）、反グローバリゼーション、ブレグジット

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使わない。毎回、講義レジュメ（A4版3～4枚のプリント）を配布する。
参考書として唐鎌直義『脱貧困の社会保障』（旬報社、2012年）を挙げておく。それ以外の参考文献等は講義の際に随時提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末試験を実施する。その成績を全体の80％として評価する。
授業の終わりに提出してもらう「コミュニケーション・ペーパー」の提出状況（全部で4回程度）とその内容を全体の10％として評価する。
毎回の授業の際に出欠状況の確認を行い、授業への主体的参加状況を全体の10％として評価する。
〔授業時間外学修〕
ほぼシラバスどおりに授業展開するので、参考書等を事前に読んで学習してくることが望ましい。
授業後は、参考書等に書かれている内容を含めて、ノートの整理等の復習をすることが望ましい。
〔オフィスアワー〕
授業に関する質問等は、授業終了後に受け付ける。
オフィスアワーは時間割が未定なので、決まった段階で別途、周知する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
授業に集中できないで熟睡している人を見かける。そうした「心身抑制の弛緩」に注意すること。

社会福祉論/Social Welfare　2023年度入学

HS1204Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　前期
講義
必修

佐藤 嘉夫、下村 幸仁

〔授業の概要〕
現代社会における多様な課題の中で、社会福祉は重要な責務を担っている。一方、社会福祉の現状は様々な分野に分かれており、複雑である。しかし、そもそも社会福祉とは何か、どのように捉えて行けば良いのかという根本的な問いに立ち返って、社会福祉のあり方を学ぶ。ここでは、社会福祉の基底にある問題を生活問題として位置づけ、社会福祉が対象とする課題を明らかにし、社会福祉が果たす役割と意味について理解を深める。

〔到達目標〕
①社会福祉が国の制度として成立した流れを理解している。
②今日の社会で社会福祉が、なぜ必要不可欠であるかについて説明できる。
③社会福祉の分野や方法について述べることができる。
④社会福祉援助の方法と求められる価値、態度について述べることができる。
⑤ケア重視の社会が進んでいく中で、社会福祉にはどんな役割が期待されているか、自分の考えを述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３

〔授業計画〕
第 1 回　社会福祉とはなにか：歴史
佐藤嘉夫
第 2 回　社会福祉の哲学・思想と生存権
佐藤嘉夫
第 3 回　社会福祉の価値・理念と共生社会
佐藤嘉夫
第 4 回　社会福祉の対象となるのは何か：対象の捉え方とその変遷
佐藤嘉夫
第 5 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題１（下村担当）
現代社会と福祉政策：
①資源の種類と把握、開発
②福祉ニーズの種類と把握
③福祉政策の基本的視点
第 6 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題２（下村担当）
貧困者の生活課題：
①生活保護制度の動向と課題
②生活保護制度運用の見直し
③子どもの貧困対策
第 7 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題３（下村担当）
高齢者福祉の政策課題：
①介護保険制度の見直し
②高齢者虐待問題への対応
③後期高齢者医療制度
④認知症対策
第 8 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題４（下村担当）
障害者の政策課題：
①障害者自立支援法の影響
②発達障害者、難病患者に対する支援と課題
③障害者虐待問題への対応
第 9 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題５（下村担当）
児童関連の政策課題：
①児童虐待問題への対応
②少子化対策の課題
第 10 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題６（下村担当）
地域包括ケアシステムと共生社会、多文化共生：
①社会福祉法改正と地域包括ケアシステム
②共生社会と多文化共生
第 11 回　社会福祉の分野・仕組みと今日的課題7（下村担当）
福祉政策と関連領域：
①住宅政策（公営住宅法・住生活基本法・住宅セーティネット法）
②労働政策（ワーク・ライフ・バランス、就労支援、雇用保険・最低賃金制度、育児・休業法）
③教育政策
第 12 回　社会福祉における援助者と「対象者」（下村担当）
福祉利用過程：
①措置制度
②契約制度等
第 13 回　ケア領域の広がりと社会福祉
佐藤嘉夫
第 14 回　ケアリング・ソサイティと社会福祉の未来
佐藤嘉夫
第 15 回　ふり返りとまとめ
佐藤嘉夫

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：特になし。
参考書については授業中に指示する。
『社会福祉小六法』必携

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーやワークシートの提出 30%、小テスト（2～3回） 30%、最終レポート 40%
学生へのフィードバック：manaba上に掲示又は授業内で解説

〔授業時間外学修〕
① 人権思想が芽生えた啓蒙期の思想を辿ってみる。
② 現代の生存権・憲法24条と関連する条項を読んでみる。（配布資料）
③ 新聞、テレビのニュース等で報道された具体例をみて、社会福祉の課題をメモしてみる

④ 現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なの考えてみる。（ミニ・レポート）
⑤ 看護、介護、社会福祉は、なぜ互いを必要不可欠としているか整理してみる。
（22.5時間）
〔オフィスアワー〕
講義の初回に伝えます。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
・リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
・日常生活の中で、社会福祉の役割・期待を考えられるようにしましょう。
＊1～4回は佐藤、5～12回は下村、13～15回は佐藤が担当します。

社会福祉法制論/Legal　System on Social Welfare
2022年度入学

HS1205Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　前期
講義
必修

下村 幸仁

〔授業の概要〕
社会福祉法制において、憲法では、その中核である「個人の尊重」を踏まえて基本的人権を、民法では、紛争解決のために必要となる法原理を基本的に学ぶ。そして、社会福祉法や社会福祉六法等をもとに各福祉制度の利用者の生活がどのように支援されているかについて概括する。また、成年後見制度では、判断能力が不十分な人々の生活全般の支援方法を理解する。社会福祉専門職として権利擁護活動を実践するために何が必要なのかについて学ぶ。

〔到達目標〕
今日、社会福祉に関する法制度は大きく動いてきており、その全体像を把握することは容易なことではない。本科目では、このような社会福祉に関する法制度の概要とそれら制度の利用者の権利を擁護するための仕組みや方法を理解し、社会福祉各分野の専門的学習のための基礎を築くことを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、ソーシャルワークと法との関わり
権利擁護に必要な法制度
第 2 回　社会福祉援助（ソーシャルワーク）と法の関わり①
憲法の概要と基本的人権及び公共の福祉
第 3 回　社会福祉援助（ソーシャルワーク）と法の関わり②
民法及び行政法
第 4 回　法の基礎
法の体系、種類、機能及びソーシャルワーカーが判例を学ぶ意義
第 5 回　権利擁護の意義と支援制度①
権利擁護の意義と福祉サービスの適切な利用
第 6 回　権利擁護の意義と支援制度②
各種虐待防止法と障害者差別解消法の概要
第 7 回　権利擁護の意義と支援制度③
生活保護制度における利用者の権利性の問題と課題
第 8 回　権利擁護活動と意思決定の支援①
意思決定支援と意思決定支援ガイドライン
第 9 回　権利擁護活動と意思決定の支援②
インフォームド・コンセントと個人情報保護
第 10 回　権利擁護に関わる組織、団体、専門職①
家庭裁判所と法務局の役割、社会福祉士と精神保健福祉士による権利擁護
第 11 回　権利擁護に関わる組織、団体、専門職②
弁護士、司法書士などの役割
第 12 回　成年後見制度①
成年後見制度の概要と手続き
第 13 回　成年後見制度②
後見、補佐、補助の概要
第 14 回　成年後見制度③
任意後見の概要
第 15 回　成年後見制度④
成年後見制度の最近の動向及び利用支援事業、日常生活自立支援事業

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：『権利擁護を支える法制度』最新・社会福祉士養成講座9（中央法規、2021）
『社会福祉小六法（2023）』（ミネルヴァ書房 2023）
パワーポイントの資料を配布し講義内容を補完します。

〔成績評価の方法・基準〕
課題レポートの内容20％と学期末定期試験80％の合計100％により総合的に評価する。

〔授業時間外学修〕
・事前学習として、テキストの該当する項目を熟読して、疑問に思ったことを調べておくこと。（30分）
・事後学習では、講義内容を自分なりにまとめておくこと。（20分）

〔オフィスアワー〕
授業内で指示する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
・毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の講義で疑問点などにお答えします。
・講義第5回目と10回目の終了後に課題レポートを課し、利用者及び人権擁護の理解に関してコメントして返却します。

ソーシャルワーク入門/Introduction to Social Work　2023年度入学

CB109P/CS1206Q

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

1年
1単位　前期
講義
選択

上西 一貴

〔授業の概要〕
ソーシャルワーク（SW）について、その理念と歴史、概要を入門的に学ぶ。日本におけるSWの専門職として、社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について理解する。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を深く理解することを通し、学部の理念である「豊かな人間性」を修得することをねらいとする。

〔到達目標〕
①社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義を具体的に説明できる。
②SWの基盤となる考え方の意義と問題点を説明できる。
③SWの形成過程を社会背景と関連させて説明できる。
④SWの倫理と倫理的ジレンマの構造を説明することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　実践・専門職・学問としてのSW
SWという広範で曖昧な概念を捉えるために、実践、専門職、学問の視点を理解する。

第 2 回　SWの専門性（1）専門職の意味
「専門職」を「プロフェッション」「スペシャリスト」「ジェネラリスト」「エキスパート」の側面から理解する。

第 3 回　SWの専門性（2）社会福祉士
社会福祉士及び介護福祉士法と日本のSW専門職の形成過程から、社会福祉士のジェネラリストとしての専門性を理解する。

第 4 回　SWの専門性（3）精神保健福祉士
精神保健福祉士法と日本のメンタルヘルスSW専門職の形成過程から、精神保健福祉士のスペシャリストとしての専門性を理解する。

第 5 回　SWの概念
SWの定義の変遷と、SW専門職のグローバル定義の構造を理解する。

第 6 回　SWの基盤（1）原理と理念
SW専門職の中核をなす諸原理である社会正義、人権、集団的責任、多様性の尊重と、これらに関連する理念である社会的包摂とノーマライゼーションについて理解する。

第 7 回　SWの基盤（2）自立支援
SWの理念である自立支援について、自立と依存の関係をふまえて理解する。

第 8 回　SWの基盤（3）当事者主権
SWの理念である当事者主権を中心に、アドボカシーや尊厳の保持、自己決定が抱える原理的・実践的問題を理解する。

第 9 回　SWの形成過程（1）2つの源流
SWの源流とされる慈善組織協会の活動とセツルメント運動、そこから発展したソーシャル・ケース・ワークについて理解する。

第 10 回　SWの形成過程（2）専門化
SWの専門職化と理論化が急速に進み、医学モデルが構築されていった経緯と、その社会的背景、医学モデルにおける援助対象と援助関係の捉え方について理解する。

第 11 回　SWの形成過程（3）統合化
SWがシステム理論や生態学的視点を取り込み、ライフモデルが構築されていった経緯と、その社会背景、ライフモデルにおける援助対象と援助関係の捉え方について理解する。

第 12 回　SWの形成過程（4）専門職批判
SWが社会構築主義を取り込み、ストレングスモデルが構築されていった経緯と、その社会背景、ストレングスモデルにおける援助対象と援助関係の捉え方について理解する。

第 13 回　SWの形成過程（5）集団と地域
グループワークやコミュニティワークの形成過程を理解する。

第 14 回　SWの倫理（1）倫理綱領
SWの倫理について、日本ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領、日本社会福祉士会の倫理綱領、日本精神保健福祉士協会の倫理綱領をもとに理解する。

第 15 回　SWの倫理（2）倫理的ジレンマ
SW専門職が直面する倫理的ジレンマについて、事例をもとに分析し、さまざまなジレンマが生じる実践構造を理解する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
◆テキスト
木村容子・小原眞知子編著（2023）『ソーシャルワーク論I: 基盤と専門職 』法律文化社.
◆参考文献
講義内で提示します。

〔成績評価の方法・基準〕
次の2つの試験により成績を付与する。
試験A [40%]：冬期休暇中にmanabaで実施
試験B [60%]：定期試験として実施

〔授業時間外学修〕
予習復習を前提としますので、必ず行ってください。
◆予習（各回1時間）
テキストの該当部分を読んでくる。授業終了時に提示するお題について次回講義までに自分なりの考えを整理したり調べたりしてくる。
◆復習（各回1時間）

講義資料を必ず読みかえす。必要に応じて授業資料で提示されている参考文献を読む。

〔オフィスアワー〕

個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。

k-jonishi(at)saku.ac.jp

※メールアドレスの (at) は @ に置き換えて下さい。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

地域福祉論Ⅰ/Community Welfare Ⅰ　2023年度入学

HS1207Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
必修

野口 定久

〔授業の概要〕
これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって地域マネジメントの理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶ。

〔到達目標〕
1.地域コミュニティにおいて社会資源の把握、ニーズの発見、問題解決、政策化・組織化、計画化等一連の地域マネジメントとその援助プロセス、技術を包括的に修得する。
2.地域において社会福祉の制度・サービスの運営、制度外サービスの開発をめざした研修コンテンツの推進力と開発力を修得する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP４、DP５、DP６、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　人口減少社会の地域福祉
１．超高齢少子人口減少社会の到来－人口オーナス
２．少子化対応モデル－フランス社会への着目
３．福祉ニーズの拡大と今日的変容
トピック：少子化対策、見えぬ「特効薬」海外は働き方改革重視

第 2 回　地域福祉の枠組み
１．地域福祉の構成要素
２．福祉国家と福祉社会－安全網と親密圏と公共圏の再編成
３．地域福祉のかたち－公助・共助・互助・自助
トピック：少子化対策：育児男女差が際立つ日本　男性、参加時間2割　出生率低下に影響

第 3 回　地域福祉の対象と課題
１．新しい福祉問題群－その事象と課題
２．貧困・格差と生活問題－排除と孤立
３．人口の社会的移動－中山間地と地方都市の居住圏
トピック：正社員基軸の日本型雇用システム崩壊へ

第 4 回　地域マネジメントの理論と実際：強い市民と弱い市民、コモンズの悲劇、分かち合い
1．分かち合いの福祉社会の形成
2．新しい共同の場づくり－地縁組織と互酬ネットワークの結節
3．地域福祉の志向軸－継承と発展
トピック：沈下する中間層　不安のマグマ、世界揺らす

第 5 回　福祉コミュニティの形成－コミュニティ論を超えて
１．従来のコミュニティ・モデル－1970年代のコミュニティ
２．コミュニティの類型化－連帯と包摂
３．ソーシャル・キャピタル－つきあい・信頼・参加・連帯・包摂
トピック：認知症カフェや子ども食堂を住民が集う地域拠点に

第 6 回　地域福祉行財政
１．福祉国家の揺らぎと地方分権－成熟社会の地域福祉
２．地方財政の建て直し－歳出と歳入の構造改革
３．新たな地域福祉の財源づくり
トピック：全世代型社会保障改革に向けて　若者の働き方支える視点を

第 7 回　地域福祉の政策と計画
１．地域福祉政策の推移－経済政策との関係
２．地域福祉（活動）計画策定のマトリックス
３．地域福祉計画の策定戦略－ゆるやかな共同体の形成
トピック：フレイル予防と介護予防の切り分けの方策

第 8 回　地域福祉計画の戦略
１．住民自治とガバナンス（統治）－小学校区と中学校区
２．地域福祉の協働統治と住民自治
４．地域福祉計画の構図－市民計画と行政計画の連動
トピック：平成の大合併は地方自治体の財政圧迫に

第 9 回　地域福祉計画の住民参加と組織化
１．地域福祉計画策定の組織化
２．行政と住民の活動範域と関係
３．地域福祉計画のワークショップの効用
トピック：介護保険制度のトリレンマ

第 10 回　居住福祉のまちづくり
１．居住福祉の思想－内発的発展論と生命誌
２．居住福祉社会のかたち
３．居住福祉社会の構図－フローとストックの融合
トピック：空き家で街がスカスカ　東京郊外で進む「都市のスポンジ化」

第 11 回　過疎地域で住み続けるために
１．過疎地域に暮らす住民の想い
２．自然生態系と人間社会システムの共生
３．中山間地域再生のシナリオ
トピック：新たな「都市像」描けるか　人口集中から知の集積へ

第 12 回　地域包括ケアーシステムとネットワーク
１．施設ケアと在宅ケアの統合モデルーデンマークの実践から

２．新たな時代の福祉提供ビジョン
３．日本型地域包括ケアの面的構図
トピック：日本のサービス業は労働生産性が低い

第 13 回　地域福祉推進組織と多元的サービス供給
１．新たな福祉サービス供給主体の関係
２．地域福祉の統治構造
３．市町村社会福祉協議会の活動と機能－総合化
トピック：SDGsの17項目の市場規模

第 14 回　地域福祉の主体形成とコミュニティソーシャルワーク
１．ボランタリー・アクションからコミュニティソーシャルワークへ
２．権威型からエンパワメント型へ
３．「制度の狭間」問題の解消とソーシャルワーク支援
トピック：日本が目指す最適な社会モデル

第 15 回　ポストコロナの地域福祉を構想する
１．地域福祉のベクトル－ゆるやかな共同体
２．縦割り行政を横断化する地域福祉計画
３．地方再生の論理－ローカルからの反転回復
トピック：地域循環型福祉経済

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：野口定久『ゼミナール　地域福祉学－図解でわかる理論と実践』中央法規出版，2018年
参考書：野口定久『人口減少時代の地域福祉論－グローバリズムとローカリズム』ミネルヴァ書房，2016年

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験を行います。また、小テスト（2回）を実施する。評価は、定期試験と小テスト(2回)の合計点で行う。配点は定期試験　60％、小テスト　40％。

〔授業時間外学修〕
テキストと講義の数日前に講義ノートをUPしますので、事前に目を通しておいてください。
事後学習は、当該講義のテキストと講義ノートに授業で提示したアンダーラインを整理し、要点を確認しておいてください。

〔オフィスアワー〕
火曜日　3限目　野口研究室（１３０１）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
毎講義への主体的な参加を希望いたします。
テキストは、事前学習および講義で使用しますので購入しておいてください。

ケアワーク論/Care Work　2022年度入学

HS1208

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　前期
講義
必修

永野 淳子

〔授業の概要〕

ケアという概念とその実践について、その歴史的背景を踏まえた意義や重要性を理解する。ケアとは、対象者の人生の一部に関わることである。対象者がどのように生きたいと思っているのかを理解し、実践（ケアワーク）を行うという捉え方が基本となる。そのためには、対象者とその周囲の環境、その人の過去・現在・未来、これらを関連付けた実践が必要となる。ケアという概念が社会においてどのように捉えられてきたのか、また、今日の社会におけるケアを取り巻く諸問題を踏まえて、人間とは、生活とは、その中でのケアとは何かを問い、ヒューマンケアを探求していくための基礎的視点を獲得し、ケアについての理解を深めることを目指す。

〔到達目標〕

1.ケアワークの概念と目的について説明できる。
2.ケアワークの展開過程を理解し、対象者の状況にあった支援について提案できる。
3.ケアワークの今日的状況について理解し、ケアを取り巻く課題について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP１、DP３

〔授業計画〕

第 1 回　ケアとケアワーク
オリエンテーション，ケア概念についての考え方.

第 2 回　ケアワークの歴史的展開
ケアワーカー（介護福祉士）の誕生と社会的意義．高齢者ケアの変遷.

第 3 回　ケアワークの基盤１
ケアワークの目的，意義他.

第 4 回　ケアワークの基盤２
ケアワーク実践の対象と対象理解.

第 5 回　ケアワークにおけるニーズ
ケアワークの視点，ICFによる情報の分析.

第 6 回　ケアワークの実践内容と方法
法制度上の実践内容，多職種連携，チームケア他.

第 7 回　ケアワークの展開過程の理解１
ケアマネジメントとケアワークとの関係．ケアワークの展開過程.

第 8 回　ケアワークの展開過程の理解２
生活を支援するケアと社会資源.

第 9 回　ケアワークと生活環境１
施設から地域へのケア実践の移行．エイジング・イン・プレイス.

第 10 回　ケアワークと生活環境２
ケア（福祉施設）をとおした地域づくり.

第 11 回　ケア実践の管理
リスクマネジメント．特養あずみの里の裁判.

第 12 回　デジタル社会とケア実践
ケア現場における介護ロボットの推進．ゲストスピーカーによる講演.

第 13 回　ケアラー（家族介護者等）
ケアラーのケアする権利、ケアしない権利.

第 14 回　人権問題（虐待、介護殺人等）
ケア実践と人権擁護のための支援.

第 15 回　終末期ケア
終末期ケアにおける専門職連携・家族支援.

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：授業時に資料を配布する。
参考文献：適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

リアクションペーパーの提出（manaba）　30％
定期試験　70％

〔授業時間外学修〕

授業前：本シラバスの授業計画の内容についてインターネットで調べ、興味・関心を高めてください（30分程度）。
授業後：授業内で配布した資料を見直してください（30分程度）。

〔オフィスアワー〕

水曜日12:10-12:50.

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

授業の進捗状況により一部授業内容が変更になることがあります。

ヒューマンケア基礎実習/Fundamental Exercise for Human Care Practice　2023年度入学

HS1209

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
1年
1単位　後期
実習
必修

髙松 誠、島田 千穂、李 省翰、野坂 洋子

〔授業の概要〕
本実習は、ソーシャルワーク実習の導入部にあたる実習である。内容は、福祉施設・機関等の「現場」の見学、体験実習である（高齢・児童・障害・地域）。10人程度のグループに分かれて、４日間に分けて、午後に4種・箇所を訪問して、施設・機関等の役割、処遇状況などの概要の講義をうけ、入所者、利用者との交流体験をする。

〔到達目標〕
①ケアの現場を体験しケアへの入所者や利用者への支援の重要性を知る。
②施設等の具体的な役割や機能についての知識を得る。
③入所者や利用者のケアニーズとその充足状況について理解する。
④ケア専門職の専門技術や役割について理解し自身の実践につなげていくことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本見学実習の目的及び実施方法について説明後、グループ分けを行い、各担当教員と事前学修等についての話し合いを行い、役割分担を決定する。
第 2 回　事前学修発表打ち合わせ
見学実習に向けての事前学修発表の打ち合わせをおよび準備のための話し合いを行う。グループ内の役割分担を確認する。
第 3 回　事前学修発表
事前学修発表を行い、各グループごとに担当した種別・施設についての報告を行う。受講者は発表を通じて、見学実習先の情報収集を行う。
第 4 回　見学実習①　高齢
見学実習①として、高齢分野にかかわる施設の見学実習を実施する。
第 5 回　見学学習②　障害
見学実習②として、障害分野にかかわる施設の見学実習を実施する。
第 6 回　見学実習③　児童
見学実習③として、児童分野にかかわる施設の見学実習を実施する。
第 7 回　見学実習④　地域
見学実習④として、社会福祉協議会等の地域にかかわる機関の見学実習を実施する。
第 8 回　事後学修座談会
4回の見学実習を終えて、各グループごとに、各グループ担当教員とともに、座談会形式で、見学実習の振り返りを行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：
・ミネルヴァ書房編集部編（2023）『社会福祉小六法2023[令和5年版]』ミネルヴァ書房
・授業（事前事後学修）／実習で使用する資料を事前配布

〔成績評価の方法・基準〕
・事前学修の発表内容：２０％　実習への参加と参加態度：４０％　事後の振り返りでの気づき：２０％　レポートの内容：２０％　上記の評価のために、事前事後学修への参加、実習ノートの記入及び提出、事後レポートの提出が求められる。レポートは希望に応じて、個別にフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
①訪問施設等の事前学習（概要、体験課題等の整理）②事前学修のための各自の論点整理と発表後の振り返り　③事後学修のための準備　④レポート及び実習ノートの記入・作成
・事前学修について：見学実習先の概要や地域との関連等について調べてくる。このために概ね、予習にかける時間は２－３時間程度になると思われる。
・事後学修について：見学した内容を定着化させるために、見学内容をノート等で記録したことを再確認するとともに、可能ならば、追加で学修したことを記録・蓄積し、事後学修（発表）に生かす。このためのノートの再読や、プレゼン資料の作成等も含めて、２－３時間程度の学修が必要であると思われる。

〔オフィスアワー〕
・授業・見学実習終了後に各グループ担当教員が質問があれば、受け付ける。
・実習時間内に適時担当教員が個別フィードバックする。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
担当教員は、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー、高齢者関連施設等での実践経験があり、地域の関連施設とのかかわりを有している。

〔その他履修上の留意事項等〕
・見学実習であるので、見学実習への参加を重視する。
・実習への積極的な参加および準備を求める。
・提出課題に真摯に取り組み、提出期限を厳守すること。

ケアワーク演習・実習/Care Work Exrcises and Practce　2022年度入学

HS1210

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　後期
実習
必修

島田 千穂、林 宏二、髙松 誠、脇山 園恵、永野 淳子

〔授業の概要〕
ソーシャルケア（福祉的ケア）とヘルスケア（看護的ケア）の共通の基礎となるケアワーク論とその技術にかかわる基礎である生活援助学の学修の上に、高齢者又は障害のある人を対象にしたケアの現場で基礎実習を行う。実習に先立ち、介護の基本技術演習と、実習現場での学びについての学習と実習において達成すべき課題について具体的な内容を想定した演習を行う。また、事後には小グループに分かれてまとめを行う。
介護の基本技術の演習については、担当教員全員がグループに入るが、短期大学福祉学科教員と実習施設からのゲストスピーカーが中心になって行う。実習期間中は1日目と3日目に実習施設等を訪問し、実習生の指導を行うと同時に、実習指導者と打ち合わせを行う。

〔到達目標〕
①「現場」でのケアワークの展開について具体的に説明ができる。
②対人援助におけるコミュニケーションの基本を身につける。
③日常的な生活維持、自立に関わる対人援助では、ケアワークが基本であることが説明できる。
④「現場」における多職種連携の必要性と重要性が理解できる。
⑤具体的援助行動を通じて、利用者がこれまで生きてきた生活史を踏まえ、生活者である利用者という視点を習得することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１

〔授業計画〕
第 1 回　導入
ケアワークをなぜ学ぶか、実習施設等介護施設と入居者の状況、感染対策の基本、個人情報の管理（担当：島田）
第 2 回　介護・生活支援の基本技術１
移動の介助、関わる時のリスク（担当：永野）
第 3 回　介護・生活支援の基本技術２
認知症がある人とのコミュニケーション（担当：島田）
第 4 回　介護・生活支援の基本技術３
日常生活を豊かにするコミュニケーションとアクティビティケア（担当：脇山）
第 5 回　実習計画書、自己紹介シートの作成１
想定される利用者へのケア計画（教員全員）
第 6 回　実習計画書、自己紹介シートの作成２
想定される利用者の生活を想定しながらアクティビティケアの具体的内容を考える（教員全員）
第 7 回　施設実習1日目
施設オリエンテーション・実習・実習後記録・振り返り
第 8 回　施設実習1日目
実習・実習後記録・振り返り
第 9 回　実習の振り返り、実習計画の見直し１
実習の経験を振り返り、グループで計画の改善案を考える（教員全員）
第 10 回　施設実習2日目
実習・実習後記録・振り返り
第 11 回　施設実習2日目
実習・実習後記録・振り返り
第 12 回　実習の振り返り、実習計画の見直し２
実習の経験を振り返り、計画の改善案を考える（教員全員）
第 13 回　施設実習3日目
実習・実習後記録・振り返り
第 14 回　施設実習3日目
実習・実習後記録・振り返り
第 15 回　まとめ
実習での自分の経験を振り返り、他の学生の経験を共有しながら整理する（教員全員）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
授業内で資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
実習計画書（30％）、実習記録（30％）、実習計画見直しへの取り組み方（20%）、最終レポートの内容（20%）
ただし、単位取得には３日間の実習と最終レポート提出が必須です。
レポートにはコメントを付けてフィードバックします。

〔授業時間外学修〕
講義・演習で学習した内容については必ず復習し、学生同士で確認し合うこと。最低30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
随時質問はメールで受け付けます。対面指導を希望する場合は、まずは教員宛にメールで日程調整をお願いします。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
島田千穂：所長代理として特別養護老人ホームに勤務し、認知症ケアの実践経験を踏まえて最新の認知症の人とのコミュニケーション技術に関する講義・演習を担当する。
髙松誠：：小中学校のスクールソーシャルワーカーとしての対人援助の経験を活かし、ケアワークにおける対人援助技術の指導を行う。
脇山園恵：在宅介護支援センター相談員、居宅介護支援事業所の管理者・介護支援専門員、訪問介護事業所の管理者としてのケア実践経験を活かし、日常生活を豊かにするアクティビティケアについて講義・演習を担当する。
永野淳子：介護福祉士として、訪問介護・施設介護に従事していた経験を活かし、施設利用者への生活支援技術について、講義・演習を担当する。

〔その他履修上の留意事項等〕
援助職としての基本的な技術・態度を学ぶ科目です。実習受け入れ施設の職員様や利用者様から学ぶ機会をいただけることに感謝して、失礼のないようしっかりと準備して臨みましょう。

法学（日本国憲法含む）/Jurisprudence　2023年度入学

CF130T

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞養護教諭二種免許状授与申請科目
1 年
2単位　後期
講義
選択

関 良徳

〔授業の概要〕
この授業では、①私たちの日常世界で生じている法律問題とその背景について、憲法やその他の法律の観点から概説する。②それぞれの問題について、憲法や法律にもとづき、いかなる取り組みがなされているかを説明する。③現在の法制度や法的対応が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。④身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、他の受講生との討論からより公正な判断を導き出すための問題解決型学習を行う。

〔到達目標〕
私たちの身のまわりの法律問題について理解を深めると同時に、憲法を基軸とする法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP l

〔授業計画〕
第 1 回　自己決定と法
法律的な考え方の基礎にある「自己決定権」について学ぶ。
第 2 回　消費生活と法（１）
消費生活における契約と約款の問題を事例から学ぶ。
第 3 回　消費生活と法（２）
消費者契約法等にかかわる事例から消費者問題を考える。
第 4 回　事例検討[１]
自己決定権に関わる事例の模擬裁判を行い、問題点を探る。
第 5 回　家族と法
家族をめぐる法的問題（夫婦別姓など）について説明する。
第 6 回　子どもと法（１）
児童虐待に対する法的対応について学ぶ。
第 7 回　子どもと法（２）
現在の少年法がかかえる諸問題について概説する。
第 8 回　事例検討[２]
家族や子どもに関する事例を裁判形式で検討する。
第 9 回　犯罪と法
犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。
第 10 回　裁判員制度
裁判員制度の意義と問題点について考える。
第 11 回　医療と法（１）
インフォームド・コンセントと安楽死について考える。
第 12 回　事例検討[３]
刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを学ぶ。
第 13 回　医療と法（２）
代理出産、臓器移植、医療事故・医療訴訟について解説する。
第 14 回　労働と法（１）
採用と退職・解雇に関わる労働法について検討する。
第 15 回　労働と法（２）
就業時間、賃金、職場環境に関する労働法について概説する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。
参考文献：適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験（50％）
レポート（30％）
授業への取組み状況（20％）
課題等のフィードバックは授業内で説明する。

〔授業時間外学修〕
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。
事例検討の授業では、予習レポートが課される。
1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
随時、メールで質問を受け付ける。
yosseki●shinshu-u.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。

経済学/Political Economy　2022年度入学

HS1302

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　前期
講義
選択

唐鎌 直義

〔授業の概要〕
経済学がどのように発展してきたか、前半の7回の学説史を通じて分かりやすく説明する。後半の7回は、経済学が社会保障・社会福祉にどのように関わっているか、分かりやすく説明する。意外に面白い経済分析の方法を修得してもらいたい。

〔到達目標〕
①経済学の発展過程を理解できるようになる。
②経済的なものの見方で社会の事象を考えられるようになる。
③経済学が追究する合理性・効率性の意義と限界を理解できるようになる。
④経済学の基本的概念、専門用語を正しく使えるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　経済学とは何かー経済学入門
唯物論、生産性、効率性、合理性、将来の不幸を予言して我慢に誘導する学問(?)、経済的強制、政治算術論
第 2 回　学説史①重農主義とフランソワ・ケネー　②重商主義とデイビッド・リカード
土地の生産性、ケネーの経済表、商業的富、比較生産性優位説
第 3 回　学説史③産業資本主義とアダム・スミス
自由放任原則、神の見えざる手、夜警国家、安価な政府、自己の利益追求と社会の道徳感情
第 4 回　学説史④資本主義の矛盾とカール・マルクス
商品、労働価値説、利潤と労働者の搾取、拡大再生産表式、相対的過剰人口論
第 5 回　学説史⑤新古典派経済学
一般均衡論、総需要曲線、総供給曲線、ウィリアム・S・ジェボンズ、レオン・ワルラス、価格決定メカニズム
第 6 回　学説史⑥世界大恐慌とジョン・M・ケインズ
マクロ経済学、自由放任の終焉、政府の経済過程への介入、有効需要の創出、乗数効果、完全雇用、公共事業、大きな政府、管理通貨制
第 7 回　学説史⑦高度成長の終焉とミルトン・フリードマン
ミクロ経済学、新自由主義経済学、小さな政府、社会保障の削減、法人税・所得税の減税、付加価値税（消費税）、ベーシック・インカム
第 8 回　学説史⑧反グローバリゼーションとボディ・エコノミック
社会主義の崩壊、EUのスタート、アメリカ・ファースト、自然実験、政府支出乗数、歴史人口学
第 9 回　社会保障と経済学①マルクス主義と労働者階級の貧困
窮乏化法則（絶対的窮乏化と相対的窮乏化）、資本の有機的構成の高度化、相対的過剰人口論
第 10 回　社会保障と経済学②ケインズ主義と完全雇用政策
大量失業の回避、労働市場の組織化、完全失業者、摩擦的失業、物価上昇（インフレーション）
第 11 回　社会保障と経済学③ベーシック・インカム論の2潮流
貧困救済とスティグマ、負の所得税（ネガティブ・インカム・タックス）、所得把握の困難性、最低基礎所得の給付と現物給付の撤廃、給付つき税額控除（タックス・クレジット）
第 12 回　社会保障と経済学④自然実験とボディ・エコノミック
過去の公衆衛生統計、1929年恐慌の時の2つの州の対応、ソ連崩壊の時の2つの国の対応、東アジア通貨危機の時の2つの国の対応、リーマンショック時のアイスランド危機とギリシャ危機
第 13 回　社会保障と経済学⑤格差の捉え方ージニ係数
ローレンツ曲線、ジニ係数、アトキンソン指標、アマルティア・セン指標
第 14 回　社会保障と経済学⑥成長率・増加率の求め方
経済学部卒業生の約半数が計算できない現実、応用の可能性
第 15 回　社会保障と経済学⑦消費者物価指数（CPI）
物価とは、貨幣の価値、物価上昇（インフレーション）、物価下落（デフレーション）、生活保護基準と年金給付水準に与える影響、庶民のインフレ対応とデフレ対応

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。その代わりに毎回、講義レジュメ（A4版2枚程度）のプリントを配布する。
参考書・参考文献等は未定。初回の講義時に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末試験を実施する。その成績を全体の80％として評価する。
授業の終わりに提出してもらうコミュニケーション・ペーパーの提出状況（全部で4回程度）とその内容を全体の10％として評価する。
毎回の授業時の積極的参加状況を全体の10％として評価する。

〔授業時間外学修〕
シラバスに沿って授業展開するので、事前に参考書等を読んで予習してくることが望まれる。
授業後は、参考書等に書かれている内容を含めて、ノートの整理等の復習をすることが望ましい。

〔オフィスアワー〕
授業内容に関する質問は、授業の後に聞きに来ること。
時間割が未定なので、オフィスアワーは時間割が決まり次

第周知する。
連絡方法はメールで事前予約をお願いする。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
講義中に寝ないように気をつけて欲しい。授業に集中して欲しい。

心理学/Psychology　2023年度入学

HS1303Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
選択

寺門 正顕

〔授業の概要〕
心理学的理論と技法の基礎を学習し、人の成長と発達、人と社会のかかわり、日常のストレスと心の健康などを理解するひとつの視座を獲得することを目指す。人の心理と行動を機能という観点からいくつかに分類し、それぞれの領域から主要なトピックを選択して概説する。授業中にグループワークを行うことがある。

〔到達目標〕
この科目の到達目標は以下の４点である。
①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。
②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。
③日常生活と心の健康との関係について理解する。
④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス：感覚・知覚
錯覚を通して、知覚の情報処理過程や感覚モダリティなど、見ること・感じることについて考える。

第 2 回　個人差１：パーソナリティ・性格
性格検査の自己分析とともに、様々な性格理論や測定方法を理解する。

第 3 回　認知１：記憶のメカニズム
覚えるとはどういうことか、うまく記憶するための方法を、記憶の実験を通して理解する。

第 4 回　学習・行動
条件づけについての理解から、褒めること、叱ることの注意点を理解する。

第 5 回　感情・動機づけ・欲求
感情のメカニズムを理解し、欲求・動機づけの理解を通して、やる気を出すにはどうすればよいか、を考える。

第 6 回　人の心の発達過程：生涯発達と心の発達の基盤
様々な発達理論と、遺伝的影響について、また各発達段階における発達課題を理解する。

第 7 回　人と環境１：対人関係
第一印象の重要性や人の魅力の要因、考え方や好みの変容の影響する心のメカニズムを理解する。

第 8 回　人と環境２：集団・組織
多くの人の中で、私たちはどんな影響を受けているのか、を理解する。

第 9 回　認知２：思考と認知バイアス
我々の思考は、客観的ではなく認知的なバイアス（偏り）の影響を受けていることを、いくつかの実験的体験を通して理解する。

第 10 回　個人差２：知能
知能検査の歴史から、知能指数の統計的な考え方に触れるとともに、かしこさ・知能とは何かを考える。

第 11 回　心の生物学的基礎
心の働きと密接に関連する脳の構造や神経機能を理解する。

第 12 回　日常生活と心の健康：心の不適応と健康生成論
ストレスに関する理論と、様々な心理的要因の解説をもとに、いかにしてストレスと付き合っていけば良いか、自己分析とともに対処方法を考える。

第 13 回　心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本１
様々な心の問題と、その心理アセスメントの方法について理解する。

第 14 回　心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本２
心理的支援の基本的技法を学ぶとともに、各種の心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要について理解する。

第 15 回　心理学の視点：心理学の歴史と心を探求する方法の発展
最後に、心理学の歴史を辿りながら、心を探求する方法の発展を理解する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）
２ 心理学と心理的支援
最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座
中央法規出版株式会社　ISBN978-4-8058-8232-0

〔成績評価の方法・基準〕
期末試験　50％、毎回のミニテスト　40％、授業参加状況　10％
毎回のミニテストの結果と解説を、次回の授業回の際に行ない、各自にフィードバックする。

〔授業時間外学修〕
準備学習として、各授業回に対応した教科書の該当ページに事前に目を通しておくこと（各回２～３時間）。
また、各授業回が終わった後に、授業の内容を振り返るミニテストをオンラインで各自解答すること（各回１時間）

〔オフィスアワー〕
随時、メールで質問を受け付ける（mterakad●sjc-nagano.ac.jp）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
心理学は、人が活動するさまざまな場面と密接に関連する、幅広い学問分野です。この講義を通して、日常の中に存在する心の働きに目を向け、心に対する科学的な理解を深めてください。

社会学/Sociology　2023年度入学

HS1304Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
選択

関谷 龍子

〔授業の概要〕
現代社会に生きる私たちの日々の生活は、複雑な構造をもっており、社会がどうなっているのか、そもそも社会というのは何なのか、全体像が見えにくくなっている。また実際それが見えないと思い込んでいる。しかし、人間と社会の関係は、様々な領域で複雑に絡み合っている。生活において見えなくなっている、あるいは見えないと思っている、社会との関係性を、社会学という視点を学ぶことによって可視化するのが、この講義の目的である。

〔到達目標〕
講義を通して、現在社会の全体像の一端を理解する。一見無関係な現象でも様々な関連性を持っていること、それらを社会学的な視点から検討し、論理的に説明できることを理解する。
また、現在の都市や地域社会、農村の特徴や置かれた状況について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP３

〔授業計画〕
第 1 回　担当：関谷
　　現代社会を捉える視点①　社会学とは
第 2 回　担当：関谷
　　現代社会を捉える視点②　情報化
第 3 回　担当：関谷
　　現代社会を捉える視点③　グローバル化
第 4 回　担当：関谷
　　「働くこと」の現在①　日本の労働問題
第 5 回　担当：関谷
　　「働くこと」の現在②　労働と女性
第 6 回　担当：関谷
　　ジェンダーとLGBTQ
第 7 回　担当：関谷
　　高齢・少子化と育児環境の変化
第 8 回　担当：関谷
　　環境問題①　脱炭素社会と日本
第 9 回　担当：関谷
　　環境問題②　自然エネルギーと脱プラスチックごみ
第 10 回　担当：関谷
　　家族①　伝統的家族
第 11 回　担当：関谷
　　家族②　現代の家族
第 12 回　担当：関谷
　　地域社会①　コミュニティとムラの理論
第 13 回　担当：関谷
　　地域社会②　都市型社会の出現
第 14 回　担当：関谷
　　地域社会③　過疎・中山間地域問題
第 15 回　担当：関谷
　　地域社会④　地域社会とまちづくり

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト　使用しない。レジュメを配布する。
参考文献　筒井淳也・前田泰樹『社会学入門－社会とのかかわり方』有斐閣

〔成績評価の方法・基準〕

授業参加状況	30％
提出物・小レポート	30％
期末レポート	40％

提出物については、主なものを次の回の授業で紹介してコメントします。

〔授業時間外学修〕
毎回、授業の内容に関してコメントシートを提出してもらう。manabaを使用する場合あり（計14～15回程度を予定）。また、適宜小リポートを課す場合がある。

〔オフィスアワー〕
質問、相談はまずメールで受け付け、必要ならば研究室に来てもらいます。
関谷メールアドレス　r-sekiya@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

家族社会学/Family Sociology　2023年度入学

CF107P

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

1年

2単位　後期

講義

元橋 利恵

〔授業の概要〕

家族社会学における基本的な概念やものの見方・考え方を習得するとともに、現代社会における家族の変化が、社会変動や制度とどう関わってきたかを知ることが本講義の第1の目的である。家族とは、受講生の皆さんにとって、身近な存在・対象であるかもしれない。だからこそ自分たちのもつ家族やそのイメージを自明なものとして考えてしまうことも多いのではないだろうか。こうした「家族の当たり前」を検討・分析する思考を養うことが本講義の第2の目的である。

〔到達目標〕

この授業の目標は、「家族」に関する基本的概念を学ぶとともに、家族をめぐる現状を把握・理解することで、現代社会において生じている様々な家族問題に適切に対処する方法を自身で考えられるようになることである。また、近代家族に関わる諸規範を相対化し、よりよい民主的な家族の在り方への想像力を養うことも目標となる。

授業は講義形式で行う。様々なデータや歴史的資料・映像資料をもとに、日本の家族および家族と社会の変化を説明する。授業計画は、適宜変更することがある。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション 「フツーの家族」ってなんだろう？
講義内容：近代家族に関わる基礎的な用語の説明と授業全体の内容・進め方の説明をおこなう

第 2 回　日本における近代家族の成立と発展（１）その成立
講義内容：近代化の社会の変化について説明する

第 3 回　日本における近代家族の成立と発展（２）その大衆化
講義内容：戦後日本社会と近代家族の大衆化について説明する

第 4 回　近代家族の排他性と諸問題
講義内容：現代の家族問題について、1970年代以降の社会変化から概観する

第 5 回　家族とジェンダー（１）男らしさ、女らしさはどうしてつくられるのか
講義内容：ジェンダー、セクシュアリティについて基礎的な説明をおこなう

第 6 回　家族とジェンダー（２）セクシュアルマイノリティの排除の問題
講義内容：セクシュアルマイノリティの権利獲得の歴史について

第 7 回　家族とジェンダー（３）恋愛と結婚
講義内容：現代の恋愛観と結婚観の変化、人々の親密性の変容について説明する

第 8 回　家族とジェンダー（４）性別役割分業と家事労働
講義内容：近代家族における性別役割分業についてデータをもとに解説する

第 9 回　家族と暴力（１）DV
講義内容：ドメスティックバイオレンスや児童虐待など家族のなかに暴力の問題化について歴史をふまえ説明する

第 10 回　家族とケア（1）ケアの倫理の登場
講義内容：ケアの倫理の議論の紹介　家族のオルタナティブを考えていく手がかりを学ぶ

第 11 回　家族とケア（2）ケアの倫理の議論の発展
講義内容：ケアの倫理に依拠したフェミニズムの議論を概観し、依存の問題について考える

第 12 回　家族とケア（3）国家と家族
講義内容：ケアの観点から家族と国家の関係性について考える。ヤングケアラーの問題について

第 13 回　家族とケア（4）ケアする人の権利
講義内容：移民家事労働者の権利問題について

第 14 回　家族とケア（5）男性とケア
講義内容：「男性」はケアの問題にいかに取り組むべきかを考える

第 15 回　まとめ
講義内容：講義全体のまとめと、最終レポートについて説明、アドバイスなど

〔テキスト・参考書・参考文献〕

教科書：永田夏来、松木洋人編著（2017）『入門家族社会学』新泉社

参考書：適宜、プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

毎回の小課題4０％、筆記試験6０％で総合評価する。

毎回の小課題へのフィードバックは基本授業時間内におこなう。個別にmanabaでおこなうこともある。

〔授業時間外学修〕

授業内に指示する次回の内容に関する教科書の章を読むこと（30分程度）。

毎回の小課題に取り組むこと（30分程度）。

〔オフィスアワー〕

随時メールで質問を受け付ける。

メールアドレス　regalecus_russellii331●yahoo.co.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

特になし

生活学原論/Life　Structure　2022年度入学

CB110

看護学部・人間福祉学部共通科目 ＞ 専門基礎科目/専門科目
２年
2単位　後期
講義

佐藤 嘉夫

〔授業の概要〕
人間存在の基礎である生命と日々の暮らしの再生産の仕組みについて学び、ソーシャルケアの前提としての生活理解を深める。具体的には、生活の循環・再生産の基本構造、時間・空間および資源的・地理的構成、主体的・客体的（外的・社会的）要素などについて理解を深め、生活の今日的諸相をとらえることでソーシャルケアの基礎となる生活理解の視点と生活把握の仕方について学ぶ。

〔到達目標〕
①生活を規定している要因と構成要素を学び、構造的な理解を深める。
②生活の動態的（歴史的、生活史的）理解を深め、ライフサイクルの視点から生活課題を理解する。
③生活問題を福祉の枠組みの中で理解し、生活分析と社会福祉との関連性についての理解を深める。
④生活把握と生活分析の様々な手法・研究方法を学び、その技法を習得する。
⑤福祉的援助（ケア・ワーク、ソーシャルワーク、ケア・マネジメント）の目標としての生活の基本原理について理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに：ソーシャルケアと生活理解
第 2 回　生活構造の理解-４つの契機・要素をとおして １.労働・消費・休息・文化活動をとおした狭義の生活の循環・再生産のしくみ
第 3 回　２.家計構造、水準からみた生活の意味
第 4 回　３．生活関係
第 5 回　４.生活の時間軸と生活リズム　　生活時間の構成要素、生活時間の進行（生活・家族周期、ライフ・ステージライフサイクル）生活リズム
第 6 回　生活の空間論-居住・資源・社会空間
第 7 回　サザエさんの生活分析
第 8 回　生活の主体的側面-生活価値と生活の営み（生活経営・管理）
第 9 回　生活の日常性と日々の生活行動
第 10 回　生活の非日常性（生活の危機-家族崩壊、震災）
第 11 回　自分・家族の生活分析
第 12 回　生活と社会制度・社会サービス
第 13 回　生活分析への視点１
第 14 回　生活分析への視点２
第 15 回　生活の理解・分析とソーシャルケア

〔テキスト・参考書・参考文献〕
特定のテキストは用いない。講義時にレジメを配布する。参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーやワークシートの提出　30％、小テスト（2～3回）　30％、最終レポート　40％
学生へのフィードバック：manaba上に掲示又は授業内で解説

〔授業時間外学修〕
新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。（事前学習。目安として1時間）授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。（事後学習。目安として1時間）

〔オフィスアワー〕
授業内で指示する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

医学概論/Introduction to Medicines　2022年度入学

HS1307Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目
2年
2単位　前期
講義
必修

村島 隆太郎

〔授業の概要〕
ヒトの医学生物学の基本概念を理解するために、生体組織、臓器の構造と機能、総合的調節機構、外界刺激への適応機序などについて学び、それらの正常の発現を異常のそれと対比するよう講義する。ヒトの生体の各臓器、脳神経、呼吸器、循環器、消化器、内分泌器、感覚器、泌尿器、生殖器、支持運動器など組織・臓器単位での基本を理解する。その中から特に脳神経や循環器を選びヒトの病態の発生、進展、予後との関連についての基本的概念を理解する。

〔到達目標〕
1.人のライフステージにおける心身の変化と健康問題について理解する。
2.人の身体構造と心身機能について理解する。
3.健康・疾病の捉え方について理解する。
4.疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。
5.公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに、ライフステージにおける心身の変化と健康課題
授業のガイダンス、ライフステージにおける心身の変化と健康課題を学習
第 2 回　健康および疾病の捉え方
健康および疾病の捉え方を学習
第 3 回　身体構造と心身機能
身体構造と心身機能を学習
第 4 回　疾病と障害の成り立ちおよび回復過程
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程を学習
第 5 回　リハビリテーションの概要と範囲
リハビリテーションの概要と範囲を学習
第 6 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害）
感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害を学習
第 7 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（脳血管疾患、心疾患）
脳血管疾患、心疾患を学習
第 8 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患）
内分泌疾患・代謝疾患、呼吸器疾患を学習
第 9 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患）
腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患を学習
第 10 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患）
骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患を学習
第 11 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害）
眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害を学習
第 12 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（口腔疾患、婦人科・産科）
口腔疾患、婦人科・産科疾患を学習
第 13 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（精神疾患、精神障害、発達障害、小児疾患、肢体不自由、知的障害）
精神疾患、精神障害、発達障害を学習
第 14 回　疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（高齢者に多い疾患、生活習慣病（総論）、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア）
高齢者に多い疾患を学習
第 15 回　公衆衛生、まとめ
公衆衛生の概要、健康増進と保健医療対策を学習

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座１　医学概論　一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集　中央法規

〔成績評価の方法・基準〕
1.筆記試験　90％
2.授業参加状況　10％
授業前日にテキストを読み、不明な点があれば授業中または授業後に質問してください。

〔授業時間外学修〕
事前にテキストを読み。受講後に復習すること。予習も復習も1時間程度が目安です。

〔オフィスアワー〕
講義終了後に随時、教室で質問等を受ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
福祉分野で仕事をするための基礎となる知識です。自身や家族の健康にもつながる内容です。

基礎統計法/Basic Statistical Method　2022年度入学

HS1308

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　前期
講義
選択

芳賀 博

〔授業の概要〕
この講義では、社会調査などで得られたデータを要約・記述したり統的に分析したりする際に必要となる、基礎的な統計学的知識を教える。授業では、講義が中心であるが、Excel等を使って統計量を算出するなどの作業も行い、統計学的知識をより深く理解できるようにする。

〔到達目標〕
１）データの型に沿って適切な統計的方法を選択できる
２）記述統計（分布の代表値・散布度、相関と回帰、クロス集計）の意味を説明できる
３）標準正規分布表を使いこなせる
４）推測統計（検定、推定）の意味を説明できる
５）検定・推定の手順を理解し、使いこなせる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　統計的方法（統計学）とは何か
・社会福祉実践活動における統計学の有用性
・記述統計と推測統計　・データの型
第 2 回　母集団と標本　/　１変数を整理する（①）
・母集団と標本の関係・標本抽出法（無作為抽出、有意抽出）
・度数分布表、度数分布図、分布の代表値
第 3 回　１変数を整理する（②）
・分布の散布度（範囲、標準偏差、四分位数、変動係数）
第 4 回　２変数の関係をみる（①）
・量的データ間の関連性をみる（散布図、相関係数、回帰係数）
第 5 回　２変数の関係をみる（②）
・質的データ間の関連性をみる（順位相関、クロス集計、関連係数）
第 6 回　正規分布とは
・正規分布の性質　・標準正規分布　・標準化得点（z）と偏差値
第 7 回　検定の方法
・検定の考え方　・中心極限定理
・母平均の検定（母分散が既知の場合、未知の場合）
第 8 回　平均値の差の検定（対応がない場合）
・大標本の場合　・小標本の場合（t検定、Welch検定）
第 9 回　平均値の差の検定（対応がある場合）
・paired t 検定
第 10 回　ノンパラメトリック検定法
χ２検定
第 11 回　推定の方法
・推定の考え方　・母平均の区間推定
第 12 回　Excelを利用した演習（①）
・データファイルの作成と計算式の入力
・量的データの集計
第 13 回　Excelを利用した演習（②）
・質的データの集計（度数分布）
第 14 回　Excelを利用した演習（③）
・2変数間の関係性を調べる
第 15 回　Excelを利用した演習（④）
・χ２検定　・平均値の差の検定　・相関係数の検定

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：中野正孝　著『新版　看護系の統計調査入門』真興交易医書出版部

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験（80％）
授業への参加姿勢：リアクションペーパーの記載の有無とその内容（20％）
記載内容については、次回の授業時にコメントを返す

〔授業時間外学修〕
1回の授業について１時間程度の予習・復習を行うこと

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
社会福祉の現場では、現実に起きている生活上の問題解決に向けて、さまざまなサービス（事業）を提供していますが、それがどの程度効果的であったのか、常に評価しながら次のサービス提供に繋げていくことが求められています。評価の手段としての統計学的な考え方、データ分析の仕方、結果の解釈の仕方等を身に付けておくことはとても大切なことです。

高齢者福祉論Ⅰ/Social Welfare of Ageing Ⅰ　2023年度入学

HS2101S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
必修

佐藤 嘉夫

〔授業の概要〕
本講義のねらいは、学習のスタートとして高齢者福祉の基礎的理解の涵養を図るところにある。今後、長きに渡り、超高齢化社会としての課題へ向き合う我が国にとって高齢者福祉をめぐる議論は、より複雑化の様相を示し、先行きの見通しも定まらぬ状況にある。しかし、そんな今だからこそ、足元を見直すこと、つまり、積年の成果を確認することから、新たな展望を目指すことが求められる。まずは、高齢者福祉の発展過程を巡り、また要となる制度の基本的な理解を養い、更には、現代的課題となるテーマを概観することによって、本講義の目的を達成したい。

〔到達目標〕
①子どもの成長・発達との対比で「老い」の意味と仕組みが理解できている。
②ライフサイクルの視点から高齢期に至る生活変化と高齢期生活の特徴を理解できている。
③生活ニーズの視点から日本における高齢者福祉の仕組みとその変遷の特徴が説明できる。
④高齢者福祉サービスの方法および供給の多元的状況が説明できる。
⑤高齢者福祉を支える多様なヒューマン・パワーの意義について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　「老い」の現象学１ 老いとはなにか　/講義
第 2 回　「老い」の現象学２ 老いと老年期　/講義
第 3 回　「老い」の生活学１ 老いと家族生活　/講義
第 4 回　「老い」の生活学２ 老いが福祉ニーズを生み出すプロセスと仕組み　/講義
第 5 回　「老い」の社会問題論 人口、産業・労働、生活　/講義
第 6 回　高齢者の福祉１ その意味と今日的意義　/講義
第 7 回　高齢者の福祉２ 基本理念・制度の原則　/講義
第 8 回　高齢者の福祉３ 分野と体系　/講義
第 9 回　高齢者の福祉４ 方法　/講義
第 10 回　高齢者の福祉５「施設」と「在宅」　/講義
第 11 回　今日の高齢者福祉１ 介護保険制度と「老人福祉法」　/講義
第 12 回　今日の高齢者福祉２ コミュニティケア・地域包括ケア　/講義
第 13 回　今日の高齢者福祉３ 家族･地域･ボランテイア　/講義
第 14 回　今日の高齢者福祉４ 高齢者福祉を担う人々とネットワーク　/講義
第 15 回　日本の高齢者福祉の特徴と性格　/講義

〔テキスト・参考書・参考文献〕
特になし。
参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーやワークシートの提出30％、
小テスト（23回）30％、最終レポート 40％
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。

〔授業時間外学修〕
新聞、雑誌、web メディアなどの日々の報道に目を通しておく。（事前学習。目安として 1 時間）
授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。

〔オフィスアワー〕
講義内で周知する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
家族の中にいる高齢者および地域生活の中で出会う高齢者とともに現在から、将来を見据えて高齢者福祉の課題を考えてみましょう。

高齢者福祉論Ⅱ/Social Welfare of Ageing Ⅱ　2022年度入学

HS2102

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　後期
講義
選択

島田 千穂、林 宏二

〔授業の概要〕
本講義では、制度的理解を基盤として、現在の高齢者福祉の状況を巡る施策、サービス事業者、利用者それぞれの現状と課題を理解することをねらいとする。そのために、介護保険法に基づく諸制度・機関（介護保険サービス、地域支援事業、地域包括支援センター等）や関
連制度（日常生活自立支援事業、高齢者虐待防止法等）に関する知識の講義を中心に、事例や報道記事等も用いながら理解を深めていく。
支援する/されるという関係性の理解を通じ、制度の活用に基づく福祉職としての援助のあり方を考える機会を提供する。事例を提示し、支援者と被支援者という一対一の関係性をとりまく多層的システムの認識を高める演習も含めて行う。

〔到達目標〕
・高齢者の身体機能、認知機能の変化のプロセスを理解した上で、支援者としての持つべき態度を学ぶ。
・それまでの人生を経て今があるという視点に立ち、現在、そして将来に向けた支援に必要な高齢者に対する見方を学ぶ。
・高齢者の生活を支える介護保険制度や高齢者福祉制度の仕組みを理解する。
・高齢者施設・在宅サービスを理解する
・高齢者福祉に関する専門職や関係機関の理解と相互の関連性や連携、その中で展開されるケアマネジメントや介護の展開過程などを総合的、体系的に理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　高齢者像の理解
高齢者の身体機能、認知機能の変化と支援の必要性、社会における高齢者への差別（エイジズム）の意味
第 2 回　高齢者の生活の理解
高齢者の生活の実態、生活の場など高齢者の生活の多様性
第 3 回　高齢者へのケアマネジメント
ニーズのアセスメントとケアマネジメント、高齢者のための支援サービス
第 4 回　高齢者と家族
高齢者世帯の実態、家族介護観の変遷、地域による介護観の相違
第 5 回　認知症の高齢者への支援方法
支援場面における多層的関係性の理解、認知症の人へのケア技法（パーソンセンタードケア、バリデーション、ユマニチュード）
第 6 回　高齢者支援における多職種連携
高齢者支援における多職種連携、特に医療と介護との連携を中心に
第 7 回　高齢者支援における尊厳
身体拘束禁止の理由、支援を受ける人の尊厳と意思表明支援
第 8 回　認知症ケアの具体的事例
国内外の先進的な認知症ケア事例の紹介（介護施設、病院、地域の事例）
第 9 回　高齢者に対する支援の制度
老人福祉法，高齢者虐待防止法等
第 10 回　介護保険制度１
全体像・目的と理念
第 11 回　介護保険制度２
制度改正の動向
第 12 回　介護保険制度３
介護保険制度におけるサービス体系
第 13 回　介護保険制度４
地域包括支援センターの役割と実際
第 14 回　介護保険制度５
介護保険法におけるネットワーキングと実際
第 15 回　まとめ
全体の振り返り

〔テキスト・参考書・参考文献〕
授業内で資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕
授業の参加状況（リアクションペーパーの提出）40％、レポート60％
課題に対して、授業内でフィードバックします。

〔授業時間外学修〕
報道される出来事について、社会福祉の課題と関連付けて理解できるよう、情報収集しておくこと。授業前に必ず30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
随時メールで質問してください。対面指導を希望する場合は、まず教員宛にメールで日程調整をお願いします。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
島田千穂：所長代理として特別養護老人ホームに勤務し、要介護高齢者、認知症の高齢者へのケアの実践経験を踏まえて高齢者福祉領域の実践に関する講義・演習を担当する

〔その他履修上の留意事項等〕

障害の福祉学Ⅰ/Social Welfare of Disability Ⅰ
2023年度入学

HS2103Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
必修

高島 恭子

〔授業の概要〕
障害と障害者に対する理解、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）、障害者の法的定義、障害者福祉制度の発展過程、障害者施策の体系及び相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度等、基本的な事項の理解と修得を目指す。これらの知識を基礎に、社会の中での障害者の生活支援の理念と枠組み、支援における地域での連携、協働について理解する。

〔到達目標〕
・障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解し、説明できる。
・障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解し、説明できる。
・障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できる。
・障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解し、説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会環境、福祉・介護需要について考える。
第 2 回　「障害」に関する多様な見方とその背景について学ぶ。障害を構造的に理解すること、国際生活機能分類（ICF）、障害者の定義と特性について学ぶ。
第 3 回　障害者福祉の理念、障害者観の変遷、障害者処遇の変遷について学ぶ。
第 4 回　障害者の権利条約と障害者基本法、障害者福祉制度の発展過程について学ぶ。
第 5 回　身体障害と身体障害者福祉法について学ぶ。
第 6 回　知的障害と知的障害者福祉法について学ぶ。
第 7 回　精神障害と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律について学ぶ。
第 8 回　障害者総合支援法の概要、障害福祉サービス及び相談支援について学ぶ。
第 9 回　障害者総合支援法の障害支援区分及び支給決定、自立支援医療、補装具について学ぶ。
第 10 回　障害者総合支援法の地域生活支援事業、障害福祉計画について学ぶ。
第 11 回　児童福祉法、発達障害と発達障害者支援法について学ぶ。
第 12 回　障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法について学ぶ。
第 13 回　障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法について学ぶ。
第 14 回　障害者と家族等の支援における関係機関の役割、関連する専門職等の役割について学ぶ。
第 15 回　障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割、障害者と家族等に対する支援の実際（多職種連携を含む）について学ぶ。全体を振り返り、「障害」と支援について理解を深める。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規出版.

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の確認リフレクション・小テストの評価を59％、期末試験の評価比率を41％とする。
期末試験では到達目標についてその程度を評価する。
確認リフレクション・小テストについては授業内で取り上げ、フィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
予習：教科書の授業の該当箇所を予め読んで授業に臨むこと。
復習：ノートや資料を読み返し、授業の要点を確認すること。1コマ当たりの準備学習に必要な時間は90分とする。
その他、「障害者福祉」に関連するボランティア活動に参加をしたり、「障がい」をテーマとするTV番組や映画、新聞記事を読むなどして、関心を高めること。

〔オフィスアワー〕
メールにてご連絡ください。（takashima-kyoko●spu.ac.jp）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
「障害者福祉」はどこか私たちとは違う「あの人たち」のものでしょうか。授業では法律を扱うことが多くなるかもしれませんが、社会モデル、人権モデルを基礎に、障害の福祉を一緒に考えていきたいと思います。

障害の福祉学Ⅱ/Social Welfare of Disability Ⅱ
2022年度入学

HS2104M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

２年
2単位　後期
講義
選択

林 宏二、佐藤 園美

〔授業の概要〕

近年、障害者福祉は国際的にも国内的にも大きな変化が生じてきている。本講義では、国際的な障害者の自立生活運動の歴史や障害者福祉の基本的な理念を学び、障害者権利条約や国際生活機能分類（ICF)に照らし合わせて障害の概念の定義が変化してきていることを理解することを目的とする。その上で、日本国内における障害者福祉の法制度・施策（障害者総合支援法)、サービス体系、障害者施設・障害者福祉サービスの種類、就労支援サービス等を取り扱う。

また、精神障害者は疾患と障害を併せ持つという特徴がある。精神障害者の「リカバリー（回復)」の概念を学ぶことで、精神障害についての理解を深める。

〔到達目標〕

１　障害者福祉に関わる基本的な理念を列記し、その歴史的背景、概要を説明することができる。

２　障害者福祉制度を用いて、障害を減じる支援を組み立てることができる。

３　精神障害者にとってのリカバリーとは何か説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP４、DP５

〔授業計画〕

第 1 回　「障害」と「リハビリテーション」の概念及び定義について
林

第 2 回　精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク
林

第 3 回　精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
林

第 4 回　精神障害リハビリテーションの理念、歴史
林

第 5 回　精神障害リハビリテーションの定義、基本原則
林

第 6 回　精神障害リハビリテーションの構成および展開
林

第 7 回　精神障害リハビリテーションのプロセス
林

第 8 回　精神障害に対する医学的リハビリテーション
林

第 9 回　精神障害に対する職業的リハビリテーション
林

第 10 回　精神障害に対する社会的リハビリテーション
林

第 11 回　精神障害に対する教育的リハビリテーション
林

第 12 回　家族支援プログラム
林

第 13 回　リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム
佐藤（園）

第 14 回　精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション
佐藤（園）

第 15 回　依存症へのリハビリテーション
佐藤（園）

〔テキスト・参考書・参考文献〕

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『精神障害リハビリテーション論』中央法規　2021年２月

〔成績評価の方法・基準〕

複数回課すレポートの評価で４０％、期末試験の評価で６０％、さらに到達目標についてその程度を評価する。

最後の回で，皆様から頂いたご質問，ご意見等にお答えします。

〔授業時間外学修〕

予習として、15分，「障害の福祉学Ⅰ」の教科書の中の関連する個所を読み、事前に学んでいるはずの知識を確認して授業に臨むこと。また、回によっては事前配布資料があるので、読んで持ってくること。復習として、15分，毎回の授業での重要項目についての説明と自分なりの考察または感想を小レポートとして提出することがある。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に質問を教室または研究室で質問を受け付ける。また、メール（林：k-hayashi●saku.ac.jp、佐藤（園)：s-sato●saku.ac.jp）では随時質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

林：矯正施設で社会福祉士として５年間勤務し、そのなかで精神保健福祉法第２６条通報業務に携わった経験を活かし、精神保健に関する理念、制度について具体的に講義する。

佐藤（園)：障害者の社会復帰施設で６年間勤務し、地域生活支援を行った経験を活かして、精神障害リハビリテーションについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

本講義では、「障害の福祉学Ⅰ」で学んだ知識を応用し、具体的に理解を深めることを目指します。障害者福祉関連のボランティア活動やイベントに参加するなど、積極的に関心を持ち行動を起こしていただくことを期待しています。

児童福祉論Ⅰ/Social Welfare of Child and Family Ⅰ　2023年度入学

HS2105S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
必修

髙松 誠

〔授業の概要〕
社会福祉の基礎分野としての位置づけから児童・家庭福祉とは何かを考えさせ、児童・家庭福祉への視点を学習させることをねらいとする。現代社会における児童・家庭福祉の社会的背景、児童・家庭福祉ニーズの把握方法、児童の権利、子どもの貧困、子ども虐待、一人親家庭、家庭内暴力（DV）、子育て支援、児童・家庭福祉の法律とサービス体系、児童・家庭福祉に対する相談支援活動等について学ぶ。

〔到達目標〕
①子どもと家庭を取り巻く諸問題とそれらを支援するサービスについて理解することができる。
②社会福祉専門職として求められる子どもへの支援についてのヒューマンケアの視点から知識を習得する。
③児童福祉における法制度や支援体制について知り、それらを活用するための方法論を理解する。
④児童福祉における実践をソーシャルワーク実践との関連で理解し、考察を展開することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（子ども家庭福祉とは）
子どもの権利思想の広がりと子ども家庭福祉の概念規定、社会的養育の視点について学修する。特に児童の権利に関する条約の概要に注目し、それらに通底する子ども観について理解を深める。

第 2 回　子ども家庭福祉の歴史
子どもの権利擁護の歴史の視点から、児童福祉が「子ども家庭福祉」の概念へと至るまでの変遷について学修する。児童憲章及び児童権利宣言などについて言及し、児童の権利・最善の利益についての理解を深める。

第 3 回　子ども家庭福祉の実施体制①
子ども家庭福祉における法制度理解の重要性について理解を深め、現行の諸制度がどのような法的枠組みと実施体制の中で実施されているのかについて学修する。

第 4 回　子ども家庭福祉の実施体制②
子ども家庭福祉における施設運営・財源・専門職について学修する。子ども家庭福祉における財政面・施設運営についての知見を深めておくことの重要性を指摘しながら、専門職の概要や子育て支援制度への参画についても学びを深める。

第 5 回　子ども家庭福祉とソーシャルワーク実践
子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの意義、具体的な支援のプロセスについて学び、以降の講義で取り上げていく事例を理解するための導入的な学修を行う。

第 6 回　子ども・子育て支援
我が国における子ども・子育て支援体制について学修する。その際に地域の実情に合わせた子ども・子育て支援に着目し、いわゆる「児童健全育成」の概念についての理解も深める。

第 7 回　母子保健
母子保健と子ども家庭福祉との関連について学び、子育て世代包括支援センター等の新たな取り組みについても理解を深める。また、母子保健に関する近年の動向として、生育基本法の概要についても指摘を行う。

第 8 回　保育
近年の保育を取り巻く制度の概要、保育を必要とする乳幼児への支援体制について学修する。また、子育て家庭が抱える課題とそれに対応するソーシャルワーク実践にも注目する。

第 9 回　要保護児童等と在宅支援／児童虐待
在宅支援の対象児童の問題における課題について理解を深め、現代社会における子ども・家庭・地域の課題としての児童虐待の問題について、基本的な知識を習得することを目指す。要保護児童対策地域協議会や児童相談所の機能について学ぶ。

第 10 回　社会的養護（社会的養育）
社会的養護（社会的養育）の概要と動向について学修する。家庭養護と施設養護を支える専門職、地域の支援者にも注目し、社会全体が、問題を抱えた子どもを支援していく体制についての理解を深める。

第 11 回　ひとり親家庭／ＤＶ支援
ひとり親家庭に対する支援の基本について触れ、ソーシャルワーカーに求められる支援の在り方について言及する。また、「女性福祉」の中で言及される、ドメスティックバイオレンス支援についても言及する。

第 12 回　スクールソーシャルワーク
子どもの家庭と学校を取り巻く環境において、教育と福祉がどのような形で連携し、問題解決を通じて子どもの最善の利益を実現していくのかを、スクールソーシャルワーカーの業務を参考にしながら、理解を深めていく。

第 13 回　少年非行／若者支援
少年非行への支援の歴史と動向について知り、制度の概要についての理解を深める。また、子どもの貧困、自立支援、ケア等の用語に着目し、若者支援の現行の制度についての理解を深める

第 14 回　障害のある子どもへの支援
インクルージョンや特別支援教育の概念について学修し、子ども家庭福祉における障害のある子どもへの支援サービスについての理解を深める。加

えて、社会資源の重要性、ソーシャルアクションについても言及する。

第 15 回　まとめ

全15回の講義の総括として、これまでの学修内容の復習、確認を行い、権利の主体としての子どもへの適切な支援のあり方を再考する。講義全体を振り返ることにより子ども家庭福祉領域における社会福祉士の役割についても再考を促す。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

大津泰子（2023）『子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

参考文献：授業の中で提示

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験40％　　レポート40％　授業参加状況（小課題等への取り組み・授業への参加態度）20％　なお、レポートについては希望に応じて個別でフィードバックを行うと同時に、レポートの総評をコメントする場を持つ。

〔授業時間外学修〕

・予習：各講義の最後に次回までの予習として、読んでおくべき教科書の箇所を示す。概ね、予習にかける時間は1時間程度になると思われる。

・復習：講義の内容を定着化するために、講義の内容をノート等で記録したことを再確認するとともに、可能ならば、学修・活動経験を記録・蓄積し、自らの成長を確認するためのノートを独自に作成し、それを携帯することを希望する（学修ポートフォリオ）。ノート（含ワープロ等）の再読や、自修内容のノートへの記載も含めて、1時間30分強程度の復習時間が必要であると思われる。

〔オフィスアワー〕

・授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

・スクールソーシャルワーカー及び児童関連施設の支援員等の実務経験からは実践現場での子どもとのかかわりを、中高の教育現場での経験からはソーシャルワーク的な視点からの子どもの支援について言及する。

〔その他履修上の留意事項等〕

・試験とともに、レポートの提出を課する。講義の後半に課題及び提出期限を提示する。

・試験は講義の最終回に内容について具体的に提示する。

・授業中のスマートフォンの使用や授業に関係のない私語は行わないように留意する。

児童福祉論Ⅱ/Social Welfare of Child and Family Ⅱ　2022年度入学

HS2106

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　後期
講義
選択

髙松 誠、尾島 万里

〔授業の概要〕
①児童福祉論Ⅰでの学修内容を展開し、社会的養護及び子育て支援についての理解を深め、児童やその家族の問題、社会との関係等について学ぶ。児童に関する様々な課題、例えば要保護児童問題、非行、不登校、情緒障害など具体的な臨床課題を取り上げ、事例を通してそれらの課題解決のための援助技術について知る。また地域における子どもにかかわる諸団体やNPOの取り組み等を参照し、臨床現場に必要とされる社会資源の活用等についても言及する。
②子育て支援の現状や施策について理解を深め、子育て支援のシステムと子育て支援事業、特別な配慮を要する家庭への子育て支援等について学修を進めていく。

〔到達目標〕
①児童福祉サービスにおける各関係機関の名称と役割についての理解を深めることができる。
②臨床的な視点から、児童福祉の各種サービスにおける実践内容を具体的に理解できる。
③講義を通じて、地域における子育て支援サービスについての取り組みについて知る。
④子育て支援の現状に対する問題意識や関心を高めていく。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業の内容について各担当者からの概要説明を行い（第2－7回：髙松　第8－14回：尾島）、社会的養護と子育て支援に関する問題の所在、施策の現状などについての概要を理解する。

第 2 回　社会的養護の仕組みと実施体系
各種児童福祉施設の理解：児童養護の概念規定について確認したのち、テキスト及び配布資料に沿って、各種児童福祉関連サービスの特色と役割について学習する。学習を通じて、対象とする児童への支援の場を理解することを目指す。

第 3 回　社会的養護の歴史的変遷
社会的養護に関する制度や人物について取り上げ、その共通点や違いなどのついて学修する。比較として、T.J.バーナードや石井十次らの人物を取り上げ、同時に現代の児童養護との連続面と非連続面について考察する。

第 4 回　児童相談所の機能と役割
児童相談所における措置の展開過程について確認する。児童相談所の虐待対応事例、サインズオブセーフティアプローチなど、近年の実践的な事例についても紹介し、児童相談所における業務内容やその目的についての理解を目指す。

第 5 回　社会的養護における子ども理解と支援①
社会的養護における、児童福祉施設の日常生活支援について学ぶ。治療的支援と自立支援および切れ目なく子どもの育ちをはぐくむ支援の実際について理解を深める。施設の小規模化・地域分散化についても学修する。

第 6 回　社会的養護における子ども理解と支援②
社会的養護における、里親支援および養子縁組制度について、施策の動向を踏まえた上で、その制度内容と特性について学修する。家庭的養育の推進について学修し、子どもの最善の利益について考える場ともしていく。

第 7 回　社会的養護の専門職（演習）
児童福祉施設に配置されている主な職種について知る。また、専門職に求められるソーシャルワーク的視点に着目し、事例検討を通じて支援計画の実際に触れる。上記の内容を踏まえた上で、個別支援計画作成の演習を行う。

第 8 回　子育て支援の意義と役割
家族形態の歴史的な変遷を辿る。そして、現代において子育てに取り組む親が抱える問題とその背景について学修し、地域における子育て支援の必要性を理解することを目指す。

第 9 回　子育て支援施策の歴史的変遷と現在の法体制
国の子育て支援施策の変遷を辿り、現在の子育て支援施策を概説し、子育て支援制度を理解することを目指す。

第 10 回　子育て支援のシステムと子育て支援事業
地域における子育て支援事業とはどのような事業があるのだろうか。また、その事業を支える体制はどのようになっているのかを概説する。

第 11 回　子育て支援に関わる専門職と地域住民
子育て支援に関わる支援者にはどのような専門職の人たちがいて、地域でどのような役割を果たしているのか。子育て支援には地域の人たちも関わっているが、どのような活動をしているのか、事例を紹介しながら概説する。

第 12 回　子育て支援の活動内容
子育て支援施設で行われている活動内容や職員たちの役割、及び施設の中で配慮及び工夫していることはどのようなことなのか。学内の保育実習室を使い、体験的に学ぶ。

第 13 回　子育て支援事業を利用する利用家庭への理解
子育て支援事業を利用する親子には様々な社会的問題を抱えている人たちが多い。その特徴と利用家庭への支援について事例を通して検討する。

第 14 回　子育て支援の活動（家庭訪問事業）
子育て支援活動方法の一つである家庭訪問事業を紹介し、家庭訪問による支援とはどのようなものなのか、利用家庭にどのような効果があるのかを紹介し、保護者支援について考える。

第 15 回　まとめ

「社会的養護」「子育て支援」という２つの視点から、子どもの福祉について理解を深めてきたこれまでの講義内容を確認し、学びを児童福祉の臨床の中に今後、どのように生かしていくことができるのかについての課題確認と展望を行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：特に設けない　参考書：厚生労働省（2017）「新しい養育ビジョン」（必要に応じて、受講生が厚生労働省HPよりダウンロード）。その他、適宜、プリント等を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

①レポート・演習での参加状況（髙松）５０％

②レポート・小テスト（尾島）　　５０％

上記①と②から総合的に成績を算出する。レポートについては希望に応じて個別でフィードバックを行うと同時に、レポートの総評をコメントする場を持つ。

〔授業時間外学修〕

・予習について：授業の最後に次回の授業内容を説明し、関連する教科書の箇所を事前に読んでくる。概ね、予習にかける時間は1時間程度になると思われる。

・復習について：講義の内容を定着化するために、講義の内容をノート等で記録したことを再確認するとともに、可能ならば、学修・活動経験を記録・蓄積し、自らの成長を確認するためのノートを独自に作成し、それを携帯することを希望する（学修ポートフォリオ）。ノート（含ワープロ等）の再読や、自修内容のノートへの記載も含めて、1時間30分強程度の復習時間が必要であると思われる。

〔オフィスアワー〕

・授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

私立中高教員、スクールソーシャルワーカーとして勤務（髙松）

コンサルタント（臨床心理士）として地域子育て支援拠点事業に7年間勤務（尾島）

〔その他履修上の留意事項等〕

・小テストへの取り組みおよび課題の提出を重視する。

・レポートは講義の最終回に内容について具体的に提示する。

・授業中のスマートフォンの使用や授業に関係のない私語は行わないように留意する。

女性福祉論/Social Welfare of Women　2022年度入学

HS2107

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2 年
2単位　前期
講義
選択

松岡 英子

〔授業の概要〕
まず社会福祉において女性がどのような役割を担ってきたのか、 歴史的変遷について学ぶ。次に社会福祉が女性の仕事として、主として女性によって担われていること、また担うだけではなく対象者も女性が多くを占めていることに気付き、今日的な社会福祉の課題はジェンダーと密接に関わっていることを理解する。報道記事や配付資料などから、社会福祉をジェンダーの視点で再検討し、女性福祉への理解を深めていく。

〔到達目標〕
ジェンダーの視点から社会福祉をとらえなおす意義を理解する。
ジェンダー問題が社会福祉の政策課題とされる一方で、女性が福祉の受け皿とされている状況を説明できる。
偏見に囚われない物の見方、考え方を身につける。
女性福祉に関する諸問題を多角的にとらえることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　社会福祉とジェンダー
ジェンダーの視点から社会福祉を捉え直す意義を考える。
社会福祉の領域は福祉労働者としてそれを担う人、家庭で担う人、さらには対象者も女性が多くを占めており、ジェンダーの視点による分析や検討が必要であることを理解する。

第 2 回　人権と平等
人権と平等について理解するために、世界人権宣言、国際人権規約をとりあげ、「差別とは何か」を考える。次いで、主要な人権課題を理解し、人権意識を養うことの重要性を説明できるようになる。

第 3 回　ジェンダー平等をめぐる歴史
性差別に関する人々の自覚を歴史的に概観する。19世紀末から20世紀前半に起こったフェミニズム運動を出発点として、現在までの変遷を理解する。時代の特徴と今後の展望や課題を明らかにする。

第 4 回　セクシュアリティの多様性
セクシャリティは近代特有の概念であり、性についての構成要素（生物学的性、社会的性役割、性自認、性的指向）を手がかりに捉えて、その多様性について考える。

第 5 回　女であること、男であること
「女であること」「男であること」を考えるきっかけとして、「女であることの損・得」「男であることの損・得」を取りあげて議論し、現代のジェンダー構造と課題を考える。

第 6 回　女性福祉が取り組むべき課題
これまで5回の講義を踏まえて、女性福祉が取り組むべき課題を明らかにする。

第 7 回　家族をめぐる現代の状況
「家族とは何か」「人はなぜ家族をつくるのか」を考えるために、家族を把握する基礎概念を整理して、家族を客観的に捉える。戦前の家族と戦後の家族を家族制度や家族機能面から比較するとともに、戦後の家族をめぐる動きを説明できるようになる。

第 8 回　家族問題の諸相
日本社会の家族に関する変化（構造、意識など）を理解して、現代の家族問題とその背景について理解する。多様な家族が認められる社会での家族支援のあり方を考える。

第 9 回　結婚観の変化と女性にとっての結婚
かつての日本は皆婚規範が非常に強い社会であったが、その考え方は大きく変化している。結婚観の変化に関する各種データを収集して、日本における結婚観の変化要因を探る。

第 10 回　育児の役割と子育て政策
子育ては誰が担うのか、担ってきたのか、を各種データから探っていく。現在は母親の子育てだけではなく、父親の子育てにも関心が持たれており、父親支援の事例もみられる。子育て支援政策の展開と現状、課題を考える。

第 11 回　教育をめぐる課題
ジェンダー問題の解決のために教育の果たす役割は極めて大きい。小中高校におけるジェンダー問題を議論し、課題をまとめる。

第 12 回　女性労働と労働政策
戦後の女性労働の変遷を調べ、その特徴を明らかにする。それと同時に国の女性に対する労働政策の内容と進展を理解する。

第 13 回　高齢社会の福祉政策
日本の高齢化の進展と特徴を把握し、特に高齢女性が抱える問題点を社会的背景、歴史的背景から考える。また、高齢者のひとり暮らしの問題と対応についても取り上げる。

第 14 回　介護問題と介護保険制度
介護問題は介護の負担・継続不安などの介護そのものだけではなく、介護者の就労困難・所得減少、家族の人間関係の調整などの様々な問題を含んでいることに気付く。介護を社会全体で支えることを目指して創設された介護保険制度についても概観する。

第 15 回　まとめ
ディスカッションを通して女性福祉への理解を深める。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。参考書等は授業中に紹介する。
〔成績評価の方法・基準〕
課題提出 30％
小テスト、最終テスト 50％
授業参加への積極性 20％
小テストやレポートの結果については、授業の冒頭でコメントし、受講生全体で共有する。
〔授業時間外学修〕
予習：指示された資料等を読んだり、自主的に課題を調べて疑問や意見をまとめる。
復習：講義内容を整理し、専門書やWeb検索などで考察を深める。
１回の授業について、２時間程度予習復習を行うこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
講義への主体的な参加を希望します。
日常にあるジェンダーバイアスに敏感になりましょう！

貧困の福祉学Ⅰ/Social Welfare of Poverty Ⅰ
2023年度入学

HS2108S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

1年
2単位　後期
講義
必修

下村 幸仁

〔授業の概要〕
貧困は社会福祉のもっとも古い根源的な主題である。今日の先進諸国においても、貧困はその姿を変えて拡大再生産されている。現代の貧困は、経済的な貧しさを意味するだけでなく、機会の不平等、標準的な生活スタイルからの逸脱、人間関係の希薄・粗雑さ、精神の荒廃や社会的排除など、広く人間関係の「自立」を脅かす現象である。その貧困の防止と貧困者の救済の仕組みは、現代社会の最後のセーフティネットである。
本講義では、社会福祉全体における公的扶助制度の位置と機能や生活困窮者に対する支援のあり方について理解する。特に、わが国の生活保護制度に関する目的、基本原理・原則、保護基準の理解を深める。

〔到達目標〕
【知識・理解】以下の知識体系を身につけ、多角的・総合的に理解することができる。
①貧困の原因を正しく理解ができる。
②生活保護法の原理・原則を理解・説明できる。
【思考・判断】
①生活保護法の目的に即して、利用者の立場を理解した制度理解ができる。
②学修を通して、セーフティナットの中のソーシャルワーク機能の役割を強く認識できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンスおよび貧困状態にある人の生活状態と社会環境
第 2 回　貧困とは何か
第 3 回　公的扶助の概念、目的、役割
第 4 回　公的扶助の歴史（イギリスその１）
第 5 回　公的扶助の歴史的展開（日本）
第 6 回　生活保護の目的と基本原理
第 7 回　生活保護の原則
第 8 回　保護の種類と最低生活費及び算定方式
第 9 回　生活保護の動向
第 10 回　保護の財政及び保護施設の種類とその内容
第 11 回　生活保護の権利と義務、及び不服申立
第 12 回　ホームレス対策
第 13 回　生活困窮者自立支援と低所得者対策
第 14 回　貧困に対する支援機関と専門職及び連携
第 15 回　諸外国の公的扶助制度

〔テキスト・参考書・参考文献〕
福祉臨床シリーズ編集委員会編・伊藤秀一責任編集『貧困に対する支援』弘文堂、2750円

〔成績評価の方法・基準〕
【知識・理解】80％
・貧困の歴史や原因を理解していること。
・生活保護制度の目的や基本原理･原則を理解していること。
【思考・判断】10％（知識と合わせた課題レポートの提出状況と内容）
・貧困・生活困窮状態にある人や生活保護制度を利用している人たちをどのように援助していくべきか思考し、判断できていること。小テスト2回実施。
【態度・志向性】10％
・講義への参画及びリアクションペーパーへの講義内容理解コメント（コメントがないものと、例えば単に「今日は･･･について学んだ。」などの極めて内容のないものについては欠席と見なします。）
　なお、リアクションペーパーに対しては、manaba等で教員からコメントをしますので、再度それを読んで、理解の修正・補完をしてください。

〔授業時間外学修〕
・事前学修では、本シラバスに記載した授業計画に即して、各回に関連したテキストを予め読み、疑問点と分からないところをまとめておくこと（対応テキスト頁は前回にお知らせします）。（20分）
・事後学修では、毎回配布する講義資料（PP資料）と講義内容を基に、必ず問題点や課題について自分の考えを整理しておくこと。（30分）

〔オフィスアワー〕
　月曜日5限

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
行政（福祉事務所）での生活保護ケースワーカー20年間の実務経験やホームレス支援、当事者団体との関わりのなかで経験した事例を交えて、生活保護を利用する方々に対する自立助長およびホームレスや生活困窮者に対する支援活動をしているNPO法人等との連携のあり方などについて講義を進めていきます。

〔その他履修上の留意事項等〕
講義は、テキストとパワーポイントに基づいた対面授業とします。DVD等の視聴覚教材も使用し、教員の一方的な講義ではなく、事前学修を基礎にした自律的な対話形式を心がけて臨んでください。

ヒューマンケア調査論/Methods for Human Care Research　2022年度入学

HS2201Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　後期
講義
必修

関谷 龍子

〔授業の概要〕
住民や福祉のニーズを捉え、社会福祉などの政策・計画の立案を目指すには、一定の技法で生活や暮らしの実態を正確に調査し、的確に把握することが不可欠である。そのための方法が社会調査であり、住民の生活実態や価値が多様化、個別化する中で、その重要性は一層増している。この講義では、社会調査の基本的な知識を学び、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを理解する。また、社会調査の倫理や課題等についても触れてゆく。

〔到達目標〕
・社会調査の基本的な知識を学び、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを理解する。
・社会調査の倫理や課題について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　担当：関谷
社会調査とは何か
第 2 回　担当：関谷
社会調査の種類と特徴
第 3 回　担当：関谷
問題意識と社会調査の企画
第 4 回　担当：関谷
テーマの立案と先行研究の把握
第 5 回　担当：関谷
質的調査の方法①　質的調査の種類と特徴
第 6 回　担当：関谷
質的調査の方法②　非参与観察調査
第 7 回　担当：関谷
質的調査の方法③　参与観察調査
第 8 回　担当：関谷
質的調査の方法④　ヒアリング調査
第 9 回　担当：関谷
量的調査の方法①　標本調査と標本抽出の原理
第 10 回　担当：関谷
量的調査の方法②　調査票の設計
第 11 回　担当：関谷
量的調査の方法③　調査票の作成
第 12 回　担当：関谷
量的調査の方法④　データの整理と集計
第 13 回　担当：関谷
量的調査の方法⑤　データの分析
第 14 回　担当：関谷
調査のまとめと報告書の作成
第 15 回　担当：関谷
社会調査の倫理と課題、学生のコンプライアンス

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト　使用しない。レジュメを配布する。
参考文献　大谷・木下・後藤・小松編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕
授業参加状況　30％
提出物・小レポート　30％
期末レポート　40％
提出物については、主なものを次の回の授業で紹介してコメントします。

〔授業時間外学修〕
毎回、授業の内容に関してコメントシートを提出してもらう。manabaを使用する場合あり（14～15回程度を予定）。また、適宜小リポートを課す場合がある。

〔オフィスアワー〕
質問、相談はまずメールで受け付け、必要ならば研究室に来てもらいます。
関谷メールアドレス　r-sekiya@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ヒューマンケア調査実習/Human Care Research　Practice　2021年度入学

HS2202

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

関谷 龍子、李 省翰

〔授業の概要〕
社会調査は、暮らしや福祉ニーズの把握、住民の意識など福祉政策の論拠を、実証的に裏付けるための重要な方法である。本実習では、ヒューマンケアにかかわる調査法などの講義で学んだ理論的知識や考え方を、実際に地域の場において受講生が体験しながら、プロセスを実地修得し、その結果を地域政策や計画の立案などにどう活かしていくべきかを考える。調査の一連のプロセスを経験することで、専門職の資質形成に関わるもう一つの福祉実習である事を体験的に確認してもらう。

〔到達目標〕
ヒューマンケア調査論などの講義で学んだ理論的知識や考え方を、実際に体験し、プロセスを実地に修得すること。
実践的に課題をクリアしてゆくための応用力を修得し、データの分析や報告文の作成力を養うこと。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　事前学習
　　実習テーマ（佐久市内のバリアフリー化の現状と課題）と進め方の説明
第 2 回　事前学習
　　事前学習課題の発表
第 3 回　事前学習
　　調査計画づくり①
第 4 回　実習
　　観察調査①（佐久市内）
第 5 回　実習
　　観察調査②（佐久市内）
第 6 回　実習
　　観察調査③（佐久市内）
第 7 回　まとめ
　　観察調査結果のまとめと報告
第 8 回　事前学習
　　調査計画づくり②
第 9 回　事前学習
　　調査計画づくり②
第 10 回　実習
　　インタビュー調査①（佐久市内）
第 11 回　実習
　　インタビュー調査②（佐久市内）
第 12 回　実習
　　インタビュー調査③（佐久市内）
第 13 回　まとめ
　　インタビュー調査のまとめ
第 14 回　まとめ
　　インタビュー調査の報告
第 15 回　まとめ
　　活動成果のまとめと発表、課題と反省

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト　使用しない。
参考文献　大谷・木下・後藤・小松編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕
事前学習・調査への参加度　50％
プレゼンテーション・報告　20％
実習ノート・提出物　30％
課題・提出物については、その都度コメントして返却します。

〔授業時間外学修〕
事前学習課題について、分担して調べる。（1回）
調査計画を作成する。（3回）
調査を行ったあと、調査結果を整理する。（2回）

〔オフィスアワー〕
担当者から指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
上記の授業計画は、実習全体を標準的に示したものです。実際の進め方は、第1回で説明します。

ヒューマンケア情報論/Information Theory for Human Care　2022年度入学

HS2203

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2 年
2単位　後期
講義
選択

中嶋 智子

〔授業の概要〕
ヒューマンケアの基本となるコミュニケーションを、ヒトと機械の情報の観点から理解する科目である。近年、個人や組織が最適な健康管理・診療・介護・福祉を受けられるように、“ヘルスケア情報ネットワークの社会基盤づくり“が急速にすすめられている。ヒューマンケアに携わる専門職が、生活情報や健康情報をICTシステムでどのように扱い、多職種と連携しているかについて現状を理解する。また、深刻な社会問題となっている情報格差（デジタル・デバイド）や、情報バリアフリーの考え方などを踏まえて、ヒトと機械との関係の今後のあり方について問いつづけられる情報スキルや倫理観を学修する。

〔到達目標〕
１）情報の特性について理解できる。
２）コミュニケーション上の情報手段の選択と限界・課題が考えられる。
３）ヘルスケア分野の情報化の現況が理解できる。
４）プライバシー情報を扱う専門職の責務と情報倫理(ELSI)の重要性がわかる。
５）多職種連携における情報の発信者としての自覚ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP５、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　コースガイダンス
第 2 回　情報とは何か
　　情報の定義と理解
第 3 回　情報とシステム
　　社会のなかのシステム
第 4 回　ひとの感覚と情報との関係
　　人間の五感、ユニバーサルデザイン
第 5 回　補助・代替コミュニケーション(AAC)
　　点字のしくみ、点字体験
第 6 回　補助・代替コミュニケーション(AAC)
　　視覚障碍について当事者から学ぶ（ゲストスピーカーを予定）
第 7 回　ヒューマンケアとIOT
　　医療や福祉におけるIOT 活用
第 8 回　ヒューマンケアとIOT
　　セラピーロボットの操作の実際
第 9 回　インターネット情報とヘルスリテラシー
　　web検索と信頼情報
第 10 回　社会システムと情報格差
　　グループ演習：点字絵本の作成
第 11 回　社会システムと情報格差
　　グループ演習：点字絵本の作成
第 12 回　デジタル医療と介護の現状と課題
　　遠隔医療と遠隔介護
第 13 回　多職種連携における情報の共有化
第 14 回　ヒューマンケアと情報倫理
　　個人情報保護法とプライバシー
第 15 回　まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
参考書 : 西垣 通 : 生命と機械をつなぐ知 -基礎情報学入門 藝術学舎(2022)

〔成績評価の方法・基準〕
レポート 40％
演習課題 40％
授業後のレスポン 20％
※レポートは返却しませんが、希望に応じて個別でフィードバックします。

〔授業時間外学修〕
各回1時間以上の予習復習を要します。
社会のなかでどのように情報がつかわれているかを意識して生活してみてください。

〔オフィスアワー〕
授業後または、下記のメールにて個別に日程調整します。
中嶋智子　t-nakajima●saku.ac.jp　（●を＠に変えてください）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
医療情報システムの部門管理経験があります

〔その他履修上の留意事項等〕
身近な情報からIOTなどの最先端の情報技術まで幅広い視点から「情報」について考えます。
医療や福祉における情報化の将来について、履修者間で積極的に意見交換してください。

データ解析法/Data Analysis Method　2022年度入学

HS2204

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2 年
2単位　後期
演習
選択

朴 相俊

〔授業の概要〕
統計学の基礎的な知識を学ぶことにより、看護におけるアセスメントや問題解決に応用できるようなデータの収集・整理・処理・判断の仕方の基本を修得する。

〔到達目標〕
統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、Microsoft Excelを活用することで身に付けていく。また各自でアンケート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４

〔授業計画〕
第 1 回　データ分析法／Data analysis method
オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他
統計解析の基礎：医療・看護における統計学の役割や活用方法などについて学ぶ

第 2 回　データ分析法／Data analysis method
「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」
統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ

第 3 回　データ分析法／Data analysis method
「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」
統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ

第 4 回　データ分析法／Data analysis method
「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」
統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅠ
「平均値の差の検定（t検定）」「ピポットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2検定」

第 5 回　データ分析法／Data analysis method
「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」
統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅠ
「平均値の差の検定（t検定）」「ピポットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2検定」

第 6 回　データ分析法／Data analysis method
統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅡ
「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」

第 7 回　データ分析法／Data analysis method
統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅡ
「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」

第 8 回　データ分析法／Data analysis method
調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ

第 9 回　データ分析法／Data analysis method
調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ

第 10 回　データ分析法／Data analysis method
「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」

第 11 回　データ分析法／Data analysis method
「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」

第 12 回　データ分析法／Data analysis method
調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」

第 13 回　データ分析法／Data analysis method
調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」

第 14 回　データ分析法／Data analysis method
調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」

第 15 回　データ分析法／Data analysis method
調査結果発表会

〔テキスト・参考書・参考文献〕
Excelでここまでできる統計解析 第2版、日本規格協会

〔成績評価の方法・基準〕
調査課題の関連レポート（70％）
調査課題のフィードバックについては講義時に指示する。
授業参加状況（30％）

〔授業時間外学修〕
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。
*毎回の授業について1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける
授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメール

で受け付ける。
（s-park@saku.ac.jp）
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

質的研究法/Qualitative Research Methods　2021年度入学

HS2205

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

島田 千穂、阿部 友香

〔授業の概要〕
人を対象としたケアの研究法のうち、面接や観察によって得られたデータを意味論的に解析する質的研究の理論と方法について学ぶ。具体的な演習を交えて、データ収集から分析の過程を体験する。
質的研究法の各技法を理解することにより、将来、社会福祉領域で働く専門職にとって有用な方法を選択できるようになることをめざす。研究のためだけでなく、実践においても援助技術を振り返る目的での活用や新たな援助技術の開発、根拠のある援助技術構築に生かせる手法として、質的研究法を学ぶ。

〔到達目標〕
・質的研究法の特徴について、量的研究法と比較して長所と短所を理解する。
・インタビュー、及び参与観察によるデータ収集と、分析の実習を通じて、質的研究の進め方について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　質的調査法概論
ヒューマンケア調査論の中で取り上げた質的調査法に関する講義を復習し、特に調査に臨む場合の倫理的配慮について学ぶ
第 2 回　フィールドワーク１
フィールドワークの方法（行動観察、ノートの取り方など）についての講義・演習
第 3 回　フィールドワーク２
身近な現場に出かけて、実際に観察調査を行う
第 4 回　フィールドワーク３
自分がとったフィールドノートの内容の確認、分析、発表
第 5 回　インタビュー法１
教室内でインタビューの実施。インタビューメモの作り方。
第 6 回　インタビュー法２
インタビュー法を使って調べたいテーマと対象を選定する。研究疑問を立て、インタビューガイドを作成する。
第 7 回　インタビュー法３
インタビュー計画に基づき、簡易なインタビューを実施する。
第 8 回　インタビュー法４
逐語録を作成する。
第 9 回　インタビュー法５
分析方法を学び、ストーリーを作成する。発言の引用の仕方を学ぶ。
第 10 回　インタビュー法６
逐語録を用いて、コーディングとカテゴリー化を行う。
第 11 回　インタビュー法７
逐語録を用いて、コーディングとカテゴリー化を精査し、結果を整理する。
第 12 回　テキストマイニング１
分析ソフトを用いたテキストマイニングの方法を知る。
第 13 回　テキストマイニング２
分析ソフトを用いたテキストマイニングの分析結果から、考察する。
第 14 回　レポート作成１
フィールドワーク、インタビュー、テキストマイニングのいずれかを使って、自分の知りたいテーマについて分析結果をまとめる
第 15 回　レポート作成２
フィールドワーク、インタビュー、テキストマイニングのいずれかを使って、自分の知りたいテーマについて分析結果をまとめる

〔テキスト・参考書・参考文献〕
参考書：岸政彦、石岡丈昇、丸山里美（2016）質的社会調査の方法．有斐閣ストゥディア

〔成績評価の方法・基準〕
授業内での提出物（60％）、授業内でのレポート課題提出（40％）
提出された課題に対してコメントをフィードバックします。

〔授業時間外学修〕
授業は、取り組み課題の疑問点を確認したり、整理したりする時間になります。問いを見つけ、問いを細分化し、答えに近づくデータを探すプロセスは各自で行ってもらうため、図書館やインターネットを活用し、授業の前後の時間（1時間程度）を使う必要があります。

〔オフィスアワー〕
随時メールで質問を受け付けます。対面指導を希望する場合は、まずメールで連絡してください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ソーシャルワーク論Ⅰ/Social Work Ⅰ　2022年度入学

HS2206S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　前期
講義
必修

脇山 園恵

〔授業の概要〕
ソーシャルワークが必要とされる社会状況とソーシャルワーカーに求められる役割を入門的に学ぶ。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」への理解を深め、社会福祉士や精神保健福祉士によって行われる相談援助の理念や、相談援助における権利擁護の意義と範囲、相
談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解する。これらの理解をもとに、人々の多様性を尊重し人権擁護と社会正義を進めるための、総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容について理解する。社会の
課題に関心を持ち積極的に向き合う姿勢を養うことを通して、学部の理念である「豊かな人間性」と「問題解決能力」を修得することをねらいとする。

〔到達目標〕
①ソーシャルワークの対象について、ミクロ・メゾ・マクロレベルの観点から説明できる。
②ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲について、医師や看護師といった他の対人援助専門職との違いを踏まえ、ソーシャルワークの独自性の観点から説明できる。
③ソーシャルワークにおける権利擁護の意義について、具体的な場面に即して説明できる。
④具体的な場面におけるソーシャルワークにかかわる専門職を列挙し、多職種連携の意義を説明できる。
⑤総合的かつ包括的な援助におけるソーシャルワークの専門的機能について、具体的な場面に即して、ミクロ・メゾ・マクロレベルにわたる多面的な働きかけの具体から説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５、DP６

〔授業計画〕
＜１回目＞オリエンテーション
＜2回目＞ソーシャルワークの枠組み・構成要素とソーシャルワーカーのコンピテンシー
＜3回目＞現在のソーシャルワーカーに求められている専門性とソーシャルワーク実践領域
＜4回目＞ソーシャルワークにおける対象の違いによるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践
＜5回目＞①多職種連携の意義、専門職の成立要件、職能団体の役割、②社会福祉が担う多様な職域とソーシャルワークにかかわる専門職、③諸外国におけるソーシャルワーク専門職の動向
＜6回目＞ソーシャルワーカーの倫理綱領からソーシャルワーク専門職の役割を学ぶ①
＜7回目＞ソーシャルワーカーの倫理綱領からソーシャルワーク専門職の役割を学ぶ②
＜8回目＞相談援助における権利擁護の意義とソーシャルワークを学ぶ
＜9回目＞「多問題家族への支援」「権利擁護機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ
＜10回目＞起こりうる社会不正義を知り、権利擁護が必要となる様々な場面を学ぶ
＜11回目＞「総合的かつ包括的な援助」の動向と背景、その中でのソーシャルワークの専門的機能
＜12回目＞「個と地域の一体的支援機能」「予防機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ
＜13回目＞「新しいニーズへの対応機能」「総合的支援機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ
＜14回目＞「社会資源開発機能」に関する事例を通して専門的機能を学ぶ
＜15回目＞授業全体を振り返り、ソーシャルワーカーの倫理綱領、総合的かつ包括的な援助と多職種連携について、理解を整理する。
〇講義形式（学生諸君自らが考察できるように、教科書以外に映像資料や事例などを教材に用いて解説）です。基本的にはパワーポイントを使用します。
〇学生諸君が授業に主体的に取り組めるよう、①学生諸君によるミニレクチャ―（6回目～15回目の授業）②授業中の「Think Pair Share」を取り入れます。①のミニレクチャ―は、チームごとに社会不正義だと思う出来事を具体的にあげ（新聞記事などを情報源に事実を確認できる形で提示）、その出来事の背景にあると考えられることを発表します。
☞発表時間：10分程度

〔テキスト・参考書・参考文献〕
≪教科書≫
●一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『ソーシャルワークの基盤と専門職〔共通・社会専門〕』中央法規【2,900円＋税】
≪参考書≫
●得津慎子（2017）『ソーシャルワーク―ジェネラリストソーシャルワークの相談援助―』ふくろう出版〔2,300円＋税〕
→図書館にあります。
●ソーシャルワーク入門のレジュメ

〔成績評価の方法・基準〕
①課題40％、②ミニレクチャ―への取り組み10％、③期末試験50％　※課題には採点とコメントを付して返却します。

〔授業時間外学修〕
・予習として教科書の該当箇所を読んでくること。ミニレクチャ―に向け、調査・ハンドアウトの作成をすること（15時間／15回）
・復習として、毎回の授業の到達目標への到達を確認するための課題（小テスト、小レポート）を提出すること（15時間／15回）

〔オフィスアワー〕
随時、質問はメールで受け付けます（s-wakiyama●saku.ac.jp）。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、生活困窮者自立支援機関などで相談援助業務を10年以上行ってきました。実務経験をもとにソーシャルワークの基本的な技術とソーシャルワーカーに求められる役割をできるだけわかりやすく講義します。
〔その他履修上の留意事項等〕
・社会福祉士資格科目です。10回（２／３）以上の出席は必須です。15回目の授業終了時に出席回数が10回に満たない場合は、期末試験の受験資格の喪失及び成績評価対象外となります。
・遅刻はしないようにしてください。3回の遅刻で1回の欠席とします。なお、30分以上の遅刻・早退は出席とみなしません。

ソーシャルワーク論Ⅱ/Social Work Ⅱ　2022年度入学

HS2207Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　後期
講義
必修

野坂 洋子

〔授業の概要〕

この科目では、人と環境の交互作用、相談援助の対象、相談援助における援助関係、相談援助のための面接技術について学び、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。またその中で、人間関係とコミュニケーションへの理解を深め、対話を重視し、自律的に考える力を培うことをねらいとする。

〔到達目標〕

・ソーシャルワークにおける「人と環境の交互作用」の考え方を説明できる。
・対象レベル(ミクロ・メゾ・マクロ)に合わせたソーシャルワークについて具体的に説明できる。
・ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの意義と方法について説明できる。
・ソーシャルワークにおける基本的な展開過程について具体的に説明できる。
・ソーシャルワークに必要な知識と技術について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP２

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本授業のシラバス内容の確認を行う。
[準備]シラバスを熟読しておく。

第 2 回　システム理論①
システム理論の考え方とその歴史的発展について学ぶ。
[準備]システム理論について自分でも調べてみる。

第 3 回　システム理論②
システム理論のソーシャルワークへの応用について学ぶ
[準備]前回授業で学んだシステム理論の内容を復習しておく。

第 4 回　人と環境の交互作用①
ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用という捉え方について学ぶ。
[準備]人と環境の交互作用とは何かを自分でも調べてみる。

第 5 回　人と環境の交互作用②
ソーシャルワークにおける人と環境のありようについて整理する記録技法を学ぶ。
[準備]前回授業で学んだ人と環境の交互作用について復習しておく。

第 6 回　人と環境の交互作用③
前回の授業にてみた視覚教材のその後の展開を視聴し、記録技法を学びつつ、人と環境の交互作用の変化について学ぶ。
[準備]前回授業で学んだ人と環境の交互作用と、視覚教材の内容について復習しておく。

第 7 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ①
ソーシャルワークのプロセスと、各段階の特徴について理解する。
[準備]ソーシャルワークのプロセスについて自分でも調べてみる。

第 8 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ②
母子生活支援施設の事例を通してアセスメント方法を学ぶ。
[準備]アセスメントと母子生活支援施設について自分でも調べてみる。

第 9 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ③
児童相談所の事例を通してアセスメント方法を学ぶ。
[準備]児童相談所について自分でも調べてみる。

第 10 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ④
人の多面的な理解とは何かを学び、アセスメントに活かせるようにする。
[準備]人の多面的な理解とは何かを自分でも調べてみる。

第 11 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ⑤
バイオ・サイコ・ソーシャルの視点を用いたアセスメントについて学ぶ。
[準備]バイオ・サイコ・ソーシャルの視点について自分でも調べてみる。

第 12 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ⑥
プランニングについて理解を深める。
[準備]ソーシャルワークのプロセスにおけるプランニングについて自分でも調べてみる。

第 13 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ⑦
支援の実施とモニタリングについて理解を深める。
[準備]ソーシャルワークのプロセスにおける支援の実施とモニタリングについて自分でも調べてみる。

第 14 回　ソーシャルワークのプロセスを学ぶ⑧
支援の終結と事後評価、アフターケアについて理解を深める。
[準備]ソーシャルワーク実践におけるアフターケアの具体的な内容について自分でも調べてみる。

第 15 回　まとめ
これまでの授業全体を振り返る。
[準備]これまでの授業内容のすべてを振り返っておく。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『12 ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］』中央法規（赤

色のテキスト）
参考文献：ソーシャルワーク論Ｉにて使用したテキスト(日本ソーシャルワーク教育学校連盟
（2021）『11ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規）を必要に応じて使用。
〔成績評価の方法・基準〕
定期試験[70 %]，出席状況[30 %]
提出された課題については、必要に応じて授業開始時にフィードバックを行う。
〔授業時間外学修〕
時間外学習として各回の［準備］内容についてと、受講した授業内容の振り返りに毎回90分取り組む。
〔オフィスアワー〕
お昼休み、もしくは水曜日5時限目。教員が不在の場合はy-nosaka●saku.ac.jpまでメールにて相談の上、予約を取るようにしてください。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

ソーシャルワーク論Ⅲ/Social Work Ⅲ　2021年度入学

HS2208Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目
３年
2単位　前期
選択

林 宏二

〔授業の概要〕
ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。この科目では、ソーシャルワークを進めるにあたり、どのように相手と向き合い支援を進めていけばよいかを考え、理解する。そのために、相談援助の過程とそれに係る知識・技術（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。)、アウトリーチについて学ぶ。相談援助の過程を学び、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解することを通して、「問題解決能力」を高めることをねらいとする。

〔到達目標〕
１　ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。
２　集団を活用した支援の意義と基本的展開過程を説明できる。
３　コミュニティワークの概念とその展開について説明できる。
４　ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション　科目の到達目標、進め方、授業外学習などについて確認し、予備知識と期待を整理する 。
林
第 2 回　ソーシャルワーク実践モデル(医学モデル・生活モデル・ストレングスモデル)を理解する。
林
第 3 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する①(心理社会的アプローチ)
林
第 4 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する②(機能的アプローチ)
林
第 5 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する③(問題解決アプローチ)
林
第 6 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する④(課題中心アプローチ)
林
第 7 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する⑤(危機介入アプローチ)
林
第 8 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する⑥(行動変容アプローチ)
林
第 9 回　ソーシャルワークのアプローチ方法について理解する⑦(エンパワメントアプローチ,ナ ラティブアプローチ,解決指向アプローチ)
林
第 10 回　集団を活用した支援を理解する①(意義と目的)
林
第 11 回　集団を活用した支援を理解する②(原則と展開過程)
林
第 12 回　基本的なコミュニティワークの展開を理解する①(意義と目的)
林
第 13 回　3基本的なコミュニティワークの展開を理解する②(展開過程)
林
第 14 回　スーパービジョンおよびコンサルテーションの意義・目的・方法について理解する。
林
第 15 回　授業全体を振り返り、ソーシャルワークにおける各種理論や方法に関わる知識・技術について整理する。
林

〔テキスト・参考書・参考文献〕
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座　ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』中央法規、２０２１年２月

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーの評価で２０％、期末試験の評価で８０％、さらに到達目標についてその程度を評価する。
最後の回で，皆様からいただいたご意見，ご質問等にお答えします。

〔授業時間外学修〕
予習として、指定テキストとレジュメ集をよく読んでおくこと。復習として、ポイント集に沿って学んだ内容を確認すること。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に質問を教室または研究室で質問を受け付ける。また、メール（林：k-hayashi●saku.ac.jp）では随時質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
矯正施設で社会福祉士として５年間勤務し、受刑者の社会復帰に携わった。その時に身につけたクライエントが抱える課題へのアプローチの方法、また地域組織化の方法、社会資源の活用方法等を講義のなかで伝授する。

〔その他履修上の留意事項等〕
講義の内容は非常に抽象的です。これまでのボランティア、実習等で経験したことと照らし合わせながら講義に臨んでください。

ソーシャルワーク演習Ⅰ/Social Work Excercises and Practice Ⅰ　2022年度入学

HS2209S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　前期
演習
必修

髙松 誠、李 省翰、上西 一貴、山口 圭

〔授業の概要〕

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得を目指す。

〔到達目標〕

①グループ内での自分の役割を理解し、積極的に参加することができる。
②他者の異なる意見や価値観を受け入れることができる。
③他者とのかかわりのなかで自己を振り返ることができる。
④場面に応じたコミュニケーションを体験し、工夫することができる。
⑤基本的面接技法を体験し、活用できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP４、DP５

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーションと自己理解
ソーシャルワーク演習の授業を開始するためのオリエンテーションとして①ソーシャルワーク演習の位置づけ、②ソーシャルワーク演習を学修していく意義、③演習を進めていくための出発点として「自己理解」についての説明を行う。

第 2 回　グループワークの基礎
受講者をいくつかのグループに分けた上で、各担当教員の指示のもと、グループワークの基礎について、実際の演習や解説等を交えながら学修を進める。グループワークを通じて「ソーシャルワーク演習Ⅰ」での学修内容や到達目標について理解を深めていく。グループワークの基礎的な知識を学修する。

第 3 回　グループワークでの役割分担の整理（自己や他者の価値観を知る）
ソーシャルワークにおいてクライエントの問題を理解するために、クライエント及び他者との信頼関係を構築することは重要である。前時のグループワークについての説明を踏まえた上で、演習実施後、グループワークでの役割体験を振り返り、グループごとに個人のプレゼンテーションを行い、自己や他者の価値観をの違いについて理解を深める。これらの活動を通じて、実践の場で生じる多様性に対応していくための力量の形成を目指す。

第 4 回　異なる価値観の調整
ソーシャルワークにおける「価値」について、倫理綱領等も参照しながら、事例検討を通じて、自らの価値観や生き方を問い直すプロセスを学修する。上記の演習を通じ、社会福祉専門職としての「価値」についても考える機会とする。

第 5 回　カウンセリング技法（言語・非言語コミュニケーション）
社会福祉専門職に必要とされる、面接における基本的なカウンセリング技法について、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを、演習を通じて学修する。

第 6 回　カウンセリング技法（内容・感情の反射、適切な質問）
面接における基本的応答技法として、「内容の反射」「感情の反射」に関するもの、「質問」「支持」「直接的なメッセージの伝達」等を学修する。演習を通じて、面接がどのように効果的に行われるのかを実践的に理解する。

第 7 回　カウンセリング技法（リフレイミング、情緒的な支持）
既にその人が持っている意味づけや解釈を、異なる視点で捉え直すための技法として「リフレイミング」を、相手のありのままを認め、相手から受容されていく体験のために、「傾聴」「要約」「共感」の技法を通じて「情緒的な支持」の重要性を演習を通じて理解する。

第 8 回　ラポール、関係形成（ソーシャルワークにおける関係性）
話し手と聞き手の間に構築される信頼関係（ラポール）について、純粋性、受容的態度、共感的理解等のキーワードを理解しながら、演習を通じ、学びを深める。また、ラポール構築に求められる「関係形成」について、カウンセリングの基本的態度（純粋性、受容的態度、共感的理解）に重点を置いて演習を行う。

第 9 回　ソーシャルワークの展開過程①（ケース発見・アセスメント）
事例検討を通じて、具体的な問題状況などを見出し、相手のニーズや生活課題について支援を行っていく上での入り口部分に当たる「インテーク」（エンゲージメント）について演習を通じて理解を深める。インテークを通じて見出される課題（ケース発見）の情報分析等について演習を行い、アセスメントの概念についても説明する。

第 10 回　ソーシャルワークの展開過程②（アセスメント）
事例を参照しながら、支援方針を立てるためにアセスメントシートを用いて情報を収集し、当事者

が抱えている問題を明確化していくための演習を行う。具体的な方法として、記録の書き方、エコマップ、ジェノグラムの手法についても理解を深める。

第 11 回　ソーシャルワークの展開過程③（プランニング）
前時に学習したアセスメントに関する学修に基づいて、事例から、具体的な支援の目標を定め、支援計画を作成していくプロセスについて演習を行う。支援計画の作成においては、利用者のウェルビーイングを意識した目標達成を意識する。

第 12 回　ソーシャルワークの展開過程④（実施）
事例を通じて、支援計画の実施・介入（インターベンション）についての演習を行う。また、介入後の過程評価（モニタリング）についても学修する。演習の中で、支援を実施した援助者に対する短期・中期・長期の支援目標を意識しながら事例と向き合っていく。

第 13 回　ソーシャルワークの展開過程⑤（終結）
ソーシャルワークの展開過程の終結部分について、事例を用いながら、それが支援を単に終わらせることではなく、ワーカーとクライエントの双方が、これまでのかかわりを振り返り援助の場から分離していく援助過程の一部分であることを確認し、演習を実施する。結果評価（エバリュエーション）、アフターケアについても言及する。

第 14 回　倫理的ジレンマ（事例のプレゼンテーション）
社会福祉専門職が陥る、倫理的ジレンマについて、事例を参照しながら話し合いを行ない、専門職の倫理と価値の重要性について再考する場ともする。

第 15 回　グループのまとめ
ソーシャルワーク演習Ⅰで学んだ、諸事項を整理し、各グループ内で話し合いを行い、その成果を共有することで、演習全体のまとめを行い、継続科目であるソーシャルワーク演習Ⅱとの関連性についても説明する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
サブテキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編（2021）『ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

〔成績評価の方法・基準〕
グループワークへの参画（リアクションペーパーを含む）40％
レポート60％　レポートについては希望に応じて個別でフィードバックを行うと同時に、レポートの総評をコメントする場を持つ。

〔授業時間外学修〕
・予習として、日頃より新聞等で、常に社会でおきている問題に関心を寄せ、その原因・理由について自分の考えをノートなどにまとめておくこと（３－４日ごと毎回1時間30分程度）。
・復習として、毎回の授業での重要項目についての説明と、演習を通しての自分自身の気づきを要約し蓄積していく（1時間30分程度）。

〔オフィスアワー〕
初回演習でアナウンスします。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
主担当者は、県教育委員会のスクールソーシャルワーカー、私立中高教員の経験あり

〔その他履修上の留意事項等〕
・毎回のレポートのフィードバックは授業内で行う。
・演習では、自分の考えや感じたことを他者と共有し、自分自身を振り返りつつ、互いを受け入れ、協力することが大切です。積極的に参加して下さい。

ソーシャルワーク演習Ⅱ/Social Work Excercises and　2022年度入学

HS2210S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

２年
2単位　後期
演習
選択

島田 千穂、李 省翰、上西 一貴、山口 圭

〔授業の概要〕

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。

授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

この科目では、具体的な相談援助事例等を題材とし、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア、など）を想定した実技指導を行い、ソーシャルワークの過程についての知識と技術を実践的に習得することをねらいとする。

〔到達目標〕

①具体的な相談援助場面において、基本的な面接技法を用いることができる。

②相談援助の各過程において、留意することをふまえた言動を臨機応変にとることができる。

③集団に対する相談援助の各過程において、留意すべきことをふまえた言動を臨機応変にとることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP５、DP６

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
科目の到達目標、進め方、演習を進めるにあたってのルールなどを確認する。

第 2 回　基本的な面接技術の概要を確認し、相談援助における面接の目的と特性について 事例を通して体験的に学ぶ。

第 3 回　面接の基本姿勢を確認し、相談援助における傾聴・共感・支持の示し方について 事例を通して体験的に学ぶ。

第 4 回　基本的な応答技法を確認し、相談援助における各種の応答技法とその役割につい て事例を通して体験的に学ぶ。

第 5 回　インテークの場面を想定し、相談援助における初期の関係構築について、事例を 通して体験的に学ぶ

第 6 回　アセスメントの場面を想定し、相談援助における初期の情報収集と分析につい て、事例を通して体験的に学ぶ。

第 7 回　プランニングの場面を想定し、相談援助における支援計画の立て方について、事 例を通して体験的に学ぶ。

第 8 回　支援の実施の場面を想定し、相談援助における支援計画の実行について、事例を 通して体験的に学ぶ。

第 9 回　モニタリング、終結、評価の場面を想定し、計画実行後のモニタリングと効果測 定、援助関係の適切な終結とアフターケアについて、事例を通して体験的に学ぶ。

第 10 回　集団に対する相談援助を想定し、グループワークの展開過程の前半（準備期、開 始期）について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 11 回　集団に対する相談援助を想定し、グループワークの展開過程の後半（作業期、終 結期）について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 12 回　議論を促進する際のコミュニケーションについて、専門的な場面における議論の 進め方を事例を通して体験的に学ぶ。

第 13 回　ブレインストーミングと情報整理について学び、専門的な場面におけるアイディ アの出し方とまとめ方を事例を通して体験的に学ぶ。

第 14 回　プレゼンテーションの際のコミュニケーションについて、専門的な場面における 発表の仕方を体験的に学ぶ。

第 15 回　授業全体を振り返り、ソーシャルワークの過程についての知識と技術を整理す る。受講生自身による振り返りとまとめを行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

サブテキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編（2021）『ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

〔成績評価の方法・基準〕

グループワークへの参画（リアクションペーパーを含む）40％
レポート60％

授業中にフィードバックします。

〔授業時間外学修〕

・予習として、教科書の該当箇所を読んでくること。30分程度

・復習として、毎回の授業での重要項目についての説明と、演習を通しての自分自身の気づきを小レポートとして提出すること。60分程度

〔オフィスアワー〕

初回演習時に案内します。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

・毎回のレポートのフィードバックは授業内で行う。

・演習では、自分の考えや感じたことを他者と共有し、自分自身を振り返りつつ、互いを受け入れ、協力することが大切です。積極的に参加して下さい

看護ケア論/Nursing Care　2022年度入学

HS2301

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　前期
講義
必修

八尋 道子、武田 貴美子

〔授業の概要〕

看護は、個人・家族・地域を対象とした健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を目指して支援することを主な目的としている。実践の科学といわれる「看護学」の基本的な定義、理論を学び、看護専門職の行うケアの意義や援助について理解することを目指します。

〔到達目標〕

1. 看護の目的と対象について説明できる
2. 看護職の役割と具体的な実践について説明できる
3. 看護におけるケアリングについて事例を用いて説明できる
4. ケアの前提となる考え方について学び、自分の言葉で表現できる
5. ケア提供者の役割について自分の言葉で説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP３、DP４

〔授業計画〕

第 1 回　ケアとは何か
オリエンテーション
ケアとは何か　　ケア論　　【講義／八尋】

第 2 回　ケアの本質
ビデオ学修　　【講義・演習／八尋】

第 3 回　看護の目的と対象（１）
看護とは何か　看護の対象
ナイチンゲール　ヘンダーソン　健康の定義
【講義／八尋】

第 4 回　看護の目的と対象（２）
「人間」「環境」「健康」について考えよう
【講義／八尋】

第 5 回　看護の目的と対象（３）
看護師の果たすべき4つの基本的責任
「健康の保持増進」「疾病の予防」「健康の回復」「苦痛の緩和」【講義／八尋】

第 6 回　専門職のチームワーク
アドボカシー　　意思決定支援　　多職種連携
【講義・演習／八尋】

第 7 回　専門職としての看護
専門職としての看護のありかた、看護師の働く場について学ぶ
【講義／武田】

第 8 回　看護を展開する
看護過程の構成要素（アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価）について学ぶ
【講義／武田】

第 9 回　対象と関係を築く
“看護師は何をしているのか”を視点に、対象と関係を築くことについて考える【講義／武田】

第 10 回　対象のニーズをとらえる
“看護師は何をしているのか”を視点に、対象のニーズをとらえることについて考える
【講義／武田】

第 11 回　看護とケアリング（１）
看護におけるケアリングについて理解する（１）
ケアリングとは　　看護におけるケアリングの理論　【講義／武田】

第 12 回　看護とケアリング（２）
看護におけるケアリングについて理解する（２）
ケーススタディ　【演習／武田・八尋】

第 13 回　看護とケアリング（３）
看護におけるケアリングについて理解する（３）
ケーススタディ【演習／武田・八尋】

第 14 回　ケア提供者としての役割とは
コースサマリー
看護職の行うケアの意義を踏まえ、ケア提供者としての役割について整理しよう①
【演習／八尋・武田】

第 15 回　ケア提供者としての看護師の能力とは
コースサマリー
看護職の行うケアの意義を踏まえ、ケア提供者としての役割について整理しよう②
【演習／八尋・武田】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

授業のたびに資料を配付します

〔成績評価の方法・基準〕

1. 課題レポート　40％（800字程度の個人レポートを課します）
2. 最終レポート　60％　（1,400～1,600字程度の個人レポートを課します）

各レポートの結果は、個別に問い合わせが可能です
メールでご連絡をいただければ、フィードバックを行います（初回ガイダンスで説明します）

〔授業時間外学修〕

授業内容に関連した事前課題に取り組んだうえで講義・演習に参加し、授業後は講義・演習で学んだことを自分の言葉でまとめてください。毎回30分は確保すること

〔オフィスアワー〕

授業終了後
八尋　：木曜日17時50分～19時（まずはメールをください）
m-yahiro●saku.ac.jp　研究室は、5号館2階 R205
武田：随時、メールで質問に対応します。
k-takeda●saku.ac.jp 研究室は、5号館3階 R310

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

教員は二人とも臨床看護師としての実務経験を有しています

〔その他履修上の留意事項等〕

メールや manaba で問い合わせると次の授業までにフィードバックを受けることができます。
ただし疑問や不明な点は履修生全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業のなかで解決しましょう

福祉臨床論/Study of Social work Practices　2021年度入学

HS2302

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　前期
選択

塩村 公子

〔授業の概要〕
入力不要
〔到達目標〕
1. 福祉臨床の意味を説明することができる.
2. ソーシャルワークの価値・視点・主要な基礎理論について説明できる.
3. 援助プロセスを理解し，多様な生活課題について各種援助技術の適用を考えることができる.
4. ソーシャルワークの価値・視点と自身の価値・視点を比較検討し，言語化することができる.
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP３、DP４、DP５、DP６、DP７
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・臨床福祉が意味すること
ソーシャルワーク全体の中のクリニカル・ソーシャルワーク
テキスト該当箇所：序章「生の営みの困難」，1章「生の営みの困難援助の専門職」
第 2 回　クリニカル・ソーシャルワークの歴史
ソーシャルワークの発達史
テキスト該当箇所：2章「福祉援助の臨床という視点」3章「福祉援助の臨床：その基本技能は面接」
第 3 回　クリニカル・ソーシャルワークにおける価値
クリニカル・ソーシャルワークにおける大・中・小・理論
テキスト該当箇所：4章「援助関係の考察」5章「面接の技術のスキルとしてのコミュニケーション」
第 4 回　支援の基礎となる各種理論（視点1）
社会構成主義
システム論
第 5 回　支援の基礎となる各種理論（視点2）
バイオ・サイコ・ソーシャル
第 6 回　支援の基礎となる各種理論（介入1）
危機介入
第 7 回　支援の基礎となる各種理論（介入2）
認知行動療法
第 8 回　支援の基礎となる各種理論（介入3）
ストレングス・オープンダイアローグ・ナラティブアプローチ
第 9 回　支援の基礎となる各種理論（介入4）
家族介入
第 10 回　支援の基礎となる各種理論（介入5）
集団介入
テキスト該当箇所：8章「援助方法としての集団場面および集団関係の活用」
第 11 回　支援のプロセス1
援助の入り口とインテーク・アセスメント
テキスト該当箇所：6章「援助の始まり：援助課題の確認」
第 12 回　支援のプロセス2
プランニングと介入
テキスト該当箇所：7章「援助計画（目標・方法・期間）と共同作業」
第 13 回　支援のプロセス3
モニタリング・評価・終結・フォローアップ
テキスト該当箇所：9章「援助の終結に向かって」
第 14 回　記録・スーパービジョン・事例検討
実践の質の保証
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ・相互フィードバック・評価
テキスト該当箇所：終章「生の困難を超えて」
〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：
窪田暁子（2013)『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠心書房.
（テキストに該当箇所がない場合には資料を配布します）
参考書：授業で適宜紹介します
〔成績評価の方法・基準〕
単位取得条件：出席2/3以上で，かつ，評価60点以上.
評価の内訳：リーデイング小レポート/確認クイズ5点×14＝70，最終レポート30点．小レポート/確認クイズには採点/コメントを付して返却します.
〔授業時間外学修〕
・テキスト該当箇所を授業前に読み，指示があるときには小レポートを授業時間に提出する必要があります（約1時間/週）.
・リーデイング小レポートの書き方はオリエンテーション時に説明します.
〔オフィスアワー〕
・授業時間中にリアクションペーパーを配布するので，意見・質問を記入してください. 次週にフィードバックします.
・その他の質問や相談は授業終了後に教室で受けます.
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
Asian American Mental Health Services, N. Y. (U. S. A.) におけるコミュニテイワーカー＆ケースワーカー；京都国際社会福祉センターにおける主事＆相談員；東北福祉大学子ども家庭相談室相談員；宮城野心理臨床センターにおけるカウンセラー；日本社会福祉士会認定スーパーバイザーなどの経験をもとに，ソーシャルワーク実践について具体的に講義します.
〔その他履修上の留意事項等〕
以下のうち少なくとも一つは単位取得済みであることが必要です：
社会福祉全般に関する授業/ソーシャルワークに関する授業/社会福祉分野論の一つ

発達心理学/Development Psychology　2022年度入学

HS2303

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　前期
講義
選択

吉田 孝昭

〔授業の概要〕
生命の誕生から死までの人間の心理的・行動的変化のプロセスを明らかにしようとする心理学の領域である。この授業では、まず乳幼児期・児童期の身体的発達や社会的発達を取り上げ、次に青年期を子どもから大人になるプロセスとして位置づけながら授業を行っていく。人はどのように様々な能力を獲得していくのか、その発達の様相とメカニズムを学ぶことで、子どもや人間に対する心理学的知識と理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕
生涯発達の科学的知見を学び、以下の②～⑥についてレポートを作成できる（作成方法・手順は授業で解説します）。
①（理論・用語の使用価値を学ぶ）キーワードを用いてメモや小レポートを気軽に作成し、その便利さを体験する
②（心理学の限界を変えた理論の真価を学ぶ）J.ピアジェの考え方を学び、認知発達の特徴を理解する
③（得意分野を持つ）得意にしたい発達期・領域を選び、キーワードを用いてほぼ説明できる
④（自己経営力・教育力を高める）持ち味や強みを整理して志をまとめ、例えば、どんなソー
　シャルワーカーになりたいか､キャリアビジョンを描ける
⑤（無条件の肯定的態度を身に付ける）とくに、様々なライフイベントを経て今日に至った
　老年期の方々の心理と行動を尊重できる
⑥（人の理解を歴史的に深め、自己信頼を高める）自分の成り立ち、他者との関係発展等の
体験で、これまで疑問や不思議に思ってきたことの原因や理由に思い当たる機会が来ます

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス：シラバスとプリント教材で解説します
　1)授業の概要（生涯発達の科学）　2)成績評価の方法
　2)２年次の今からならまだ間に合う、今日の大学生の発達課題メモ
　・二十歳のキャリア開発...図解（今ここを、どう生き抜くか）
　・学習者主体の基本行動は即メモ...環境がすべて教材に変わってくれる不思議
　・進路選択には相手理解...例）①国・地方自治体行政職（福祉・保育）、社
　協、民間企業の採用試験実態・類似度は
　② 大卒予定者の面接の実際...青年
　期を生きる大学生にふさわしい質疑内容か
　3)成功的学習の心理と技術　→　授業では即メモを：
　→聴いた言葉や思い浮かんだことを、文字や図式で即知識化し外化（記録）する作業なので、認知機能が最大に発揮され、集中力が途切れず、構想力や書き言葉の力も付き、試験やレポート作成の手掛りも残せる。

第 2 回　発達心理学の歴史：始まりはルソーから
　①　ルソーからエレンケイへ　②児童心理学の誕生からピアジェ（発生的認識論）による心理学的人間研究の科学化をへて「発達・学習・社会化の心理学」へ　③さらに、脳科学・社会福祉学・発達障害学等の登場により「生涯発達の科学」へ

第 3 回　あけぼの人間：眠りから目覚めへ（講義）
　①初期発達（眠りから目覚めへ、生理的早産、原始反射、進化論の役割　②発達原理、遺伝と環境の影響、発達研究の方法

第 4 回　発達期と発達段階説（講義）
　多様な発達段階、発達標準（保育所保育指針・学習指導要領）、生涯学習・発達論

第 5 回　ことばの誕生：運動、思考と言語（講義）
　①循環反応と運動行動（目と手の協応動作、いざりばい、二足歩行）の開始
　②目的ー手段関係...モノの永続性、愛着行動、シンボル操作（ことば記号で代表）

第 6 回　レポート作成アドバイス①（講義）
　全体構成...要約（課題意識・解題）、タイトルと小見出し、今後の課題、字数等

第 7 回　認知発達：J．ピアジェによる知能の発達段階説と図式（講義）

第 8 回　幼児期～児童期：意思疎通の心理と技術（講義）
　①集団的独語、内言、メタ認知、心の理論　②書き言葉の効用と９歳の壁

第 9 回　青年期：自己概念とモラトリアム（講義）
　①エリクソンの人生段階図式、モラトリアム論、自己分析3面鏡　②社会人基礎力

第 10 回　キャリア開発の心理と技術：心理検査（演習・講義）
　性格検査、カウンセラーテスト、結果の処理と解釈　（「R-CAP」の結果も持参）

第 11 回　職業キャリアの開始：性別を超えた大競争時代をどう生き抜くか（講義）
　①正解から妥当解の世界へ：面接・集団討論の目的と採点、新入社員教育の実際
　②「職業・職務・仕事、社員・非正規・フリーランス」　③人材観４面鏡と２５歳

第 12 回　職業的発達：組織と個人、リーダーシップ開発（講義）
　標準的な職業的発達の様相、職種別・階層別研修、組織と個人、リーダーシップとヘッドシップ、人は鏡だ（リーダーシップ理論・感受性訓練・自己分析研修）

第 13 回　新家族周期：職業キャリアと結婚（講義）
「現代日本の主婦」、ジェンダー・ダイバーシティ、子育て支援、共生社会論
第 14 回　老年期の信念・態度：発達＝個々人の歴史（講義）
　80～90代の方には歴史的価値が...（大正）昭和・平成をどう生き抜いてきたか？
①学校・部活動、趣味、歌謡曲　②職業・職務、PC技能　③環境変化［戦争・復員・人口急増］［熱光源の転換、三種の神器、テレビ放送と都会化、④交通時間の短縮［新幹線、自動車］　⑤地域、家・親、マスコミ世論から受け継いだこと
第 15 回　老年期の発達：青年の夢はいつまで続くか...（講義）
①英知としての認知発達、自己実現に向かう人格発達の可能性　②レポート作成アドバイス：全体構成の再確認、用語の吟味、提出期限・場所　〖一人でいたい夏休み：自律体験にチャレンジ！メタ認知を広げよう〗

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストなし。それに替えて、①各回終了時に次回分のプリント教材（３枚以内）を、②次回授業開始時に補足資料類を配布します。「人間はどこまで動物か」「類人猿の知恵試験」「出会いについて」「現代日本の主婦」から「SPI検査...」まで、授業時に広く紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
１．授業参加度（40％）：授業中は、プリント教材その他にしっかり目を通しメモしながら集
中すること。メモ書きする時間を取ります。講義中に、①自分の場合（その時）はどうだったか、今だったらどうしたいかの思い、②今後（開発キャリア）への期待、③他の授業で学んだこと、等が浮かんできたならば、即座にメモ書きする練習を重ねること（メモは財産）。　2.　心理検査類を受検しない場合には減点します（－30％）。3.　レポートを提出（60％）：「到達目標欄」を参照。作成方法・手順のプリント教材を配布し、例を挙げて解説します。（その他）心理検査類の結果解釈：全体に解説し、個人ごとに手短にアドバイスします。

〔授業時間外学修〕
プリント教材や補足資料類による講義で、基礎基本の知識はほぼ学修できます。　（事前学習）前回終了時に配布された次回用のプリント教材に目を通す。（事後学習）授業後には毎回、使用したプリント教材と補足資料類、メモ類を再度読み込み、ポイントをチェックし箇条書きするなどして「レポート作成」にそなえる。授業に集中し、授業外の学習はできれば１時間内におさえましょう。

〔オフィスアワー〕
授業後に対応します

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
①大中小様々な企業の組織開発、社員教育・リーダーシップ開発教育を担当し、ごく普通の会社員から経営幹部までの「職業人であり続けること」への心境等に接して２５年余。②関東～九州までの各大学の公務員試験講座講師として、企業人・公務員への関門突破を支援して１５年余。③「キャリア開発論」を創始しまた、キャリアカウンセラーとして１０年余。以上の経験を資料として紹介します。人生を生き抜く生情報として活用してください。

〔その他履修上の留意事項等〕
人生はかけがえのないもの。約20年をここでひとまず整理し、以後の人生（開発キャリア）を構築していく力量形成に役立つ知識群として生涯発達の科学を紹介します。二十歳を境として自律を志し、今後を自己責任で切り開いていく自由度をつかんでください。

社会保障論Ⅱ/Social Security Ⅱ　2022年度入学

HS2304Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

２年
2単位　前期
講義
選択

唐鎌 直義

〔授業の概要〕
日本の社会保障制度は年金保険、健康保険、労働保険、介護保険という4つの社会保険制度と生活保護、児童手当等の公的扶助・社会手当制度から成り立っている。現在、OECD加盟諸国では住宅保障や雇用創出策も含めて、その全体を「社会支出」と呼んでいる。本講では、日本におけるそれぞれの制度の作られ方や特徴を学び、他国の制度との比較対照を通じて、日本の現行制度の問題点や改革の方向性を明らかにする。

〔到達目標〕
①イギリスでは月額8万円の年金で不安のない老後が送れるのに、日本ではなぜ月額20万円の年金でも不安なのか、その理由を理解できるようになる。
②社会保障・社会福祉は高齢者のためだけに存在しているのではなく、社会のあり方と人間の生き方を大きく左右するものであることを理解できる。
③アメリカでトランプ現象が生じた理由を理解できる。
④日本の社会保障に関する基本的概念・専門用語を正しく使えるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　戦前日本における社会保障の劣弱性(1)ー「恤救規則」（1874年）のみの50年
明治維新と貧困問題の激化、恤救規則（1874年）、人民相互の情誼、鰥寡孤独が必要条件、制限扶助主義、全国の受給者わずか2,000人、低福祉の理由・背景

第 2 回　戦前日本における社会保障の劣弱性(2)ー社会保障の特権性・階層性
海軍退隠令（1875年）、国鉄・八幡製鉄所等の国営企業の共済制度、民間企業では鐘ヶ淵紡績が最初、温情主義（パターナリズム）、米騒動と健康保険法（1922年）、内務省『細民調査』（1911年）、自然主義文学の影響

第 3 回　戦前日本における社会保障の劣弱性(3)ー昭和恐慌と「救護法」（1932年）
1929年世界大恐慌の勃発と救護法（1932年）、暗い谷間の時代、農村の困窮と子女の身売り、稼働能力者の排除、細井和喜蔵『女工哀史』（1925年）

第 4 回　戦後日本における社会保障の展開ー生活保護中心時代
敗戦と占領、財閥解体、農地改革、労働改革、戦後民主主義、旧生活保護法（1946年）、新生活保護法（1951年）、無差別平等保護の原則、内外人平等原則、失業対策事業（1949年）、MSA協定（1954年）、社会保障を守る運動、朝日訴訟（1957年）

第 5 回　戦後日本における社会保障の発展ー高度経済成長と国民皆保険・皆年金
国民健康保険法の全面改定・国民年金法の制定（1959年）、公害問題の激化と革新自治体、福祉元年と老人医療無料制度（1973年）、所得追求型生活構造、生活の長期性と賃金の短期性の矛盾

第 6 回　社会保障各論(1)日本の公的年金制度の歴史と仕組み
戦争と社会保障、国民皆年金（1961年）、基礎年金への移行（1986年）、5年ごとの年金財政再計算、所得代替率、年金積立金

第 7 回　社会保障各論(2)日本の公的年金制度の特徴と課題
受け皿制度としての国民年金、業績主義年金、国民年金の計算式、厚生年金の計算式、年金生活者の生活格差と貧困高齢者

第 8 回　社会保障各論(3)日本の医療保障制度の歴史と仕組み
自由開業医制・私費診療制が起点、国保・国年層、私立病院建設ブーム、公立病院病床規制措置、医療費抑制政策、老人保健法、後期高齢者医療制度

第 9 回　社会保障各論(4)日本の健康保険制度の特徴と課題
制度の多数分立（8制度）、格差医療、窓口負担の増大、保険外負担の増大、貧困者と医療、無料低額診療

第 10 回　社会保障各論(5)日本の介護保障制度の歴史と仕組み
低所得者対策としての高齢者介護、家庭奉仕員派遣事業、有料化を伴う介護の普遍化、社会保障制度審議会「95年勧告」、措置から契約へ、介護を巡る悲惨な事件の多発、岡光次官事件・コムスン事件

第 11 回　社会保障各論(6)日本の介護保険制度の特徴と課題
第1号被保険者、第2号被保険者、所得段階別介護保険料、年金天引き（普通徴収）、保険料と基盤整備、介護従事者の賃金・処遇問題

第 12 回　社会保障各論(7)労働保険制度（雇用保険と労災補償制度）
失業保険制度から雇用保険制度へ（1974年）、給付適正化政策、求職者給付の基本手当、離職票、会社都合・自己都合、労働者災害補償制度、無過失責任・損害賠償原理と生活保障原理

第 13 回　社会保障各論(8)日本の公的扶助制度の特徴と課題
保護請求権と争訟権、補足性の原理、第3次適正化政策、受給率と捕捉率、保護基準と賃金水準の逆転現象、セーフティネットの蛸足化、捕捉率の地域間格差

第 14 回　社会保障各論(9)低所得者援助制度（生活福祉資金貸付制度と就学援助制度）
世帯更生資金貸付制度、生活福祉資金貸付制度、低所得層に公的資金を貸す仕組み、都道府県社会福祉協議会、義務教育における授業料の無償化と就学援助制度、教育関係費の補助、大都市部で高い受給率

第 15 回　社会保障各論(10)日本の社会保障財政（主要6カ国との比較）
下がり続ける国庫負担率と企業負担率、高まり続ける被保険者負担率と自治体負担率、高齢者優遇型社会保障から全世代型社会保障へ、国民1人当り社会支出の国際比較、日本の社会保障の後進性・低位性

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは指定しない。その代わりに毎回、講義レジュメ（A4版３～４枚のプリント）を配布する。
参考書として、唐鎌直義『脱貧困の社会保障』（旬報社、2012年）を挙げる。それ以外の参考文献は、講義の際に随時紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末試験を実施する。その成績を全体の80％として評価する。
授業の終わりに提出してもらうコミュニケーション・ペーパーの提出状況（全部で4回程度）とその内容を全体の10％として評価する。
授業への参加状況を全体の10％として評価する。

〔授業時間外学修〕
ほぼシラバスどおりに授業展開するので、事前に一通り参考書等を読んで予習してくることが望まれる。
授業後は、参考書等に書かれている内容を含めて、ノートの整理等の復習をすることが望ましい。

〔オフィスアワー〕
授業内容への質問に関しては、授業の後に受け付ける。
時間割が未定なので、決まり次第、オフィスアワーを周知する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
授業に集中できないために、だらしなく眠ってしまう人を見かける。「心神抑制の弛緩」を戒めてほしい。

保健医療福祉行政論Ⅰ/保健医療福祉制度論/Health and Welfare Administration Ⅰ　2022年度入学

CB108P/CS2305S

看護学部・人間福祉学部共通科目＞専門基礎科目/専門科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目
２年
1単位　後期
講義

小山 秀夫

〔授業の概要〕
保健医療制度は、法律体系でもあり、すぐれて実践的な活動体系でもある。例えば、医療法等をはじめとする医療施設法体系によって、医療機関が規定され、病院や診療所などの医療実践が行われている。医療を実践する医療従事者については、医師法、歯科医師法、薬剤師法、保健師・助産師・看護師法等の国家資格が規定されている。保健活動については、保健所や市町村保健センターなどの場があり、社会福祉施設についても、社会福祉各法がある。さらに、介護保険法によって介護保険施設や事業所が規定され、社会福祉士や介護福祉士については、個別の制度があり、その人々の活動がある。これらの制度の現状と活動実践に焦点をあて、全体の仕組みについて理解する。

〔到達目標〕
１．日本の保健医療制度の枠組みについて、概要を平易に説明できる。
２．保健医療従事者の国家資格についてどのような職種があるか説明できる。
３．保健医療提供施設について、根拠法、名称、役割、機能について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　（講義）わが国の保健医療体系のヒト・モノ・カネの概要と根拠法
9月28日（木）
第 2 回　（講義）保健医療提供施設について、根拠法、名称、役割、機能（講義）
10月5日（木）
第 3 回　（講義）わが国の公衆衛生体系と保健所・検疫所等の現状と課題
10月12日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第１回
第 4 回　（講義）保健医療従事者の具体的活動状況と課題
10月19日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第２回
第 5 回　（講義）医療法および医療機関の種類と役割及び現状
10月26日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第３回
第 6 回　（講義）保健医療従事者の国家資格の概要
11月2日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第４回
第 7 回　（講義）診療報酬と介護報酬の相違点と政策的連動
11月9日（木）
第 8 回　（講義）わが国の病院の設置主体別運営状況の運営と課題
11月16日（木）
第 9 回　（講義）保健医療制度と社会福祉制度との関係
11月30日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第５回
第 10 回　（講義）保健医療従事者の養成と確保計画
12月7日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第６回
第 11 回　（講義）わが国の診療報酬制度の概況
12月14日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第７回
第 12 回　（講義）わが国の病院の設置主体別役割別種類役割を国際比較
12月21日（木）
●看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」第８回
第 13 回　（講義）保健医療制度の質的評価と評価法方法
1月11日（木）
第 14 回　（講義）病院の公私問題と経営問題
1月18日（木）
第 15 回　（講義）学習の到達点の確認の残された課題の確認
1月25日（木）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
必携テキストはない。
参考書、参考文献・参考URL等授業中に指示する

〔成績評価の方法・基準〕
レポート　50％、プレゼンテーション　30％、授業参加状況　20％
提出物については、全て添削したものを返却する。

〔授業時間外学修〕
厚生労働白書のweb版や厚生労働省等のHPを多用するので、インターネット環境を確保すること。
授業の時間外学習時間は、１講義に対して平均２時間程度の予習および資料の事前読み込みを求める。
どこを調べれば理解できるのか、どのような検索法があるのかという具体的方法を習得することにある。

〔オフィスアワー〕
授業時に周知する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
人間福祉学部「保健医療福祉行政論」の履修者は全15回の講義を履修してください。
看護学部「保健医療福祉行政論Ⅰ」の履修者は第３・４・５・６・９・10・11・12回の計８回の講義を履修してください。

福祉サービス論/Social Welfare Services　2022年度入学

HS2306S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　前期
講義
必修

佐藤 嘉夫

〔授業の概要〕
社会福祉は、①その外形的枠組みとしての法制度・政策と、②無形の労働実践としての「処遇」から成り立っている。それら二つを媒介する福祉の構成要素、具体的には政策・制度として形成された福祉が『人々に届くまで』の形・仕組みについて学ぶ。より具体的には、③施策・制度（規範として表明された＝条文、規則、要綱などの形で）を、福祉実践に変換するシステムと機能として狭義の福祉サービスを位置づけ、その原理、あり方と枠組みについて学ぶ。とりわけ、ここでは、福祉ニーズの特性とその時代的な変化によってもたらされた福祉のプロバイダー（提供体・者）の多様化が生み出した福祉の原理や原則の妥当性について検証するとともに、分野別、領域別に学んだ社会福祉を「サービス論」の視点から、包括的に捉えなおすことによって、その普遍的な性格と特徴について学ぶ。

〔到達目標〕
①社会福祉の分野や領域を貫く福祉サービスという見方の特徴を述べることができる。
②福祉サービスが「人に届くまで」の流れを説明できる。
③福祉サービスの提供体（公的・民間・非営利）の特質について述べることができる。
④福祉サービスにおける公的管理と公的責任の重要性について説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　社会福祉のシステムと福祉サービス
第 2 回　福祉の運営・管理と福祉サービス
第 3 回　社会福祉実践の基礎としての福祉サービス
第 4 回　福祉サービスの具体的展開
第 5 回　福祉サービスの提供過程を規定する要素
第 6 回　福祉サービスの一般的特性
第 7 回　福祉サービスシステムの種類と構造
第 8 回　福祉サービス労働の特徴と性格 —対人援助サービスとしての—
第 9 回　福祉サービス運営の基本的原理と基本的枠組み
第 10 回　公的サービスシステムと運営・管理１
第 11 回　公的サービスシステムと運営・管理2
第 12 回　民間サービスシステムの運営・管理Ｉ
第 13 回　民間サービスシステムの運営・管理２
第 14 回　福祉サービス情報の管理
第 15 回　福祉サービスの権利と利用支援システム

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使わないが、講義時にレジメを配布する。
参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーやワークシートの提出　30％、小テスト（2～3回）　30％、最終レポート　40％
学生へのフィードバック：manaba上に掲示又は授業内で解説

〔授業時間外学修〕
新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。（事前学習。目安として1時間）授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。（事後学習。目安として1時間）

〔オフィスアワー〕
授業内で指示する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

国際福祉論/International Social Welfare　2022年度入学

HS2307

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　後期
講義
選択

李 省翰、野口 典子

〔授業の概要〕
本講義では、地球規模の視野で社会保障をめぐる制度・政策の現状と課題、その対応策を学び、理解を深めることを目的とする。「福祉」が社会･国家にとって不可欠な社会政策として成立するプロセスとなっていく社会的背景をデンマークの社会学者エスピン・アンデルセンの『福祉レジーム論』を基礎としながら概説していく。とくに、21世紀後半の「福祉」の方向性について、北欧型福祉国家の分析ならびにイギリス型福祉国家をベースとし、東アジアの福祉社会の展開について考究する。地球規模あるいは超国家的な視野で社会保障を考える視座を提供したうえで、グローバル化時代の社会保障をめぐる課題に対して、いかなる制度設計や政策の策定が行われているのかを学修する。

〔到達目標〕
１．国･地域の歴史的条件の差異による「福祉」の展開過程についての類型の理解を深めることができる。
２．イギリスを中心とした西欧型福祉国家とデンマークを例とした北欧型福祉国家の「福祉」について理解を深めることができる。
３．日本をはじめとする東アジア型福祉社会の成立要件について、イギリス、デンマークとの比較で理解をする。
４．21世紀中盤から後半の「福祉」について、東アジアモデルを構想する力を醸成する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３

〔授業計画〕
第 1 回　「福祉」が成立していく社会的背景—「福祉レジーム論」を中心に
李　省翰
第 2 回　イギリス型福祉国家の成立とその変遷—ゆりかごから墓場まで、第３の道へ
李　省翰
第 3 回　イギリスのコミュニティケア政策とその実践
李　省翰
第 4 回　イギリスのアウトリーチ型ソーシャルワークの実践、孤独省の成立とその機能
李　省翰
第 5 回　イギリスの福祉の行方
李　省翰
第 6 回　北欧型福祉国家デンマークの政策理念と社会モラ
野口典子
第 7 回　デンマークの高齢者福祉三原則にみる市民の参加、ユーザーデモクラシー
野口典子
第 8 回　デンマークにおける「ケアと住宅」というケア実践
野口典子
第 9 回　デンマークにおける国家戦略としての認知症ケア
野口典子
第 10 回　デンマークにおけるケアの質を支える人材育成プログラム
野口典子
第 11 回　デンマークの社会福祉の今後
野口典子
第 12 回　東アジアの社会福祉政策と実践①韓国の社会福祉概説
李　省翰
第 13 回　東アジアの社会福祉政策と実践②韓国の社会福祉サービスとソーシャルワーカーの実践
李　省翰
第 14 回　東アジアの社会福祉政策と実践③韓国の社会福祉③韓国の社会保障と公的扶助
李　省翰
第 15 回　国際福祉の視点から見たこれからの福祉の方向と日本の福祉のあり方
李　省翰

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。授業ごとにレジメを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
小テースト30％　最終レポート70％
テーストやレポートはmanaba（繰り返りコメント機能など）、もしくは授業のなかでフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
配布資料の事前・事後学習、もしくはレスポンスカード（4時間程度）

〔オフィスアワー〕
毎回の授業終了後、教室で質問に対応する。
またはメールでの対応も可能（s-lee@saku.ac.jp)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
新聞や雑誌などで諸外国の情報の収集を積極的に行ってください。

地域保健学/Community Health Care　2021年度入学

HS2308

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
３年
2単位　前期
選択

岡田 真平

〔授業の概要〕
長野県は日本でも最も平均寿命が高い地域の一つである。それと同時に、車社会がもたらす働き盛り世代の健康課題などが指摘されている。長野県の地域保健関係者が住民と共に取り組んできた健康づくりを例に、①集団の健康状態を把握する方法を知り、集団・社会の特性と健康の関係を考える、②ライフステージ別の健康課題とポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチの実際を学ぶ、③社会的環境への働きかけについて考える。

〔到達目標〕
１．地域保健や周辺領域に関わるうえで拠り所となる制度や仕組みについて理解する。
２．ライフステージや対象に応じた地域保健からのアプローチについて知識を深める。
３．長寿・健康で全国的にも注目される長野県、東信地域での地域保健の特徴を知る。
４．自分が関わる地域に目を向け、地域保健の視点から問題意識が持てるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス・地域保健の全体像をつかむ
第 2 回　地域保健活動の事例紹介～講師の活動～
第 3 回　地域保健分野における長野県の特徴
第 4 回　国の変遷や状況を知り、今後の動向を考える
第 5 回　縁が深い地域の保健活動を調べてみる
第 6 回　母子保健と子育て支援
第 7 回　青少年期の保健（地域と学校）
第 8 回　成人期の保健（地域と職域）
第 9 回　高齢期の保健と地域包括ケア
第 10 回　障がい児・者の保健と共生社会づくり
第 11 回　地域における精神保健の重要性
第 12 回　地域保健における環境の重要性
第 13 回　ある地域の健康課題を掘り下げる
第 14 回　ある地域の保健活動を検証する
第 15 回　魅力ある地域保健活動を組み立てる

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト１：野中浩一編著「学生のための現代公衆衛生（改訂8版）」南山堂，2022年
テキスト２：岡田真平他編「地域ぐるみのケアと予防の歩み」厚生科学研究所，2019年

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパー（毎回）30％、授業内のワークシート（2回程度）30％、期末試験40％
※前者2点は、個々にフィードバックするか、必要に応じて授業で取り上げる。

〔授業時間外学修〕
必要な際に、次回授業のために必要な事前準備・学習（1時間以内）を指示する。

〔オフィスアワー〕
原則、授業終了後に教室で、もしくはリアクションペーパーやメールで質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
1999年から現在まで、長野県東御市（旧北御牧村）を活動拠点に、特に身体活動・運動の分野を切り口とした健康づくりの研究と実践に関わり、子どもから高齢者・障がい者までの地域保健行政等の一翼を担ってきた。現在は、地元自治体での役割に加えて、長野県や全国組織で関連諸分野の役員等を務めている。

〔その他履修上の留意事項等〕
保健分野に限定せず、地域に関わることに関心が強い学生さんの履修・積極的な参加を歓迎します。

精神医学Ⅰ/Psychiatry Ⅰ　2021年度入学

HS2309M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

3年
2単位　前期
選択

高橋 正彦

〔授業の概要〕
本講義では、ソーシャルワーカーとして精神的な困難にある人の支援をする上で必要とされる、精神疾患に関する大切な基礎知識を学ぶ。具体的には精神医学の歴史と現状、生物学的基礎（脳の構造）、成因と分類（三大分類、国際分類法）、主な症状（精神病状と状態像）、各種検査（身体的検査と心理的検査）、そして主な精神障害（不安障害、統合失調症、気分障害、パーソナリティ障害、知的障害、発達障害等）について学びを深める。さらには、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として担うべき役割について理解する。
〔到達目標〕
①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。
②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中での精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。
③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。
④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
〔授業計画〕
以下の内容について15回を行う。
①精神疾患総論
②精神疾患の治療
③精神医療の動向
④精神科医療機関における治療
⑤精神医療と保健、福祉の連携の重要性
〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト
最新　精神保健福祉士養成講座１「精神医学と精神医療」
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
中央法規出版
〔成績評価の方法・基準〕
授業中に指示します。
〔授業時間外学修〕
授業中に指示します。
〔オフィスアワー〕
授業中に指示します。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

リハビリテーション論/Rehabilitation　2022年度入学

HS2300M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目
2年
2単位　前期
講義
選択

伊東 元

〔授業の概要〕
1982年に国連が採択した「障害者に関する世界行動計画」において、「リハビリテーションとは、身体的、精神的、社会的に最も適した機能水準の達成を可能にすることによって、各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことをめざし、かつ時間を限定したプロセスである」と定義されている。このように、リハビリテーションは、人間としての尊厳を考える意味としての全人間的復権を目指すものである。
本講義では、この定義が意味するように、リハビリテーションの対象となる障害者をサービスを選ぶ主体と捉えたうえで、障害の概念、障害者福祉の基本理念、障害者の生活を障害別に理解したうえで、障害者がどのような介護を必要としているかを学習し、さらにチームアプローチをはじめとした地域でのサポート体制や家族支援についても学ぶ。
〔到達目標〕
・リハビリテーションの理念についてその歴史的文脈の中から理解し、説明できる
・ＷＨＯが提案したＩＣＦ；国際生活機能分類（国際障害分類改定版）に基づいて、リハビリテーションの対象である障害および障害者について理解し、その構造について説明できる
・リハビリテーションにおける各領域（医学的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、職業的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・社会的リハビリテーション・教育的リハビリテーション）のアプローチの方法について理解し、それぞれに説明ができる
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション：科目の到達目標、進め方等を確認する
リハビリテーションの理念・概念の変遷について
第 2 回　リハビリテーションの目的および諸分野と広がりについて考える
・医学的リハビリテーション　・職業的リハビリテーション
・社会的リハビリテーション　・教育的リハビリテーション
第 3 回　リハビリテーションの対象とは何かについて考える。
第 4 回　リハビリテーションの対象とは何かについて考える。
病気・疾病・障害・健康のそれぞれの関係について理解する
第 5 回　リハビリテーションの対象とは何かについて考える。
・ICD(疾病分類)・ICIDH（障害分類）・ICF（生活機能分類）の流れの中で「障害」がどのように位置づけられてきたかを理解する。
第 6 回　リハビリテーションの対象とは何かについて考える。
ICFモデルの構成要素である「健康状態」「心身機能と身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」と構成要素間の相互関係について理解する。
第 7 回　リハビリテーションのプロセスについて考える
・対象の同定
・測定・評価
・プログラムの選定
・プログラムの実施、
・再評価
第 8 回　医学的リハビリテーションプログラムの内容と実施機関
医師を中心とした医療専門職による心身機能の回復などを医療機関で実施
第 9 回　職業的リハビリテーションプログラムの内容と実施機関
就業カウンセラー、ジョブコーチ等による就労支援
第 10 回　社会的リハビリテーションプログラムの内容と実施機関
社会福祉施設の職員やソーシャルワーカーなどによる社会への参加支援など
第 11 回　教育的リハビリテーションプログラムの内容と実施機関
特別支援学校などにおける人格と心身の発達支援など
第 12 回　精神障害リハビリテーション、知的障害リハビリテーションについて
当事者プログラム、ピアサポート、家族による家族支援の面から学ぶ
第 13 回　地域リハビリテーション
・家族支援プログラム
・地域支援
・「地域」と「コミュニティ」との相違を学ぶ
第 14 回　地域リハビリテーション
・家族支援プログラム
・地域支援
・「地域」と「コミュニティ」との相違を学ぶ
第 15 回　本講義を通じて「障害」「障害者」の理解を深めるとともに、現状のリハビリテーションの問題点を考える
〔テキスト・参考書・参考文献〕
＜テキスト＞
砂原茂一「リハビリテーション」岩波新書　1980
＜参考書、参考文献等＞
世界保健機関（WHO）　ICF国際生活機能分類－国際障害分類改定版-　中央法規2002

社会福祉士養成講座編集委員会編集『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』（第6版）中央法規2019
新・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会　編集『精神障害リハビリテーション論』 へるす出版　2023
その他　授業内に提示
〔成績評価の方法・基準〕
毎回のレポートの評価を60％、期末試験の評価比率を40％とし、到達目標についてその到達程度を評価する。毎回のレポートのフィードバックは授業内に行う。
〔授業時間外学修〕
授業内で指示する
〔オフィスアワー〕
授業内で提示する
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

ヘルス・プロモーション論/Health Promotion　2022年度入学

HS2311

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　次年度後期（隔年）
講義
選択

芳賀 博

〔授業の概要〕
人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスであるヘルスプロモーション(WHO：オタワ憲章，1986年)について学ぶ。まず、概念や基盤となる理論について理解し、そして個人や集団の健康と生活の質(Quality of Life)を高
めるための理論や健康教育の技法、環境づくりの方法などを学ぶ。佐久大学の学生や近隣の人々など、特定のコミュニティへのヘルスプロモーションの計画・実施・評価を試みる。

〔到達目標〕
１）ヘルスプロモーションとは何かを説明することができる
２）健康日本21（第2次）の基本的な枠組みを説明することができる
３）ヘルスプロモーションにおけるアクションリサーチの有用性を説明することができる
４）地域の健康づくりプログラムを立案できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　ヘルスプロモーションとその背景
オタワ憲章 / アルマアタ宣言
第 2 回　ヘルスプロモーションの枠組み
第 3 回　わが国の健康づくり政策の歩みとヘルスプロモーション
第 4 回　健康日本21（第二次）の概要（１）
１.国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向
２.国民の健康増進の目標に関する事項
第 5 回　健康日本21（第二次）の概要（２）
３.生活習慣の改善に向けた取り組み
第 6 回　健康日本21（第二次）の概要（３）　/　ライフステージに応じた保健対策（１）
健康日本21（第二次）の概要（３）　４.健康日本21（第二次）の評価

ライフステージに応じた保健対策（１）　１．母子保健対策
第 7 回　ライフステージに応じた保健対策（２）
２.学校保健対策
第 8 回　ライフステージに応じた保健対策（３）
３．老人保健対策
第 9 回　ヘルスプロモーションにおけるアクションリサーチの展開（１）
１.ヘルスプロモーション実践の学としてのアクションリサーチ
２.アクションリサーチの理解を深める
第 10 回　ヘルスプロモーションにおけるアクションリサーチの展開（２）
３．住民とともに進めるアクションリサーチの展開
第 11 回　ヘルスプロモーションにおけるアクションリサーチの展開（３）
４.アクションリサーチによる実践活動の評価
第 12 回　ヘルスプロモーションにおけるアクションリサーチの展開（４）
５.行政による「住民主体」を促すまちづくり
第 13 回　地域のヘルスプロモーション計画の作成（演習１）
地域特性の把握 / 健康課題の抽出と共有
第 14 回　地域のヘルスプロモーション計画の作成（演習２）
課題解決策の検討 / 実行プログラムの決定
第 15 回　まとめ
ヘルスプロモーション論における要点の振り返りと整理

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
芳賀博　編著『アクションリサーチの戦略-住民主体の健康なまちづくり』、ワールドプランニング

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験（80％）
授業への参加姿勢：リアクションペーパー提出の有無と記載内容（20％）

〔授業時間外学修〕
1回の授業について２時間程度の予習・復習を行うこと

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
日本語の「健康増進」は、個人の努力によって成し遂げられる意味合いが強いが、個人が健康的な生活習慣を身に付け、日常的に実践できるようになるためには、個人を取り巻く環境（とくに社会環境）の改善が重要な役割を果たしています。私たちが暮らしている地域において人々の健康な生活を支援するための組織や仕組み、法律にはどのようなものがあるのか、そしてそれらがどの程度機能しているのかなどについて改めて考えてみて下さい。

貧困の福祉学Ⅱ/Social Welfare of Poverty Ⅰ
2022年度入学

HS2312

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　前期
講義
選択

下村 幸仁、脇山 園恵

〔授業の概要〕
わが国では、貧困は姿を変えて再生産され、新たな広がりを見せている。今日の貧困は、経済的な貧しさを意味するだけでなく、機会の不平等、標準的な生活スタイルからの逸脱、人間関係の希薄・粗雑化、精神の荒廃、世代間連鎖など、広く人間生活の「自立」や「尊厳」を脅かす現象である。わが国の貧困者の救済の仕組みである公的扶助の中核をなす生活保護制度は、最後のセーフティネットである。本講義では、生活保護制度の社会保障制度や社会福祉行政における役割と機能、「自立支援」の在り方や福祉事務所における運用の実際を学び、さらには、低所得者に対する支援の内容や法制度化された「生活困窮者自立支援事業」の理解を深め、諸外国の公的扶助制度との比較を通して貧困者・生活困窮者の支援の在り方を考えていく。

〔到達目標〕
①生活保護ケースワーカーと査察指導員の役割等を説明することができる。
②貧困世帯や生活困窮者への適切な支援方法を考えることができる。
③わが国の公的扶助制度と諸外国の公的扶助制度の違いを理解できる。
④生活保護の運用実態に対して批判的な検討ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　シラバス説明、貧困観の貧困(下村担当)
シラバスに基づき、講義概要、進め方や成績評価の方法について説明します。そして、公的扶助論Ⅰで学んだ内容について理解度の確認をします。また、私たちのなかにある貧しい貧困観を正します。

第 2 回　ワーキングプアと生活保護(下村担当)
過度な能力（稼働能力）の活用が生む、ホームレスやネットカフェ難民などのワーキングプアの存在が意味することを考えます。

第 3 回　補足性の原理①･･･資産保有及び扶養義務(下村担当)
①自動車や不動産（家、田畑）保有の可否について私たちの生活における必要性から考えます。
②扶養義務とスティグマの関係について、要件か優先かを考えます。

第 4 回　生活保護の権利と私たちの生活との関係(下村担当)
生活保護の権利はどのように確立されたのか。また、人間裁判と呼ばれる朝日訴訟が現在に与えている影響について学びます。

第 5 回　ケースワーカーの専門性って何？(下村担当)
生活保護を実施する福祉事務所はどのような職場で、そこで働くケースワーカーにはどんな専門性が求められるのかを学びます。

第 6 回　生活保護「適正化」とは(下村担当)
①生活保護をめぐる「適正化」政策の変遷について理解し、それに社会はどう抗ってきたのかを学びます。

第 7 回　生活保護をめぐる裁判①･･･中島訴訟と教育を受ける権利(下村担当)
①教育扶助が果たすべき子どもへの自立助長とは何か。
②高等教育を受ける権利の公平性について考えます。

第 8 回　生活保護をめぐる裁判②･･･加藤訴訟と保護費の使途自由権(下村担当)
①生活保護を利用する人たちの生活費の節約と貯蓄について考える。
②最低生活を保障する視点に不可欠なものは何か。

第 9 回　最低生活保障の水準とは？(下村担当)
保護基準の切り下げが昨今幾度となく実施されて、これに対して各地で多くの裁判が起こされているが、私たちの生活への影響はないだろうか。また、現金給付から現物給付への転換は健康で文化的な最低生活の保障に反するのではないかについて考える。

第 10 回　不正受給の問題と課題(下村担当)
①不正受給が起きる構造を学ぶ。
①不正受給と不正支給の違い何かを理解する。
③生活保護の利用者が増加することで社会保障の財政は破綻するのか考える。

第 11 回　生活困窮者自立支援法創設の背景と生活困窮者自立支援事業の概要(脇山担当)
生活困窮者自立支援法が創設された背景と生活困窮者自立支援制度の概要を講義から確認し、生活困窮者自立支援制度を理念とその理念の具現化の観点から考察する。

第 12 回　生活困窮者自立支援法の二面性とは何か(脇山担当)
生活困窮者自立支援法の二面性（積極的な側面と消極的な側面）について、その実際から具体的に考察する。

第 13 回　地域社会と生活困窮の普遍性と多様性(脇山担当)
地域社会と生活困窮の普遍性と多様性について、その実際（都市と地方の違いなど）から具体的に考察する。

第 14 回　コロナ禍以降の生活福祉資金貸付と生活保護の関係(脇山担当)

コロナ禍以降に変化した生活福祉資金貸付・住居確保給付金の運用実態を題材に、生活困窮者支援の在り方を生活保護との関係から考察する。

第 15 回　生活困窮者自立支援法と生活保護法を中心とした他法との連携(脇山担当）
11回～14回目までの学習をもとに、生活困窮者自立支援法と生活保護法を中心とした他法との連携について考察する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：使用しません。
参考文献：適宜紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
1.知識・理解：生活保護制度の目的、基本原理・原則を理解した上で、貧困世帯や生活困窮状態にある人たちに対する支援方法を考えることができること。定期試験70％
2.思考・判断：貧困状態及び生活保護を利用している人たちをどのように援助していくべきか批判的に検討することができること。レポート（2回実施）20％
3.態度・志向性：講義への参画及び講義内容理解コメント。リアクションペーパー10％
　リアクションペーパーに対しては、教員コメントをmanaba又はメールで伝えるとともに、特徴的なものは次回講義で全体に紹介します。

〔授業時間外学修〕
・第１回目の授業時に配布する授業計画表内に示した、各授業回に関連した『貧困の福祉学Ⅰ』で使用したテキストの該当頁については、予め読み込んでおくこと（30分）。
・授業は基本的にアクティブ・ラーニング形式で実施しますので、グループごとに必ず各授業回数のテキスト該当箇所について発表できるようにまとめておくこと（30分）。

〔オフィスアワー〕
授業内で指示する

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
行政（福祉事務所）での生活保護ケースワーカー実務経験や社会福祉協議会でのソーシャルワーカーの実務経験、ホームレス支援、当事者団体との関わりのなかで経験した事例を交えて、生活保護を利用する方々に対する自立助長及びホームレスや生活困窮者に対する支援活動をしているNPO法人等との連携のあり方などについて講義を進めていきます。

〔その他履修上の留意事項等〕
※考察の題材は、学生が用意する場合と教員が用意する場合がある。授業時に指示する。
※題材は事前に示すので、各自自分の考えをまとめて授業に臨み、各回の授業ではグループあるいはクラスで意見交換をする。

多職種連携/Multidisciplinary collaboration　2022年度入学

CF204P

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目

２年
1単位　前期
講義
必修

八尋 道子、永野 淳子

〔授業の概要〕

現在、医療や福祉の現場あるいは、地域では、様々な専門職者がチームを組んで、患者やその家族の支援をすることの重要性が高まっている。多職種が協働するためには、支援する人々について到達すべき目標を共通理解し、お互いの専門性を活かす役割分担が必要である。その過程を実現するために、まずヒューマンケアに関わる様々な職種の定義、役割と、隣り合う又は重なり合うそれらの職種の区分の原理について学び、さらに、他職種の専門性の理解を通して、自分の専門性、役割を自覚することにつなげる。

〔到達目標〕

１．医療や福祉の現場、地域で連携が求められる多職種を知る。
２．保健・医療・福祉にかかわる多職種の専門性や役割について考える。
３．チーム学修を通して、多職種が連携することの意味を考える。
４．チーム学修を通して、問題解決能力を高める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP２、DP６、DP７

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
「多職種」「連携」協働」とは
【講義／八尋・永野】

第 2 回　医療福祉にかかわる職種を知ろう１
「社会福祉士」「精神保健福祉士」とは
職種別チーム学修
中間レポート作成（自分が担当する専門職について調べたことを、1,800字以内にまとめる）
【演習／長谷川・永野・八尋】

第 3 回　医療福祉にかかわる職種を知ろう２
職種別チーム学修（作成した担当専門職レポートを踏まえて）　中間レポート提出
【演習／八尋・永野】

第 4 回　医療福祉にかかわる職種を知ろう３
多職種チーム学修　事例の提示
（異なる職種に関する理解を深める①）
【演習／永野・八尋】

第 5 回　医療福祉にかかわる職種を知ろう４
多職種チーム学修
（異なる職種に関する理解を深める②）
【演習／永野・八尋】

第 6 回　医療福祉にかかわる職種を知ろう５
多職種チーム学修（事例検討会）
プレゼンテーション評価　最終レポートの連絡
【演習／八尋・永野】

第 7 回　特別プログラム「インタープロフェッショナルワークの実際」
実務者から医療・福祉の専門職による日頃の活動の中での多職種連携の実際について語ってもらう
【講義／医療・福祉の専門職者、八尋・永野】

第 8 回　多職種連携の学びのまとめ
多職種連携の学びのまとめ
【演習／八尋・永野】

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定なし。資料を配付します。
参考文献：必要に応じて紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

中間レポート20％
最終レポート40％
プレゼンテーション30％
毎回のリアクション（manaba）10％

授業に関する質問はメールやmanabaで問い合わせると、次に授業までにフィードバックが受けられます。ただし疑問は履修生全員で共有すると有効ですので、できるだけその日の授業中に質問してください。

成績評価については、課題レポートの返却はしませんが、結果は個別に問い合わせが可能です。

〔授業時間外学修〕

予習が中心になります。自分が担当する専門職種について図書館にある文献や信頼性のあるインターネットサイト調べ、他者に説明できるようにまとめてください。また、担当ではない他の専門職種についての情報（新聞記事やTVニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、映画等）にも目を向けて、自分が担当する専門職種とどのように連携できるのかについて考え、ノートに記述してください。毎回60分の自己学修が必要です。

復習は、授業・演習を毎回15分でよいのでその日のうちにふり返り、ノート整理をしながら、追加修正をしていくようにしましょう。

〔オフィスアワー〕

授業終了後
八尋：木曜日17時50分～19時（まずはメールをください）
m-yahiro●saku.ac.jp
永野：水曜日12：10-12：50.

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

医療福祉現場での多職種連携を経験した教員による授業科目です。

〔その他履修上の留意事項等〕

提出物の期限は、厳守してください。本授業は、主にチーム学修により進められます。ワークを進めるにあたっては、チームメンバーの考えを尊重しつつ、自らの意見を明確に述べられるようにしてください。

司法福祉論/Forensic Social Services　2022年度入学

HS2314Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　前期
講義
必修

藤原 正範

〔授業の概要〕
非行や罪を犯した人が、地域社会で再犯することなく自立と更生を図るための支援制度が更生保護制度です。本講義では、日本の非行・犯罪の実態を知り、少年司法制度及び更生保護制度を中心に、司法における福祉的支援の概要について学びます。さらに医療観察制度、犯罪被害者支援について知り、その対象者についての理解を深め、司法分野における福祉専門職（ソーシャルワーカー）の役割について考えます。

〔到達目標〕
１）刑事司法制度を理解し、基本となる法律用語を自分自身の言葉で説明できる。
２）刑事司法の対象となる人の特徴、とりわけその福祉ニーズを理解し、その人がより良い生活を送るための支援を考えることができる。
３）福祉ニーズのある刑事司法の対象者のためにソーシャルワーカーが法律・医療など他の専門職とどのように協働するかを考えることができる。
4）犯罪被害者のニーズと支援の基本を自分自身の言葉で説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３

〔授業計画〕
第 1 回　「刑事司法と福祉」総論
刑事司法になぜソーシャルワーカーがかかわるのか、刑事司法の実践場面でソーシャルワーカーはどういう役割が期待されているかを理解する。
第 2 回　社会と犯罪
日本の犯罪の現状はどうか、犯罪者が収容される刑務所の現状はどうかを犯罪統計に基づいて理解する。
第 3 回　犯罪原因論と対策
犯罪者はなぜ犯罪をするのか、ソーシャルワーカーが犯罪と犯罪者をどうとらえるかを考察する。
第 4 回　刑罰とは何か
刑罰とは何か、刑罰の歴史と現状はどのようなものか、ダイバージョンとは何か、再犯防止推進政策とは何かを理解する。
第 5 回　刑事司法
捜査・公訴・公判とは何か、どのような原則・手続きであるか、現状と問題点は何かを理解する。
第 6 回　少年司法
少年法の理念とは何か、少年保護手続とはどういうものか、その現状と課題は何かを理解する。
第 7 回　施設内処遇①成人
刑事施設とは何か、その歴史と現状はどうか、刑事施設の実際はどうかを理解する。
第 8 回　施設内処遇②少年
少年院と少年鑑別所の役割は何か、矯正教育とは何か、その現状と課題は何かを理解する。
第 9 回　社会内処遇①更生保護の理念と概要
更生保護とは何か、保護観察・生活環境の調整・更生緊急保護はどういう活動か、その担い手は誰かを理解する。
第 10 回　社会内処遇②更生保護の実際
保護観察の活動を具体例を通して学び、その中での福祉支援との協働の実際を理解する。
第 11 回　多様なニーズを有する犯罪行為者①
精神障害者は刑事司法においてどのように対応されているか、医療観察制度とは何かを理解する。
第 12 回　多様なニーズを有する犯罪行為者②
高齢または障害のある刑事司法対象者の現状はどのようであるか、地域生活定着支援センターの業務がどのようなものかを理解する。
第 13 回　多様なニーズを有する犯罪行為者③
アディクション及びその回復とは何か、刑事司法がアディクションにどのように対応しているかを理解する。
第 14 回　犯罪被害者等支援
犯罪被害者はどのような困難に直面しているか、犯罪被害者への支援はどのように行われているかを理解する。
第 15 回　コミュニティと刑事司法
刑事司法で解決できることは何か、できないことは何かを検討し、ソーシャルワーカーとしての私が刑事司法にどう向き合うべきかを考察する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『刑事司法と福祉』、中央法規、2021年2月1日

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験60％、レポート40％（授業中評価基準を示す）。提出のレポートについて、manabaに良い点、努力してほしい点を掲示する。

〔授業時間外学修〕
各回の授業は、テキスト『刑事司法と福祉』の各章（第1章～第15章）に対応している。授業前に必ず当該章を読み、わからないことを明確にしておくこと。予習に最低1時間、授業後30分の復習が必要。

〔オフィスアワー〕
授業に関する質問・意見・相談があれば、fmseihan●gmail.com　にメールを送信する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
家庭裁判所調査官として28年間、少年保護事件、家事審判・調停事件の調査を担当した。

〔その他履修上の留意事項等〕
オンライン授業を行う。授業中ポイントとなる事柄についてチャット機能を利用して発問するので、必ず回答すること。

ケア福祉行財政論/Administration and finance of Social Welfare　2021年度入学

HS2315

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　後期
選択

唐澤 剛

〔授業の概要〕
本講義では、行政組織の仕組みや官僚制の構造について体系的に学修したうえで、わたしたちの生活を取り巻く公的な制度や政策が誰の手によってどのような手続きでつくられているのかを、理論と具体例から考える。又、福祉の制度や具体的サービスが、どのような財政資源とその組み立てによって担保されているのかをわかりやすく学ぶ。実社会において行政が果たす役割や意義について考えるとともに、組織の病理や財源・財政の課題についても光をあてることでその課題や限界についても学び、市民社会と行財政とのかかわりについても理解を、深めることで複眼的な視座で行政のあり方を考える力を養う。

〔到達目標〕
我が国における医療・介護・福祉・子育て支援等の社会保障制度に関する政治及び行財政の基本的な仕組みを理解し、具体的な制度改革の事例を通じてその理解を深め、今後の少子高齢社会に対応した施策の方向について考える力を養う。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　我が国の政治と行政の仕組み
我が国の政治制度の基本的な仕組み（議院内閣制等）及び社会保障に関係する行政組織の構造（厚生労働省、内閣官房、内閣府、財務省等）並びに政治と行政の関係について理解を深める。

第 2 回　我が国の地方の政治と行政の仕組み
我が国の地方の政治制度（首長と地方議会）及び行政組織（社会保障に関係する健康福祉部局、福祉事務所等）について理解を深める。地方自治及び国と地方の関係について理解を深める。

第 3 回　医療と福祉の関係団体
医療や福祉など社会保障制度に影響を与える様々な関係団体を知るとともに、その役割について理解を深める。

第 4 回　国の財政と社会保障の財政
我が国の財政の現状と課題を理解するとともに、社会保障の給付費と財源に関する現状と課題を理解する。国の予算と社会保障との関係について理解を深める。

第 5 回　我が国の経済と社会保障
我が国経済の現状と課題を理解するとともに、所得再分配における社会保障の役割、経済成長に寄与する社会保障の役割、国民連帯の社会的な基盤としての社会保障の役割について理解を深める。

第 6 回　社会保障制度各論(1)医療・保健・医療保険
医療提供制度、保健と公衆衛生、医療保険制度等について理解を深める。

第 7 回　社会保障制度各論(2)介護・福祉・子育て支援
介護保険制度、地域福祉と包括的支援体制、障害保健福祉制度、生活保護制度、生活困窮者支援、子育て支援制度等について理解を深める。

第 8 回　社会保障制度各論(3)年金制度と労働保険
年金制度、労働保険制度（雇用保険、労災保険）について理解を深める。

第 9 回　実際の立法の仕組み
我が国の法律の制定過程、政令・省令等の法令の制定及び通知について学ぶとともに、地方自治体における条例と規則について学ぶ。

第 10 回　具体的な制度改革事例(1)介護保険制度の創設
具体的な制度はどのような経過や利害調整を通じて創設されるのか、改革を支えるものは何かを2000年にスタートした介護保険制度の創設を事例に考える。

第 11 回　具体的な制度改革事例(2)社会保障と税一体改革
2010年代に実施された社会保障と税一体改革を事例に考える。

第 12 回　演習(1)地域包括ケアと地域共生社会
少子高齢化に対応して誰もが安心してその人らしい暮らしを続けていくことのできる「地域包括ケアと地域共生社会」をどのように作っていくのかを考える。

第 13 回　演習(2)異次元の子育て支援
全世代型社会保障構築会議での検討を踏まえて、2023年夏に公表が予定されている異次元の少子化対策の効果と課題について考える。

第 14 回　演習(3)医療・福祉のデジタル化
急速な進展が見込まれる医療・介護のデジタル化をどのように現場で活かしていくかを考える。

第 15 回　演習(4)アジア諸国の少子高齢化と日本
少子高齢化に先行する我が国の知識や経験を今後急速に少子高齢化するアジア諸国でどのように活かしてもらえるのかを考える。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。参考書・参考文献は授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート50％　プレゼンテーション30％　授業参加状況20％
レポートや課題には、評価とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕
授業中に使用するスライドや参考文献等を読み返して、我が国の課題について30分ほど自分なりに考えること。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に、質問を受けつける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
厚生労働省等での38年間の勤務経験を活かして、行政の構造や政策立案の仕組みについて講義する。

〔その他履修上の留意事項等〕

生活援助学/Personal Life support　2022年度入学

HS2316

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　前期
講義
必修

内山 明子、諏訪 達彦、二神 真理子、永野 淳子

〔授業の概要〕
人の生活を支えるうえでは、その人の生活はどのように成り立っているのか、なぜ生活に問題を抱えることになったのかを理解することが必要である。そのため、障害や加齢に伴いケアが必要となることが、人の日常生活に与える影響について、人の生活構造、生活様式、生活
環境など多様な視点から捉え理解する。そして、障害や加齢に伴いケアを必要とする人たちの生活支援の内容と方法について、ソーシャルワーク、ケアワーク、看護といった支援の専門性の違いと生活支援のニードとの関係性から把握する。

〔到達目標〕
1. 障害や加齢による変化が、日常生活に与える影響について多様な視点から説明できる。
2. 障害や加齢により生じる日常生活上の問題と生活者のニード、ケアの必要性について説明できる。
3. ケアを必要とする人たちの生活支援の内容と方法について、ソーシャルワーク、ケアワーク、看護の視点で説明できる。
4. ケアを必要とする人のニードと具体的な生活支援方法を理解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３

〔授業計画〕
第 1 回　看護の専門職による生活支援とは【講義／内山】
第 2 回　障害に伴う日常生活の変化と援助【講義／内山】
第 3 回　加齢に伴う日常生活の変化と援助【講義／諏訪】
第 4 回　認知症と援助【講義／諏訪】
第 5 回　生活の援助方法①：住居の環境整備・移動の援助【講義／二神】
第 6 回　生活の援助方法①：ベッド周りの環境整備・車椅子での移動【演習／二神】
第 7 回　生活の援助方法②：食事摂取に関する援助【講義／内山】
第 8 回　生活の援助方法②：食事介助【演習／内山】
第 9 回　生活の援助方法③：排泄に関する援助【講義／二神】
第 10 回　生活の援助方法③：おむつ交換【演習／二神】
第 11 回　生活構造と生活課題【講義／永野】
第 12 回　生活構造と生活課題【演習／永野】
第 13 回　生活環境と支援の必要性【講義／永野】
第 14 回　生活環境と支援の必要性　【演習／永野】
第 15 回　福祉の専門職による生活支援とは　【講義／永野】

〔テキスト・参考書・参考文献〕
１．一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）（2021）. 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座１ 医学概論.　中央法規出版株式会社
２．一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）（2021）. 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座２ 心理学と心理的支援.　中央法規出版株式会社

〔成績評価の方法・基準〕
１．筆記試験（80％）
２．毎回のリアクションペーパー提出（manaba）（20％）
内容に関してのフィードバックは、授業時に行います。

〔授業時間外学修〕
【事前学習】：自分の24時間の日常生活について、意識をしてください。また、高齢者や障害者と関わるチャンスがあれば、生活で困っていることや希望していることを聞いてみて下さい。関わる機会がない場合は、テレビや新聞、インターネットなどを利用しイメージをしてみましょう。また、毎回の授業に関連した文献などを検索して事前に読むことで、授業内容が理解しやすくなります。1時間程度の時間が必要です。
【事後学修】：授業で配付した資料や文献を使って、毎回1時間程度の復習をしてください。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付けます。
随時、メールでも質問を受け付けます。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
生活の援助方法の演習時は、5号館2階基礎看護学実習室で行います。動きやすい服装で、室内履きシューズに履き替えて参加してください。詳しい説明は、授業時に説明します。

ソーシャルワーク演習Ⅲ/Social Work Excercises and Practice Ⅲ　2021年度入学

HS2318S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目
3年
2単位　前期
選択

脇山 園恵、根本 貴子

〔授業の概要〕
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
この科目では、様々な実践モデルを用い、社会的排除や虐待（児童・高齢者)、家庭内暴力（DV)、低所得者、ホームレス、その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）などの、具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。

〔到達目標〕
・実践事例において各種実践アプローチがどのように活用されるのかを学び、実践への理論の適用を理解する。
・他者の異なる意見や価値観を受け入れ、建設的な議論をすることができる。
・分担してグループを運営し、意見をまとめ、わかりやすく発表することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
科目の到達目標、進め方、演習を進めるにあたってのルールなどを確認する。
第 2 回　３つの実践モデル
同一の事例について、医学(治療)モデル・生活モデル・ストレングスモデルから検討し、実践モデルと支援の視点・方法の関係を体験的に学ぶ。
第 3 回　事例検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ①
模擬事例体験的想像からモデル等を見立ててみる。
第 4 回　事例（多問題を抱える家族）検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ②
現状を全体的に把握するためのアセスメントと、希望の持てる未来像の下に全体を変化させることの具体を体験的に学ぶ（家族療法アプローチ)。
第 5 回　事例（多問題を抱える家族）検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ③
アセスメントと倫理的判断過程を踏まえた支援着手の優先順位付を体験的に学ぶ。
第 6 回　事例（多問題を抱える家族）検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ④
解決志向・問題解決・課題 中心・行動変容・認知行動 アプローチの活用を体験的に学ぶ。
第 7 回　グループ発表の準備
課題中心アプローチを活用してケアプランを作成
第 8 回　グループ発表
ケアプランと課題中心アプローチの特徴を発表
第 9 回　事例(多機関･多職種による支援) 検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ⑤
事例の基本情報から課題を整理して支援に有効な実践アプローチ等を見立ててみる。
第 10 回　事例(多機関･多職種による支援) 検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ⑥
スーパービジョンの活用と自己覚知の意義について体験的に学ぶ(クライエント中心の視点, ナラティブアプローチ, エコロジカルアプローチ)。
第 11 回　事例(多機関･多職種のによる支援) 検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ⑦
専門職の視点や役割の違いを理解して多職種で連携・協働する方法を体験的に学ぶ(社会福祉固有の視点, リフレクション, 解決志向アプローチ)。
第 12 回　事例(多機関･多職種による支援) 検討による実践アプローチ等の活用を学ぶ⑧
支援に有効な社会資源の活用について体験的に学ぶ(セルフモニタリングツール, リカバリー, エンパワメントアプローチ)
第 13 回　グループ発表の準備
第９回～第12回までの授業を振り返り、事例で実践アプローチ等の活用を体験して学んだことをグループで共有する。
第 14 回　グループ発表
第 15 回　全体の振り返り

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：最新　社会福祉士養成講座　ソーシャルワーク演習[社会専門]　2021　中央法規

〔成績評価の方法・基準〕
授業中に行う課題への取り組み状況(50％)　　グループ発表の成果物(50％)

〔授業時間外学修〕
次回授業で扱う事例について読んで理解しておく(30分)　授業で扱った実践アプローチなどを自分のノートに整理し理解の定着を図る(60分)

〔オフィスアワー〕
初回授業で示す。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
脇山園恵：在宅介護支援センターの相談員、居宅介護支援事業所・介護支援専門員としての実践経験を活かし、課題中心アプローチなどの活用について演習を担当する。
根本貴子：医療ソーシャルワーカーの実務経験を活かし、解決志向アプローチなどの活用について演習を担当する。

〔その他履修上の留意事項等〕

ソーシャルワーク演習Ⅳ/Social Work Excercises and Practice Ⅳ　2021年度入学

HS2319S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目
3年
2単位　後期
選択

林 宏二、山口 圭

〔授業の概要〕
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う。

〔到達目標〕
1　個人から地域へと関心を広げ、活用の可能性のある社会資源を挙げることができる。
2　ネットワークを作るプロセスを考え、説明することができる。
3　体験を他者と共有し、学びを整理し、課題を明確にして説明することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
科目の到達目標、進め方、演習を進めるにあたってのルールなどを確認する。

第 2 回　地域福祉の計画の策定について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 3 回　グループで身近な地域を設定し、社会資源マップを作成する。

第 4 回　地域におけるサービス提供とチームアプローチについて、事例を通して体験的に学ぶ。

第 5 回　地域におけるネットワーキングについて、事例を通して体験的に学ぶ。

第 6 回　地域における権利擁護活動について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 7 回　社会資源の把握、活用、調整、開発について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 8 回　住民参加と組織化活動について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 9 回　ソーシャルアクションについて、事例を通して体験的に学ぶ。

第 10 回　地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について、事例を通して体験的に学ぶ。

第 11 回　相談援助実習の振り返りからグループで事例を作成する。グループメンバーの 相談援助実習での体験を持ち寄り、作成する事例のテーマを決める。

第 12 回　テーマに基づき、グループで事例を作成する。個人情報の保護を含め倫理綱領に かなった活動を行う。

第 13 回　他のグループが作成した事例に対し支援計画を立てるために、グループ間で相互 にアセスメントを行う。

第 14 回　アセスメントをもとに、他のグループが作成した事例の支援計画をグループで提案 し発表する。

第 15 回　授業全体を振り返り、地域への理解を深め、地域福祉を進めるためのソーシャル ワークを整理する。受講生自身による振り返りとまとめを行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新　社会福祉士養成講座　ソーシャルワーク演習〔社会専門〕』中央法規，2021年2月

〔成績評価の方法・基準〕
　個人ワークの取り組み状況20％，グループワークの取り組み状況20％，演習課題の達成状況30％，本演習の振り返り状況30％
　最後の回で，皆様から頂いた質問，ご意見等についてお答えします。

〔授業時間外学修〕
　他の授業で学んだ地域福祉，コミュニティソーシャルワーク関連の知識を予習（15分）・復習（15分）しておくこと。演習で取り上げる事例を事前に読んでおくこと。

〔オフィスアワー〕
　授業終了後に質問を教室または研究室で質問を受け付ける。また、メールでは随時質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
林：矯正施設で社会福祉士として５年間勤務し、受刑者の社会復帰に携わった。その時に身につけたクライエントが抱える課題へのアプローチの方法、また地域組織化の方法、社会資源の活用方法等を講義のなかで伝授する。

〔その他履修上の留意事項等〕

児童養護論/The Theory of Child Care　2021年度入学

HS3101

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

髙松 誠

〔授業の概要〕
今日、子どもと家庭を取り巻く生活環境の変化により、育児に対する不安や悩みを抱える養育者が増加し、子どもを家庭で養育することが困難なケースが問題となっている。このような社会的養護の現状を理解し、近年の家庭機能の脆弱化と、それに関連する社会的養護の取組について事例等を通じ学んでいく。その上で、子どもの発達の保障、子どもの権利を守る視点を意識しながら、社会的養護に関する知見を深めていく。

〔到達目標〕
①子どもと家庭を支援するサービスを活用するための知識を習得する。
②社会福祉専門職として求められる子どもへの支援方法について理解する。
③児童福祉における法制度や支援体制を活用した方法論を構築することができる。
④児童福祉における実践をソーシャルワーク実践との関連で理解し、展開することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　子どものマルトリートメントに対する支援
児童虐待やネグレクト等の概念をより広い意味で捉えた「マルトリートメント」の概念に着目しながら学修を進めることで、子どもへの「不適切な養育」とは何かを考え、社会福祉専門職が子どもを支援していくために求められる資質について考えていく場とする。

第 2 回　児童相談所による子ども支援
児童相談所の４つの機能について、児童福祉論Ⅰでの基本事項も確認しながら学修する。その上で、児童相談所職員に求められる資質、押さえておくべき法規、設置基準等についても言及する。

第 3 回　スクールソーシャルワーク①　概要
スクールソーシャルワークについて、その概要と実践者の実際の活動について学修する。スクールソーシャルワーカーに必要とされるスキルや連携について確認しながら、教育と福祉のかかわりの重要性を理解する機会とする。

第 4 回　スクールソーシャルワーク②　演習
スクールソーシャルワーカーの実践に関して、演習を通じて学校現場での児童生徒への支援について学び、具体的なスクールソーシャルワークの方法論（学校プラットフォーム・スクリーニング等）についても知る。

第 5 回　子どもの権利擁護とエンパワメント
グループディスカッションを通じて、子どもの権利擁護とエンパワメントについて、子どもの家庭福祉の専門職として重要な資質とは何かについて話し合いの場を持つ。家庭が持つ文化やコミュニティの違い、貧困の問題などの事例を読みながら議論を深めていく。

第 6 回　児童養護施設における支援①　概要
児童養護施設における支援を中心に、その他の児童福祉施設での支援も意識しながら児童指導員・保育士等の職務について学修する。児童養護施設に関する設置基準、運営指針等についても言及する。

第 7 回　児童養護施設における支援②　演習
児童養護施設における子どもへの支援について、演習、グループディスカッション等を通じて学びを深めるとともに、地域と連携した支援のあり方についても学修する場とする。

第 8 回　ヤングケアラーへの支援
近年、取り上げられることが増えたヤングケアラーの問題の所在と支援の実際について学修する。ヤングケアラー支援の実際について、現状と問題点について知り、支援のあり方について理解を深める。

第 9 回　子どもの居場所①　概要
家庭と学校以外の子どもの居場所について社会福祉が関わる資源について理解を深め、そうした場において社会福祉専門職が果たす役割についての理解を深める。子どもが育つための社会の構造・環境についても考察する。

第 10 回　子ども居場所②　演習
子どもの居場所について、地域資源を活用して、実際に居場所づくりをどのように行っていくのかを、演習課題を通じて考えながら、ディスカッションを行い、資源の活用から資源の創出に至るまでのプロセスについて学びを深める。

第 11 回　子ども子育て支援（市区町村子ども家庭総合支援拠点）
市区町村子ども家庭総合支援拠点事業について学修することを通じて、我が国における子ども子育て支援の現状と課題について学修する。

第 12 回　社会的養護関連施設の運営と管理
児童福祉施設における運営管理のついて学修する。設置基準や運営指針に触れることを通じて、子どもの代替的なケアに必要とされる事項についての理解を深める。

第 13 回　里親委託における運営と管理
児童福祉論Ⅰで学修した里親制度の基本的な理解を前提としつつ、里親委託における運営と管理について学修する。里親の研修や里親ファミリーホーム等についても既習の内容を発展させ理解を深めていく。

第 14 回　外国籍の子どもへの支援

外国籍の子どもに対する支援の現状と課題について学修し、子ども家庭福祉における取組について理解を深める。

第 15 回　まとめ　社会福祉におけるケアとは
子どもをケアするということの基本に立ち返るために、子ども家庭福祉における今後の我が国および現場における課題と子どもの権利の重要性についてグループディスカッションを行い、本講義の総括を行う。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
吉田幸恵・山縣文治編（2023）『新版 よくわかる子ども家庭福祉［第２版］』（やわらかアカデミズム　わかるシリーズ）ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕
レポート５０％　　小テスト（授業内実施）２５％　演習への取り組み内容２５％
レポートについては希望に応じて個別でフィードバックを行うと同時に、レポートの総評をコメントする場を持つ。

〔授業時間外学修〕
・予習：各講義の最後に次回までの予習として、読んでおくべき教科書の箇所を示す。概ね、予習にかける時間は1時間程度になると思われる。
・復習：講義の内容を定着化するために、講義の内容をノート等で記録したことを再確認するとともに、可能ならば、学修・活動経験を記録・蓄積し、自らの成長を確認するためのノートを独自に作成し、それを携帯することを希望する（学修ポートフォリオ）。ノート（含ワープロ等）の再読や、自修内容のノートへの記載も含めて、1時間30分強程度の復習時間が必要であると思われる。

〔オフィスアワー〕
・授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
・スクールソーシャルワーカー及び児童関連施設の支援員等の実務経験からは実践現場での子どもとのかかわりを、中高の教育現場での経験からはソーシャルワーク的な視点からの子どもの支援について言及する。

〔その他履修上の留意事項等〕
・小テストとレポートの提出を課する。講義の中で課題及び提出期限を提示する。
・授業中のスマートフォンの使用や授業に関係のない私語は行わないように留意する。

臨床心理学/Clinical Psychology　2021年度入学

HS3102

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

生井 裕子

〔授業の概要〕
臨床心理学は「人間行動の適応調整や人格成長を促し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、問題を軽減、解消することを目指す学問」である。心理学の中では、応用心理学の一分野であり、この講義は、臨床心理学の入門コースである。臨床心理学の対象（誰のどんな問題が対象になるのか)、アセスメント（どのように問題を捉えるのか)、そして介入（どう援助するのか）を学んでゆく。対象と介入に関しては、グループワークを行い、発表してもらうことで様々な対象と方法を効率的に学ぶ。また、臨床心理学の研究や実践の現状についても適宜紹介する。

〔到達目標〕
臨床心理学の基礎的知識と技術について、対象・アセスメント・介入という観点から理解を深め、身につけることを目的とする。また、グループワークや発表を通じて、身近な現象と関連付けながら、自分の考えを深めることを目標とする。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP３、DP６、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の概要及び進め方、到達目標を理解する。
第 2 回　臨床心理学とは何か
臨床心理学の成立や定義、構造について学ぶ。
第 3 回　臨床心理学はどのように役立つか
臨床心理学の実践やプロセス、心理的アセスメントや介入に当たってのケース・フォーミュレーションについて理解する。
第 4 回　公認心理師とは何か
公認心理師の仕事内容、支援の領域や対象者、必要とされる能力について理解する。
第 5 回　臨床心理学の成り立ち
臨床心理学の歴史について学ぶ。
第 6 回　臨床心理学と研究
臨床心理学と研究の関係や、研究の必要性について理解する。
第 7 回　生物ー心理ー社会モデル
臨床心理学実践における生物—心理ー社会モデルの考え方を学び、チームアプローチについて理解を深める。
第 8 回　人間性アプローチ：クライエント中心療法
クライエント中心療法の理論や実践について学び、動画視聴やグループワークを通じて理解を深める。
第 9 回　精神力動的アプローチ：精神分析学
精神分析学の理論や各学派の特徴、実践について学び、グループワークを通じて理解を深める。
第 10 回　行動主義：行動療法
行動療法の理論や原理、実践について学び、グループワークを通じて理解を深める。
第 11 回　認知モデル：認知行動療法
認知行動療法の理論や技法、実践について学び、グループワークを通じて理解を深める。
第 12 回　システム論：家族療法・カップルセラピー
家族療法の理論や実践について学び、動画視聴やグループワークを通じて理解を深める。
第 13 回　コミュニティアプローチ：コミュニティ心理学
コミュニティ心理学の理論や実践について学び、コミュニティや地域で求められる心理援助の特徴について、グループワークを通じて理解を深める。
第 14 回　社会構成主義：ナラティブアプローチ
社会構成主義やナラティブアプローチの理論や実践について学び、グループワークを通じて理解を深める。
第 15 回　まとめ
授業全体を振り返り、学んだ内容について確認する。期末レポートに取り組む。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは特に指定しないが、授業時に資料を配布する。
参考書：下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫（編）臨床心理学概論（公認心理師スタンダードテキストシリーズ３）　ミネルヴァ書房、2020年

〔成績評価の方法・基準〕
期末レポート（50％)、リアクションペーパーと小課題（50％）により評価する。
提出された課題については、次の授業でフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
毎回の授業で次の授業の資料を配布するので、授業までに予習をすること（20分程度)。
授業後には授業内容の振り返りと定着を目的として、リアクションペーパーと小課題の提出が求められる。課題に取り組み、期限までに提出すること（30～40分程度)。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
公認心理師・臨床心理士の資格を有し、公的相談機関及び教育機関における14年間の実務経験に基づき、臨床心理学についての講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕
授業内で求められるグループワークや発表に、積極的に参加できることが望ましい。

老年心理学/Geriatric Psychology　2021年度入学

HS3103

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　後期
選択

島田 千穂

〔授業の概要〕
認知機能の変化や感情、人格の変化、対人関係や心の健康などの心理学的問題を幅広く理解します。特に認知症の問題に重点を置き、ケアのあり方を具体的に理解します。高齢期と死の問題に関しては、心理とケアのあり方について具体的に考えていきます。授業ではアクティブラーニングのTBL を取り入れて理解を深めていきます。理論そのものの理解にとどまらず、事例と重ねて理解できるよう理論を説明することによって、実践で活用できる形で理論を理解できることをめざす。

〔到達目標〕
・高齢期における心理の特徴について、特に身体機能や認知機能の低下に影響を受ける心理の状態について理解する。
・死にゆく過程で生じる心理的変化について理解する。
・介護される高齢者の心理の理解を通じて、援助者自身が受ける心理的な影響をコントロールする態度について学ぶ。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　心身の低下に伴う高齢期の心理状態の特徴
心身共に衰える過程である高齢期に、これまでできたことができなくなっていく状況を受け入れ、対応することの心理を理解する

第 2 回　生涯発達心理学の視点から高齢期を捉える
高齢期はそれまでの人生の延長線上にあることを理解し、発達理論における高齢期の位置づけを理解する

第 3 回　要介護高齢者の生きる意欲を維持する心理的支援
衰える過程にあっても、生きる意欲を維持し続けられる事例を紹介し、支援に生かすにはどうしたらよいかを議論する

第 4 回　認知症の人の行動から気持ちを理解する１
介護施設でよくみられる、支援者を困らせる認知症の人の行動を挙げ、その理由として考えられる心理状態を推測する

第 5 回　認知症の人の行動から気持ちを理解する２
地域でよくみられる、家族や隣人を困らせる認知症の人の行動を挙げ、その理由として考えられる心理状態を推測する

第 6 回　認知症の人の行動から気持ちを理解する３
行動心理症状（BPSD）と言われる言動から、その理由として考えられる心理状態を推測する

第 7 回　身体拘束が高齢者の心理に及ぼす影響
身体拘束が高齢者の心理に及ぼす影響について、理解する。合わせて、身体拘束をせざるを得ない支援者側の心理的状況も理解した上で、解決方法を考える

第 8 回　高齢者の心理を家族との関係性から理解する
高齢者の心理を、家族や身近な人との二者関係、三者関係から理解し、高齢者本人と家族への心理的サポートについて考える

第 9 回　支援者自身の心理を俯瞰的に理解する
専門職として支援に関わる時の自分自身の心理を、支援を受ける高齢者の心理と重ね合わせて理解する。

第 10 回　心理的葛藤を含む事例を用いた認知症や要介護状態の人の心理を読み解く
認知症や要介護状態の人の心理を、支援者との関係に関わる葛藤を含む事例を用いて、議論を通じて理解する。

第 11 回　家族内の心理的葛藤を含む事例について考える
認知症や要介護状態の人の心理を、家族との関係に関わる葛藤を含む事例を用いて、議論を通じて理解し、ケア計画を考える。

第 12 回　支援者として職場で心理的葛藤を生じさせる状況の事例について考える
認知症や要介護状態の人の心理を、支援者との関係に関わる葛藤を含む事例を用いて、議論を通じて理解し、ケア計画を考える。

第 13 回　施設における観察データから認知症の人の気持ちを推測する
介護施設における支援者と認知症高齢者との関わりの場面から観察したデータを使って、認知症の人の気持ちを理解し、ケア計画を考える

第 14 回　死にゆく過程における高齢者、看取る家族の心理
看取る場面における看取られる高齢者の心理、看取る家族の心理を理解し、グリーフケアについて検討する。

第 15 回　死にゆく過程に関わる支援者の心理
看取る場面における看取りに関わる支援者の心理を理解し、グリーフケアについて検討する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
使用しない

〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパーの提出（４０％）、レポートの提出（６０％）
授業内でフィードバックします。

〔授業時間外学修〕
授業の準備と復習に、それぞれ30分ずつ合計1時間は確保すること。

〔オフィスアワー〕
メールで質問してください。対面指導を希望する場合は、まずメールで連絡してください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

家族臨床学/Clinical Study of Family Support
2021年度入学

HS3104

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　後期
選択

尾島 万里

〔授業の概要〕
家族とは何か。子どもや障害者など支援を必要とする人たちと家族との問題とは何か。
なぜ家族を支援しなければならないのかを学ぶ。そして、社会的及び生活問題を抱えている家族を支える方法についても事例等を含めて学修を進めていく。

〔到達目標〕
①現在における家族問題について国内外の諸問題について理解を深める。
②家族ライフサイクル理論について理解を深める。
③家族支援の現場の事例を通して、家族支援の方法について理解を深める。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業の内容について概要説明を行い、現代の家族問題について概要を理解する。
第 2 回　ひとつではない家族の形ーその歴史と現在
「家族」とは、いったいどういうものなのであろうか。家族像および結婚や家族の移り変わりから現在の家族を理解する。
第 3 回　諸外国の家族政策について
諸外国の家族の事情はどのような状況なのか。韓国、フランス、イギリスの子育て
をしている家族の事例とともに検討する
第 4 回　現代の家族が抱える問題について
前回の諸外国の家族の事情を踏まえて、日本における家族の事情及び家族問題に焦点をあて、家族支援の必要性について理解を深める。
第 5 回　家族ライフサイクル論①
人間は成長するにつれて親子から始まり、その関係性はライフステージごとに大きな変化が見られる。人間が親から自立するためにはどうしたらよいのか、乳幼児時期から青年期までの発達の理解を深める。
第 6 回　家族ライフサイクル論②
人間は子育てをし、その後の人生においてどのような発達課題を抱えるのであろうか。また、その中でどのような家族問題を抱えやすいのであろうか。成人期から老年期における発達課題を通して、家族の問題に関する理解を深める。
第 7 回　多様な家族とその理解
福祉や保育の現場において、利用家庭は障害児をもつ家庭、外国人家庭、多胎児をもつ家庭、保護者の病気及び障害、経済的問題など様々な問題を抱える家庭が利用している。これらの事例を通して、多様な家族の理解を深める。
第 8 回　家族支援のしくみ
当事者と家族が抱える問題を支援していくためには、関係機関が有する専門性をうまく活用していくという視点が欠かせない。この回では、おもに行政機関との協働・連携を円滑に進められるようになるための必要な知識を身に付けていく。
第 9 回　家族支援の現場についてー保健分野ー
地域における市民の健康を支えている行政機関は、保健所や保健センター及び精神保健センターである。これらの機関が、子育て中の家族や障がいや病気を抱える当事者とその家族を対象に、どのように家族支援を行っているのかを学ぶ。
第 10 回　家族支援の現場についてー保育所ー
子どもや子育てに関する支援機関にはどのような機関があるかを学び、事例を通して、子どもとその家庭への支援をどのように実践しているのかを学ぶ。
第 11 回　家族支援の現場についてー司法分野ー
人々の生命・身体の保護や安全の保障、犯罪の予防などを行っている警察や裁判所の役割と司法の現場が家族にどのように関わっているのかを事例を通して学ぶ。
第 12 回　家族を支える方法ー福祉のアプローチー
保育や福祉分野ではソーシャルワークを活用して当事者を支援することが求められている。ソーシャルワークの視点から当事者とその家族を支援する際の考え方や技法にはどのようなものがあるのかを学ぶ。
第 13 回　家族を支える方法ー心理のアプローチ①ー
保育や福祉分野では、当事者の話を傾聴し、ソーシャルワークなどの技法を使い、当事者やその家族の抱える問題を解決に導いていくことが多々ある。そのために支援において「傾聴」は大切な技法である。この回では「傾聴」の基本を学ぶ。
第 14 回　家族を支える方法ー心理のアプローチ②ー
家族支援の方法の一つに家族療法という方法がある。この回では家族療法が発展してきた経緯、家族療法の見方と考え方及び手法の一部を紹介する。
第 15 回　まとめ
これまで学んできた①現代における家族問題、②家族のライフサイクル、③家族支援を行っている行政や関連機関のしくみ、④家族支援の方法を踏まえて、家族の支援とは何かをディスカッション形式で検討する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：草野いづみ編著「家族・家庭支援論」同文書院
参考書：藪中征代・玉瀬友美編著「子ども家庭支援の心理学」萌文書林

〔成績評価の方法・基準〕
①レポート　50％、②授業時の提出課題　30％、③授業参加状況　20％

※授業時の提出課題については、授業内にコメントする。
上記①～③を総合的に見て、成績を算出する。
〔授業時間外学修〕
予習について：次回行う教科書の章や節を読んでくる。家族に関する新聞記事やネットニュー
スをチェックする。（予習にかける時間は1時間程度）
復習について：講義の内容を定着するために、授業中に配布した資料やノート等記録したこと
を再読する。（復習にかける時間は1時間程度）
〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受ける。
研究室の在室表示がある時。
事前予約も可（m-ojima@saku.ac.jp)
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
嗜癖問題をもっている人の家族相談室に2年半勤務。コンサルタント（臨床心理士）として地域子育て支援拠点事業に8年間勤務。
〔その他履修上の留意事項等〕
授業の進捗状況により、授業内容や方法が一部変更される場合がある。

老年学/Gerontology　2022年度入学

HS3105

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　今年度後期（隔年）
講義
選択

芳賀 博

〔授業の概要〕
人が老いるということはどういうことか、又、老化はどのように定義し測るのか。又、老化は食生活や運動だけでなく、人と人との関係やその中で生じるストレスが大きな要因と指摘されているが、そうしたストレスを生みだす社会のあり方や、老化への対応策まで含めて、人間の老化とそのプロセスを、生理的、心理的、社会的側面からとらえ、加齢現象の特徴と課題について理解を深め、高齢者支援の方法についての基本的な考え方を学ぶ。

〔到達目標〕
１） 老年学の特徴がどのようなところにあるか説明できる
２）加齢に伴う身体、心理、社会的側面の特徴を説明できる
３） 高齢者に対する福祉政策・制度について理解し、説明できる
４） 高齢者・高齢社会の課題を理解し、その解決策について考えることができる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　序章　老年学とは何か
・老化とは何か　・暦年齢による高齢者の定義の限界
・学際性を追求する
第 2 回　第4章　老化・高齢者と社会（１）
・人口の高齢化
・高齢期の社会関係
第 3 回　第4章　老化・高齢者と社会（２）
・高齢期の就業と就業からの引退　・高齢期における格差
・エイジズム
第 4 回　第4章　老化・高齢者と社会（３）
・社会参加、社会貢献
・介護問題
第 5 回　第2章　高齢者の医療・健康・予防（１）
・老化と寿命　・老化と寿命
・高齢期に問題となりやすい傷病　①
第 6 回　第2章　高齢者の医療・健康・予防（２）
・高齢期に問題となりやすい傷病　②
・高齢者のケアとリハビリテーション
第 7 回　第2章　高齢者の医療・健康・予防（３）
・高齢期のヘルスプロモーション　・介護予防
第 8 回　第3章　老化・高齢者と心理（１）
・老年心理学の基本的視点
・感覚・知覚の加齢変化と日常生活への影響
第 9 回　第3章　老化・高齢者と心理（２）
・記憶の加齢変化と高齢者の特徴
・知能の加齢変化と高齢者の特徴
・高齢者の感情と孤独
第 10 回　第3章　老化・高齢者と心理（３）
・人格・適応の加齢変化と高齢者の特徴
・高齢者のコミュニケーション
第 11 回　第５章　高齢者と家族を支える福祉学（１）
・老年学分野における福祉の政策・制度
第 12 回　第５章　高齢者と家族を支える福祉学（２）
・老年学分野における福祉の実践・方法
第 13 回　第6章　老年学とその関連分野
・死生学
・教育老年学
第 14 回　第１章　老年学研究の進め方
・実証研究のプロセス　・量的研究
・質的研究
第 15 回　全体の総括
・講義の振り返りとまとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
杉澤秀博、長田久雄、渡辺修一郎、中谷陽明　編著　『老年学を学ぶ』 桜美林大学出版会
発売元；論創社

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験（80％）
授業への参加姿勢：リアクションペーパーの記載の有無とその内容（20％） 記載内容について、次回授業時に適宜コメントを返す

〔授業時間外学修〕
1回の授業についてテキストに沿って1時間程度の予習を行うこと

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
老年学は、いくつかの異なる学問分野にまたがって成り立っています。したがって、テキスト「老年学を学ぶ」では、聞きなれない専門用語が出てくることもあるかもしれません。わからない用語が出てきた場合には、その意味をネット等で検索するなどして理解を深めてください。

障害学/Disability Studies　2021年度入学

HS3106

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　前期
選択

高島 恭子

〔授業の概要〕
障害者権利条約の締約国はこの条約に基づく義務の進歩に関する包括的な報告を国連に提出することとなっている。この科目では、障害者権利条約、障害者権利条約に基づく各国の「締約国報告(政府報告)」とNGOなどから提出されるパラレルレポート、骨格提言を学ぶ。世界の障害者にかかわる政策、実態、運動、最新のデータなどを学ぶことを通し、障害者権利条約が目指す社会はどのようなものか、各国はどのようにしてその社会に近づこうとしているのか、日本あるいは地域社会はどのようにしてそこに近づきうるのかを考える。

〔到達目標〕
・障害学の視座と障害の人権モデルを理解し、説明できる。
・国際的な視野から日本の障害福祉について、自分の考えを述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　「障害学」の歴史を学ぶ
オリエンテーション 「障害学」の背景、歴史、概要を学ぶ
第 2 回　「障害学」の論文から学ぶ（1）
「障害学」に関連し、日本の論文を読み、理解する（1）
第 3 回　「障害学」の論文から学ぶ（2）
「障害学」に関連し、日本の論文を読み、理解する（2）
第 4 回　「障害学」の論文から学ぶ（3）
「障害学」に関連し、イギリスの論文を読み、理解する（1）
第 5 回　「障害学」の論文から学ぶ（4）
「障害学」に関連し、イギリスの論文を読み、理解する（2）
第 6 回　「人権モデル」の論文から学ぶ（1）
「人権モデル」に関連する論文を読み、「人権モデル」の考え方を理解する（1）
第 7 回　「人権モデル」の論文から学ぶ（2）
「人権モデル」に関連する論文を読み、「人権モデル」の考え方を理解する（2）
第 8 回　「一般的意見 第1号」を学ぶ（1）
障害者権利委員会「一般的意見 第1号（第12条：法の前における平等な承認）」を読み、障害者権利条約における「法の前の平等」を理解する（1）
第 9 回　「一般的意見 第1号」を学ぶ（2）
障害者権利委員会「一般的意見 第1号（第12条：法の前における平等な承認）」を読み、障害者権利条約における「法の前の平等」を理解する（2）
第 10 回　「一般的意見 第5号」を学ぶ（1）
障害者権利委員会「一般的意見 第5号（第19条：自立した生活及び地域社会への包容）」を読み、障害者権利条約における「自立生活」を理解する（1）
第 11 回　「一般的意見 第5号」を学ぶ（2）
障害者権利委員会「一般的意見 第5号（第19条：自立した生活及び地域社会への包容）」を読み、障害者権利条約における「自立生活」を理解する（2）
第 12 回　日本からの「締約国報告」を学ぶ
日本の「締約国報告」および市民団体からの報告書を読み、「自立生活」を考える
第 13 回　日本への「総括所見」を学ぶ
国連障害者権利委員会から日本への「総括所見」を読み、内容を検討する
第 14 回　各国への「総括所見（第19条）」を学ぶ
国連障害者権利委員会から他国への「総括所見（第19条）」を読み、内容を検討する
第 15 回　障害者権利条約が目指す社会
障害者権利条約が目指す社会を考える

〔テキスト・参考書・参考文献〕
適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
授業における発表、発言など、授業参加の評価を50％、期末レポートの評価を50％とする。期末レポートでは到達目標についてその達成状況を評価し、授業参加の評価（目標到達のための取組みのプロセス）と合わせて全体の評価とする

〔授業時間外学修〕
配布資料を予め読み、発表担当箇所の準備をして授業に臨むこと。
1コマ当たりの準備学習に必要な時間は90分とする。

〔オフィスアワー〕
随時、メール（takashima-kyoko●spu.ac.jp）で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
授業では、事前準備やディスカッションなど積極的な参加を求めます。障害福祉の未来を一緒に考えてみましょう。

認知症ケア論Ⅰ/Health and Social Care of Dementia Ⅰ　2021年度入学

HS3107

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

島田 千穂、唐澤 千登勢、菊池 小百合

〔授業の概要〕
認知症介護におけるパーソンセンタードケアは、イギリスの心理学者トム・キットウッドが提唱した認知症ケアの基本的な考え方である。日本でもこの考え方は広く理解されるようになってきた。講義では、パーソンセンタードケア（その人を中心としたケア）を基本に、認知症を抱えた人のケアと生活支援について学ぶ。認知症の病気の面ではなく、本人の生活の面から認知症ケアを考え、その人らしい生活を継続していく支援を考える。

〔到達目標〕
認知症の人が、できる限り最期まで、自分らしさを守りながら暮らし続けられる支援とはどのようなものか、説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　認知症の基礎知識１（島田）
認知症の人が社会でどのように認知されてきたか、認知症ケアは時代によってどう変化してきたか、歴史的に概観する。

第 2 回　認知症の基礎知識２（島田）
認知症ケアの理念とパーソンセンタードケアについて学ぶ。

第 3 回　認知症の人の行動・心理症状の特徴とケア１（菊池）
認知症という病の影響で起きる脳や身体の不調から生じる様々な症状（行動・心理症状：BPSD）について理解する。

第 4 回　認知症の人の行動・心理症状の特徴とケア２（菊池）
ケア従事者として、どのようにBPSDを捉え、対応するか、認知症ケアのあり方を考える。

第 5 回　認知症の人とのコミュニケーションの取り方（島田）
認知症の人が示す態度や行動の具体的な事例に対して、ケア従事者としてどのように捉え、どう対応したらよいのか、具体的な対応方法について理解する。

第 6 回　認知症の人へのサポート体制（島田）
地域で暮らす認知症の人の症状の変化やそれに伴う生活の変化に対し、多職種で支える体制について理解する。

第 7 回　認知症の人へのアセスメントの方法と対応１（唐澤）
認知症の人へのケアを検討する上で必要なアセスメントの視点と方法について学ぶ。

第 8 回　認知症の人へのアセスメントの方法と対応２（唐澤）
認知症の人が、食事、排泄、睡眠などの生活場面の困りごとを通じて、専門職としてアセスメントし、ケアプランにつなげる方法を理解する。

第 9 回　認知症の人が生活する場の特徴と制度（島田）
認知症の人が生活する多様な場の特徴と制度を理解する

第 10 回　認知症の人を支える家族の介護負担と支援（島田）
認知症の人を支える家族の介護負担の特徴を調査データから理解し、その支援方法を考える。

第 11 回　認知症ケアの倫理（島田）
認知症の人をケアする人（家族介護者、専門職）に求められる倫理的な課題を理解する。

第 12 回　認知症の人の身体拘束や治療の選択に伴う倫理的課題（島田）
身体拘束や治療の選択など葛藤を引き起こす場面を含む具体的な事例を取り上げて、認知症の人にとってより良い解決方法についてディスカッションする。

第 13 回　認知症の人のエンドオブライフケア１（菊池）
認知症の人のエンドオブライフを支えるケアチームについて、看護の視点から理解する。

第 14 回　認知症の人のエンドオブライフケア２（島田）
認知症の人のエンドオブライフを支えるケアチームについて、福祉の視点から理解する。

第 15 回　認知症ケアの今後の課題（島田）
若年性認知症の人へのケアや超高齢社会における認知症ケアの今後の課題について理解する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
参考書：日本認知症ケア学会（編）「認知症ケアの実際Ⅰ」「認知症ケアの実際Ⅱ」ワールドプランニング社

〔成績評価の方法・基準〕
期末レポート提出（60％）、授業のリアクションペーパー（40％）
リアクションペーパーの内容について、授業内でフィードバックします。

〔授業時間外学修〕
認知症ケアに関する社会的課題は、マスコミで取り上げられます。報道の中で認知症ケアがどのように取り上げられているのか、授業の前後30分ずつ合計1時間は確保すること。

〔オフィスアワー〕
メールで質問してください。対面指導を希望する場合は、まずメールで連絡してください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

リスクマネジメント論/Risk Management　2021年度入学

HS3108

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
1単位　後期
選択

根本 貴子、内山 明子

〔授業の概要〕
本講義では、保健・医療・福祉の様々な領域において生じうるリスクに対する危機管理手法としてのリスクマネジメントについて基本的事項、実際の保健・医療・福祉・災害の現場におけるリスクマネジメントの手法について学ぶ。また、本講義では、保健医療福祉の現場におけるヒューマンエラーの定義についても学び、サービス提供者、施設を利用する人すべての「安全」について理解する。そのうえで、リスク回避方法の原則等について理解し、保健医療福祉の現場での具体的な事例をもとにリスクマネジメントについて理解する。

〔到達目標〕
・リスクマネジメントの概念と類似する諸概念との相違を理解した上で、リスクマネジメントのプロセスについて説明できる。また、事例検討を通してリスクマネジメントについてのより具体的な視点と方法を理解する。
・医療事故発生のメカニズムとリスクマネジメントについて学び、チームで取り組む安全文化の醸成のあり方を理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
科目の概要と講義の進め方
第 2 回　リスクマネジメント・危機管理の枠組みと近接諸概念
リスクマネジメント、危機管理の各用語、概念の相違、および、リスクマネジメントに関係する諸概念について整理する
第 3 回　リスクマネジメントのプロセス
リスクマネジメントの手順・方法・プロセスについて学ぶ
第 4 回　医療安全とリスクマネジメント
医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向
国および医療機関の医療安全への取り組み
第 5 回　医療事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
事故発生のメカニズムと対策
チームで取り組む安全文化の醸成
第 6 回　災害時におけるリスクマネジメント
日本と海外の災害に対する危機管理体制について学ぶ
東日本大震災の事例をもとに被災地域における事業継続の課題について事例
を基に学ぶ
第 7 回　復興災害とリスクマネジメント
復興期における地域やコミュニティが抱える課題について東日本大震災の事例をもとに学ぶ
第 8 回　講義のまとめ・事例検討
講義の内容を振り返り、小グループによる事例検討を行う

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは特に指定せず、配布資料を使用する。
参考文献等を適宜授業内で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポートの評価(50%)　　授業への参加度(50%)

〔授業時間外学修〕
配布資料等を参照し、授業の内容をノートに整理する。(60分)

〔オフィスアワー〕
授業内で指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ソーシャルワーク論Ⅳ/Social Work Ⅳ　2021年度入学

HS3109S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

3年
2単位　後期
選択

長谷川 武史

〔授業の概要〕

ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。

この科目では、相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。ソーシャルワークの対象をどのような視点からとらえ、課題とされる状況にどのように取り組むのかには多様な考え方がある。そこで、様々な実践モデルとアプローチ、ケースマネジメントとケアマネジメント、スーパービジョン、相談援助と個人情報の保護の意義と留意点、相談援助における情報通信技術（IT）の活用について学ぶ。実践に対する理論的な思考を養うことを通して、「問題解決能力」を高めることをねらいとする。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種援助技術に関する基本的な知識の習得を目指し、以下を到達目標とする。

・ソーシャルワーカーとして多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について説明できる。
・支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために必要な知識と技術について説明できる。
・アウトリーチの意義と留意点を説明できる。
・ソーシャルワークに必要な関連技法の意義と目的について説明できる。
・ソーシャルワークにおけるカンファレンスの意義と目的について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP５、DP６

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
・科目の到達目標、進め方、授業外学習などについて確認し、予備知識と期待を理解する。
・これまでのソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク実習での学びとの関連性を理解する。

第 2 回　援助関係の形成方法①：自己覚知と他者理解
援助関係形成の意義と概念について理解する。
事例検討①

第 3 回　援助関係の形成方法②：コミュニケーションとラポール
援助関係の形成方法と留意点について理解する。
事例検討②

第 4 回　面接技術①：面接の意義、目的、方法、留意点
面接場面における、ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係について理解する。
事例検討③

第 5 回　面接技術②：面接の場面と構造、面接技法
援助関係形成と面接技術についてのまとめ
事例検討④

第 6 回　アウトリーチ①：アウトリーチの意義、目的、方法、留意点
アウトリーチが必要な現代的状況を踏まえ、アウトリーチ技術の基本的事項を理解する。

第 7 回　アウトリーチ②：アウトリーチを必要とする対象具体的な場面を元に、アウトリーチが必要な対象像を理解する。（VTR視聴）

第 8 回　アウトリーチ③：ニーズの掘り起こし
アウトリーチ実践から、個別支援から地域支援へのつながりを考える。

第 9 回　ソーシャルワークに関連する技法①：ネゴシエーション
ネゴシエーションに関する基本的役割とプロセスを理解する。

第 10 回　ソーシャルワークに関連する技法②：ファシリテーション
ファシリテーションに関する基本的定義とプロセスを理解する。

第 11 回　ソーシャルワークに関連する技法③：プレゼンテーション
プレゼンテーションに関する基本的な方法・留意点を理解する。

第 12 回　カンファレンスの意義、目的、留意点
ソーシャルワーク領域におけるカンファレンスの取り扱いについて理解する。

第 13 回　カンファレンスの運営と展開①：同一機関内におけるケース
多様な場面におけるカンファレンスの実施方法について理解する①

第 14 回　カンファレンスの運営と展開②：複数機関にまたがるケース
多様な場面におけるカンファレンスの実施方法について理解する②

第 15 回　授業全体を振り返り、ソーシャルワーク実践に必要な知識・技術を再確認する。
これまでの学びを踏まえ、ソーシャルワーカーとして実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を整理し、「問題解決能力」を高めための視点を確認する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

(テキスト)
・最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］

〔成績評価の方法・基準〕

到達目標の達成状況を把握するため以下の評価を行う。
・毎回のリアクションペーパー評価：30％
・講義内レポート(2回)：30％
・定期試験評価：40％

それぞれの評価やコメントについては、manabaにて個別に周知する。
〔授業時間外学修〕
各回の内容に該当するテキストの読み込み：９０分
各回の課題への取り組み：４５分
SW実践に関連するニュース・雑誌・新聞記事等からの情報収集：４５分
〔オフィスアワー〕
初回授業時に周知する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
これまでのSW論・SW演習・SW実習等で得られた学びを踏まえ、社会福祉士国家資格取得に向け、自らの学びを体系的に整理する重要な時期での履修となります。
各自、主体的に講義に参加するようにしてください。

精神保健ソーシャルワーク論/Mental Health Social Work　2021年度入学

HS3110M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目
3年
2単位　前期
選択

江間 由紀夫

〔授業の概要〕
精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての専門的援助技術およびリハビリテーション技法の基本的な知識・理論を把握し、事例を基に総合的かつ包括的な相談援助、医療と福祉の協働と連携について考え理解を深める。特に精神障害者を支援する上で重要な課題として、権利擁護（社会的排除)、当事者活動（ピアサポート、自助グループなど）危機介入、薬物・アルコール依存等を取り上げ、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント、ネットワーキングなどの手法を用いた具体的な支援方法について学ぶ。

〔到達目標〕
①精神保健福祉士によるソーシャルワークの援助課程を説明できる
②精神障害および精神保健福祉の課題のある人、およびその家族について理解し、支援方法を考えることができる
③精神医療、精神障害者福祉に関する他職種の役割を理解し、多職種・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割を説明できる
④精神保健福祉士が所属する機関や組織の役割や活動、運営管理の概念を説明できる
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践過程を考えることができる
⑥精神保健福祉分野以外の精神保健福祉士の実践を説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション：精神保健ソーシャルワークとは
授業の進め方や学習の方法の説明を行います。また精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要について説明します。

第 2 回　ソーシャルワークの基礎を復習１：直接援助技術
ソーシャルワークの援助技術のうち、直接援助技術（個別援助技術、集団援助技術、ケアマネジメント等）に関する基礎的な部分の復習を行い、精神保健福祉士による実践について学びます。

第 3 回　精神保健福祉士とソーシャルワークの展開１：直接援助技術事例
精神保健福祉士による直接援助技術の展開過程について、事例を通して学びます。

第 4 回　ソーシャルワークの基礎を復習２：間接援助技術
ソーシャルワークの援助技術のうち、間接援助技術（コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション等）に関する基礎的な部分の復習を行い、精神保健福祉士による実践について学びます。

第 5 回　精神保健福祉士とソーシャルワークの展開２：間接援助技術事例
精神保健福祉士による間接援助技術として、地域とのコンフリクトや社会的排除への対応について事例を通して学びます。

第 6 回　精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点
精神保健福祉分野の現状や課題を取り上げ、精神保健福祉士によるソーシャルワークの視点について学びます。

第 7 回　精神障害者家族の課題と支援
精神に障害のある人の家族（親、きょうだい、子どもなど）が置かれている状況と直面している課題に対する支援方法について学びます。

第 8 回　精神保健福祉士と当事者活動
自助グループやピアスタッフ、ピアサポートなどの当事者の方々による活動と精神保健福祉士の関わりについて学びます。

第 9 回　精神保健福祉士と危機介入
精神保健福祉士が関わる危機介入について事例（依存症、身体疾患、生活困窮等）を通して学びます。

第 10 回　精神保健福祉士と地域支援１：地域移行と生活支援
精神科病院等から地域生活へとの移行を支援する過程と地域における生活支援のあり方について学びます。

第 11 回　精神保健福祉士と地域支援事例分析１：地域移行事例
事例を通して精神科病院での長期入院から地域生活へ移行する際の支援について検討します。

第 12 回　精神保健福祉士と地域支援２：多職種・多機関連携
精神障害者の地域支援で重要となる多職種・多機関との連携について学びます。

第 13 回　精神保健福祉士と地域支援事例分析２：関係機関との連携事例
障害者自立支援協議会、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」などへの精神保健福祉士の関与について事例を通して検討します。

第 14 回　関連分野における精神保健福祉士の実践
司法分野や教育分野における精神保健福祉士の実践について学びます。

第 15 回　まとめ：精神保健福祉士が行うソーシャルワーク
授業の全体を振り返り、精神保健福祉士が行うソーシャルワークについて理解を深めます。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
１）「最新　精神保健福祉士講座６　ソーシャルワークの理論と方法（精神専門)」日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規出版
２）その他、必要に応じて紹介します

〔成績評価の方法・基準〕
・小テスト（30％）、事例分析のレポート（30％）、その他の課題やレポート（40％）を目安として総合的に評価します。
・提出されたレポートや課題に関しては、後日コメントをつけて返送します
〔授業時間外学修〕
・毎回の授業内容に対する復習としてノートを作成（60分）
・テキストの次回の授業内容箇所を読む（30分）
〔オフィスアワー〕
研究室在室時は随時。
メールでの連絡も可です。y-ema●saku.ac.jp
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
精神科病院（12年）ならびに地域生活支援センター（現地域活動支援センターI型：5年）での実務経験を基に精神保健福祉士としての実践的な技術や業務の実際を説明します。精神保健福祉士としての苦労、やりがいなどについても伝えられたらと思います。
〔その他履修上の留意事項等〕
・精神保健福祉士国家試験を受験するために必要な科目（国家試験科目：ソーシャルワークの理論と方法（専門）に該当）です
・原則として紙の資料は配布しません。オンラインに用意された資料をプリントアウトするか、オンラインで読めるよう準備してください。

医療ソーシャルワーク論/Medical Social Work
2021年度入学

HS3201

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

根本 貴子

〔授業の概要〕
保健医療サービスにおいて、生活相談を行う社会福祉士と規定されている医療ソーシャルワーカーが、利用者の生活の質の向上に貢献できるように、保健医療の専門職やその他関係者・機関とチームを組み、多職種・多機関連携を行っていくことについて学ぶ。保健医療サービスを提供する他の専門職の役割を確認し、それを補完・連携するために必要なソーシャルワーカーの基本的姿勢や視点を理解する。保健医療ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解するために、歴史、制度的背景、実践課題を理解するとともに、専門職としての倫理観と行動基準に基づく具体的な支援のあり方について、事例を通して学ぶ。医療ソーシャルワークの理念と今日的課題・意義を検証するとともに、学生の自己覚知・適性の自己理解を促す一助とする。

〔到達目標〕
1.　医療ソーシャルワーカーの業務がイメージできる。
2.　傷病者の治療や療養に伴う多様な生活課題を理解し、福祉的視点による支援のあり方について考察できる。
3.　医療現場に福祉職が存在する意義について、自分の考えを述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の構成と各回で扱う内容について
第 2 回　専門職としての医療ソーシャルワーカー
　　倫理綱領　医療ソーシャルワーカーの業務指針
第 3 回　医療ソーシャルワーカーの現状
　　医療ソーシャルワーカーの人数の推移　医療機関の種別　機能　役割
第 4 回　医療ソーシャルワークの歴史
　　日英米における医療ソーシャルワークの起源について
第 5 回　ソーシャルワークの理論史
　　援助関係論の発展過程と援助モデル
第 6 回　医療制度と政策の動向
　　医療法の改正　病床の機能分化　保健医療サービスの提供システム
第 7 回　地域包括ケアの多職種連携
　　地域包括ケア体制における医療ソーシャルワーカーの役割
第 8 回　医療ソーシャルワーカーの実践①
　　回復期リハビリ病棟の事例
第 9 回　医療ソーシャルワーカーの実践②
　　在宅医療の事例
第 10 回　医療ソーシャルワーカーの実践③
　　がん相談の事例
第 11 回　医療ソーシャルワーカーの実践④
　　療養病床の事例
第 12 回　ゲストスピーカーの講話
第 13 回　援助論①
　　対象者理解　病いの体験について
第 14 回　援助論②
　　医療における福祉臨床という視点から
第 15 回　まとめ
　　授業の振り返りとレポート課題(書き方)

〔テキスト・参考書・参考文献〕
参考文献：
・岡村重夫一1975年「社会福祉学(各論)」
・日本医療社会福祉協会　日本社会福祉士会[編集]2016年「保健医療ソーシャルワーク　アドバンスト実践のために」
・佐藤俊一ほか編著2018年「新・医療福祉学概論」
・稲沢公一2017年「援助関係論入門『人と人との』関係性」
ほか、適宜授業内で紹介する

〔成績評価の方法・基準〕
レポート（60％）授業への参加状況（40％）

〔授業時間外学修〕
予習：授業の前にmanabaに掲載する資料を読み疑問点を整理してくる(30分)
復習：参考文献や配布資料をもとに授業内容をノートに整理する(60分)

〔オフィスアワー〕
授業の初回で示す。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
総合病院における医療ソーシャルワーカーの実務経験をもとに、医療ソーシャルワークの実践に関する講義を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕
医療ソーシャルワーカーを志望する学生とソーシャルワーク実習で医療機関を予定している学生は、本科目を履修することを望みます。

医療支援ネットワーク論/Medical Support Network　2021年度入学

HS3202

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
1単位　後期
選択

野坂 洋子

〔授業の概要〕

現代の医療においては、医学的な視点に加えて心理社会的な側面にも配慮した患者サービスが求められており、多職種の連携・協働は必要不可欠な状況となっている。本講義では、保健医療サービスにおける専門職の連携と実践について、多職種連携の基礎知識を理解するとともに、チーム医療において福祉の専門職が求められる知識や技術を学ぶ。具体的には、多職種連携場面を想定した事例等を通して各職種を理解すると共に、他職種との連携場面において求められるより実践的な知識と技術の習得を目指す。

〔到達目標〕

・病院内における多職種連携チームの構築と協働に必要なソーシャルワーカーの知識・技術について説明できる。
・地域の社会資源との連携における医療ソーシャルワーカーの役割について説明できる。
・多職種連携場面において必要な技術を習得する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP３

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本授業のシラバス内容の確認を行う。
[準備]シラバスを熟読しておく。

第 2 回　保健医療サービスと連携
保健医療サービスにおける「連携」の意味を理解し、連携が求められる背景と有機的な連携に求められる多種多様な人材・職種の能力発揮についての視点を学ぶ。
[準備]保健医療サービスにおける連携について自分なりに調べてみる。

第 3 回　多職種連携とチームアプローチの構成要素
病院内におけるチームアプローチの展開プロセスについて理解し、実際の事例を通して適切なチームワークの方法、多職種連携に必要なソーシャルワークの知識と技術について学ぶ。
[準備]チームアプローチの展開プロセスについて調べておく。

第 4 回　病院内における多職種連携の必要性と各職種の役割
多職種連携が求めらえる背景、その重要性について理解し。多職種連携場面の事例等を通して、医療ソーシャルワーカーの実際の活動について学ぶ。
[準備]病院内で活躍する専門職について調べておく。

第 5 回　多職種連携におけるファシリテーション
カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について理解した上で、実際に事例場面でのファシリテーションを経験することで、技術の習得を目指す。
[準備]ファシリテーションとは何かを調べておく。

第 6 回　チームマネジメントにおける課題と対応
多職種連携することで生じる問題とその解決策について理解し、問題場面時にどのような対応が考えられるかについてグループワークで検討する。
[準備]チームマネジメントにて起こり得る問題について調べておく。

第 7 回　多職種連携演習
退院支援事例に対する各職種の視点と見立てを理解した上で、医療ソーシャルワーカーとしての視点とアセスメントを模擬カンファレンスにおいて報告し、他職種の理解が得られる伝え方とソーシャルワークの視点の共有について学ぶ。
[準備]アセスメントとは何かを復習しておく。

第 8 回　まとめ
今までの授業内容の振り返りと確認に取り組む。
[準備]]これまでの授業内容を復習しておく。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：使用しない。教員が資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

最終レポート[70 %]，出席・平常点[30 %]

〔授業時間外学修〕

各回の［準備］内容について毎回30分取り組む。

〔オフィスアワー〕

お昼休み、もしくは水曜日5時限目。
教員が不在の場合はynosaka@saku.ac.jpまでメールにて相談の上、予約を取るようにしてください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

認知症ケア論Ⅱ/Health and Social Care of Dementia Ⅱ　2021年度入学

HS3203

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
３年
2単位　後期
選択

安岡 芙美子、唐澤 千登勢

〔授業の概要〕

わが国の高齢者における認知症有病率は、65～74歳の高齢者では3～4％、75～85歳では10～20％、85歳以上では、40～80％に及ぶとされている。このことから、2025年には670万人、2060年には860万人が認知症となり、2060年の時には認知症の人の70％は85歳以上となるであ
ろうと推測されている。つまり、我が国において、超高齢社会を生きる人の大半が認知症であることになる。このことは、社会福祉に携わるであろうすべての人に、認知症に関する知識が不可欠であると言える。そこで、本講義では、認知症の病理学的な知識、診断のための検査、認知機能の評価尺度、認知症の種類とその特徴、ＢＰＳＤ（認知症の行動、心理症状）の原因とその要因、生活影響などについて学修する。さらに、治療や予防についても理解し、早期発見、認知症の人が安心して暮らせる社会づくりについても学ぶ。

〔到達目標〕

認知症の方は生活には不便な面はあるが、多様性に富む人間のなかの一人の生活者であり社会のなかで生きる存在として尊重されなければならない。ケアにあたっては、認知症の方の個別性に注目しオーダーメイドのケアを行いながら、その方の人生に伴走しなければならないことを理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　認知症ケア問題の顕在化とケアの歴史（１）
高齢社会における認知症ケアは最大の課題の一つ
要介護高齢者の増加のなかで、要介護の原因のトップは認知症による
家族形態の変化で介護の社会化がなければ、この問題は対処できない

第 2 回　認知症ケア問題の顕在化とケアの歴史（２）
認知症ケアの歴史
　痴ほう老人に翻弄された実践から認知症高齢者の理解に基づくケアへ

第 3 回　認知症とは（１）
認知症の医学的側面
　認知症を引き起こす主な病気、症状、診断について

第 4 回　認知症とは（２）
心理学からみたこころの働きと認知機能について理解する
　こころの機能と行動・心理症状のメカニズムについて

第 5 回　認知症の経過と其々の段階における課題（１）
第1段階　初期段階　初期に現れがちな症状と本人の思い、周囲の人々の思い、初期対応、ケアについて事例も提示しながら考える

第 6 回　認知症の経過と其々の段階における課題（２）
第2段階　食事、排泄、入浴など基本的な生活行動に介護を要する段階であり、
　家族介護が厳しくなり、施設入所が多くなってくる段階

第 7 回　認知症の経過と其々の段階における課題（３）
第3段階　生活すべてに介護が必要であり、24時間ケアが必要、終末期には
　衰弱が目立ち、人工的に延命するか、しないで看取るかが問題となる

第 8 回　ケアに関する法・制度、サービスについて
認知症のかたが利用できる介護サービスの種類・内容・費用と課題
介護サービス利用で生活の質はどこまで保つことができるか

第 9 回　施設と在宅サービスについて
施設サービスの種類と費用および施設ケアの理念、実態、課題
施設サービスと在宅サービスの一体化はできないか

第 10 回　認知症ケアの考え方
デンマークの高齢者介護の3原則は認知症高齢者ケアにとっても原則
ケアは本人の人生をトータルにみて伴走すること　主体は認知症本人である
重度になっても、反応がつかめないような状態になっても本人の意思は最大限尊重されるなければならない。介護者は逃げずに向き合うことで介護者自身も成長する

第 11 回　認知症との「共生」と健康増進策ー1（唐澤）
・認知症のタイムリーな診断と診断後支援：認知症の軌跡全体の理解、診断・検
　査、認知機能のアセスメント、治療・予防

第 12 回　認知症との「共生」と健康増進策ー2（唐澤）
・認知症のタイムリーな診断と診断後家族支援：認知症の人と家族の会「つどい」の活動、ピアサポート活動や本人ミーテイングの推進、キャラバンメイトなどの取り組みなどの認知症の本人と家族支援の実際を学ぶ

第 13 回　認知症のチームケアと担い手（唐澤）
・認知症の認知症の本人と家族を一体的に支援するケア・その担い手
・一体的支援プログラム、医療福祉の枠を超えたアクションアライアンス構築、多職種によるチーム体制

第 14 回　認知症の当事者にやさしい地域づくり-1（唐澤）
・地域・地元の取り組み（グループワーク）
・佐久大学「さくカフェ」誕生から2年間のとりくみ

第 15 回　認知症の当事者にやさしい地域づくり-2（唐澤）

・地域・地元の取り組み（グループワーク）
・認知症の当時者にやさしい町づくり、人づくりに向けて

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献 （安岡担当分）

①『ぼくはやっと認知症のことがわかった』長谷川和夫　KADOKAWA

②『認知症とともに生きる私』クリスティーン・ブライデン　大月書店

③『認知症を生き抜いた母』安岡芙美子　クリエイツかもがわ

④『脳からみた心』山鳥重　角川ソフィア文庫

⑤『ケアとは何か』村上靖彦　中公新書

以上は学生の読みやすい本を上げています。それ以外は授業で適宜紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

第1回～第10回　安岡担当分についてはレポートで評価します

第11回～第15回（唐澤）リアクションペーパー（20%）、授業への参加状況（10％）

リアクションペーパーの内容について、授業内でフィードバックします。

〔授業時間外学修〕

第１回～第１０回 （安岡）参考文献の①できれば②も読んでおいてください。

各授業については事前配布の資料を読んでおいてください。（15 分）

第11回～第15回（唐澤）各回の授業で配布した資料を読み返してください。（15分）

〔オフィスアワー〕

唐澤　火・水曜日の16：00～18：00

安岡　対面授業では授業後、その他はメールで質問・相談をお寄せください

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ターミナルケア論/Terminal Care　2021年度入学

HS3204

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
1単位　後期
選択

井藤 佳恵、松家 まゆみ、菊池 郁希、島田 千穂

〔授業の概要〕
終末期に関する、専門職としての理解を深める。
その際に、終末期を迎える本人、その周囲にいる家族、医療介護福祉の専門職それぞれの立場について考え、立場や関係による物事のとらえ方や、倫理観の違い等を考察する。医療や看護職の実践、終末期の観察、具体的なケア、家族への心の支援等の在り方、さらに、看取り後の家族や親族、友人をはじめ、病院や施設においてターミナルケアを行った専門職等への支援、相互の心のサポートの在り方について考察し、理解する。
終末期の保健・医療・福祉においては、終末期を迎えているその方たち自身の意思の把握とともに、自己決定支援の課題が多い。それらの課題についても学習する。
〔到達目標〕
ターミナルケアに「わかりやすい正解」はなく、自分がもつ気持ちは、「普遍的な正解」なのではなく「私の価値観」であることに気づくこと。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP６
〔授業計画〕
第 1 回　終末期にある人の「判断能力」について考える
講義（場合によっては演習を併用）
「判断能力」とは何か、「判断能力がない」という判断について、事例を通じて理解する
第 2 回　終末期の判断能力が不十分な人の意思決定への関わり
演習（受講人数等の事情によっては講義形式）
終末期にある人の思いにどのように関わることができるのか、事例を通してグループディスカッションを行う
第 3 回　ターミナルケアチームにおける多職種連携１
講義（場合によっては演習を併用）
ケアを提供する場面における「他者に対する違和感」について、事例を通じて理解を深める
第 4 回　ターミナルケアチームにおける多職種連携２
演習（受講人数等の事情によっては講義形式）
「他者に対する違和感」が先鋭化しやすい場面を取り上げ、グループでディスカッションを行う
第 5 回　訪問看護師が関わるターミナルケア１
ターミナルケアにおける訪問看護師の役割を理解し、事例を通じて、地域で最期を迎える人へのケアチームのあり方を理解する
第 6 回　訪問看護師が関わるターミナルケア２
ターミナルケアにおける訪問看護師の役割を理解し、事例を通じて、地域で最期を迎える人へのケアチームのあり方を理解する
第 7 回　ケアマネジャーが関わるターミナルケア１
ターミナルケアにおけるケアマネジャーの役割を理解し、事例を通じて、地域で最期を迎える人へのケアチームのあり方を理解する
第 8 回　ケアマネジャーが関わるターミナルケア２
ターミナルケアにおけるケアマネジャーの役割を理解し、事例を通じて、地域で最期を迎える人へのケアチームのあり方を理解する
〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト使用なし。
資料を適宜配付する。
〔成績評価の方法・基準〕
リアクションペーパー（40％）、レポート（60％）
提出課題に対して、授業内でフィードバックします。
〔授業時間外学修〕
授業前後に予習・復習を30分ずつ確保すること。
〔オフィスアワー〕
コーディネートしている教員（島田：c-shimada@saku.ac.jp）までメールで連絡してください。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

精神保健学Ⅰ/Mental HealthⅠ　2021年度入学

HS3205M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

3年

2単位　前期

選択

出澤 総子、井出 弘枝

〔授業の概要〕

「精神保健学とは？」という問からはじめるこの講義では精神保健の定義（広義・狭義）を探索しながら精神面での保健を幅広い視点から捉え、人々の心身の健康をいかに維持し、増進していくかを考える。具体的には、ライフサイクルに伴う精神保健の課題、生活する上でのストレスと精神の健康、予防の考え方（カプランの考え方）について取り上げ、理解を深める。特に自分自身の精神の健康について考えることで、精神保健、精神の健康とは何かを理解し、精神保健における精神保健福祉士の役割についての学びを深める。

〔到達目標〕

① 現代の精神保健分野の動向と改題を説明できる。

② 精神保健の基本的考え方を身に付ける。

③ 現代社会における精神保健の諸課題を説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP５、DP６

〔授業計画〕

第 1 回　精神保健の概要（井出先生）
・授業のオリエンテーション
・精神保健とは
・ライフサイクルと精神保健

第 2 回　現代の精神保健分野の動向と基本的考え方（出澤先生）
・精神保健の動向
・精神保健活動の三つの対象

第 3 回　家族に関連する精神保健の課題と支援①（井出先生）
・家族関係における暴力と精神保健
・出産・育児をめぐる精神保健

第 4 回　家族に関連する精神保健の課題と支援②（井出先生）
・介護をめぐる精神保健

第 5 回　家族に関連する精神保健の課題と支援③（井出先生）
・社会的ひきこもりをめぐる精神保健
・家族関係の課題

第 6 回　家族に関連する精神保健の課題と支援④（井出先生）
・グリーフケア
・精神保健支援を担う基幹

第 7 回　精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（出澤先生）
・学校教育における精神保健的課題
・教員の精神保健

第 8 回　精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（井出先生）
・関与する専門職と関係法規

第 9 回　精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（井出先生）
・スクールソーシャルワーカーの役割
・学校精神保健に係る社会資源

第 10 回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（出澤先生）
・災害被害者の精神保健

第 11 回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（出澤先生）
・犯罪被害者等の支援
・自殺予防

第 12 回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（出澤先生）
・身体疾患に伴う精神保健
・貧困問題と精神保健

第 13 回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④（出澤先生）
・社会的孤立
・性的マイノリティと精神保健

第 14 回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑤（出澤先生）
・多文化に接することで生じる精神保健上の問題
・反復違法行為と精神保健

第 15 回　精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ⑥（出澤先生）
・高齢化と精神保健
・前期授業のまとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座　現代の精神保健の課題と支援』中央法規

参考書・参考文献：授業の中で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

課題レポート（50％＋50％）

〔授業時間外学修〕

授業時に指示する。

〔オフィスアワー〕

授業時に指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

精神保健学Ⅱ/Mental HealthⅡ　2021年度入学

HS3206M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

3年

2単位　後期

選択

反町 誠

〔授業の概要〕

現代の日本における精神保健に関する様々な個別課題（DV、児童虐待、社会的ひきこもり、いじめなど）への取り組みや地域における精神保健福祉活動の実践に関する知識を深め、精神保健福祉士の活動内容を理解することを目的とする。また、精神保健に係る専門職（保健師等）や行政機関の役割について知り、地域で精神保健福祉活動における他職種・他機関との連携について学ぶ。最後に世界の精神保健の実情やWHOの活動、先進的な精神保健医療について知識を広める。

〔到達目標〕

① 現代の精神保健分野の動向と課題を説明できる。

② 精神保健の基本的考え方を説明できる。

③ 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について説明できる。

④ 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について説明できる。

⑤ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①
・授業のオリエンテーション
・現代日本の労働環境

第 2 回　精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②
・産業精神保健とその対策
・職場のメンタルヘルスのための相談

第 3 回　精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ③
・職場内の問題を解決する

第 4 回　精神保健に関する発生予防と対策①
・精神保健における予防の考え方
・アルコール関連問題に対する対策

第 5 回　精神保健に関する発生予防と対策②
・薬物依存対策
・ギャンブル等依存対策

第 6 回　精神保健に関する発生予防と対策③
・うつ病と自殺防止対策
・子育て支援と暴力、虐待予防

第 7 回　精神保健に関する発生予防と対策④
・認知症高齢者に対する対策
・発達障害者に対する対策

第 8 回　精神保健に関する発生予防と対策⑤
・社会的ひきこもりに対する対策
・災害時の精神保健に対する対策

第 9 回　地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①
・関連法規
・精神保健にかかわる人材育成

第 10 回　地域精神保健に関する偏見・差別等の課題②
・精神保健における偏見・差別

第 11 回　精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携①
・国の機関とその役割
・精神保健に関係する法規

第 12 回　精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携②
・多職種の役割と連携
・地域精神保健にかかわる行政機関の役割および連携

第 13 回　精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携③
・学会や啓発団体
・セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体

第 14 回　諸外国の精神保健活動の現状および対策①
・世界の精神保健の実情
・WHOなどの国際機関の活動

第 15 回　諸外国の精神保健活動の現状および対策②
・諸外国の精神保健医療の実情
・後期授業のまとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座　現代の精神保健の課題と支援』中央法規　ISBN978-4-8058-8253-5

参考文献・推薦図書等は随時紹介する

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験（50％）　学習理解度（リアクションペーパー及び課題レポート等の提出内容）（50％）

※提出物には、コメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕

事前学習：テキストに添い今日学ぶ範囲を読んでおき、予習票（次回分配布予定）を提出する。（15分）

事後学習：授業で学んだことを基に、事前学習で記載した自分の解釈や理解、新たに気付いたこと等をメモしておく。（10分）

〔オフィスアワー〕

随時、メールで質問を受け付ける。

（sorimako0713●gmail.com）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

精神保健福祉士として、保健所等公的機関での相談員経験（33年）から学んだことを授業で伝える。

〔その他履修上の留意事項等〕

精神保健福祉論Ⅰ/Mental Health Welfare Ⅰ　2022年度入学

HS3207M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
2単位　後期
講義
選択

佐藤 園美

〔授業の概要〕
現代の日本で精神障害者が置かれている現状を理解するために、精神保健福祉法成立までの経緯（日本の精神保健福祉の歴史）と意義について学ぶ。また、精神保健福祉法の目的や具体的内容を学び、精神保健福祉法で期待される精神保健福祉士の役割について考える。さらに障害者基本法、障害者総合支援法を学び、日本の精神障害者施策について理解を深める。最後に入院偏重や多剤多量問題等を抱える日本の精神医療の現状に対して、精神科病院を廃止したイタリアについて学び、日本の精神保健福祉の現状と課題について考える。

〔到達目標〕
１）障害者福祉の理念を説明できる。
２）精神障害、精神障害者について説明できる。
３）精神障害者福祉の歴史的経緯を理解した上で、現在置かれている状況について説明できる。
４）精神保健福祉分野の課題について情報を収集し、自分の考えを述べることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　障害者をどう捉えるか
本授業の目的と内容の説明
障害者の捉え方の変化について知り、改めて「障害」について考える。
（講義・演習）

第 2 回　障害者福祉の理念
障害者を排除する思想（優性思想）と障害者を包摂する理念について知る。
優性思想の何が問題なのかについて「相模原障害者殺傷事件」を題材に考える。
グループディスカッション（講義・演習）

第 3 回　我が国における精神障害者福祉の歴史的展開①
精神障害者に係る施策と影響を与えた事件等について知る。
・明治期から第二次世界大戦までの精神障害者福祉の状況
（講義・演習）

第 4 回　我が国における精神障害者福祉の歴史的展開②
・精神衛生法から精神保健福祉法成立まで
・ライシャワー事件、宇都宮病院事件
（講義・演習）

第 5 回　我が国における精神障害者福祉の歴史的展開③
・精神保健福祉法成立以降の変化
・大和川病院事件、神出病院事件
（講義・演習）

第 6 回　我が国における精神障害者福祉の歴史的展開④
・池田小学校事件と医療観察法創設
・日本の法制度が精神障害者に対して排除や社会的障壁を生み出してきたことについて知る。
（講義・演習）

第 7 回　日本における社会的障壁をめぐる課題①
精神障害者の権利を制限してきた欠格条項
誤った障害者観の流布と排除
（講義・演習）

第 8 回　日本における社会的障壁をめぐる課題②
自分の中にある差別・偏見と向き合う。
グループディスカッション（講義・演習）

第 9 回　制度における精神障害者の定義
精神保健福祉法、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者雇用促進法における障害者の定義について知る。（講義・演習）

第 10 回　国際生活機能分類（ICF）と精神障害
ICFの概要を理解し、統合モデルについて学ぶ。
ICFに基づき精神障害者支援を考える。
グループワーク（講義・演習）

第 11 回　精神障害、精神障害者について知る
精神障害の当事者から、精神障害について、精神障害者を取り巻く環境について話を聞く。
ゲストスピーカー：精神障害の当事者（講義・演習）

第 12 回　諸外国における精神障害者排除の歴史
日本と諸外国の共通点と相違点
魔女狩り、ナチスドイツによる障害者排除について知る。
（講義・演習）

第 13 回　諸外国の精神保健福祉の取組み
アメリカの精神保健運動
精神科病院を廃止したイタリアの取組み
（講義・演習）

第 14 回　精神保健福祉の課題
グループ毎に、自分たちで決めた精神保健福祉の課題について発表する。
グループプレゼンテーション（講義・演習）

第 15 回　日本の精神障害者を取り巻く環境
前期授業を振り返り、日本の精神障害者が置かれている状況についてまとめる。
グループディスカッション（講義・演習）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座　精神保健福祉の原理』中央法規
参考書・参考文献：授業の中で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験50％、プレゼンテーション30％、リアクションペーパー10％、特別講師のレポート10％
フィードバックは、リアクションペーパー・レポートは次の授業で、プレゼンテーションは最終授業で行う。

〔授業時間外学修〕
授業の復習（リアクションペーパーに書いた質問事項を調べる）90分と次回授業の予習（授業の最後に説明する）90分。
〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室または研究室で質問を受け付ける。
また、メール（s-sato@saku.ac.jp)では随時質問を受け付ける。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
精神保健福祉士として精神科病院、地域生活支援センターで勤務した経験を基に、具体的事例等を交えて授業を行う。
〔その他履修上の留意事項等〕
この授業では、精神保健福祉に関する新しい知識の習得と共に、学生自身がどう感じ、考えたかを大切にします。興味を待った課題について考えを深め、その内容を授業で共有していきましょう。
この科目は精神保健福祉士国家試験専門科目「精神保健福祉の原理」に該当します。

精神保健福祉論Ⅱ/Mental Health Welfare Ⅱ　2021年度入学

HS3208M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目
3年
2単位　前期
選択

佐藤 園美

〔授業の概要〕
精神保健福祉論Ⅰの内容を踏まえ、精神障害者の生活特性や精神障害者及びその家族が置かれている状況等学ぶことにより、精神障害者を支援する上で知っておくべきことことについて考える。さらに精神保健福祉士として役割と機能を理解し、精神保健福祉におけるソーシャルワークの役割について考える。

〔到達目標〕
１） 精神障害者の生活特性について説明できる。
２） 精神保健福祉士による実践の視点、価値・原理について分かりやすく説明できる。
３） 精神保健福祉士の役割と機能について説明できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　精神保健福祉論Ⅰの振返り
本授業の目的と内容の説明
我が国の精神科医療特異性と生活への影響
（講義）
第 2 回　精神障害者の生活特性①
精神障害者の社会生活の実際
精神保健福祉施策における家族の位置づけ（保護者制度）
（講義・演習）
第 3 回　精神障害者の生活特性②
精神障害者の家族が置かれている状況（特別講師：精神障害者のご家族）
（講義・演習）
第 4 回　精神障害者の生活特性③
メンタルヘルスをめぐる新たな課題（学校、職場他）
（講義・演習）
第 5 回　精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程
精神医学ソーシャルワーカーの歴史と意義
Y問題について考える
（講義・演習）
第 6 回　精神保健福祉士による実践の価値・原理①
自己決定・当事者主体
（講義・演習）
第 7 回　精神保健福祉士による実践の価値・原理②
社会正義・ごく当たり前の生活
（講義・演習）
第 8 回　精神保健福祉士による実践の視野や視点①
生活者の視点
（講義・演習）
第 9 回　精神保健福祉士による実践の視野や視点②
エンパワメントの視点
（講義・演習）
第 10 回　精神保健福祉士による実践の視野や視点③
リカバリーの視点
（講義・演習）
第 11 回　援助における関係性①
援助関係における特性
パートナーシップ・協働関係への理解
（講義・演習）
第 12 回　援助における関係性②
加害者性の理解
（講義・演習）
第 13 回　精神保健福祉士の役割と機能①
精神保健福祉士法の理解
精神保健福祉士の誕生と業務特性
（講義・演習）
第 14 回　精神保健福祉士の役割と機能②
精神保健福祉士の職域の拡大
精神保健福祉士の業務内容と業務特性
（講義・演習）
第 15 回　精神保健福祉におけるソーシャルワークの役割
授業のまとめ
精神保健福祉士はどのような仕事か。
（講義・演習）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座　精神保健福祉の原理』中央法規（精神保健福祉論Ⅰで使用したテキスト）
参考書・参考文献：授業の中で紹介する

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験50％
レポート30％（特別講師レポート、リアクションペーパー、課題レポート）、プレゼンテーション20％
レポート、プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

〔授業時間外学修〕
授業の復習（リアクションペーパーに書いた自身の質問事項を調べる）90分。次回授業の予習（授業の最後に説明する）90分。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室または研究室で質問を受ける。
メール（s-sato@saku.ac.jp）では随時質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
精神保健福祉士として精神科病院、地域生活支援センターで勤務した経験を基に、具体的事例等を交えて授業を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕
この授業では、精神保健福祉に関する新しい知識の習得と共に、学生自身がどう感じ、考えたかを大切にします。興味を持った課題について考えを深め、その内容を授業で共有していきましょう。
この科目は精神保健福祉士国家試験専門科目「精神保健福祉の原理」に該当します。

カウンセリング/Counseling　2021年度入学

HS3209

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
1単位　後期
選択

倉田 郁也

〔授業の概要〕
本授業では、実際の福祉現場におけるカウンセリング実践という視点に立ち、福祉活動を見つめ直すことができるよう、カウンセリングの歴史と変遷をたどり代表的技法の基本的な問題のとらえ方と援助方法を理解する。福祉現場に必要なカウンセリングの理論と実践における認識・理解を深める。カウンセリンクの意義と課題について認識・理解するとともに、福祉現場におけるカウセリングの実践のあり方を理解し、カウンセリングの方法を身につける。また、チーム援助や他職種と連携する力量を身につける。加えて、演習を通して、自らのカウンセリング観を内省し、実践力を高める。

〔到達目標〕
学生が、
①カウンセリングに関する基礎的･基本的な知識を習得する。
②対人援助職者に必要なカウンセリングの理論と実践について理解を深め、気づきを得ることができる。
③多職種と連携するためのコーディネーションとコンサルテーションの知識とスキルを理解する。
④対人援助職者として、指導や相談におけるカウセリングの方法を理解し、身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP６

〔授業計画〕
第1回 ガイダンス：授業のテーマや到達目標及び授業の方法等について。
授業：カウンセリングの歴史と変遷、傾聴（受容・共感・自己一致）
第2回 演習：傾聴（１）ペアワーク（テーマ：インテーク：自己紹介と他己紹介）
第3回 演習：傾聴（２）ペアワーク（テーマ：過去に楽しかったこと・嬉しかったこと）
第4回 演習：傾聴（３）ペアワーク（テーマ：現在の学生生活・未来の進路について）
第5回 授業：チーム援助と多職種連携（コーディネーションとコンサルテーション、リエゾン）、スーパービジョン、ラポール、カウンセリングの枠
第6回 演習：ラポール（１）ペアワーク（一本鉛筆のワーク）
第7回 演習:ラポール(２)ペアワーク(一本クレヨンのワーク)
第8回 演習：ラポール（３）ペアワーク（一本TREEのワーク）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：山蔦圭輔『メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法』2022、南山堂

〔成績評価の方法・基準〕
定期テスト100％。
テストのフィードバックは、試験実施の１週間後から、オフィスにて、個別に対応する。

〔授業時間外学修〕
カウンセリングについてテキスト等で調べ、概要を理解しておくこと。予習時間は、90分以上確保すること。

〔オフィスアワー〕
カウンセリングルール（火曜日14：00～18：00）

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
児童相談所にて、児童虐待相談業務を７年間。
大学のカウンセリングルームにて、カウンセリング業務を５年間。
若者総合相談「若ナビ」にて、電話相談･メール相談を３年間。
これらの実務経験をもとに、カウンセリングについて講義・演習を行う。

〔その他履修上の留意事項等〕
心療内科などへ通院・服薬中の学生は、主治医に要相談の上で受講すること（症状を悪化させる場合があるため）。

社会環境ケア論/Care in Social Enviroments　2021年度入学

HS3301

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

狩野 徹、桜井 達雄

〔授業の概要〕
居住空間、公共空間、交通施設等幅広く社会環境を取り上げ、身近な事例や先進的事例をもとにケアの視点からその課題等を明らかにし社会環境の提案ができるような技術を身に着ける。社会全体の環境のあり方の中で、各空間のあり方を事例を通して学ぶ。良い社会環境は住み慣れた地域で済み続けるための重要な条件であり、建築や住宅、都市計画の分野に対してもケアを学ぶ者が対等に議論、提案ができる考え方を修得する。持続可能な社会の市民として必須課題である地球環境問題を総合的に俯瞰した後、各論として地球温暖化・大気汚染と酸性化・ゴミ問題・エネルギー問題などを取り上げ、その学習の中で人と人との関わり、ケアの視点を重視して展開する。

〔到達目標〕
１．社会環境を計画する専門人材と共通の議論や討論ができる技術を身につける。
２．環境計画の視点でケアを考えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　ユニバーサルデザインの概念・基礎知識
ユニバーサルデザインについて、基本的な考え方を理解する。バリアフリーなど関連する基礎的知識を理解する。
第 2 回　障がい者とケア環境
社会環境の視点から見た障がい者の特性を理解し環境の在り方を学ぶ。
第 3 回　高齢者とケア環境
社会環境の視点から見た高齢者の特性を理解し環境の在り方を学ぶ。
第 4 回　子供とケア環境
社会環境の視点から見た子どもや家族連れの特性を理解し環境の在り方を学ぶ。
第 5 回　道具とケア環境
社会環境の視点から福祉用具をはじめとする機器や道具のあり方を学ぶ。
第 6 回　住まいとケア環境
住宅改修など福祉住環境の視点から住まいのあり方を学ぶ。
第 7 回　公共施設とケア環境
バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点から公共施設のあり方を学ぶ。
第 8 回　交通施設とケア環境
バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点から交通施設のあり方を学ぶ。
第 9 回　福祉施設のケア環境
生活者およびケア提供者の視点から高齢者の入居施設のあり方を学ぶ。
第 10 回　まちづくりの動向
まちづくりの視点で多様な人たちが生活する地域のあり方を事例から学ぶ。
第 11 回　地球環境総論
持続可能な社会の市民として必須課題である地球環境問題の基礎的事項を学び、絡み合う様々な環境問題を総合的に俯瞰する。
第 12 回　地球環境各論１　地球温暖化
地球温暖化とその影響を科学的に捉え、気候変動問題を考察するに必要な基礎知識を学ぶ。
第 13 回　地球環境各論２　大気汚染と酸性化
大気汚染や大気・海洋の酸性化を科学的に捉え、人類を含めて地球生態系に与える影響を考察する。
第 14 回　地球環境各論３　プラスチックとゴミ問題
身近なプラスチックゴミを事例として、ゴミ問題を環境汚染と物質循環の観点で科学的に考察する。
第 15 回　地球環境各論４　環境とエネルギー
エネルギー資源問題を地球環境問題との関わりで考察するために必要な科学的基礎知識を学ぶ。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
特になし。必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート80％、授業参加状況20％
レポートについては採点とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕
狩野：各授業で出てきた専門用語を理解、確認する（各回１時間：合計10時間）
　身近にある環境をユニバーサルデザインの視点で点検、評価する（2～6回目の間で計5時間程度）
　レポート作成の前段として、実際の事例を選び、事例全体の評価を試みる（7～10回目の間で計5時間）
　1～10回合計20時間
桜井：特になし

〔オフィスアワー〕
狩野：火曜日3限
桜井：各回の授業終了時に提出するレポートに質問等の欄を設ける。次回の授業で共有する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

住環境ケア論/Care in the Living Enviroment　2021年度入学

HS3302

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　後期
選択

狩野 徹

〔授業の概要〕
机上での話に終始せず、実際のケアや生活場面の使われ方を見て、ケアの視点で住環境とは何かという問題を共に考えながら授業をすすめる。環境面だけでなくソフト面の福祉サービス等と関連づけて実際の住環境整備のプロセスを学ぶ。また、建築図面などから実際の設備や機器をどのようにデザインすれば最も有効であるか検討する技術を身につける。

〔到達目標〕
生活の基本である住環境についてケアの視点で学ぶ。
地域社会とのつながり、生活の連続性の重要性を理解する。
住環境をケアの視点で評価でき、必要な改善方法を提案ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　住環境の基礎的知識
住環境、特に福祉住環境についての基本的考え方、仕様、性能について学ぶ。
第 2 回　住環境に求められる機能
生活の拠点となる住まいに求められる機能（安全性、快適性、利便性など）を理解する。
第 3 回　物理的環境（温熱環境、光環境）について
暖かさなどの温熱環境、明るさなどの光環境などが日常生活にどのような影響があるか学ぶ。
第 4 回　住環境整備の実際（概論）
住まいをつくるプロセスについて提案、計画、設計段階でどのような関わりをもつか学ぶ。
第 5 回　住環境整備の実際（空間別）
浴室、トイレ、居室、寝室など空間別にどのように住環境を整備するべきか学ぶ。
第 6 回　福祉用具について
福祉住環境整備における福祉用具の活用方法について学ぶ。
第 7 回　住環境のニーズ把握について
住環境整備におけるニーズ把握のプロセスについて実例から学ぶ。
第 8 回　住環境の改善計画の考え方
実際の事例を通して住環境整備計画の考え方を整理する。
第 9 回　住環境の改善計画の提案の仕方
実際の事例を通して住環境整備の提案のプロセスを学ぶ。
第 10 回　建築・住宅図面の読み方、描き方１
建築や住宅の図面の読み方を理解する。寸法、広さの感覚を理解する。
第 11 回　建築・住宅図面の読み方、描き方２
建築や住宅の図面の描き方をシミュレーションソフトを利用し体験する。
第 12 回　住宅改修の事例検討１
実際の事例を通して、住宅改修の提案をグループを作り検討する。最初は方針を決定する。
第 13 回　住宅改修の事例検討２
実際の事例を通して、住宅改修の提案をグループで検討する。空間別に提案を検討する。
第 14 回　住宅改修の事例検討３
実際の事例を通して、住宅改修の提案をグループで検討する。検討した内容をまとめ提案に結びつける。
第 15 回　住環境とケア（討論、まとめ）
これまで学んだ住環境のあり方についてケアの視点から討論する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
特になし。必要に応じて配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート80％、事例検討における参加状況20％
グループワークは発表についてコメントし、レポートは採点とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕
各授業で出てきた専門用語を理解、確認する（各回１時間）
事例検討の際、実際の改修方法について情報を収集する（グループワーク回各１時間）

〔オフィスアワー〕
金曜日４限

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ケア環境デザイン学/Design for Care Environments　2021年度入学

HS3303

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　後期
選択

佐藤 徹、中林 鉄太郎

〔授業の概要〕
「ケア環境デザイン学」は、より良いヒューマンケアの実現に向けて必要となる環境的な要素を、「デザイン」という観点から捉え直すための基礎的なデザイン知識について学ぶことを目的とする。科学技術と工業化の進展にともない発展してきた人工物のデザインは、生活のさまざまな場面において重要な役割を果たしてきた。しかしながら個々の人工物をデザインするだけでは解決できない問題も少なくない。そして、機能や性能を追い求めるデザインの世界は、あらゆる事物や環境を創造してきたが、21世紀のデザイン世界はそれらを前提としながらも、人工物の意味や価値創造をより考慮せねばならなくなってきている。 この授業では、人間らしく生きたいとする願望に応えるためのヒューマンケアを、人工物の側から問い直す尺度としてのデザインについて考えていく。

〔到達目標〕
ケア環境を実現している様々な人工物と、その意味を理解していくための基礎的なデザイン概念について学ぶ。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP１、DP２、DP３、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
「ケア環境デザイン学」の授業の進め方やポイントなどの概要説明（担当教員：佐藤徹、中林鉄太郎）

第 2 回　プロダクトデザインの背景
1.プロダクトデザインとは　2.プロダクトデザイナーとは　3.プロダクトデザインの領域　4.プロダクトデザインの歴史と事例（担当教員：佐藤徹）

第 3 回　社会とプロダクトデザイン（１）
1.社会とプロダクトデザインの概要　2.ユニバーサルデザイン　3.エコデザイン（担当教員：佐藤徹）

第 4 回　社会とプロダクトデザイン（２）
4.地域とデザイン　5.デザイン思考（担当教員：佐藤徹）

第 5 回　プロダクトデザインとビジネス
1.デザインマネジメント　2.ブランド　3.知的財産　4.コンプライアンスと法令（担当教員：佐藤徹）

第 6 回　デザインプロセス
1.デザインプロセスの概要　2.デザイン企画（担当教員：佐藤徹）

第 7 回　ユーザー調査のための手法
1.ユーザー調査の概要　2.様々な調査（担当教員：佐藤徹）

第 8 回　授業のまとめ
前半の講義内容についてのリフレクションとまとめ（担当教員：佐藤徹）

第 9 回　コンセプト作成のための手法
1.デザインコンセプト作成のための手法について　2.コンセプト起案法　3.要求仕様（担当教員：中林鉄太郎）

第 10 回　視覚化のための手法
1.視覚化のための手法の概要　2.プロトタイピング（担当教員：中林鉄太郎）

第 11 回　デザイン評価と科学的研究
1. デザイン評価と科学的研究の概要　2.ユーザー評価とデザインレビュー（担当教員：中林鉄太郎）

第 12 回　マーケティングとデザイン
1.マーケティングとデザインの概要　2.マーケティングミックス　3.商品企画のプロセス（担当教員：中林鉄太郎）

第 13 回　技術とデザイン
1.技術とデザインの概要　2.構造・機構とデザイン（担当教員：中林鉄太郎）

第 14 回　文化とデザイン
1.文化の多様性と普遍性　2.価値観や行動とデザインの関係性について（担当教員：中林鉄太郎）

第 15 回　授業のまとめ
後半講義内容についてのリフレクションとまとめ（担当教員：中林鉄太郎）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会（2014）,『プロダクトデザインの基礎　スマートな生活を実現する71の知識』,ワークスコーポレーション

〔成績評価の方法・基準〕
レポート 50%（前後半計2回）、プレゼンテーション 20%、授業参加状況 30%から総合的に評価する。

〔授業時間外学修〕
各回毎のリフレクションシート記入のため、毎回20分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
随時、メールで質問を受け付ける。(佐藤徹： sato.toru●nihon-u.ac.jp、中林鉄太郎： nakabayashi●zokei.ac.jp)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
佐藤徹:日本大学芸術学部デザイン学科教授（https://kenkyu-web.cin.nihon-u.ac.jp/Profiles/37/0003677/profile.html）、中林鉄太郎：東京造形大学デザイン学科教授（https://www.zokei.ac.jp/academics/faculty/profile/?id=514&blng=7）

〔その他履修上の留意事項等〕
授業に積極的に参加し、活発な意見交換をすることを心がけてください。

生活支援デザイン学/Design for Life Assistance
2021年度入学

HS3304

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

狩野 徹

〔授業の概要〕
生活を送る上でデザインによる不自由を感じることがある。できないことをできるようにするためには専門的な技術が必要になるが、多少の不自由があることを楽に楽しくできるようにすることはそれほど難しいことではない。環境や道具などのデザインによる生活支援のノウハウを生活場面ごとに整理し、デザインのこつを学ぶ。

〔到達目標〕
1. 生活を支援する福祉の立場でデザインのプロセスを理解する。
2. デザイナーの役割を理解する。
3. 身近な道具のデザインを提案する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP４、DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　生活支援とデザイン（概論）
生活支援に結びつくデザインすることの基本的考え方を学ぶ。
第 2 回　生活支援デザインに向けた事例紹介１
生活支援の事例を紹介する。
第 3 回　生活支援デザインに向けた事例紹介２
生活支援の事例からデザインの考え方を理解する。
第 4 回　生活者の特性１（身体機能）
身体機能からみたデザインのあり方を学ぶ。
第 5 回　生活者の特性２（認知機能）
認知機能から見たデザインのあり方を学ぶ。
第 6 回　生活者の特性３（心理・生理的側面）
心理的側面や生理的な面からデザインのあり方を学ぶ。
第 7 回　デザインの視点から見た生活上の不自由（道具・機器）
道具、機器を対象に不自由を解消するデザインの方向性を学ぶ。
第 8 回　デザインの視点から見た生活上の不自由（住宅・建築）
住宅を対象に不自由を解消するデザインの方向性を学ぶ。
第 9 回　デザインの視点から見た生活上の不自由（まち・交通）
まちづくりを対象に不自由を解消するデザインの方向性を学ぶ。
第 10 回　日常生活行動とデザイン
日常的な生活行動・行為を支援するデザインのあり方を学ぶ。
第 11 回　非日常とデザイン
災害時や非常時の行動・行為を支援するデザインのあり方を学ぶ。
第 12 回　デザインの実践１
学んだことを踏まえ、デザインをしてみる。
第 13 回　デザインの実践２
デザインしてみたことを評価し、改善の提案を試みる。
第 14 回　デザインの実践３
デザインのプロセスを理解する。
第 15 回　デザインの評価
実際にデザインしたものを多様な視点から評価してみる。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
生活空間の体験ワークブック　日本建築学会編
適宜資料を追加配布する

〔成績評価の方法・基準〕
レポート50%、 デザイン実践およびプレゼンテーション30%、 授業参加状況　20%
レポートや課題には採点とコメントを付して返却する。デザイン実践及びプレゼンテーションについてはその都度コメントする。

〔授業時間外学修〕
各授業で出てきた専門用語、考え方を理解、確認する（各回１時間）
身近にあるデザインを生活支援の視点で点検、評価する（２時間）
実際のデザインを行うため、各自提案のためのデータを収集し（４時間）、デザインの提案まとめる（２時間）。合計６時間

〔オフィスアワー〕
月曜日２限

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

福祉テクノロジー/Welfare Technology　2021年度入学

HS3305

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

伊藤 英一

〔授業の概要〕

福祉機器の利用・開発や生活環境整備をする上での問題点を考えながら福祉工学を取り巻く周辺分野と共に基礎的な関連知識を深めるものである。人にやさしい福祉機器・生活環境とは何かという視点で授業をすすめる。福祉機器をはじめ健康や介護に関係する機器を、提供側と使用側両方からのアプローチのミスマッチを含め、考察を行う。

〔到達目標〕

（１）福祉機器、福祉用具に関する法的根拠を把握している
（２）目的に応じた福祉機器、福祉用具の種類や機能を理解し、選択できる
（３）具体的事例から利用者本位の用具提供サービスの重要性を理解している

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP１、DP３、DP５、DP７

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本講義の概要、ならびに進め方、学修に必要な基礎知識について説明する

第 2 回　福祉用具の定義と法制度
福祉用具の定義について、福祉用具に関する法制度やICF（国際生活機能分類）により解説する

第 3 回　補装具と義肢について
補装具の定義、補装具としての義肢（義手・義足）の種類とその機能について解説する（ハンズオンあり）

第 4 回　装具、歩行補助具について
補装具としての装具、歩行補助具（杖、歩行器）の種類とその機能について解説する

第 5 回　車いすについて
補装具としての車いすの種類とその機能、ならびに選択について解説する（ハンズオンあり）

第 6 回　座位保持装置、リフトについて
補装具としての座位保持装置とその機能、リフトと吊り具の種類とその機能について解説する

第 7 回　意思伝達装置などについて
意思伝達に必要なコミュニケーションエイド(VOCA)、自立生活に必要な環境制御装置(ECS)の種類とその機能について解説する（ハンズオンあり）

第 8 回　自動車運転補助装置と福祉車両について
車いす利用者自身が自動車を運転するための補助装置や、車いす利用者を移送するための福祉車両について解説する

第 9 回　進行性疾患に対する福祉用具導入事例
進行性筋ジストロフィー症や筋萎縮性側索硬化症(ALS)など対する福祉用具導入事例、特に主体的な暮らしの支援について紹介する

第 10 回　脳血管障害に対する福祉用具導入事例
脳血管障害後遺症（片麻痺など）に対する福祉用具導入事例、特に住宅改修など日常生活の支援について紹介する

第 11 回　頸髄損傷に対する福祉用具導入事例
頸髄損傷などによる四肢麻痺者に対する福祉用具導入事例、特に自立生活や社会参加などへの支援について紹介する

第 12 回　バリアフリーとユニバーサルデザイン
障害者の社会的障壁をなくすことを目指すバリアフリーと、多様な利用者のための商品開発を設計段階から目指すユニバーサルデザインについて紹介する

第 13 回　情報保障（見る、聞く、話す）について
視覚障害、聴覚障害、言語障害などに関連する身体機能の概要とともに、それらを支援するための支援技術（アシスティブテクノロジー）について紹介する

第 14 回　身体運動機能について
肢体不自由など運動機能障害に関連する身体機能の概要とともに、それらを支援するための支援技術（アシスティブテクノロジー）について紹介する

第 15 回　福祉機器、支援技術の普及活動について
国際福祉機器展(HCR)の概要を説明し、福祉専門職として各種機器を選択するために必要な情報をいかに獲得すれば良いのかについて紹介する

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキストは使用しない。毎回、資料を配布する。配布資料は必ずファイルすること。

〔成績評価の方法・基準〕

正当な理由のない限り、欠席が1/3を越えるものは単位を認定しない。
定期試験（資料やノートの持込不可）が50%、授業ごとのリアクションペーパーが30%、受講態度（発言や質問などを含む）が20%として、総合的に評価する。
リアクションペーパーに対するコメント等については次回授業冒頭にてフィードバックする。

〔授業時間外学修〕

配布資料を用いた復習を30分程度した上で、参考書（授業にて紹介）による興味ある分野の自主的な学修を追加し、必要に応じて在宅介護支援センターや介護実習室などにある福祉機器、福祉用具などを見学すると良い。

〔オフィスアワー〕

前回授業の振り返りを授業冒頭に行い、授業最後にも質疑応答の時間を設ける。必要に応じて授業後の時間を利用するなどして質問は受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

リハビリテーションセンターにて福祉用具を研究開発する職員として１７年間勤務。その後、社会福祉士養成系大学

にて教員として１８年間勤務。現場と教育の双方の経験を有する。

〔その他履修上の留意事項等〕

授業によっては、福祉機器などを実際に触れる機会（＝ハンズオン）もあるため、積極的に取り組んでもらいたい。障害学生には個別に相談した上で、必要な情報保障や支援などを提供しながら授業を進める。

ケアのコミュニティ学/Community Care　2021年度入学

HS3306

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　後期
選択

野口 定久

〔授業の概要〕
今日、ケアは地域住民の助け合いや互助活動を巻き込んだ、大きな社会課題としてわれわれに突きつけられている。そこで、本講義では、ケアが地域住民の中で、どのような形、姿をとって存在し機能しているかを、具体的な事例などを通して理解を深める。さらに、そのようなケアの機能が、社会的機能としてのソーシャルケアとどのような関連性を有しているか考察を深め、多様なケアがコミュニティの中で、どのように発展していくのかについて考える。

〔到達目標〕
・現代コミュニティの理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。
・個別支援から地域包括ケアへの流れを事例分析を通して学ぶことができる。
・コミュニティ資源を活用した多様な住民活動の実態を知ることができる。
・生活困窮者および社会的脆弱層等への包括的な支援体制を学ぶことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　人口減少社会の地域コミュニティの実際
人口減少時代の日本社会では、特に2000年以降、失業や雇用、年金や医療の制度疲労や企業・地域・家族の社会保障機能の縮小によって社会的リスクが拡大している。その結果、個人や家族が孤立する現象が目立っている。これら社会的リスクの克服には、従来型の福祉国家にのみ頼る方法でなく、地域コミュニティや家族のネットワークの強化の方策を探る。【野口定久】

第 2 回　地域コミュニティの危機－格差問題と共同性
危機に瀕した地域共同社会は，将来への展望のなさ、夢を抱くことの困難さ　若者を中心に、人々の心の奥深いところで正常な秩序感と未来への意欲を蝕んできている。地域コミュニティの危機から脱する方策の一つとしてケアリング・コミュニティのあり方を提起する。【野口定久】

第 3 回　福祉コミュニティの形成－コミュニティ論を超えて
福祉コミュニティは今日の生活を大切にして感性面での充実を求めるところにある。人々が誇りを持って、そこで住みたい、働きたい、暮らしたい街や地域コミュニティを創造することが定住人口と交流人口を引き付ける街の魅力につながる。それには、公共政策としてのケアリング・コミュニティの形成が不可欠である。【野口定久】

第 4 回　ソーシャル・キャピタル－つきあい・信頼・参加・連帯・包摂
社会の至るところで、信頼の崩壊が表面化している。家族が個々に孤立し、とりわけ子育て中の若年夫婦世帯や障害者・高齢者の要介護者を抱えた家族の間で、孤立や孤独が意識され、その解決が否応なしにコミュニティの再形成や家族関係のとらえかえしを求める声となって現れてきている。そこで、豊かな地域社会の人間関係を創造する理論としてソーシャル・キャピタルという考え方に注視したい。【野口定久】

第 5 回　地域包括ケアの構図
内容：親族や近隣住民など地縁のネットワークと老人会や民生委員などの地域福祉協力者が協力し、また医療機関や介護サービス事業所等が連絡を取り合って一人ひとりの生活を支えている。このように形成されたネットワークは、新たに見守りや支援を必要とする人が現れたときにも積極的に活用され、地域にゆたかなケア体制を構築することが可能となる。【野口定久】

第 6 回　地域共生社会のかたち当事者と専門職と支援者、住民の結節点
地域共生社会におけるソーシャルケアの専門職間では、それぞれの専門性や業務の特徴、さらに提供し得る支援に関する情報を共有し、専門性の向上と、住民に対する包括的ケアを提供するための仕組み作りが必要とされる。【野口定久】

第 7 回　地域共生社会の実現と包括的コミュニティ支援体制の仕組み
地域包括ケアがめざす理念とは、住民一人ひとりの生命・生活・人生を包括したケア体制の構築である。全ての住民を対象として、健康・介護予防・要介護・さらに終末期までを包括した、包括的かつ継続的なケアの提供を目標としている。【野口定久】

第 8 回　伝統的共同体から福祉コミュニティー地域資源の活用
インフォーマルなケアには日本の伝統社会に永らく蓄積されていた「お互いさまの思想」が基礎にある。直接的な見返りを求めない他者への奉仕の気持ちと併せて、将来自分が困難に陥ったときに他者が助けてくれるかもしれないという期待も含まれている。この思想の中に、ゆるやかな共同体の形成への可能性が秘められている。【野口定久】

第 9 回　ソーシャルケア・コミュニティの考え方
民間非営利活動促進法をはじめとするボランティア活動の条件整備がすすめられるなど、コミュニティケアを含めたボランティアや民間非営利団体(ＮＰＯ)を、公私協働で分権型福祉契約社会を創り出すパートナーとして位置づけるようになっている。【野口定久】

第 10 回　孤立と孤独のソーシャルケア・コミュニティ
孤独でいることは1日にたばこ15本を吸うのと同じくらい健康に悪いという研究（イギリス）があ

る。世界で孤独な人が増えている理由は大きく2つある。一つは高齢化によって、1人で暮らす時間が長くなっていること。もう一つは、デジタル化が進み、人と人が直接触れあう機会が減っていることである。【野口定久】

第 11 回　子育て支援と家庭支援のソーシャルケア・コミュニティ
明石市では独自の子ども政策を推進しており、医療費は18歳まで全員無料。そして、認可外は対象外となる場合があるものの、保育料も第2子以降は基本的に全員無料。おむつは満1歳まで無料で宅配され、中学校の給食費を無償化。さらに遊び場は親子ともに入場料無料など、これら全て所得制限なし、自己負担なしで行っている。各地の子育て支援のまちづくりに学ぶ。【野口定久】

第 12 回　生活困窮世帯のソーシャルケア・コミュニティ
現代社会における福祉ニーズの事象（リアリティ）は、これまでの、いや現実の社会保障や社会福祉制度およびソーシャルワーク援助や支援ネットワークから漏れ、困窮し、不平等を感じている生活困窮者といわれる人々の生活全般に表れている。このように、「制度の狭間」に陥った人々にソーシャルワーカーはどのように向き合えばよいのか、その姿勢を問う。【野口定久】

第 13 回　認知症高齢者の見守りネットワーク
厚生労働省の推計による国内の要介護認定を受けた認知症の高齢者は2012年に305万人。2025年には470万人と1.5倍になると予測されている。認知症患者の増加には医療機関、自治体と介護事業者、住民の見守り活動が連携して適切なサービスや活動を提供する体制をつくる必要がある。【野口定久】

第 14 回　高齢者介護家族のコミュニティ支援
デンマークの高齢者介護のケアの安定的供給は、専門職人材養成にあると考えらている。日本の介護福祉、社会福祉専門職養成との対比を行ない、デンマークの人材養成確保方策を取り入れることによって、高齢者介護のシステムの専門職というピースが強化されることになる。【野口定久】

第 15 回　コミュニティソーシャルワーク機能とソーシャルケア・コミュニティ
コミュニティソーシャルワーカーは、総合相談窓口に持ち込まれる世帯や地域社会の複合的なニーズに「丸ごと」対応し、ニーズが表出しているか、また隠されている場合に直接現場に出向くアウトリーチ型の支援活動を展開する地域包括支援センターや社会福祉協議会等（社会福祉士国家資格有資格者に限定する）、地域での保健福祉ネットワーク人材のキーパーソンとしての期待が大きい。【野口定久】

〔テキスト・参考書・参考文献〕
参考書：野口定久 『ソーシャルワーク事例研究の理論と実際－個別援助から地域包括ケアシステムの構築へ』中央法規、2014年

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験を行う。また、小テスト（2 回）を実施します。評価は、定期試験と小テスト(2 回)の合計点で行う。配点は定期試験 60％、小テスト 40%
本試験や小テストの解答例、関連する事例や文献を提示する。

〔授業時間外学修〕
この講義は、パワーポイントを用いたビジュアル的な情報伝達とワークショップによる実践事例研究の思考を深める。地域社会で生起するソーシャルケアのコミュニティ支援の方法論を用いる。社会福祉援助技術やソーシャルケアの個別事例の情報を収集するように努めること。
配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する。
小テストや配布資料を用いて復習する。

〔オフィスアワー〕
後期、火曜日、12:20-12:30

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
講義で用いる資料は、事前にMANABAで送信します。受講生はファイルを開き、各自で印刷して授業に持参してください。試験はレポートで、配布した資料の中から問題を出します。

地域福祉論Ⅱ/Community Welfare Ⅱ　2022年度入学

HS3307

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
2年
2単位　後期
講義
選択

野口 定久、長谷川 武史

〔授業の概要〕
現代の福祉問題（新しいリスク）の多くは地域コミュニティにおいて総合的に解決する方法が求められている。本講義では、これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって、地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶ。具体的には、地域福祉の諸理論、政策と実践、コミュニティソーシャルワーク等の援助技術、事例研究法に基づいて、地域包括ケアシステムの開発事例、各地のコミュニティ資源を生かした地域創生の実践事例を紹介し、研究する。また、本講は、地域福祉の初学者にも分かりやすいものを提供したいという願いから「図説　地域福祉ゼミナール」をめざし、地域福祉論の一般的、基礎的事項を開設できる講義を行う。

〔到達目標〕
・地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学び、現代の福祉問題を解決していく手法について理解する。
・いままでの地域福祉と新しい地域福祉の相違を理解し、地域福祉の政策と実践の合一を考察できる力を習得する。
・個人化する家族と衰退する地域社会のなかで住民が日常的につながる方法を考えることができる。
・住民福祉活動、地域福祉教育、地域福祉計画及び地域福祉実践計画等の具体的な地域福祉実践の手法について事例を通して理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　ソーシャルワーク事例研究法－個別事例から地域包括ケアへ
地域福祉実践事例を学ぶにあたり、基本的なソーシャルワーク事例研究の手法を理解する。【担当：野口・長谷川】
第 2 回　地域福祉の主体形成とコミュニティソーシャルワーク
コミュニティソーシャルワーク実践における地域住民の主体形成の技術や方法について事例を通して理解する。【担当：長谷川】
第 3 回　住民福祉活動の進め方
住民福祉活動における地域住民及び福祉専門職の参画の方法について事例を通して理解する。【担当：長谷川】
第 4 回　ボランティア活動等の実態把握とその活用
事例を通して、地域内におけるボランティア活動の把握方法を理解し、ボランティア活動を活性化する方法を考察する。【担当：長谷川】
第 5 回　地域福祉教育と産学協働のあり方
多様な地域住民を巻き込み展開する福祉教育の方法、及び、地域課題を解決するための産学協働の方法について、事例を通して理解する。【担当：長谷川】
第 6 回　災害時における地域福祉実践
大規模災害時支援に関する地域福祉実践について、事例を通して理解する。【担当：長谷川】
第 7 回　地域福祉の政策と計画
地方行政における地域福祉計画の目的や効果について、事例を通して理解する。【担当：長谷川】
第 8 回　地域福祉計画と地域福祉活動計画(策定方法に関するワークショップ①)
地域福祉及び地域福祉活動計画の策定方法について、グループ作業を通して体験的に理解する。【担当：野口・長谷川】
第 9 回　地域福祉計画と住民参加（策定方法に関するワークショップ②）
地域福祉計画における住民参加の方法について、グループ作業を通して体験的に理解する。【担当：野口・長谷川】
第 10 回　地域福祉計画策定の意義（策定方法に関するワークショップ③）
これまで学んできた地域福祉の理論と実践の関係性について確認し、現代の福祉問題を解決していく手法について理解する。【担当：野口・長谷川】
第 11 回　福祉コミュニティ、地域福祉計画、地域福祉マネジメントの概要
福祉コミュニティの概念とその実態を、事例を通して考察する。【担当：野口】
第 12 回　これまでとこれからの地域福祉／これからの地域福祉の目標と課題
新しい地域福祉の「かたち=しくみ」を探る。【担当：野口】
第 13 回　地方分権とソーシャルガバナンス／地域福祉におけるサービス供給と推進組織
地域循環型福祉経済の概念を用いて地域再生の可能性を探る。【担当：野口】
第 14 回　地域ケアの政策と対応システム
地域包括ケアのつながり－要援護者個人および世帯のサービス供給とサポートネットワーク、そして地域資源の連動をシステム化する。【担当：野口】
第 15 回　社会福祉サービスのデリバリー・システム
「8050問題」や、介護と子育てを同時に抱える「ダブルケア」などの問題事例を通して、なぜ「断らない相談窓口」の設置が必要かを理解する。【担当：野口】

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト
・野口定久『ゼミナール　地域福祉学－図解でわかる理論

と実践』中央法規出版，2018年

参考文献
・野口定久『人口減少時代の地域福祉論－グローバリズムとローカリズム』ミネルヴァ書房，2016年
・武川正吾『福祉社会ー包摂の社会政策』有斐閣，2011年
※それぞれ「地域福祉論Ⅰ」で指定したテキストを引き続き使用します。
〔成績評価の方法・基準〕
定期試験を行う。また、小テスト（2回）を実施する。評価は、定期試験と小テスト(2回)の合計点で行う。
配点は定期試験60％、小テスト30％、ワークショップへの参加状況10％

なお、定期試験及び小テストについては、後日採点結果を周知する。
〔授業時間外学修〕
・講義資料及び関連するテキストの予習復習（90分)
・演習におけるグループ学習の内容整理（45分）
・新聞や書籍、IT等から地域福祉分野における実践活動や社会問題に関する情報収集（45分）
〔オフィスアワー〕
講義内で周知します。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
本講義では、パワーポイントを用いたビジュアル的な情報伝達と地域住民活動による現場の思考方法などを教材とする。認知症高齢者の見守り活動、子ども食堂などの住民活動の事例をワークショップ形式で議論する。
ワークショップでの発言は総合評価の中にも含めますので積極的な講義・演習の参加を希望いたします。また各自で地域住民活動や社会貢献活動などの経験を推奨いたします。

健康まちづくり論/Healthy Urban Development
2021年度入学

HS3308

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　後期
選択

安井 幸次

〔授業の概要〕
障害者や高齢者等が安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できるバリアフリーのまちづくりに向けた取り組みを行う自治体の将来計画から、まちづくりを考える。続いて、東日本大震災後10年余を迎え、被災地では住まいとまちの復興が着実に進んでいる。
一方では、被災者の生きがいづくりのための「心の復興」、新たなコミュニティ形成等、細やかな対応・支援が継続される。そのような状況下で、復興のまちづくりとしての成果がみられる地域を事例として取り上げ、現地での人的交流を通した復興のまちづくりを学ぶ。
〔到達目標〕
・障がい者が自由に移動できるバリアフリーを可能にさせるようなハードの「街づくり」、子どもや高齢者等が安心して生活できる福祉・暮らしのしくみを自治体や住民が実現する「コミュニティづくり」、地域の活性化を推進する「地域づくり」など、様々なまちづくりが各地域で行われている。地域での取り組みを紹介しながら、そのありかたを考える。
・東日本大震災後10年余を迎え、被災地では住まいとまちの復興が着実に進んでいる。一方では、被災者の生きがいづくりのための「心の復興」、新たなコミュニティ形成等、細やかな対応・支援が継続される。そのような状況下で、復興のまちづくりとしての成果がみられる地域を事例として取り上げ、現地での人的交流を通した復興のまちづくりを学ぶ。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
〔授業計画〕
第 1 回　現代と地域
第 2 回　コミュニティの変容
第 3 回　都市型社会の特徴
第 4 回　高齢化とまちづくり
第 5 回　子育て・子どもとまちづくり
第 6 回　社会的に弱い立場にある人々とまちづくり
第 7 回　地域活性化のまちづくり
第 8 回　地域社会の課題
第 9 回　震災復興とまちづくり—震災復興におけるまちづくりの意義
第 10 回　震災復興とまちづくり—震災復興まちづくり関連法制度の概要と検討
第 11 回　震災復興とまちづくりー復興まちづくりとコミュニティ形成
第 12 回　震災復興とまちづくり—岩手県内における事例検討
第 13 回　震災復興とまちづくり—宮城県内における事例検討
第 14 回　震災復興とまちづくり—福島県内における事例検討
第 15 回　復興まちづくりを考える—事例のまとめと復興まちづくりの課題検討
〔テキスト・参考書・参考文献〕
特にテキストは使用しないが講義の際に参考使用等の提示を行う。
〔成績評価の方法・基準〕
課題レポート90％、講義への参加状況10％
レスポンスカードを用いて適宜対応を行う。
〔授業時間外学修〕
講義終了後に、講義資料をWEBにアップロードしますので、それを参照ないしダウンロードして復習にあててください。なお、復習の時間としては60分程度を見込んでおります。
〔オフィスアワー〕
授業時に指示する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
「まちづくり」、「コミュニティ」、「官民連携」などのキーワードに興味を持つ学生の受講を期待します。

福祉公共政策論/Public Policies for Welfare　2021年度入学

HS3401

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　前期
選択

小池 隆生

〔授業の概要〕
社会福祉・社会保障の制度や政策は、どのようなアクターが関わり、どのようなプロセスを経て今ある形になっているのかということついて、政治システムへの入力から再入力までの一連のサイクルを細分化して学ぶ。具体的には、課題設定・政策立案・政策決定・政策実施・政策評価・政策転換の過程に分けて学ぶ。それにより、一つの事がらが決定・実施に至るまでの仕組みを理解し、改善を目指そうとする時にはどのようなアプローチを取りうるか考えるきっかけとする。
〔到達目標〕
受講生は社会保障・社会福祉政策が現実のものとなる諸条件について、歴史的経緯や現状と課題の実際から学ぶことを通して、社会保障・社会福祉政策のありうべき形について構想する姿勢を涵養することができる。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
〔授業計画〕
　本講義は、日本における社会保障政策・社会福祉政策が実現するダイナミズムとその諸条件にメスを入れる。全体を3部に分け、第1部は公的扶助を取り上げ、第2部では公的介護保障を、また第3部では児童手当を主に家族政策を取り上げ、下記構成で展開する。
　講義の問題意識は講義全体を通じて明らかとなるが、全体を貫くキーワードを述べるならば、自己責任、家族・ジェンダー、ナショナル・ミニマム、国際比較となる。

第1回　講義のすすめ方
　第1部　公的扶助のダイナミズム～ナショナル・ミニマムとは何か
第2回　貧困化と生活保護制度
第3回　ナショナル・ミニマムと生活様式
第4回　国際比較における公的扶助
第5回　「いのちのとりで」裁判にみるダイナミズム
　　第2部　公的介護保障のダイナミズム～ケアするのは誰か
第6回　公的介護保障の現状と課題
第7回　新自由主義とケアレスマン
第8回　スウェーデンの介護保障
第9回　ケアするのは誰か
　　第3部　家族政策のダイナミズム～児童手当から自己責任社会を照射
第10回 公的養育保障あれこれ
第11回 児童手当の国際比較
第12回 現物給付と現金給付の理論問題
第13回 家族政策から自己責任社会を照射する
第14回 授業内試験
第15回 まとめ（授業内試験の講評を含む）
〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは無し。参考書は講義時に指示する。
〔成績評価の方法・基準〕
授業内試験を実施し、100％評価とする。
〔授業時間外学修〕
毎回の講義に関わるニュースをメディアをつうじて触れておくこと。
〔オフィスアワー〕
非常勤講師による講義のためありません。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕

ケア財源・負担論/Resource and Burden for Social Welfare　2021年度入学

HS3402

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　後期
選択

唐鎌 直義

〔授業の概要〕
日本の社会保障給付費の総額は110兆円に達し、国家財政の規模を上回るまでになっている。その背景には人口の高齢化の急速な進行があり、年金給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費が増え続けているという事情がある。これ以上社会保障給付を拡充するには、財源難という壁が立ちはだかっている。しかし、社会保障の受け手である高齢者・障がい者等の生活の視点から見ると、困窮している人は依然として多い。社会保障給付のあり方と負担のあり方を検討する必要がある。また、消費税が現実に果たしている役割や今後の税収のあり方を考える。

〔到達目標〕
① 政治とは「政治算術」であり、統計を分析すれば真実が判明することを理解できるようになる。
② 政府統計の分析方法の入門編を習得できる。
③ 老人福祉サービス給付費の現状を理解し、問題点を把握できるようになる。
④ 介護保険財政の状況を理解し、これからの介護保険制度のあり方について意見を持てるようになる。
⑤ 要介護高齢者に関する費用は誰がどの程度負担すべきか、意見を持てるようになる。
⑥ 消費税の逆進性について理解できるようになる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　社会保障給付費総額の推移と現状
社会保障給付費（ILO基準）と社会支出（OECD基準）の相違、社会保障給付費総額の推移からみた戦後日本の社会保障の発展とその意味
第 2 回　高齢者関連社会保障給付費の推移と現状
高齢者関係社会保障給付費の増加とその背景、高齢人口の増大、高齢者のみ世帯の増加、単身世帯化の進行
第 3 回　年金給付費の推移と現状
年金給付費の増大とその背景、極端な年金給付格差の存在、最低保障年金の必要性と財源問題、生活保護制度の限界
第 4 回　高齢者医療給付費の推移と現状
高齢者医療給付費の増大とその背景、慢性疾患（成人病）の増大と感染症の復活
第 5 回　老人福祉サービス給付費の推移と現状
老人福祉サービス給付費の増大とその背景、65歳以上人口に占める介護保険利用者比率の上昇
第 6 回　介護保険財政の推移と現状
介護保険制度の給付と負担、介護保険財政に占める国の負担と地方自治体の負担
第 7 回　高齢者の負担状況と現役世代の負担状況
高齢者の受給と負担、現役世代の受給と負担、65歳で変わる経済生活
第 8 回　消費税率引き上げの庶民生活への影響
消費税とは何か、間接税と直接税、租税民主主義と消費税
第 9 回　OECD先進６ヵ国間社会支出の国際比較（9分野別）
スウェーデン、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ、日本の6カ国の社会支出の状況、日本の特徴（貧困関連社会支出の低位性）
第 10 回　高齢者優遇型社会保障から全世代型社会保障へ
日本の社会支出の特徴、本当に高齢者優遇型なのか、全世代型社会保障への転換が意味するもの
第 11 回　高齢無職世帯の公租公課負担状況
高齢無職世帯（単身・夫婦のみ）の直接税負担、社会保険料負担、消費税負担の推移
第 12 回　勤労者世帯第Ｉ10分位（低所得層）の公租公課負担状況
勤労者世帯第Ｉ10分位の直接税負担、社会保険料負担、消費税負担の推移
第 13 回　勤労者世代第Ｘ10分位（高所得層）の公租公課負担状況
勤労者世帯第Ｘ10分位の直接税負担、社会保険料負担、消費税負担の推移
第 14 回　日本企業の内部保留６６０兆円（内、大企業の内部留保４７０兆円）の使われ方
デフレ経済下でなぜ企業の内部留保が増大し続けるのか、なぜ日本の労働者の賃金は上がらないのか
第 15 回　貧困化する高齢者
「高齢者のいる世帯」に占める貧困世帯の割合、高齢女性の貧困、高齢男性の貧困

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。その代わりに毎回、講義レジュメ（A4版2~3枚程度）のプリントを配布する。
参考書・参考文献等は未定。初回の講義時に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末試験を実施する。その成績を全体の80％として評価する。授業の終わりに提出してもらうコミュニケーション・ペーパーの提出状況（全部で4回程度）とその内容を全体の10％として評価する。
毎回の授業時の積極的参加状況を全体の10％として評価する。

〔授業時間外学修〕
シラバスに沿って授業展開するので、事前に参考書等を読んで予習してくることが望まれる。
授業後は、参考書等に書かれている内容を含めて、ノートの整理等の復習をすることが望ましい。

〔オフィスアワー〕
授業内容に関する質問は、授業の後に聞きに来ること。時間割が未定なので、オフィスアワーは時間割が決まり次第周知する。
連絡方法はメールで事前予約をお願いする。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
講義中に寝ないように気をつけて欲しい。授業に集中して欲しい。

自治体福祉論/Municipal welfare functions　2021年度入学

HS3403

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　前期
選択

野口 定久

〔授業の概要〕
わが国では、少子高齢化が進展し、国民のニーズの高まりと多様化の中、都道府県から市町村への権限委譲、社会福祉基礎構造改革、各種福祉計画の策定、介護保険制度の創設、各種福祉サービスの措置から契約への移行、地方分権の推進などが進められ、福祉政策主体及び福祉サービス提供主体としての地方自治体、特に、市町村の福祉行政の役割は大きく変化し、重要となっている。本授業では、市町村を中心に、地方福祉行政の基本的事項を理解し、市町村の福祉行政の実際を多面的に学ぶ。さらには、新たな福祉政策の展開の方策、住民参加による福祉のまちづくりについて考えていく。特に地方自治体の首長や職員をゲスト講師として招き、自治体福祉の実際を学ぶ機会を設ける。

〔到達目標〕
・自治体福祉の政策・施策・事業を体系的に学ぶことができる。
・全国各地の自治体福祉の取り組みの特徴を分析的に知ることができる。
・自治体の福祉財政の仕組みと実際を学ぶことができる。
・自治体の保健福祉サービスおよび社会的脆弱層等への包括的な支援体制を学ぶことができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　福祉国家の揺らぎと地方分権
「ケインズ的福祉国家」の揺らぎと地方分権について論じる。具体的には、1980年以降の「福祉国家の危機」で、これまでの福祉国家政策が国際的に揺らぎ、新たなオルタナティブが社会的に求められている。グローバルな視野で、福祉国家に共通する問題を探る。【野口定久】

第 2 回　人口減少時代の福祉行財政
新型コロナ感染症への対応のなかで公共部門の空洞化が明らかになった。なぜ公共部門は脆弱になったのか。住民生活と地域を維持するために福祉行財政はどうあるべきか。【野口定久】

第 3 回　地方財政の現状と課題
人口減少、少子高齢化、一極集中、頻発する自然災害 など地方を取り巻く環境は厳しいものとなっている。その状況下における地方財政の課題を探る。【野口定久】

第 4 回　地方自治体の保健福祉サービス
これからの行政の役割は、サービスを必要とする人に対して、必要なサー ビスが行き届くよう、多様なサービス提供主体から構成される地域のサービ ス提供システム全体を調整していくこと、東京都調布市の元福祉部長をゲスト講師に招き、現場の地域福祉マネジメントを学ぶ。【野口定久・ゲスト講師】

第 5 回　地方財政再建の戦略
地方公共団体の財政破綻が現実味を帯びる中、財政状態の客観的な評価基準を定めた「「地方財政健全化法」（平成19年6月９公布された。財政規律を強化することを意図した成功例の戦略を紹介する。【野口定久】

第 6 回　地域福祉活動を支援するコミュニティ・ファンド
これまでの地域福祉活動は、地方自治体の予算や財源からどのような活動をするかを考えてきた傾向にある。これからは、組織や福祉専門職としての使命を果たすためには どのような資金を活用し活動するのが望ましいかを理解し、使い分けていく必要性が求められる。【野口定久】

第 7 回　福祉行政の中長期ビジョン
各県の福祉行政の中期ビジョンは、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえ、「誰一人として取り残さない地域共生社会の実現を目指して」を目標に、今後５年間で重点的に取り組むべき施策や方向性を定めたものである。策定にあたっては、県民、関係団体や行政機関、有識者からもの多様な意見を収集する方法も検討していく。マクロからの公共政策の視点からセーフティネットを論じる。ソーシャル・セーフティネットとは、個人や家計の予想できないリスクへの対応のための社会政策プログラムを意味する。例えば、死亡、病気、交通事故、火災、地震、失業、貧困、倒産等不幸な出来事に備えるための社会政策ということができる。雇用リスクには雇用保険が、健康上のリスクには医療保険などが対応する。セーフティネットの財源論にも視野を拡げる。【野口定久】

第 8 回　自治体福祉のセーフティネット論
マクロからの公共政策の視点からセーフティネットを論じる。ソーシャル・セーフティネットとは、個人や家計の予想できないリスクへの対応のための社会政策プログラムを意味する。例えば、死亡、病気、交通事故、火災、地震、失業、貧困、倒産等不幸な出来事に備えるための社会政策ということができる。雇用リスクには雇用保険が、健康上のリスクには医療保険などが対応する。セーフティネットの財源論にも視野を拡げる。生活困窮者自立支援制度においては「生活困窮者の自立と尊厳の確保」が目標の１つとされており、「日常生活自立」「社会生活自立」「経済的自立」という３つの自立の概念は、生活困窮者自立支援制度における自立の概念へと受け継がれている。また、生活困窮者自立支援法による支援と生活保護法による支援は、自立の概念や本人の自立に向けた支援といった共通の基盤を有している。【野口定久】

第 9 回　生活困窮者自立支援事業と生活保護行政
生活困窮者自立支援制度においては「生活困窮者の自立と尊厳の確保」が目標の１つとされており、「日常生活自立」「社会生活自立」「経済的自立」という３つの自立の概念は、生活困窮者自立支援制度における自立の概念へと受け継がれている。また、生活困窮者自立支援法による支援と生活保護法による支援は、自立の概念や本人の自立に向けた支援といった共通の基盤を有している。

第 10 回　官民連携の社会的投資モデル
ここでは、「ソーシャルインパクトボンド＝Social Impact Bond（SIB）」を取り上げる。SIBとは 2010 年にイギリスで始まった民間資金を活用した官民連携による 社会課題解決の仕組みである。SIBを通じて達成したいことは、①官民連携で公共サービスの提供を行なうこと、②成果指標を開発し、事業の成果を可視化すること、③成果志向の資金の流れを生むことなどである。事例を通してその仕組みを検討してみる。

第 11 回　新たな公共－良きガバナンス
あるべき公共性とは、基本的人権を侵害せず、周辺住民の合意、決定過程への参加などを含む民主的な手続きによるものでなければならない。行政諸機関の民主的な運営のあるべき姿として用いられる論理が主流となっている。従来の行政運営の方式を改めて、より開かれたものとなると同時に、民間セクターや市民・住民セクターと同じように協働的経営や運営を行い、公正と効率を両立させるようにして公共性の追求を図らなければならない。

第 12 回　地方人口の流出と流入の動向
地方から東京圏への人口流出が加速しており、特に若者の流出が激しい。東京圏への人口集中度は約3割に達しており、これは諸外国に比べて極めて高い。東京圏、特に東京都の出生率は極めて低く（、地方の若者が、出生率の低い東京圏に流出することは、各地域の活力低下をもたらすだけでなく、日本全体としての少子化と人口減少につながるる現象を引き起こしている。地方再生の視点から人口の流動を模索する。

第 13 回　佐久市の福祉行財政
本講では、地方自治体の福祉行財政を通じて考察し、福祉行政の事務配分論に有力な視点をもたらした「機能分担論」について、特に佐久市を事例として考察してみる。

第 14 回　小規模自治体（過疎地）の地域再生戦略
住民生活の基盤づくりや住民相互のつながりづくり、豊かな暮らしの創出などを命題に地方自治が展開されてきた歴史を紐解きながら、自治と人々の暮らしや医療・福祉・教育との関係性に学び、今日に至る地域福祉の展開を確認し、次世代に何を伝承していくかを事例を交えて前村長（藤原忠彦）さんに話していただく。

第 15 回　まとめ－これからの福祉行財政
これからの福祉行財政の重点課題には、①地域包括ケアシステム、②生活困窮者自立支援事業、③生活保護等セーフティネット、④官民協働による財政の確立、⑤子どもの貧困対策、⑥重層的支援体制整備事業、⑦地域循環方福祉経済の開発と定着などの政策化と実践化が求められている。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：野口定久『ゼミナール　地域福祉学－図解でわかる理論と実践』中央法規出版，2018年
参考書：牧里毎治・野口定久・武川正吾・和気康太編著『自治体の地域福祉戦略』学陽書房，2007年

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験を行う。また、小テスト（2回）を実施する。評価は、定期試験と小テスト(2回)の合計点で行う。配点は定期試験　60％、小テスト　40%。

〔授業時間外学修〕
この講義は、パワーポイントを用いたビジュアルな情報伝達とワークショップによる実践事例研究の思考を深めます。ゲスト講師を招き、自治体福祉の実際と政策づくりの方法を学びます。全国各地の自治体福祉の取り組みや地元の自治体の取り組みの情報を収集するように努めてください。

配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)
小テストや配布資料を用いて復習する(15h)。

〔オフィスアワー〕
木曜日　12:10-12:50　野口研究室（１３０１）
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
出席は重視いたします。評価の中にも含めますので毎講義の出席を希望いたします。
テキストは事前学習および講義で使用しますので購入しておいてください。

病院・施設管理論/Hospital and Facility Management　2021年度入学

HS3404

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　後期
選択

小山 秀夫

〔授業の概要〕
わが国には、8千以上の病院があり、10万を超える一般診療所があり、歯科診療所も6万を超える。また、介護保険が適応される施設・事業所は20万か所程度ある。さらに、保育所をはじめとする児童福祉施設や障がい福祉関係の施設や事業所がある。これらの病院・施設はそれぞれの目的があり、制度によって規定され、その運営は租税や保険料等の公的支出で賄われている。そのため、公平で公正なマネジメントが行われる必要がある。そこで、病院や施設のヒト・モノ・カネ・情報のマネジメントに焦点をあて、その現状と課題を明らかにするとともに、それぞれの場で働く人々の側から見た総合的な仕組みを理解する。

〔到達目標〕
1.病院・施設体設置主体別マネジメントの基本について、初学者に概要を平易に説明できる。
2.病院の機能と役割を十分に理解し、ヒト・モノ・カネ・情報等の病院管理について現状を説明できる。
3.わが国の病院・施設及び各種事業所おいてのマネジメント上の課題について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　わが国の病院・施設体系のヒト・モノ・カネの概要
第 2 回　社会福祉実践からみた病院・施設体系の現状と課題
第 3 回　病院・施設の設置主体別役割別の体系化と国際比較
第 4 回　病院・施設体設置主体別マネジメントの基本
第 5 回　カネのマネジメントと財務
第 6 回　カネのマネジメントと会計実務の現状
第 7 回　モノのマネジメントと施設設備の頑丈について
第 8 回　ヒトのマネジメントと人的資源管理
第 9 回　公定価格と擬似市場におけるマネジメントの特徴
第 10 回　病院情報システムの仕組み現状
第 11 回　マネジメントとリーダーシップの関係性
第 12 回　医療費、介護保険費、子ども子育ておよび社会福祉費と財政のマネジメント
第 13 回　マネジメントと診療報酬や介護報酬との関連性
第 14 回　経営問題の発生とその対応
第 15 回　学習の到達点の確認の残された課題の確認

〔テキスト・参考書・参考文献〕
必携テキストはない。
参考書、参考文献・参考URL等授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート 50％、プレゼンテーション 30％、授業参加状況 20％
提出物については、全て添削したものを返却する。

〔授業時間外学修〕
・資料は基本的にwebを活用するので、インターネット環境を確保すること。
・授業の時間外学習時間は、１講義に対して平均２時間程度の予習および資料の事前・事後の読み込みを求める。

〔オフィスアワー〕
水・木曜日　12:10-13:00　小山研究室 (1318)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
この科目は、一般的なマネジメントを基盤として保健医療・福祉分野に特化したマネジメントシステムを対象に学習を進めるものであるが、アドミニストレーションやインテグレーションとの関係およびリーダーシップの位相についても幅広く探求したいと考えています。

経営学/Business Administration　2021年度入学

HS3405

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
選択

藤本 哲

〔授業の概要〕
今日、利益だけを追い求める企業・組織よりも、顧客満足、従業員満足、そして社会的責任の意識明確にもち、幸福追求を目的とする経営が、顧客や社会によって高く評価・支持され発展していくと思われる。本講義では、「社会福祉と経営の関係」をテーマとして考察をすすめます。具体的には、福祉各分野の事例や演習、コミュニティビジネスなどの事例検討を踏まえ、次にそれらの関連で、経営学（マネジメント）の基礎理論を学び、また「福祉サービス」についても言及し、福祉分野における経営についての基礎的な理解を深める。

〔到達目標〕
・経営学の基礎知識を習得し，それに関する問いについて適切に答えられる。
・経営学の基礎知識に関連して，自分や身近な事例に引き寄せて考え，言語化する。
・新聞や専門雑誌などを読んで関連する事例を探し，見つけた事例を身近な人に話してみる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４

〔授業計画〕
第 1 回　社会における経営学
社会の中のどのような分野で経営学が役立てられているか。経営学の適用範囲と細分化。非営利の事業であっても利益を上げることが必要である。
第 2 回　動機付け
人は何を求めてやる気を出すのか。どのような仕組みでやる気は出るのか。
第 3 回　学習
基本的な学習理論をいくつか紹介し，人の学習や熟練へと展開する。内面化。望ましい行動を引き出す仕掛け。
第 4 回　自己効力と内発的動機付け
要介護者から自発性を引き出すための考え方や理論として有力な自己効力感と内発的動機付け。ナッジ，ゲーミフィケーション。
第 5 回　分業・組織設計と職務デザイン
分業のやり方，機能別組織・事業部制組織，経済的スタッフィング，職務デザイン，多能工化。
第 6 回　集団力学
人が集まって集団となったときに起きる現象を対象とする社会心理学の研究から。傾向，課題，対処方法。
第 7 回　リーダーシップとネットワーキング
リーダーシップ理論の基本を学び自分でできることを考える。仲間を作り，協力を得つつ，また提供するネットワーキング。
第 8 回　評価と誘因システム
業績を測定し評価する方法。望ましい行動を引き出す報酬の仕組み。
第 9 回　組織文化と組織風土
組織文化を知る手掛かり，組織文化の機能，形成，変革。組織風土の５軸。
第 10 回　規則と権限移譲
規則の機能，計画がある理由，不確実性を取り扱う，熟練。規則に従ってもらう。集権化と権限移譲。
第 11 回　組織と技術
技術決定論，生産技術と組織の関係，熟練・経験・勘と技術。コンピュータ化。
第 12 回　会計と資金調達
複式簿記の考え方。様々な資産の形。資金調達の様々な形。
第 13 回　マーケティングと競争戦略
価格決定の理論。流通・チャネルの理論。広告・宣伝の理論。競争戦略の理論。
第 14 回　固定費，取引費用
固定費の比率が大きな事業をどのように経営するか。上下分離，SPA，企業間連携。
第 15 回　公益企業・事業経営
公益企業の特徴，課題，経営方法。民間活力の利用，民間企業的手法の活用。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
使用しない。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験70％，授業参加状況30％。
質問や感想などへの全体的なフィードバックを次回授業で行う予定である。

〔授業時間外学修〕
（予習）配布資料を読んで質問を考える。30分～１時間。（復習）毎回の授業で取り上げた事柄に関する参考文献をいくつか検索し読んでみて，メモを書いておく。30分～１時間。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
授業に出てきた新しい用語や紹介した事例などを，スマートフォン等で授業中に検索してみよう。他業種・業界での取り組みの中で，福祉分野に取り入れることができそうなものがないか，探してみよう。

地域・プレメディカル産業論/Local and Premedical Industries　2021年度入学

HS3406

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　後期
選択

米本 清

〔授業の概要〕
ケアの基盤となる地域産業の考え方、とりわけ産業基盤の弱い地域における産業連関の視点から地域産業の実態について学ぶ。具体的には、①産業の構成からみた長野県およびブロック（とりわけ東信・佐久）の特徴②地域産業と住民の暮らし③地域産業政策④医療、保健・健康、福祉関連産業（プレメディカル産業）の動向の4つの視点から学びを深め、ケアのニーズが産業や企業の持つニーズと結びつく可能性について理解を深める。

〔到達目標〕
地域産業の実態およびそれを把握するための（主に経済学分野の）理論を学び、昨今の状況を知る。とりわけ、産業連関の理論を深く理解し、これを長野県やプレメディカル産業に応用した上で、現状を知り、今後の政策やプレメディカル産業の経営に活かすための基礎力を習得する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　データで読み解く地域の実態（１）
教科書にしたがい、まず全国的な地域経済の実態について知る。
第 2 回　データで読み解く地域の実態（２）
配布資料を参照しながら、長野県やプレメディカル産業に関する実態を学ぶ。
第 3 回　地域経済の見方・学び方
地域経済の決定要因や成長・衰退に関する基本的な理論・現状を学ぶ。
第 4 回　地方経済の構造問題
いわゆる地方の経済の問題について学び、長野県やプレメディカル産業と関連付ける。
第 5 回　地域経済の成長と衰退のメカニズム
需要主導型・供給主導型の成長・衰退メカニズムを一般的に学習する。
第 6 回　地域経済成長戦略の展開
地域（経済）政策の歴史に関して学ぶ。
第 7 回　都市構造の変化とそのメカニズム・再開発
とくに、都市における問題や現状に関して一般的に学ぶ。
第 8 回　地域政策効果
配分・生産の効率性と便益の計測・評価方法に関して学ぶ。
第 9 回　ガバナンスとマネジメント
政策とそのガバナンス・マネジメントに関して学ぶ。
第 10 回　実態の把握
回帰分析などの基本的な手法とその応用例を紹介する。
第 11 回　産業連関表（１）
産業連関表の基礎理論を学ぶ
第 12 回　産業連関表（２）
産業連関表を応用し、長野県の現状について知る。
第 13 回　産業連関表（３）
産業連関表を応用し、プレメディカル産業の現状について知る。
第 14 回　政策の効果
仮想評価法やヘドニック・アプローチについて紹介する。
第 15 回　政策の選択
その他の手法や、分析の実例を紹介する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
林宜嗣ほか『地域政策の経済学』日本評論社（2018年）
その他、長野県やプレメディカル産業に関する資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
小テスト20点×2回および期末筆記試験60点
小テストは採点とコメントを付して返却する。

〔授業時間外学修〕
毎回30分程度を確保して、次回の予習を行ってください。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
経済学・経営学一般などと関連するので、関連科目を履修したり経済・経営関連の一般教養を身に着けてから履修することが望ましい。

非営利組織論/Non-Profit Organization　2022年度入学

HS3407

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
２年
2単位　後期
講義
選択

李 省翰

〔授業の概要〕
非営利組織（以下、NPO）は、地域社会のニーズに応える社会サービスの担い手として、社会的課題の解決と自ら掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されている。本講義はNPOに対する「人材・資金・事業・情報等」のマネジメント方法を構想し、実際の運営事例を中心にNPOの政策（制度、法律）と実践（マネジメント手法、実践技術）に対するスキルを習得する。

〔到達目標〕
①非営利組織の社会的ミッションの達成方法が構想できる。
②非営利組織に対する法的、かつ制度的体系を具体的に説明できる。
③非営利組織の理論と実践を総合的に理解することによってマネジメント技術が習得できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　非営利組織論を理解するために必要な地域とは
第 2 回　非営利組織の理解①「非営利」とは何か
第 3 回　非営利組織の理解②「資本主義経済と非営利組織」
第 4 回　非営利組織の理解③「日本のNPO法と設立条件」
第 5 回　非営利組織に対する理論と思想「Pestoff理論、Levitt理論」
第 6 回　日本における非営利組織の理論と思想「歴史的展開と発展」
第 7 回　非営利組織の役割と機能「公共と市場との関係」
第 8 回　非営利組織による運営と展開「運営財源と収入活動」
第 9 回　非営利組織体の運営戦略①「ソーシャルファームと地域再生」
第 10 回　非営利組織体の運営戦略②「コミュニティ・ビジネスと市民運動」
第 11 回　非営利組織の運営と社会福祉①「NPO運営と福祉サービスの多様化」
第 12 回　非営利組織の経営と社会福祉②「NPO運営と地域福祉の推進」
第 13 回　NPOの運営事例①「医療・福祉」
第 14 回　NPOの運営事例②「教育・文化・国際援助」
第 15 回　非営利組織の課題と展望（まとめ）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。授業ごとにレジュメを配布する。
参考書：雨森孝悦『テキストブックNPO第2版－非営利組織の制度・活動・マネジメント』出版社，2012年

〔成績評価の方法・基準〕
中間テスト40％、期末レポート40％、授業参加状況20％
*中間レポートはmanaba（繰り返りコメント機能など）、もしくは授業のなかでフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
授業の事前学習、及び事後学習を行うこと（4時間程度）。

〔オフィスアワー〕
１号館1333号室（s-lee●saku.ac.jp)
授業後、もしくはメールで質問を受け付ける。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ソーシャル・ビジネス論/Social Business　2021年度入学

HS3408

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　前期
選択

李 省翰

〔授業の概要〕
ソーシャル・ビジネスは、社会問題の解決、地域再生といった社会的ミッションをビジネス活動を通して達成する手法である。近年、経済学や福祉学などのさまざまな分野で、ソーシャルビジネスの機能と可能性について注目されている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの概念とその有効性について、国際的動向などを踏まえて概説し、国内外の多様な活動事例（社会起業、NPO法人、協同組合など）を通して、そのマネジメントや実践技術などを習得する。

〔到達目標〕
① ソーシャルビジネスの概念を理解し、運営とマネジメント技術を活用できる。②地域の問題を解決するためにソーシャルビジネスがいかに必要なのかを説明できる。③医療・福祉・教育など多くの分野においてソーシャルビジネスの可能性を提示する考え方を高めることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP３、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、ソーシャルビジネスを理解するための学びの紹介
第 2 回　ソーシャルビジネスの概念と特徴①：社会的経済と社会起業
第 3 回　ソーシャルビジネスの概念と特徴②：国際動向
第 4 回　ソーシャルビジネスの概念と特徴③：NPO運営と企業の社会的貢献（CSR）
第 5 回　社会起業と共生社会①：社会福祉と社会起業の運営
第 6 回　社会起業と共生社会②：雇用創出と地域生活自立支援
第 7 回　社会起業と共生社会③：地域再生とまちづくり
第 8 回　社会起業家①：社会起業家の機能と役割
第 9 回　社会起業家②：社会起業家の戦略と実践
第 10 回　ケーススタディ①：国内の社会起業の事例検討
第 11 回　ケーススタディ②：長野県内の社会起業の事例検討
第 12 回　社会起業の運営ロールプレー①：市場調査及び資源開発
第 13 回　社会起業の運営ロールプレー②：運営実務（１）事業計画
第 14 回　社会起業の運営ロールプレー③：運営実務（２）財政・運営
第 15 回　ソーシャルビジネスを構想してみる

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキストは使用しない。授業ごとにレジメを配布する
＜参考文献＞
山本　隆（2014）社会的企業論－もうひとつの経済－　法律文化社
谷本寛治（2015）ソーシャルビジネス・ケース　中央経済社

〔成績評価の方法・基準〕
中間レポート30％、期末テスト30％、グループワーク30％、その他10％
*中間レポートはmanaba（繰り返りコメント機能など）、もしくは授業のなかでフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
授業の事前学習、及び事後学習を行うこと。（4時間程度）

〔オフィスアワー〕
毎回の授業終了後、もしくはメールで質問を受け付ける。
1号館1333号室（s-lee@saku.ac.jp)

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

マーケティング論/Marketing　2021年度入学

HS3409

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
３年
2単位　後期
選択

坪井 明彦

〔授業の概要〕
市場行動であるマーケティングは、今日様々な事業体において展開を示している。言うまでもなく、その代表的なものは、企業のマーケティングである。企業マーケティングは単に商品やサービスを売るというだけではなく様々な要素が複雑に関係している。我々は、年間を通してマーケティングの「基礎」を学び、また、様々な「展開」について検討、学修することにより、マーケティングの知識を獲得し、またマーケティングの素養を身につけるべく検討、学習する。

〔到達目標〕
・テレビや新聞、雑誌記事などで目にする企業や製品について、ターゲットは誰か、どのようなマーケティング・ミックスが用いられているかなどを自身で考えることができる。
・自身が商品やサービスを企画する立場になった時に、市場細分化、標的市場の選定、ポジショニングなどを考えるための基礎的な知識や思考力を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP２、DP３、DP４、DP５

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
講義概要、スケジュール、評価方法等を説明する。
第 2 回　マーケティングの基本
マーケティング・ミックス、マーケティング・コンセプトといったマーケティングの基本的な考え方や概念について学習
第 3 回　マーケティング・ミックス（１）製品
組織が顧客に対して提供・提示するマーケティング・ミックスの構成要素の中で、中心となる提供物である製品についての考え方を学習
第 4 回　マーケティング・ミックス（２）価格
マーケティング・ミックスの構成要素である価格について、基本的な考え方について学習
第 5 回　マーケティング・ミックス（３）流通
マーケティング・ミックスの構成要素である流通チャネルについて、基礎的な考え方について学習
第 6 回　マーケティング・ミックス（４）プロモーション
マーケティング・ミックスの構成要素であるプロモーションについて、基礎的な考え方について学習
第 7 回　標的市場の選定
組織側が自身の製品・サービスを提供すべき顧客をどのように選択すべきかについて、基本的な考え方について学習
第 8 回　製品ライフサイクル
製品にも人間と同じようにライフサイクルがあり、その時期ごとにふさわしい戦略定石がある。そのライフサイクルごとの戦略定石についての基本的な考え方について学習
第 9 回　市場地位別マーケティング戦略（１）
組織が属する業界の中で、その組織が競争相手と比べてどのような地位にあるのか、その地位によってふさわしい戦略は異なるはずである。その最強の地位のリーダーの戦略定石について学習
第 10 回　市場地位別マーケティング戦略（２）
チャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの地位の戦略定石について学習
第 11 回　業界の構造分析（１）
業界の利益の上げやすさは、どのような要因に影響を受けるのかを学習（既存企業間の対抗度、新規参入の脅威）
第 12 回　業界の構造分析（２）
（買い手の交渉力、売り手の交渉力、代替品の脅威）
第 13 回　成長戦略と全社戦略
複数の製品や事業を持つ場合に、どのような基準で、始める、やめる、続ける、強化するなどを決めていくのか、基本的な考え方について学習
第 14 回　事業の定義
自身の組織が、事業として何をすべきなのか、何をすべきではないのか、それについての基本的な考え方について学習
第 15 回　サービス・マーケティング
サービスは製品と比べてどのような特徴があるか、そして、製品と比べて、サービスのマーケティングはどのような課題や特徴があるかを学習

〔テキスト・参考書・参考文献〕
沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略　新版』有斐閣。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験（レポート試験）70％、平常点30％（授業への参加状況15％、小レポート15％）で評価する。評価基準は、達成目標にあげた項目と照らし合わせ、授業内での質問の内容、期末試験（レポート試験）での具体例を挙げた論述ができるかどうかを評価基準とする。課題に対しては授業内でフィードバックを行う。

〔授業時間外学修〕
次回の授業範囲について指定したテキストをよく読み、予習しておくこと。また、授業後は必ず提示した資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。毎回30分は確保すること。

〔オフィスアワー〕
授業終了後に教室で質問を受け付けるほか、メールでも受け付ける（tsuboaki●tcue.ac.jp）。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
学習支援システム「manaba」を通して資料を配布する。印刷した資料を紙では配布しないので、事前にダウンロードし、ノートPC等を持参することが望ましい。

社会福祉原論/Principles of Social Welfare　2021年度入学

HS4001Q

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

3年
2単位　前期
必修

佐藤 嘉夫

〔授業の概要〕
「社会福祉論」で概観した社会福祉に関する基本的理解を前提に、学部の専門科目、社会福祉の各分野の講義等で学んだ社会福祉問題とそれらに対する対応方法、実習で得た経験的事実などについて、理論的に検討し、社会福祉の専門課程の学習の総合化を図る。基本的な講義内容の形式的分割を行わずに「社会福祉論」の補足、詳説、新動向の解説、研究的視点への方向づけなどに重点をおく。そのなかで、社会福祉の理念・価値に関して実践と理論の両面から吟味し、福祉への卒業後のかかわりについて考えを深めることを目指す。

〔到達目標〕
・社会福祉を原理的に捉えなおすことの重要性について説明できる。
・社会福祉の「原理」を構成する8つの要素を書き出すことができる。
・自分が学修した実習や講義内容と結び付けて社会福祉の原理を説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　社会福祉の定立
第 2 回　社会福祉を原理的に構成する要素
第 3 回　社会福祉の法制度原理１
第 4 回　社会福祉の法制度原理２
第 5 回　社会福祉と生存権の構造
第 6 回　現代福祉の思想と論理
第 7 回　現代福祉の運営・管理にかかわる原理１（民間・市場原理）
第 8 回　現代福祉の運営・管理にかかわる原理２（公的管理と責任）
第 9 回　社会福祉のモデル原理１（北欧、ドイツ、米国を例に）
第 10 回　社会福祉のモデル原理２（北欧、ドイツ、米国を例に）
第 11 回　「対象」への省察１（まなざし）
第 12 回　「対象」への省察２（現代の福祉ニーズ論）
第 13 回　「対象」への省察３（労働・援助方法）
第 14 回　現代日本の福祉論
第 15 回　ヒューマンケアと社会福祉の可能性

〔テキスト・参考書・参考文献〕
特になし。
参考書については授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート 20％、最終レポート 80％
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。

〔授業時間外学修〕
・新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。（目安として1時間）
・授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。

〔オフィスアワー〕
授業時に指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
福祉の機能や役割が、どのような法制度に依拠しているのか考えてみよう。

ヒューマンケア専門演習Ⅰ/Human Ｃａｒｅ Seminar Ⅰ　2021年度入学

HS4005

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3年
2単位　前期
必修

島田 千穂、小山 秀夫、林 宏二、髙松 誠、唐鎌 直義、
青木 紀、関谷 龍子、李 省翰、野口 定久、佐藤 園美、
脇山 園恵、長谷川 武史、野坂 洋子、下村 幸仁、佐藤 嘉夫

〔授業の概要〕
この専門演習は、受講生が、主体的かつ総合的な学びを深め、四年間の学修の総仕上げとしての卒業課題研究につながっていくためのものである。演習Ⅰでは、ヒューマンケアの研究に必要な基礎知識・技術を習得し、基礎的な学術経験を積むことを目的とする。文献購読、討論等をクラスごとに設定し、演習形式で専門研究への準備能力を養う。

〔到達目標〕
・論文等の研究テーマを自分で立てることができる。
・研究文献の収集や読み方、引用のしかたが分る。大学で学ぶための基本的な学習技術の重要性と必要性に気付く。
・デベートが出来、他人と生産的な熟議ができる。
・自分なりの研究テーマを立ててプレゼンテーションができる。
・文検等を批判的に読解できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス：大学での学修のまとめ・総合化
第 2 回　文献講読・解題とデベート１
第 3 回　文献講読・解題とデベート２
第 4 回　文献講読・解題とデベート３
第 5 回　文献講読・解題とデベート４
第 6 回　文献講読・解題とデベート５
第 7 回　文献講読・解題とデベート６
第 8 回　受講者の中間発表・プレゼンテーション
第 9 回　文献講読・解題とデベート７
第 10 回　文献講読・解題とデベート８
第 11 回　文献講読・解題とデベート９
第 12 回　文献講読・解題とデベート10
第 13 回　研究課題・テーマ・方法等のプレゼンテーション
第 14 回　研究課題・テーマ・方法等のプレゼンテーション
第 15 回　まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕
授業で使用する文献を事前配布または周知

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法・基準
デベートの発言20％、リアクションペーパーやワークシートの提出30％、プレゼンテーション20％、小レポート30％
演習のレポートを通して個別にコメントする。

〔授業時間外学修〕
・基本文献の事前学習（要点のまとめ、論点整理、感想）各回3-4時間
・デベートのための各自の論点整理２時間とプレゼンテーション準備4時間

〔オフィスアワー〕
授業時に指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
ここからが専門ゼミですので主体的な学びに大いに取り組んでください。

ヒューマンケア専門演習Ⅱ/Human Ｃａｒｅ Seminar Ⅱ　2021年度入学

HS4006

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
３年
2単位　後期
必修

佐藤 嘉夫、野口 定久、下村 幸仁、青木 紀、唐鎌 直義、小山 秀夫、島田 千穂、佐藤 園美、関谷 龍子、髙松 誠、長谷川 武史、李 省翰、野坂 洋子、林 宏二、脇山 園恵

〔授業の概要〕

本演習は、ヒューマンケア専門演習Ⅰでの学修を土台に、受講者一人一人がゼミ単位で論議を深めながら、個別の関心と動機に基づいてテーマを決めて研究を深め、卒業課題研究につなげる。ディベートやグループ中でのプレゼンテーションの他、個人毎のリポート作成などを行い研究力を養う。ゼミは受講生が自らの関心と研究テーマに基づいて選ぶ。

〔到達目標〕

・レポートの作成やプレゼンテーションに自信がもてる。
・どんなテーマでも、デベートに積極的に参加して自分の意見をいうことができる。
・自分のやりたいテーマを、３年次までの学習体験、実習体験や先行研究を踏まえて、導き出すことができる。
・４年次に取り組む卒業課題研究のテーマ・方向がだせる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

学修のテーマや、共同討議、現場体験・フィールド探索、研究講読、受講生の学習発表など、演習（ゼミ）の組立て方は、教員とゼミ生の自主的な判断にゆだねられている。演習は基本には15回行われるが、フィールドワークや集中などを適宜、折り合わせていくことも認める。

第１回　オリエンテーション
第２回　各自の研究計画、テーマ発表
第３回　ゼミ員テーマに共通するテーマおよび文献の購読とデベート
第４回　ゼミ員テーマに共通するテーマおよび文献の購読とデベート
第５回　研究方法の優れたユニークな文献の解読
第６回　研究方法についての講義（教員）
第７回　各人の研究計画のプレゼンテーション
第８回　各人の研究計画のプレゼンテーション
第９回　各人の研究計画のプレゼンテーション
第10回　研究計画に沿ったミニ発表（レポート）とデベート
第11回　研究計画に沿ったミニ発表（レポート）とデベート
第12回　研究法がユニークで際立っている研究文献の講読
第13回　研究法がユニークで際立っている研究文献の講読
第14回　研究計画のブラッシュアップと研究上の課題についてのデベート
第15回　卒業課題研究のテーマの発表

〔テキスト・参考書・参考文献〕

なし

〔成績評価の方法・基準〕

ゼミでの参加・発言度20％、課題報告・プレゼンテーション３０％、最終レポート50％を標準とする。
演習のレポートを通して個別にコメントする。

〔授業時間外学修〕

基本的には演習全体が、アクティブ・ラーニングなので、特段の指定はしないが、常に事前・事後学習が求められる。

〔オフィスアワー〕

授業時に指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

専門ゼミですので主体的な学びに大いに取り組んでください。

CBL総合演習・実習/Integrated Seminar & Practice in CBL　2021年度入学

HS4007

人間福祉学部 ＞ 人間福祉学科 ＞ 専門科目
3 年
2単位　後期
選択

狩野 徹、野口 定久、島田 千穂、関谷 龍子

〔授業の概要〕
3年次の後半からの、出口を意識した学修の総合化、統合化と卒業課題研究遂行に向けて必要なフィールド、臨床現場での量的・質的調査データ、実践記録、観察記録・データなどを、受講者の自主的な選択で行うものである。それゆえ、「実習」の形態や内容、場所、期間などや、その準備等も、担当教員の指導の下で、受講者が柔軟に企画することができる。実習によって得られたデータ等は、指導教員の検証・指導を受けながら、研究等に活用できるものに仕上げていくこととする。
〔到達目標〕
① 実習で得られたデータ・成果が、卒業課題研究等に活用できる内容と質（レベル）が担保出来るものであること。
② 実習が、ディプロマ・ポリシーの達成に適っているものであること。
〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
〔授業計画〕
第１回～第15回
上記、授業の概要に従って、実習を基本としながら、適宜演習・実習指導を組み込みながら実施していく。演習・実習指導は12時間、実習は18時間を最低基準とし、全体として、それを超えるものとする。
授業方法：実習・演習
担当教員：各教員
〔テキスト・参考書・参考文献〕
授業で使用する文献を事前配布または周知
〔成績評価の方法・基準〕
デベートの発言20％、リアクションペーパーやワークシートの提出30％、プレゼンテーション20％、小レポート30％
実習中の記録やレポートには、適時に個別に面談しながらコメントする。
〔授業時間外学修〕
授業の内容が、受講者の自主的、主体的なものであるので、計画、準備、まとめ等の学修は、すべて、授業時間外学修となり、その時間も、最低基準(30時間)の2倍以上になる。
〔オフィスアワー〕
授業時に指示する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
地域との関わりを継続的に行いながらそれまでの知見を基に実習によって統合が図れるようにしましょう。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ/Social Work Practice
2022年度入学

HS5002S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目
2年
2単位　後期
演習
必修

上西 一貴、髙松 誠、根本 貴子、長谷川 武史、野坂 洋子、林 宏二、脇山 園恵、山口 圭

〔授業の概要〕
ソーシャルワーク実習が行われる実習機関やその利用者についての理解を深め、ソーシャルワーク実習の意義、ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義について理解する。現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理
解や各種サービスの利用体験等を含む。）と個別指導及び集団指導により、実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を進める。

〔到達目標〕
・実習施設機関の設置根拠や機能を説明することができる。
・実習施設機関が設置されている地域の特性について説明することができる。
・実習場面で関わる多様な人について理解し、説明することができる。
・実習施設機関の利用者のサービス等利用に至る背景を例示し、説明することができる。
・ソーシャルワーク実習の目的と、そこで行う活動について、説明することができる。
・実習記録作成において、求められる内容に合わせた記録方法を理解し、説明することができる。
・実習中のスーパービジョンの役割について理解し、説明することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション(実習及び実習指導の意義の理解)
科目の目的、スケジュール、ソーシャルワーク実習に臨む心構えを確認する。
SW実習および実習指導の意義と位置づけ、実習生として必要な個人情報保護について理解する。

第 2 回　実習の目的理解、事前学習報告書の作成
SW実習の方法を理解する。また、事前学習報告書の作成方法を理解し、必要な学習を進めることができるようにする。

第 3 回　教育評価と実習構造およびスーパービジョン理解
SW実習における評価の意義・目的・方法、実習評価ガイドライン、実習構造・プロセスを理解する。また、スーパービジョンの目的・機能・方法、スーパーバイジーの権利について理解する。

第 4 回　記録の作成①、実習計画書の作成①
SW実習における記録の意義・書き方・留意点を理解する。実習計画書の作成の意義・内容・作成方法を理解する。

第 5 回　領域・種別ごとの情報収集①
実習生および専門職として求められるコミュニケーションや人間関係形成方法に関する知識・技術を整理し把握する。

第 6 回　領域・種別ごとの情報収集②
実習施設機関に関する情報収集として、実習施設機関の特徴および地域特性、地域社会とのかかわり場面で求められる価値・知識・技術、関連する社会資源を整理し、事前学習に活用する。

第 7 回　記録の作成②
作成した記録についてクラス内で評価を行い、記録の作成方法や、「よい記録」とはどのようなものかについて考え、推敲する。

第 8 回　実習計画書の作成②
担当教員やクラス内での相談の上、実習計画書の作成を進める。

第 9 回　実習計画書の作成③
担当教員やクラス内での相談の上、実習計画書の作成を進める。

第 10 回　実習計画書の作成④、実習調整会準備
実習調整会議での実習指導者との顔合わせに向けた準備を行う。

第 11 回　実習調整会議の振り返り、事前訪問の理解
実習調整会議での打ち合わせ結果をふまえ、実習計画書および事前学習報告の修正点を確認する。事前訪問の意義や方法について理解する。

第 12 回　事前学習成果の確認①
作成した実習計画書および事前学習報告書をクラス内で報告し、修正点や不足点を確認する。

第 13 回　事前訪問成果の確認②
作成した実習計画書および事前学習報告書をクラス内で報告し、修正点や不足点を確認する。

第 14 回　実習指導のまとめ①
授業全体を振り返り、実習への動機、目的、狙いを明確にする。また実習をしたい自分自身の長所、短所、興味・関心、将来の希望を整理する。

第 15 回　実習指導のまとめ②
事前訪問の実施報告をクラス内で行い、実習開始までの課題や準備について確認する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
使用テキスト
①「佐久大学ソーシャルワーク実習要項」（授業内配布）
②「社会福祉小六法2023［令和５年版］」 ミネルヴァ書房 2023年4月
参考文献：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）」中央法規2021

その他必要な資料については授業内で配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
実習準備に向けた各グループワークへの参加：25％
実習準備に向けた個人の取り組み：25％
事前学習成果報告書：25％
実習計画書作成：25％
〔授業時間外学修〕
授業内容の振り返りと予習を行い、実習に向けての準備を主体的に進めてること。そのほか各回で様々な課題を提示するため、期限までに自己学習（時間外学修）として計画的に取り組むこと。
〔オフィスアワー〕
担当教員毎に異なるため、授業内で説明する。
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
〔その他履修上の留意事項等〕
自らのソーシャルワーク実践に関する知識・技術を主体的に高めていくための実習準備がこの科目の目的です。能動的な取り組みを心掛けてください。

『佐久大学ソーシャルワーク実習要項』に示される「実習指導科目及び実習科目遵守事項」が守られない場合は、本科目の履修継続が不可となります。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ/Social Work Practice Instruction Ⅱ　2021年度入学

HS5003S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

3年

1単位　前期

自由

下村 幸仁、髙松 誠、根本 貴子、長谷川 武史、野坂 洋子、林 宏二、脇山 園恵、山口 圭

〔授業の概要〕

実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解を深め、実習に向けての自分自身のねらいや目的を明確にし、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成する。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解を深める。巡回指導もしくは帰校日指導により、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。

〔到達目標〕

・実習に向けての自分自身のねらいや目的を明確に記述することができる。

・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえ、実行可能で具体的な実
習計画を作成できる。

・利用者・家族のプライバシー保護と守秘義務の意義と方法、留意点について説明できる。

・実習記録の目的、記載すべき事柄について説明できる。

・実習において利用者や関係者と適切な関係を築くために、基礎的な面接技法を用いることが
　できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション等
実習指導の進め方：①実習指導Ⅱの科目目的・課題、スケジュール及び評価方法等の確認。
②2年次春（60時間）実習をふり返り、各自の到達点と課題を整理する（次回講義日前日までに必ずレポートを提出する）。

第 2 回　実習事前学習Ⅰ･･･実習課題の見直し
①第1回の各自の「到達点と課題」をグループメンバーと共有する。
②他のメンバー、特に領域の異なる実習体験者の報告から自分の新たな課題を発見、設定する。
③「相談援助実習ガイドライン」の確認。

第 3 回　実習事前学習Ⅱ･･･到達目標の設定
①3年次夏（180時間）実習での実習施設・機関等の法的根拠、経営理念等及びそこで働く専門職種の業務内容について理解する。
②当該実習施設・機関等と関連する地域の社会資源（役割・機能）について調べる
③市町村地域福祉計画等行政による各種福祉計画を調べ、特徴を把握する。
②60時間実習の経験を踏まえた「実習生個人票」の作成。

第 4 回　実習事前学習Ⅲ･･･実習課題の調整等
①配属予定の実習施設・機関等で支援を必要としている人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）を把握する。
②実習目的を設定する。
③「実習生個人票」の提出。

第 5 回　実習事前学習Ⅳ･･･支援計画について
①支援を必要とする人・家族への適切な社会資源について理解する。
②支援を必要とする人・家族への最適なネットワーキングについて理解する。
③多職種連携・チームアプローチについて理解する。

第 6 回　実習事前学習ｖ･･･実習指導者講話
①実習施設・機関等の指導者による施設・機関等の概要、実習生に求められる事項、事前の学習課題等について講話を聞く。
②①の講話を参照にして、実習計画書第1回目（Version1）の記述に厚みをもたせる。

第 7 回　実習計画書に関する指導Ⅰ
①実習計画書（Version1）の提出による実習指導
②実習計画書（Version1）をグループメンバー内で報告することで、プレゼンテーションの仕方を実践的に理解し、計画内容を修正・加筆する。

第 8 回　実習計画書に関する指導Ⅱ
①「相談援助実習ガイドライン」を踏まえて、取り組み可能な実習計画書の作成を具体的に行う。

第 9 回　実習計画書に関する指導Ⅲ
①実習計画書第2回目（Version2）の提出による実習指導
②実習計画書（Version2）をグループメンバー内で報告することで、プレゼンテーションの仕方を実践的に理解し、計画内容を修正・加筆する。

第 10 回　実習計画書に関する指導Ⅳ
①実習施設・機関等への事前訪問等による実習計画書（Version2）の具体化に向けた指導者との協議を行う。
②実習指導者からの助言を整理する。
②実現可能な実習計画への修正を行う。

第 11 回　実習計画書に関する指導Ⅴ
①実習計画書（最終版）に向けた記述内容の推敲を行う。

第 12 回　実習事前学習Ⅵ
・実習計画書（最終版）の提出
・実習計画書（最終版）に基づき、実習前に準備すべき事柄を整理し、実習指導者から助言を得た事項に関して事前学習に取り組む。

第 13 回　「ソーシャルワーク実習ノート」の記録Ⅰ
①2年次春（60時間）実習における記録の省察
②「ソーシャルワーク実習ノート」の記録内容及び記録方法に関する理解

第 14 回　「ソーシャルワーク実習ノート」の記録Ⅱ
①実習指導者のコメント（スーパービジョン）の意味を理解する。
②実習指導者のコメント（スーパービジョン）の実習課題への活かし方。

第 15 回　ソーシャルワーク実習（180時間）最終オリエンテーション
①実習スーパービジョンの目的・意義
②実習巡回指導と帰校日指導における実習担当教員（スーパーバイザー）と実習生（スーパーバイジー）の役割及び指導内容について
③その他：
　実習に向けた不安の解消、実習中の態度・行動に関する留意点、個人情報保護、緊急時の連絡先、実習の中断・中止、実習終了後の作業について（実習ノートの受け取り、実習のまとめ作成、礼状）

〔テキスト・参考書・参考文献〕
使用テキスト：
①「佐久大学ソーシャルワーク実習要領」（事業内配布）
②「社会福祉小六法2022［令和4年版］」ミネルヴァ書房2022年4月
参考文献：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）」中央法規2021
その他必要な資料については授業内で配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
実習準備に向けた各グループワークへの参画：40％
実習準備に向けた個人の取り組み：20％
事前学習成果報告書：10％
実習計画書作成：30％
各回、

〔授業時間外学修〕
・授業計画に則して、その準備学習をし、まとめておいてください。（60分）
・実習計画書Version1・2及び最終版は必ずそれぞれ第7回、9回、12回の講義前日までにマナバに格納するようにしてください。この計画書については、180時間実習の基となる重要なものですから、指導教員から必ず確認とコメントをしますので、それを熟読して計画書を自分のものにするようにしてください。
・毎回の授業で得た他者からの意見については、自分の考えと比較しながら相違点とその有効性について整理しておいてください。（30分）

〔オフィスアワー〕
各担当教員が授業内で案内する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
・自らのソーシャルワーク実践に関する知識・技術を主体的に高めていくための実習準備がこの科目の目的です。指導は個人ごとになることもありますので、能動的な学修を心がけてください。
・講義中、重要な事項はメモをとるようにしてください。
・授業の遅刻は厳禁です。
・実習計画書等の提出期限は必ず順守してください。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ/Social Work Practice Instruction Ⅲ　2021年度入学

HS5004S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目
３年
1単位　後期
自由

林 宏二、山口 圭、長谷川 武史、根本 貴子、野坂 洋子、下村 幸仁

〔授業の概要〕
個別指導及び集団指導により、ソーシャルワーク実習を振り返り、分かち合い、学び合う。実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成、実習報告会を行うことを通して、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、解の見えない課題であっても真摯に向きあい主体的に学ぶ態度と能力を高める。

〔到達目標〕
・実習で学んだことがらを的確に整理し、記述することができる。
・実習で学んだこと、戸惑ったこと、失敗したこと等について振り返り、できたことと今後の課題とに整理して記述することができる。
・自己を客観視し、社会福祉専門職となるために必要とされる課題を明確に説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　実習後の指導
「実習のまとめ」を作成し実習を振り返る。
第 2 回　実習体験の共有①
授業において、実習体験や感じたこと、考えたことを報告し合い共有する。
第 3 回　実習体験の共有②
授業において、実習体験や感じたこと、考えたことを報告し合い共有する。
第 4 回　１８０h実習の振り返り①
実習記録をもとに、実習計画であげていた実習課題の達成状況を確認する。実習前には予測できなかった体験、記憶に残る出来事を整理し、自身の変化を振り返り、グループで共有する。
第 5 回　１８０h実習の振り返り②
実習記録をもとに、実習計画であげていた実習課題の達成状況を確認する。実習前には予測できなかった体験、記憶に残る出来事を整理し、自身の変化を振り返り、グループで共有する。
第 6 回　２カ所の実習の振り返り①
２年次春の６０h実習、３年次夏の１８０h実習を振り返り、領域別・種別毎のSW実践の違いや自身の変化や成長について振り返り、グループで共有する。
第 7 回　２カ所の実習の振り返り②
２年次春の６０h実習、３年次夏の１８０h実習を振り返り、領域別・種別毎のSW実践の違いや自身の変化や成長について振り返り、グループで共有する。
第 8 回　支援計画書の作成①
実習で作成した支援計画書を整理する。
第 9 回　支援計画書の作成②
実習で作成した支援計画書をグループで発表し合い、支援計画を検討する。
第 10 回　支援計画書の作成③
実習で作成した支援計画書をグループで発表し合い、支援計画を検討する。
第 11 回　実習報告集資料の作成準備①
振り返りを踏まえ、実習報告集用の原稿作成準備を行う。
第 12 回　実習報告集資料の作成準備②
振り返りを踏まえ、実習報告集用の原稿作成準備を行う。
第 13 回　実習報告会準備
実習報告会での発表の練習を行う。
第 14 回　実習報告会の実施
実習で学んだこと、戸惑ったこと、失敗したこと等について振り返り、達成できたことと今後の課題を実習報告レポートとして発表する。実習報告会を踏まえ、実習報告レポートを推敲する。
第 15 回　まとめ
ソーシャルワーク実習全体を振り返り、自身の成長、今後取り組みたい課題とその方法を確認する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
(参考書)
最新社会福祉士養成講座　8　ソーシャルワーク実習指導
ソーシャルワーク実習　社会専門　日本ソーシャルワーク教育学校連盟/編集

その他、参考文献については適宜講義内で配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
グループワークへの参加状況：30％
実習報告集作成に関する取り組み及び内容：30％
実習報告会準備に関する取り組み及び発表内容：20％
支援計画作成に関する取り組み及び内容：20％

〔授業時間外学修〕
・各回に臨むにあたって必要な事前準備(実習記録等の確認)：30分
・各回の課題対応：60分

〔オフィスアワー〕
初回授業時に各教員から周知する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

ソーシャルワーク実習/Social Work Field Practicum　2022年度入学

HS5005S

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目

2年
6単位　後期
実習
自由

林 宏二、上西 一貴、山口 圭、髙松 誠、脇山 園恵、
長谷川 武史、根本 貴子、野坂 洋子、下村 幸仁

〔授業の概要〕
ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。実習生は実習機関の実習指導者による指導を受けるが、ソーシャルワーク実習指導担当教員が巡回指導等を通して、実習生及び実習指導者との連絡調整
を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。具体的な体験と実習機関の実習指導者及びソーシャルワーク実習指導担当教員による指導を通して、実習生は社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握
等、総合的に対応できる能力を習得する。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

〔到達目標〕
2年次春期休暇期間中の60時間実習及び、3年次休暇期間中の180時間の2回の実習を通して、以下の目標に到達できることを科目の狙いとする。
①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づき支援を行うための実践能力を養う。
②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。
③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。
④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。
⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
厚生労働省通知により指定された方法に基づき、配属機関・施設の定めた実習プログラムにそって実習を行う。実習先の実習指導者による指導を受ける。実習は240時間である。前述したように、2年次春期休暇期間中の60時間実習、3年次夏季休暇期間中の180時間実習の2回に分けて実習を行う。２回の実習では、以下の項目を学ぶための実習プログラムが設定される。

①ソーシャルワークの対象となる当事者・利用者とその家族・世帯の生活・地域の実態や、ソーシャルワーカーが活動する地域の実態を学ぶ。
②ソーシャルワーカーとしての価値や倫理が実践現場でどのように具現化されているか、またソーシャルワーカーがそれらをどのように行動化しているか、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士としての態度や姿勢を学ぶ。
③ケースの発見からアセスメント、支援計画策定から実施に至るソーシャルワークの過程について具体的かつ経験的に学ぶ。
④ソーシャルワークの役割としての総合的・包括的な支援や多職種・多機関や地域住民等との連携・協働の実際を具体的かつ経験的に学ぶ。
⑤社会福祉士・ソーシャルワーカーとしての自分を知る（自己覚知）の機会とする。

　それぞれの実習での具体的な学びの目的については、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ及びⅡの授業内で説明する。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
・「佐久大学ソーシャルワーク実習要項」（ソーシャルワーク実習指導Ⅰ内で配布）

〔成績評価の方法・基準〕
日本ソーシャルワーク教育学校連盟による実習評価表に準じた評価表を用い、学生の自己評価表を参考にしながら実習指導者の評価も総合評価に加味する。
具体的な評価方法については、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内で説明する。

〔授業時間外学修〕
実習期間中は毎日の学びを整理する実習日誌のほか、実習プログラムに沿って複数の作成物が実習時間外の課題として設定される。実習中における気づきや疑問点は、適時まとめるなどして、実習時間外における学びの整理に活用できるようにすること。（60分）

〔オフィスアワー〕
担当教員毎に異なるため、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内で説明する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕
この実習科目は長期間にわたって実施されます。目的意識を明確にして臨んでもらう必要があるほか、日々の体調管理も重要になります。

『佐久大学ソーシャルワーク実習要項』に示される「実習指導科目及び実習科目遵守事項」が守られない場合は、今年度の本科目の履修継続が不可（実習中止）となります。

精神医学Ⅱ/Psychiatry Ⅱ　2021年度入学

HS5006M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

３年

2単位　後期

自由

高橋 正彦

〔授業の概要〕

本講義は精神医学Ⅰのアドバンスト・コースとして、精神医学Ⅰで学ばなかった器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動の障害等の理解を深めるとともに、精神科の治療法（薬物療法、身体療法、精神療法）、リハビリテーションなど臨床で行われていることを学ぶ。また、疾病構造の変化に伴う外来医療、在宅医療、入院医療の現状を統計的データと共に学ぶ。最後に、精神医療と福祉の連携の重要性について考える。精神医学Ⅱでは、精神科に関連した時事問題も取り扱う予定としている。

〔到達目標〕

①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。

②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中での精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。

③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。

④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

以下の内容について15回を行う。

①精神疾患総論

②精神疾患の治療

③精神医療の動向

④精神科医療機関における治療

⑤精神医療と保健、福祉の連携の重要性

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト

最新　精神保健福祉士養成講座１「精神医学と精神医療」

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

中央法規出版

〔成績評価の方法・基準〕

授業時に指示する。

〔授業時間外学修〕

授業時に指示する。

〔オフィスアワー〕

授業時に指示する。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

精神保健福祉論Ⅲ/Mental Health Welfare Ⅲ　2021年度入学

HS5007M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目
3年
2単位　後期
自由

江間 由紀夫

〔授業の概要〕
「障害の福祉学」で学ぶ障害の概念や国際生活機能分類（ICF）を踏まえて、疾病と傷害を併せ持つ精神障害者の特性を学ぶ。また、精神障害者の生活実態とニーズを知り、精神障害者の住むところと働くことへの支援（制度やサービス、そこに係る専門職など）について学び、具体的な支援について理解を深める。以上のことを踏まえ、精神障害者が地域で生活する上での人権の問題や精神障害者の自立と社会参加、それらを促進する地域生活支援システムのあり方と課題について考える。

〔到達目標〕
①精神障害者に関する法制度の歴史と体系を説明できる
②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要を説明できる
③生活支援に関する制度を理解し、事例を用いて精神保健福祉士の役割を考えることができる
④生活保護制度や生活困窮者自立支援法などを理解し、経済的支援の方法を考えることができる
⑤障害者に関する法律や制度を理解し、適切な活用と限界を考えることができる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP５、DP６

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション 授業の進め方と概要
授業の進め方や評価方法等の説明と精神保健福祉に関わる法制度の概要を学びます。
第 2 回　精神保健福祉法１：歴史と概要
精神病者監護法から精神保健福祉法に至る法制度の歴史と概要を学びます。
第 3 回　精神保健福祉法２：入院と退院
精神保健福祉法における入院形態と入院中の処遇、退院に関する内容を学びます。
第 4 回　精神保健福祉法３：精神保健福祉士の役割
精神保健福祉法に関わる精神保健福祉士の役割について、権利擁護や地域移行支援を中心に学びます。
第 5 回　医療観察法１：歴史と概要
医療観察法の成立に至る歴史と法律の概要、目的と課題について学びます。
第 6 回　医療観察法２：精神保健福祉士の役割
医療観察法に関わる精神保健福祉士として、社会復帰調整官、精神保健参与員、医療機関・社会復帰施設の精神保健福祉士などの役割について学びます。
第 7 回　精神障害者の医療に関する課題
精神保健福祉士が関わる精神障害者の医療の課題として、権利擁護、アウトリーチ、精神科救急、地域移行等について学びます。
第 8 回　精神障害者の生活支援に関する制度１：歴史と概要
障害者基本法、精神保健福祉法、障害者自立支援法など、精神障害者の生活支援に関わる法制度の歴史と概要について学びます。
第 9 回　精神障害者の生活支援に関する制度２：障害者総合支援法
障害者総合支援法の全体像と精神障害者に関わる障害福祉サービスのしくみについて学びます。
第 10 回　精神障害者の生活支援に関する制度３：相談・居住・就労
障害者総合支援法に基づく、相談支援、居住支援、就労支援について学びます。
第 11 回　精神障害者の経済的支援に関する制度１：生活保護法
生活保護法に関する知識の復習と精神障害者にとっての生活保護法について学びます。
第 12 回　精神障害者の経済的支援に関する制度２：生活困窮者自立支援制度
生活困窮者自立支援法の概要と精神障害者の支援の実際について学びます。
第 13 回　精神障害者の経済的支援に関する制度３：障害年金
障害年金の基本的な知識と精神障害に対する障害年金の実際について学びます。
第 14 回　事例研究1：制度を使った支援を考える（グループ学習）
グループごとに事例を用いて支援方法を考えてもらいます。支援の内容について次回発表できるように準備を進めます。
第 15 回　事例研究２：制度を使った支援を考える（発表）
第14回で検討した支援の内容をグループごとに発表してもらいます。発表後、それぞれのグループの支援内容について相互に評価を行います。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
１）「最新　精神保健福祉士講座４　精神保健福祉制度論」日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規出版
２）その他、必要に応じて紹介します

〔成績評価の方法・基準〕
・定期試験は実施しませんが、小テスト（30％）、事例分析のレポート（30％）、その他の課題やレポート（40％）を目安として総合的に評価します。
・提出されたレポートや課題に関しては、後日コメントをつけて返送します

〔授業時間外学修〕
・毎回の授業内容に対する復習としてノートを作成（60分）
・次回の授業内容箇所のテキストを読む（30分）

〔オフィスアワー〕
研究室在室時は随時。
メールでの連絡も可です。y-ema●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
精神科病院（12年）ならびに地域生活支援センター（現地域活動支援センターI型：5年）での実務経験を基に精神保健福祉士としての実践的な技術や業務の実際を説明します。精神保健福祉士としての苦労、やりがいなどについても伝えられたらと思います。
〔その他履修上の留意事項等〕
・精神保健福祉士国家試験を受験するために必要な科目（国家試験科目：精神保健福祉制度論に該当します）です。
・原則として紙の資料は配布しません。オンラインに用意された資料をプリントアウトするか、オンラインで読めるよう準備してください。

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ/Mental Health Social Work Excercises and Practice Ⅰ　2021年度入学

HS5008M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目

３年
2単位　後期
自由

佐藤 園美、江間 由紀夫

〔授業の概要〕
精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての専門的援助技術およびリハビリテーション技法の基本的な知識・理論を把握し、事例を基に総合的かつ包括的な相談援助、医療と福祉の協働と連携について考え理解を深める。特に精神障害者を支援する上で重要な課題として、権利擁護（社会的排除）、当事者活動（ピアサポート、自助グループなど）危機介入、薬物・アルコール依存等を取り上げ、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント、ネットワーキングなどの手法を用いた具体的な支援方法について学ぶ。

〔到達目標〕
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、希望を的確に聞くことができる。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く状況や環境を含めて理解し、ソーシャルワークの展開を考えることができる。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスの概念と利用方法を知り、援助に活用できる。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、チームによる本人を中心とした支援を考えることができる。
⑤精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人に対する差別や偏見を除去するための政策や制度、関係機関や地域住民に働きかける方法を考えることができる。
⑥精神保健福祉士としての専門性と職業的なアイデンティティを理解することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕
DP４、DP５、DP６、DP７

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、知識の確認
演習の授業に関する説明とこれまでに学んできた知識について確認を行います。
第 2 回　当事者理解1（医療機関）
精神科医療機関とはどういうところなのか、受診から入院、退院までにはどのような過程があるのかを学びます。
第 3 回　当事者理解2（地域）
精神障害のある人や精神保健の課題のある人の地域生活について学びます。
第 4 回　当事者理解3（依存症）
アルコール依存症や薬物依存症など依存症の実際とその支援過程を学びます。
第 5 回　家族の理解と支援
精神障害のある人や精神保健の課題のある人の家族の立場の理解と必要な支援について学びます。
第 6 回　個別支援の技術
精神保健福祉士に必要な個別支援の技術（個別援助技術）について学びます。
第 7 回　集団支援の技術
精神保健福祉士に必要な集団支援の技術（集団援助技術）について学びます。
第 8 回　支援の現場1（精神科医療機関：一般精神科）
精神科医療機関における統合失調症やうつ病等の人に対する受診相談から入院～退院までの支援を学びます。
第 9 回　支援の現場2（精神科医療機関：専門治療）
依存症等の専門治療を行っている精神科病院における受診相談から入院～退院までの支援を学びます。
第 10 回　支援の現場3（精神科デイケア等）
精神科デイケア等における退院後のリハビリテーションやリワーク等の支援について学びます。
第 11 回　支援の現場4（障害福祉サービス事業所：自立生活支援）
障害福祉サービス事業所における自立生活支援について学びます。
第 12 回　支援の現場5（障害福祉サービス事業所：就労支援）
障害福祉サービス事業所における就労支援について学びます。
第 13 回　支援の現場6（相談機関：地域移行支援）
相談支援事業所から精神科病院等への地域移行支援について学びます。
第 14 回　支援の現場7（相談機関：ひきこもり等の精神保健の課題）
保健所や精神保健福祉センター等の機関における精神保健の課題に対する相談支援について学びます。
第 15 回　支援の現場8（高齢者）
認知症高齢者や高齢となった精神障害者の支援について学びます。
第 16 回　支援の現場9（学校）
学校におけるスクールソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の支援について学びます。
第 17 回　支援の現場10（児童）
児童相談所等における児童虐待等の問題に対する精神保健福祉士の支援について学びます。
第 18 回　制度を使った支援1（障害者総合支援法）
グループに分かれて、事例を基に障害者総合支援法のどの制度が使えるかを調べます。
第 19 回　制度を使った支援2（障害者総合支援法：発表）
前回の事例に対してグループで作成した支援計画を発表し、相互に評価します。
第 20 回　制度を使った支援3（生活困窮・生活保護）
グループに分かれて、事例を基に経済的な困窮状態に対して使える制度を調べます。

第 21 回　制度を使った支援4（低所得・生活困窮：発表）
前回の事例に対してグループで作成した支援計画を発表し、相互に評価します。
第 22 回　制度を使った支援5（高齢者支援・介護保険制度）
グループに分かれて、事例を基に介護保険制度等の高齢者を支援する制度について調べます。
第 23 回　制度を使った支援6（高齢者支援・介護保険制度：発表）
前回の事例に対してグループで作成した支援計画を発表し、相互に評価します。

〔テキスト・参考書・参考文献〕
必要な資料は、授業の際に配布します。また指定テキストはありませんが、以下の書籍を参考書として用います。
参考書：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編「最新精神保健福祉士講座７　ソーシャルワーク演習［精神専門］」中央法規　3000円

〔成績評価の方法・基準〕
・基礎知識を問う小テスト（30％）、演習におけるグループ活動の内容（30％）、レポート課題（演習ノートを含む）（40％）を基準に総合的に判断します。
・提出されたレポートや課題に関しては、後日コメントをつけて返送します。

〔授業時間外学修〕
・演習ノートの作成（60分）
・グループ学習のための予習（30分）

〔オフィスアワー〕
研究室在室時は随時。
メールでの連絡も可です。y-ema●saku.ac.jp、s-sato●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕
担当教員は二人とも精神科病院、地域生活支援センター（障害者地域活動支援センターI型）での実務経験を持ち、精神保健福祉士としての理念や援助技術、支援方法について伝えることができます。

〔その他履修上の留意事項等〕
・**人間福祉学部の精神保健福祉士過程を本登録した学生のみ受講できます。**それ以外の学生は履修できませんので注意して下さい。（本登録対象者は後期の履修登録までに決定します）
・精神保健福祉士国家試験を受験するために必要な科目（ソーシャルワーク演習（専門）に該当）です。
・演習科目のため、毎回の授業では講義よりも事例を用いたグループワーク、ロールプレイなどグループでの学習が中心となります。

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ/Mental Health Social Work Practice Instruction Ⅰ　2021年度入学

HS5000M

人間福祉学部＞人間福祉学科＞専門科目＞精神保健福祉士国家試験受験資格取得要件科目
3年
1単位　後期
自由

佐藤 園美、江間 由紀夫

〔授業の概要〕
精神保健ソーシャルワーク実習と実習指導における個別指導と集団指導の意義について理解する。精神障害者の生活のしづらさ（心情、生活の実態、生活上の困難）や、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理などについて、機関・施設見学や当事者や現場の専門職から直接話を聴くことによって学ぶ。また実習指導Ⅰでは実際に実習に行くための準備として、実習を行う機関・施設の根拠法、概要及びその施設がある地域の特徴等を調べ、理解した上で、どのような実習を行うかについての実習計画を作成の準備をする。

〔到達目標〕
１）精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要を説明できる
２）精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できる。
３）精神保健ソーシャルワーク実習を行う医療機関、施設、事業者等について理解し、それらの地域社会における機能や役割について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕
第 1 回　授業の目的と内容（オリエンテーション）
精神保健ソーシャルワーク実習指導、実習に関するスケジュールの説明
精神保健ソーシャルワーク実習指導、実習の意義
第 2 回　精神疾患と精神障害についての理解
主な精神疾患について生活上の特徴を学ぶ
第 3 回　精神疾患と精神障害についての理解
精神障害者の生活のしづらさについて考える
第 4 回　精神保健福祉の現状の理解
精神障害のある当事者の話を聴く
第 5 回　精神保健福祉の現状の理解
当事者が期待する精神保健福祉士の役割について考える
第 6 回　精神保健福祉士の役割
精神保健福祉士に求められる職業倫理と責務
第 7 回　精神保健福祉士の役割
実際に現場で活躍する精神保健福祉士の話を聞き、当事者の期待を踏まえ、役割について考える
第 8 回　精神保健ソーシャルワーク実習先（医療機関）に関する理解①
見学実習を行う医療機関についての事前学習
根拠法、機関の特徴
第 9 回　精神保健ソーシャルワーク実習先（医療機関）に関する理解②
医療機関がある地域の理解
（地域研究）
第 10 回　現場体験学習及び見学実習（医療機関）
医療機関での見学実習
第 11 回　現場体験学習及び見学実習（医療機関）
医療機関での見学実習
第 12 回　現場体験学習及び見学実習（医療機関）
医療機関での見学実習
第 13 回　精神保健ソーシャルワーク実習先（医療機関）に関する理解③
見学実習のまとめ
（ディスカッション）
第 14 回　精神保健ソーシャルワーク実習先（地域事業所他）に関する理解①
見学する地域事業所、施設、機関の事前学習
根拠法、事業所等の特徴
第 15 回　精神保健ソーシャルワーク実習先（地域事業所他）に関する理解②
見学する地域事業所、施設、機関がある地域の理解
（地域研究）
第 16 回　現場体験学習及び見学実習（地域事業所、施設、機関）
地域事業所、施設、機関での見学実習
第 17 回　現場体験学習及び見学実習（地域事業所、施設、機関）
地域事業所、施設、機関での見学実習
第 18 回　現場体験学習及び見学実習（地域事業所、施設、機関）
地域事業所、施設、機関での見学実習
第 19 回　精神保健ソーシャルワーク実習先（地域事業所他）に関する理解③
見学のまとめ
（ディスカッション）
第 20 回　精神保健ソーシャルワーク実習の目的と構造①
実習の構造
実習先で求められる姿勢、責務
第 21 回　精神保健ソーシャルワーク実習の目的と構造②
実習におけるスーパービジョンの目的、機能
個別スーパービジョンと集団スーパービジョン
第 22 回　精神保健ソーシャルワーク実習の目的と構造③
情報の管理（守秘義務等）
実習におけるリスクマネジメント
第 23 回　実習先決定後の準備
実習計画書作成に向けた準備
春休み中に取り組むべき課題

〔テキスト・参考書・参考文献〕
テキスト：使用しない
参考書：日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集　『最新　精神保健福祉士養成講座　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習［精神専門］』

〔成績評価の方法・基準〕
課題レポート30％（特別講師、見学実習）
小テスト30％

実習の手引き「ワークシート」40％
それぞれのフィードバックは授業中に行います。
〔授業時間外学修〕
実習の手引き60分、課題レポートの作成60分、小テストの準備60分。
〔オフィスアワー〕
研究室在室時は随時。
メールでの連絡も可です。y-ema●saku.ac.jp、s-sato●saku.ac.jp
〔実務経験のある教員等による授業科目〕
担当教員は二人とも精神科病院、地域生活支援センター（障害者地域活動支援センターI型）での実務経験を持ち、精神保健福祉士としての理念や援助技術、支援方法について伝えることができます。
〔その他履修上の留意事項等〕
人間福祉学部の精神保健福祉士過程を本登録した学生のみ受講できます。
この科目は、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク実習指導［精神専門］」に該当します。